
玉名市男女共同参画に関する

意識調査報告書

令和4年3月

玉 名 市

目 次

第1編 調査の概要とまとめ.....	1
1. 調査の概要.....	2
2. 調査結果の評価・分析.....	3
はじめに.....	3
第1部 市民意識調査.....	3
第2部 中学生意識調査.....	13
第2編 調査結果.....	19
第1部 市民意識調査.....	19
I. 調査の概要.....	20
II. 調査結果.....	22
1. 回答者の属性.....	22
2. 男女共同参画に関する意識について.....	28
(1) 男女共同参画について学んだ経験.....	28
(2) 男女共同参画について学んだことに関する考え方.....	30
(3) 男女の地位の平等感について.....	32
(4) 固定的性別役割分担意識.....	42
(5) 性別にかかわらず機会の確保.....	44
(6) 子どもの育て方.....	46
(7) 子どもの進学目標.....	50
3. 家庭生活の役割分担について.....	53
(1) 家庭内の役割分担.....	53
4. 仕事と家庭・地域生活の両立について.....	56
(1) 男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加.....	56
5. 女性が職業を持つことについて.....	58
(1) 女性が職業を持つことについて.....	58
(2) 女性が職業を持ち続けられない理由.....	60
(3) 女性が働き続けるために必要なこと.....	62
6. 女性の参画について.....	64

(1) 女性がもっと進出した方がよい役職.....	64
(2) 企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない原因.....	67
(3) 女性のリーダーが増えるとどのような影響があるか.....	69
7. 配偶者などからの暴力について.....	71
(1) DVの認知度.....	71
(2) DVに関する相談機関の認知度.....	73
(3) パートナー（配偶者や恋人）の暴力について.....	75
(4) 相談した相手.....	77
(5) DVを受けた時の対応.....	80
8. 防災の分野における男女共同参画について.....	82
(1) 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立に必要なこと.....	82
9. 農林水産業の分野における男女共同参画について.....	84
(1) 農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なこと.....	84
10. 新型コロナウイルス感染症の影響について.....	86
(1) 新型コロナウイルス感染症の影響により不安に感じていること.....	86
11. 自分らしく生きられる社会について.....	88
(1) 性的少数者という言葉の認知度.....	88
(2) 性的指向（同性愛等）に悩んだ経験.....	89
(3) 性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験.....	90
(4) 性的少数者の人たちが生活しやすい社会を実現するために必要な施策..	91
12. 男女共同参画の推進について.....	93
(1) 男女共同参画に関する用語の認知度.....	93
(2) 行政が男女共同参画社会形成のために力を入れるべき施策.....	96
第2部 中学生意識調査.....	109
I. 調査の概要.....	110
II. 調査結果.....	111
1. 回答者の属性.....	111
2. 男女共同参画に関する意識について.....	114
(1) 男女の地位の平等感について.....	114
(2) 固定的性別役割分担意識.....	123
(3) 性別にかかわらず機会確保.....	125
3. 将来のことなどについて.....	127
(1) 文系・理系のタイプ.....	127
(2) 文系・理系の進路.....	128

(3) 男女のあり方.....	129
(4) 女性が職業を持つことについて.....	134
4. 家庭生活について.....	136
(1) ヤングケアラー.....	136
5. デートDVについて.....	138
(1) デートDVの認知度.....	138
(2) デートDVに関する相談機関の認知度.....	140
(3) デートDVの相談有無.....	142
(4) デートDVの経験について.....	143
6. 自分らしく生きられる社会について.....	150
(1) 性的少数者という言葉の認知度.....	150
(2) 性的指向に悩んだ経験.....	151
(3) 性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験.....	152
(4) 相談した経験.....	153
7. 男女共同参画の推進について.....	154
(1) 男女共同参画に関する用語の認知度.....	154
(2) 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと.....	157
調査票.....	165
「男女共同参画に関する市民意識調査」.....	166
「玉名市内の中学生の皆さんへ男女共同参画に関する意識調査」.....	181

第 1 編 調査の概要とまとめ

1. 調査の概要

(1) 調査方法

- ① 市民 郵送配布、郵送回収
- ② 中学生 学校における配布・回収

(2) 実施期間

- ① 市民 令和3年9月27日～10月12日
- ② 中学生 令和3年9月27日～10月27日

調査対象	調査対象範囲	調査数	回収数 (回収率)
市民	玉名市に在住する、満20歳以上75歳未満の男女	2,000件	1,083件 (54.2%)
中学生	市内6校の中学3年生全員	523件	473件 (90.4%)

(3) 調査実施機関

グローバル・ライフ・サポート株式会社

(4) 監修

藤井 美保 (熊本大学 教育学研究科 教育学講座)

2. 調査結果の評価・分析

はじめに

1999（平成 11）年に男女共同参画社会基本法が制定、2010（平成 22）年 3 月には第 3 次男女共同参画計画が制定され、わが国における男女共同参画社会への取り組みは進められてきた。県においても 2001（平成 13）年 12 月に男女共同参画推進条例を制定、2021（令和 3 年）年には第 5 次熊本県男女共同参画計画を策定し、県、住民、が一体となって取り組んでいるところである。

法には、男女共同参画の取り組みにおける国民・自治体の責務が明記されている。上記の法や県条例の趣旨を踏まえ、玉名市では、①男女の人権の尊重、②社会における制度又は慣行についての配慮、③政策等の立案及び決定への共同参画、④家庭生活における活動と他の活動の両立、⑤生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利、⑥国際的協調の 6 つを理念とし、2018（平成 30）年に今後 5 年間で計画期間とした「第 3 次玉名市男女共同参画計画」を策定した。この計画においては、男性も女性もすべての個人が、喜びも責任も分かち合い、それぞれの能力・個性を十分に発揮することができる社会を実現するため、「男女（ひと）がともに尊重し合い、自分らしく生きられる社会の実現」を目標としたさまざまな施策の推進を図るとしている。2022 年度においては、2023（令和 5）年度以降の玉名市男女共同参画計画を策定し、さらに実効性の高い事業を進めようとしているところである。

本調査は、これまでの市の取り組みの成果を検証するとともに今後の課題について検討し、第 4 次玉名市男女共同参画計画を策定するための基礎データを得る目的で実施した。国や県においても男女共同参画社会に関する意識調査が行われており、それらとの比較により玉名市民の意識の動向を把握する上での貴重な資料を得ることができた。これらをもとに、玉名市における男女共同参画に関する市民意識の現状と動向についてまとめ、男女共同参画社会の実現に向けての今後の課題と展望を考察したい。

第 1 部 市民意識調査

1. 調査回答者の特徴

今回調査の回答者の特徴をみてる。男女比は女性 57:男性 42 となっている。国勢調査（2020 年 10 月）の人口統計によると、調査対象となる満 20 歳～74 歳までの人口は、41,168 人、女性 20,844 人、男性 20,324 人で、男女比は女性 51:男性 49 であるため、男性に比べ女性の方が協力的で男女共同参画への意識が強い傾向にある。

年齢別構成をみると、20 歳代（8.5%）、30 歳代（13.4%）、40 歳代（16.0%）、50 歳代（19.1%）、60 歳代（27.6%）、70 歳代（15.1%）、無回答（0.4%）となっている。60 歳以上の割合が 42.7%を占めており、高齢者層が多くなっている。そのため、職業は「無職」が 13.9%を占め、子どもは「いない」が増加している。

2. 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画について学んだ経験についてたずねたところ、全体では、「学んだことはない」と回答した人が約6割にのぼり、県調査よりも8ポイント高くなっていた。女性の方が男性よりも「学んだことがある」と回答した人の割合が高く、関心を持っていることがわかる（男性30.8%、女性35.9%）。

学んだことに関する考え方について「学んだことがある」と答えた方にたずねたところ、「社会通念・慣習・しきたり等にある差別や偏見に気づくようになった」と回答した人は約7割と高く、「他者と自分の考え方の違いを受け入れるようになった」、「性別に関わりなく自分の個性を発揮して生きることに前向きになった」と回答した人も5割前後と、男女共同参画についての学びを肯定的にとらえている人が多いといえる。県調査と比べても、上記の選択肢に回答した人の割合は高くなっている。それに対して、「学んだ内容がわかりにくかった」（4.4%）、「学んだ内容は自分には関係なく、必要ないと思った」（0.8%）と否定的な回答をした人の割合は非常に小さかった。

男女の地位の平等感について8つの分野についてたずねたところ、ほとんどの分野で『男性優遇』が高いが、唯一、学校教育の場についてのみ「平等」が『男性優遇』を上回っており、これは全国や県の調査とも共通する特徴である。

女性と男性を比べると、すべての分野において女性は男性よりも「平等」が低く、『男性優遇』が高く、女性にとっては男女平等がより感じられていないといえる。中でも「家庭生活」、「政治」、「法律や制度」、「社会通念・慣習・しきたり等」、「地域（校区）」、「玉名市」では、『男性優遇』は女性の方が男性より10ポイント以上高く、さまざまな場で男性と女性の平等感の差は大きい。「男女共同参画社会基本法（平成11年）」の制定をはじめ第3次計画策定以降の「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（平成30年）」の施行、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等の一部を改正する法律（令和元年）」の公布、「男女雇用機会均等法（令和2年）改正など、法律や制度上の整備はかなり進められており男性は平等が推進されていると認識しているが、女性は現実的な生活において制度が十分に運用されていないという状況から不平等を感じていることが推測される。ただし、男性においても「政治」、「社会通念・慣習・しきたり等」は『男性優遇』が高く、法律や制度上では平等と認識しても、政治や社会通念・慣習・しきたり等においては不平等を認識していることがわかる。

前回調査と比べると、女性では「職場」、「政治」、「社会通念・慣習・しきたり等」の3つの分野で『男性優遇』が高くなっており、7つの分野で「平等」が低下している。女性は多くの分野で不平等を感じていることがわかる。男性は、6つの分野で『男性優遇』が低下している。一方、「政治」は9.1ポイント上昇している。また、6つの分野で「平等」が高くなっており、女性と男性では認識に齟齬がある結果といえるかもしれない。

「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方については、『同感しない』と回答した人が全体で約8割となっており、『同感する』を大きく上回っていた。固定的役割分担意識は、時代とともに変わりつつあるが、性別で見ると、男性の方が『同感する』と感じている人の割合が高く、このような意識はいまも根強く残っている（男性20.9%、女性11.5%）。一方で、前回調査と比べると、女性では『同感する』が8.8ポイント低下し、『同感しない』が

8.2 ポイント上昇している。男性も『同感する』が 12.2 ポイント低下し、『同感しない』が 11.5 ポイント上昇していた。男女とも性別による固定的な役割分担意識を払拭しつつあるようだ。

性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思うかについては、『そう思わない』と感じている人は男女とも約 6 割と高く、だれもがその個性と能力を十分に発揮できる機会を確保することが重要な課題となっている。

子どもの育て方、考え方については子どものいない人も含んだすべての回答者に 3 つの項目についてたずねた。

「性別にかかわらず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要」という考え方については、『賛成派』が男女とも 9 割を超え、子どもの性別にかかわらず経済的自立は強く支持されている。

「性別にかかわらず炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる」については、『賛成派』が男女とも 9 割を超えているが、男女で意識の差がみられる。女性は「賛成」が 73.0% であるのに対して、男性の「賛成」は 60.5% と差があり、生活自立には女性の方が積極的である傾向がうかがえる。男性は、年齢の高い層ほど消極的な傾向がより強いことがうかがえる。

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方が良い」については、『賛成派』(42.0%) と『反対派』(42.4%) が拮抗していた。『賛成派』が女性では 35.3%、男性は 51.3% と大きく差がついている。特に、男性は年齢の高い層で「賛成」とする傾向がより強いことがうかがえた。前回調査と比べると、男女ともに『賛成派』が約 20 ポイント低くなっており、ジェンダー規範の弱まりがうかがえる。

学力や家計の事情などの条件が整っていると仮定した場合の子どもの進学目標について「男の子の場合」と「女の子の場合」に分けてたずねた。両者とも「四年制大学」までの進学目標を望ましく思っている割合が高いが、男の子の場合は四年制大学 62.5%、女の子の場合は 53.6% と両方で約 9 ポイントの差がみられた。

以上のことから、特に、男性の男女共同参画意識を高めていく必要があるといえる。男性の意識改革への気運醸成のための啓発として、男性も認識しやすい社会通念の不平等から自分の身の回りの問題の気づきへと進めていくことが効果的と思われる。常態化する長時間労働の見直しや男性介護者の増加への対策など、男女共同参画の推進が男性にとっても暮らしやすい社会の実現につながることを、男性に積極的に伝えていくことが求められよう。また、若年男性の収入が増えないなか、男性の収入だけでは安心して家事や育児をすることは難しいと考えられる。男女がともに経済的に家庭を支え合い、子どもを生き育てる環境を整えるためにも、制度や法の認知を高めるとともに、性別役割分担の解消に向けた学習会や情報提供が必要である。

3. 家庭生活の役割分担について

家庭内の役割分担について、新型コロナウイルス感染症の影響により、家事や育児、介護の分担に変化はあったか、3 つの項目についてたずねた。

「家事」については、全体で約 7 割の人が「変化はなかった」と回答している。性別で見ると、女性に比べ男性の方が「変化はなかった」と回答した人の割合が高く、「増えた」と回答している

割合は女性の方が約2倍高かった。特に、30歳代、40歳代、50歳代の女性で「増えた」と回答している割合が高く、子育て世代において家事分担の男女差は拡大している傾向がうかがえる。

「育児」については、「増えた」と回答している割合は男性に比べて女性の方が約2倍高く、特に、30歳代、40歳代の女性が「増えた」と回答している割合が高い。保育所・学校・習い事の閉鎖・中止などにより、育児にかかる時間が増加したことがうかがえる。男性においても30歳代で「増えた」と回答している割合が高く、比較的若い父親たちの育児への参画意向は高まっているが、依然として負担は女性に偏りがちであるといえる。

「介護」についても、男性に比べ女性の方が「増えた」と回答している割合が高い。その中でも40歳代以上の女性で「増えた」と回答している割合が高くなっている。高齢者の外出自粛や通所介護・訪問介護の回避などにより、負担が増えたと感じている人が多いのではないだろうか。なお、男性では50歳代以上で「増えた」と回答している割合が高く、年齢層が高くなると男性も介護に関わるようになり、負担増と感じているものと思われる。

これらの結果から、家庭内では、男性の家事・育児・介護への参画が高まりつつあるが、それでもなお家事・育児の負担は女性に偏る傾向にあり、家庭における男女平等はいまだ実現されていないといえる。今後は、男女が協力して家事や子育て、介護を行える家庭を築くための一層の支援が望まれる。

4. 仕事と家庭・地域生活の両立について

男性が女性とともに家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なことについてたずねた。男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した割合が高かった。問3でみた男女の地位の平等感については男女の認識に齟齬があり、問8では家事・子育ての負担は女性に偏る傾向にあったが、夫婦や家族間で話し合う必要性については認識されているといえる。しかし、ほとんどの項目において女性の方が男性よりも必要だと感じている割合が高く、「特に必要なことはない」と回答した人の割合は、女性に比べ男性の方が約3倍高かった。女性は、さまざまな手段・方法を活用して男性の参加を増やすことを望んでいるといえる。男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が少し高く、ワーク・ライフ・バランスの環境を整えることを必要としている。

これらの結果から、男女ともに仕事と家事・子育て・介護などのバランスがとれた生活を送るためには、夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ることが重要であると考えられる。夫婦や家族間で話し合う契機としては、お金が必要になるタイミングやその金額、家族の生活設計を行うライフプランニングの実施などがあり、このようなテーマの講座やセミナーなどを開催して、夫婦や家族間でのコミュニケーションを促進していくことも有効であろう。こうした話し合いの中で、仕事と家事・育児、地域活動などについて共に考え、男女が支え合いながら共に参加することの必要性や具体的な参加のしかたなどについて話し合う機会が生まれてくるのではないかと。ワーク・ライフ・バランスは、子育て支援や次世代育成支援、女性活躍推進など、さまざまな取り組みの総合的な成果として達成されるものであり、市としての横断的な

取り組みが求められる。また、男性が家事や子育て、地域活動などへの参画を自らのことと捉える取り組みの推進と労働環境の整備が必要である。

5. 女性が職業を持つことについて

女性が職業をもつことについて、どのように考えるかたずねたところ、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」という就労継続派が約5割で最も高かった。次に高いのは「子どもができたら職業を持たず、仕事に就くことが可能になったら再び職業を持つ方がよい」で、M字型カーブの要因となる働き方である。このような中断・再就職派は、男女とも約3割で男性が女性よりもやや高かった。また、「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」という専業主婦を志向する回答は男女とも少なかった。

働きたい女性が職業を持ち続けられない理由について、どのように考えるかたずねたところ、男女ともに「仕事と家庭が両立できる制度が不十分だから」が約3割で最も高く、ワーク・ライフ・バランスの実現を可能にする制度の整備が求められる。次に「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が約2割、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が約1割と続いた。制度があっても雰囲気や慣習といった長年の体質や価値観、風土などからそれを利用することが困難であると感じている人がいる。仕事と家庭の両立が可能な「使える制度」と「使える環境」を整えることが重要な課題となっている。

出産、育児、介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要なことについてたずねた。ほとんどの選択肢において女性が男性よりも高い割合を示した。特に「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」、「職場における育児・介護との両立支援」が男性よりも高く10ポイント以上上回り、結婚しながら働く場合には、男性の家事・育児参加や柔軟な働き方が可能な職場環境がなければ就労継続は困難と実感している女性が多いことがわかる。また、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」は男女ともに最も高く、出産・育児、子育て期の女性が就業を中断せずに働き続けるためには子育て支援サービスを整備・充実させることが必要であると感じている人が多かった。

これらの結果から、男女ともに使える産休・育休の制度やそれを活用できる環境の整備、託児施設の完備、柔軟に働ける勤務制度、男女共同参画の実現などへの取り組みが求められる。その際、女性だけに訪れる妊娠・出産という事情を考慮しなければ職業を持ち続けるのは不可能であり、職場の理解や協力とともに、家事・育児への男性の積極的参加が必要不可欠である。国の第5次男女共同参画基本計画では、支援を必要とする女性等が誰一人取り残されることのない社会を目指すとしている。女性が就労継続できる環境の整備を進めるために、両立支援策をこれまで以上に充実させるとともに、男女共同参画社会や女性活躍の視点を企業組織のみならず、家庭や地域など生活の場全体に広げることができるよう確実に啓発していかなければならない。

6. 女性の参画について

女性がもっと進出した方がよいと思う指導的立場にある6つの役職についてたずねた。どの役職も「進出した方がよい」「どちらかといえば進出した方がよい」を合わせた『進出した方がよい』が6割以上、うち4つの役職で8割に達していた。一方、「そう思わない」「どちらかと

いえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』は、女性の方が男性よりも4つの項目で高く、女性自身が行政協力員（区長）やPTA会長などの地域の役職へつくことに抵抗感が強いことがうかがわれる。

政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がまだまだ少ない原因は何だと思ふかたずねたところ、男性優位の組織運営や性別役割分担意識であると感じている割合が高い。旧態依然とした組織運営や根強い固定的性別役割分担意識が反映されているといえる。女性の意見を反映させるためにも女性の役職登用など、立案や決定に男女が共同して参画する機会の確保が求められる。ただし、単に形式的な機会の確保にとどまらず、実質的に参画していくことができるような方策が必要である。

政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるなどどのような影響があると思ふかたずねたところ、男女ともに「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「多様な視点が加わり、新たな価値や商品・サービスが創造される」「女性の声が反映されやすくなる」の順に高く、女性の声が反映されることは単に多様性が増すだけでなく、社会にとって有益であると考えている割合が高かった。

以上のように、女性が地域の役職へつくことの抵抗感が強い理由として、男性優位の組織運営や性別役割分担意識などを挙げることができる。また、地域の役職は、慣習的に長い間男性中心で進められてきたため、女性自身の中での障壁も大きいことがうかがえる。今後は、女性の参画を促進するために、女性リーダーの育成に向けた社会教育の整備やさまざまな場における男女の均等な待遇の確保、女性の管理職登用など、男女共同参画をよりいっそう進めていくことが必要である。

7. 配偶者などからの暴力について

ドメスティック・バイオレンス（以下、DV）の認知度は、「内容まで知っている」は全体で7割にのぼり、DVの認知度は高い。男女ともに20～50歳代で認知されている割合が特に高かった。

DVに関する問題を相談できる機関の認知度については、男女とも「警察」が約6割と突出して高かったが、「知らない」と回答した割合も高く、女性では24.4%、男性で31.4%を占める。

最近、パートナーとの間で一方が他方から身体的・心理的・経済的な暴力を受けるというDVが社会問題となっているが、パートナーからの暴力について、身近で見聞きしたり、自分が受けたりした経験があるかたずねた。「その他」「全く知らない」を除くすべての選択肢で女性の方が男性よりも高く、「身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。」は14.2%、「暴力について、人のうわさを耳にしたことがある」は11.5%、「身近に暴力を受けている人を知っている、または自分が受けたことがある」は8.6%と、看過できない数値である。

問18でパートナーの暴力について、「全く知らない」と回答した人以外にそのことを誰かに相談したかたずねた。DVは、相談できない人が多いことが特徴で、男女ともどこにも「相談しなかった」人は3分の1を占める。女性では、「友人・知人」「家族・親戚」に相談した人はそれぞれ約3割で「相談しなかった」を除く他の対応よりも高かった。男性では、「友人・知人」は3割で

あったが、「家族・親戚」と回答した割合は女性に比べ男性の方が7.8ポイント低く、男性の方が相談できないと感じている傾向にある。

DVを受けたことがある人に、DVを受けた時どうしたかたずねたところ、女性は「我慢した」が最も高く、男性に比べて約4倍も高かった。自分さえ我慢すればいいと、理不尽な暴力に耐えている人が多いことがわかる。

女性では自分や身近な人が暴力を受けた場合に家族や友人に相談する割合が高かったが、相談を受けた人がDVについて理解していないと、「あなたにも悪いところがあるんじゃないの」などと言って被害者を責めたり、話を否定するなど不適切に対応する恐れもある。そのため、専門性の高い相談機関を広く周知し、相談機関の認知をさらに高める必要がある。また男性の方が相談できないと感じている傾向にあるのは、男性が被害者になるケースの認知度は低く、周囲の理解不足から孤立しがちであるためだと推察される。今後、男性のための相談機関や支援策についても整備・拡充が求められる。

DVは加害者に行為の責任があり被害者が耐えたり自分を責めたりする必要はないことなど、周囲の人が適切に対応できるようDVに関する正確な情報を普及することが求められる。DVは犯罪をも含む重大な人権侵害であるとともに、男女共同参画社会の実現を妨げるものであるという認識が必要である。被害者の人権を守り、被害者を支援するために、相談機関を整備し、啓発活動をさらに強めるとともに、犯罪の取り締まりや罰則の強化を検討するなど、安心して暮らせる環境づくりをより一層進めていく必要がある。

8. 防災の分野における男女共同参画について

男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立にどのようなことが必要と考えられるかたずねたところ、男女とも「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人は、安全を確保できるところへの避難誘導・避難介助を行うこと」が最も高く、女性では66.2%、男性で55.5%であった。次いで「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」が高く、女性では52.4%、男性で53.3%であった。以下、男女とも同じ順であった。

全体として、男女共同参画の視点から防災に関する取り組みを進めていくことに対する男女の差異はみられなかった。内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点」では、「平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基礎となる」と方針を示している。また、「要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する」とあり、妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人などの支援においては、女性のニーズや視点に十分配慮する必要があると強調している。医療・保健・福祉・保育などにかかわる専門職には女性が多いが、家庭においてもケアの役割が女性に偏っているため、平常時の防災対策から発災後の被災者支援にいたるすべてのフェーズで女性のニーズを丁寧にくみ取り、意思決定の場に参画できるよう環境整備などを行う必要がある。

9. 農林水産業の分野における男女共同参画について

農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なことについてたずねたところ、「農林水産加工・直売所の運営や食文化・地域文化の継承活動により、女性の活躍の場をつくること」という項目で女性の方が男性よりも回答割合が高く、「わからない」についても女性のほうが高い割合を示していた。この2つ以外の項目では、女性に比べ男性の回答割合が高かった。

農林水産業では、女性を中心としたネットワークや消費者・生活者目線での取り組みが必要不可欠となってきた。農林水産業で働く女性が増え、より一層力を発揮していくために、農林水産業で活躍する女性の姿や取り組みを発信したり、地域をリードする女性農林水産業者を育成するなど、女性に焦点をあてた支援策を講じ、女性の参画をさらに推進していく必要がある。そのためには、女性の活躍の場をつくることや女性の声を反映させることが重要であり、作業の安全確保の推進や労働軽減などの就業条件や環境の整備を進める必要がある。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症の影響により不安に感じていることについてたずねたところ、女性は、「家事の負担が増えること」「育児の負担が増えること」「介護の負担が増えること」の回答割合が高く、家庭に関する不安が男性に比べ高かった。一方男性は、「収入の減少」「失業、休業」「働き方の変化により仕事の負担が増えること」など、仕事に関する不安が女性に比べ高かった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、女性（シー）と不況（リセッション）をあわせたシーセッションと呼ばれる雇用悪化や経済問題、育児や介護など家庭でのさまざまな問題が噴出した。その背景には、固定的な性別役割分担という構造問題が考えられる。女性は家庭、男性は仕事という性別役割分担が、女性、男性がそれぞれ感じている不安につながっていると推測できる。一方、コロナ危機はこうしたさまざまな問題を顕在化させた反面、これまで遅々として進まなかったテレワークが一斉に導入されるなど新しい働き方に向けた動きが加速した。今後は、経済的な面でも育児や介護などの無償ケア労働の面でも男女がともに家庭を支え合うことができる環境を整えるために、制度や法の認知を高めるとともに、意識啓発を継続的に推進することが重要である。

11. 自分らしく生きられる社会について

性的少数者（LGBT等）という言葉の認知度は、「言葉の意味まで知っている」の割合が最も高かった。女性の方が男性よりも認知度が高く、特に女性の20～40歳代では7割を超え、関心を持っていることがわかる。

また、自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだことがあるかたずねたところ、全体では、「悩んだことがある」は2.0%であった。年齢別では、女性の20歳代で10.0%、男性の20歳代で4.9%と他の年代に比べ若い年代が高い。

性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたりした経験についてたずねると、全体では、「ある」が17.4%であった。年齢別では、若い年代の方が高く、特に女性の20～30歳代では約4割が経験があると回答している。

性的少数者（LGBT等）の人たちにとって偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような施策が必要だと思いかたずねると、「学校教育の場における学習機会の充実」が男女とも最も高く、学校教育で性の多様性について学ぶことが必要と考える人が多い。「誰もが働きやすい職場環境づくりのため、企業や事業者への啓発活動の推進」は女性で約5割、男性は約4割で、男性では特に20歳代で高くなっている。性的少数者の人たちの視点を職場の環境改善に活かすことで誰もが働きやすい職場になると考える人が若い男性を中心に多くなっていることが推測される。「偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備」は男女とも約4割で、国や地方公共団体が法などを整備することで理解を増進し差別を解消していくことができると考えていることがわかる。

性の多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会を実現するためには、性的少数者の人たちについて学ぶだけでなく、性的少数者の人たちの生き方から、自分らしく生きることについて考えることが効果的だと思われる。また、学校教育の場における学習機会の充実や職場環境づくり、条例等の整備をさらに推進していくことが求められる。

12. 男女共同参画の推進について

男女共同参画に関する用語の認知度は、「ストーカー行為」「セクシュアル・ハラスメント」などマスコミ報道で取り上げられる頻度の高い用語は7～8割と高く、「ストーカー行為」は前回調査よりもさらに高くなっていた。男性は女性に比べ、「男女共同参画社会基本法」「玉名市男女共同参画推進条例」「男女雇用機会均等法」の認知度が高く、女性は、「女性活躍推進法」「育児・介護休業法」「セクシュアル・ハラスメント」などが男性よりも高かった。「育児・介護休業法」は男女で最も差があり、女性は男性に比べ9.2ポイント上回っており、女性の方が関心を持っていることが分かる。

行政が男女共同社会形成のために力を入れるべき施策について9つの選択肢を設けてたずねたところ、女性では「育児・介護休業制度（働く男女が育児や介護のために一定期間休むことができる制度）を普及させ、実際に取得できる環境にすること」が最も高く、男性に比べ16.3ポイント上回っており、男女の認知の違いは大きい。また、「女性だけでなく、男性の意識を変える取り組みを積極的に図ること」は女性が男性を13.2ポイント上回っており、女性に比べると男性は自身の意識を変える必要性をあまり感じていない。男性は、「学校教育の場での男女平等と相互理解のための学習を充実させること」が最も高く、教育の重要性を感じている。

いうまでもなく、男女共同参画社会を形成するためには、「育児・介護休業制度を普及させ、実際に取得できる環境にすること」や「政策、方針決定の場へ女性を多く登用する」など、行政自身が範を示すことが求められる。市行政組織における女性管理職の割合、男性職員の育児休業取得率などにおいて、行政の本気度が問われることになる。

さて、本調査全体を概観してみると、仕事と家庭生活の両立支援が求められ、就労継続を望む女性の割合は高いが、家庭や職場ならびに地域などの社会活動において男性が優遇されているとする状況は前回と比べて大きな改善はみられない。

このように全体にわたって男女平等が進まない理由として、固定的性別役割分担意識の根強さがあげられる。男女共同参画について制度の整備を進めてきた玉名市の取り組みが今後より実効性を持つことが、第4次男女共同参画計画策定に向けての目標となるであろう。市民の意識変革への働きかけ、すなわち意識啓発を工夫をこらした多様な方法で継続的に推進することが特に重要である。

第2部 中学生意識調査

1. 調査回答者の特徴

本調査は、中学生の世代における男女共同参画の今日的な課題に対する意識と実態を把握することにより、男女が性別にとらわれることなく、喜びや責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現することを目的として実施したものである。

今回調査の回答者をみると、男性が 53.9%、女性が 43.6%となっている。家族形態をみると、「親と兄弟姉妹」が 62.8%で最も高く、前回調査と比べても 10 ポイント高くなっている。居住地域については、「玉名地域」が 62.4%で最も高く、前回調査と比べても 7 ポイント高くなっている。

2. 男女共同参画に関する意識について

男女の地位の平等感について8つの分野についてたずねたところ、ほとんどの分野で「平等である」や「わからない」の割合が高くなっている。中学生の世代では、「平等である」と感じている人が多いことがうかがえる。また、「わからない」の割合が高いのは、「仕事の場では」や「政治の場では(国会議員や市議会議員など)」などの分野であり、社会経験が少ないためか判断に迷っている様子が見受けられた。

分野別に『男性優遇』の割合をみると「政治の場では(国会議員や市議会議員など)」が最高値(37.8%)を示し、次いで「仕事の場では」が 22.8%であった。世界経済フォーラム(World Economic Forum: WEF) が公表している「The Global Gender Gap Report 2021」において、政治や経済を評価指標とするジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)の順位が低いことと一致した傾向を示している。男女間で認識のギャップが大きかった分野は「法律や制度の上では」で、『男性優遇』と回答した者の割合は女性の方が男性を 8.1 ポイント上回っていた。「男女共同参画社会基本法(平成 11 年)」の制定をはじめ、最近では、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等の一部を改正する法律(令和元年)」の公布、「男女雇用機会均等法(令和 2 年)」改正など、法律や制度上の整備はかなり進められているものの、若い世代の女性は現実的な生活において制度が十分に運用されていないと感じていることが推察される。

前回調査との比較では、「仕事の場では」「政治の場では(国会議員や市議会議員など)」「慣習やしきたり等では」の3つの分野で『男性優遇』が前回比 10 ポイント以上増加しており、これらの分野では中学生の実感として不平等感が増していることがうかがわれる。一方で、6つの分野で「平等である」が増加しており、男女の地位の平等感における意識は少しずつ変わり始めていることが推測される。しかし、市民の認識として「男女の地位が平等になっている」というためには、「平等である」が高い割合を示すだけでなく、『男性優遇』と『女性優遇』の割合が拮抗していなければならないだろう。

「男性は家族を養うために仕事をし、女性は仕事をする男性を支えるために家事や育児、介護など家庭のことをする」という性別によって役割を固定する考え方がいまだに残っていると思うかたずねたところ、『そう思わない』(56.9%)が『そう思う』(29.0%)を 27.9 ポイント上回っ

た。他方、前回調査では『そう思わない』が61.5%、『そう思う』が19.2%となっており、『そう思わない』が減少傾向、『そう思う』が増加傾向を示しており、中学生の立場でも固定的な性別役割分担意識が根強く残っていると感じていることが推測される。

性別にかかわらず機会確保について、「男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか」と男女共同参画社会の根本を問う質問をしたところ、『思う』(46.8%)が前回比4.2ポイント増となった。ただし、『思わない』(33.4%)も4.3ポイント増となっており、数字の上では前回の「わからない」層が『思う』と『思わない』とに分かれて移行した形となっている。また、女性については『思わない』が前回比8.2ポイント増となっており、女性の厳しい現状認識が見てとれる。

男女共同参画社会の実現を目指すには、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担に基づいて構築された社会制度を改革するとともに、根強く残る固定化された意識を解消していかなければならない。まずは大人たちが、これまでの制度や身の回りの慣習、政治や仕事の場に問題はないか見直し、男女共同参画を理解し、男女平等意識を浸透させていくことが必要である。そして若い世代の人たち自身が性別にかかわらず自分の人生を選択する力を身につけることができるような教育の取り組みが求められる。

3. 将来のことなどについて

問7、問8は、進路選択に至る状況を明らかにし、多様な進路選択を可能とするための基礎資料を得ることを目的に、今回調査で新設された項目である。

問7では、「現在の自分は文系・理系のどちらのタイプだと思うか」たずねたところ、女性では『文系派』(39.8%)が多く、男性では『理系派』(37.6%)が多くなっている。

問8では、「将来は文系と理系どちらの進路に進みたいか」たずねたところ、男女ともに進路としては『理系派』を選択する者の割合が高かった。問7では多くの女性が現在の自分は『文系派』であると思っているが、将来の進路としては『理系派』を希望している。しかし、内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書」(令和元年版)によると、大学等における理工系分野の女子割合は低い。

これは男性脳と女性脳には差異があるとか、女性の理系科目の学力が不足しているということではなく、親の意向による理系選択の断念や、周囲の女性の進路選択の影響などが関係していると考えられる。男女ともに将来の進路について性別により制約を受けないように、生徒だけではなく保護者も含めて男女共同参画について学ぶ機会や主体的進路選択のためのキャリア教育などを充実させることが求められる。

近年の社会経済的変化のなかで、性役割意識が流動化しつつある若い世代において、これからの男女のあり方がどのようになればよいと思うかを4つの分野についてたずねたのが問9である。

「男女とも経済的自立ができるようになるのがよい」という考え方について、『賛成派』が男女ともに9割を超えている。また前回調査との比較では、「賛成」と感じている人の割合が24.6ポイント増となっており、性別にかかわらず経済的自立は強く支持されていると考えられる。

「男女とも家事ができるようになるのがよい」についても同様に、『賛成派』が男女ともに9割を超えている。また前回調査との比較では、「賛成」と感じている人の割合が26.2ポイント増と

なっており、性別にかかわらず家事・掃除・洗濯などのスキルを身につけることの必要性を感じている傾向がうかがえる。

「男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい」については、『反対派』が 56.2%を占めているが、男女で意識の差がみられる。『反対派』でみると、女性が 68.5%であるのに対して、男性は 45.5%と 23 ポイントの差があり、社会的・文化的につくられた男性像や女性像（ジェンダー）の意識は男性の方が強いことがうかがえる。無意識のうちに男性像や女性像はこうあるべきというような固定的役割分担意識や偏見、生き方の阻害につながらないようジェンダー平等教育などを通して多様性が認められることの価値を若い世代の人たちに伝えていくことが求められる。

「性別にかかわらず個性に応じて生きていくのがよい」については、『賛成派』が 9割を超えている。また前回調査との比較では、「賛成」と感じている人の割合が 26.7 ポイント増となっており、だれもが個性と能力を十分に発揮できる社会を希求している傾向が見られる。しかし、男女で若干意識の差も見られた。『賛成派』と考えている人は男性に比べ女性の方が 6.7 ポイント高い割合となっており、自らの意思に応じて個性と能力を活かしていくという女性の強い意識がうかがえる。

女性が職業を持つことについて、どのように考えるかたずねたところ、男性に比べ女性の方が、「子どもができて、ずっと職業を持つ方がよい」「子どもができたなら職業を持たず、仕事をするのが可能な場合は再び職業を持つ方がよい」と回答した割合が高く、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」は男性の方が高くなっている。

性別役割分担が色濃く残っている日本では、女性の経済的自立を促すだけではなく、男性の家庭的自立を促すことが求められる。ここで重要なポイントは、差異を否定し同化することを是としているわけではないということである。むしろその逆で、男性像や女性像を「こうあるべき」姿として、社会や文化を規定し、表現・体現の仕方を同化させることを非とし、多様性を肯定しているということである。みんなが同じではなく、みんなが違うということを伝えていく必要がある。

4. 家庭生活について

大人が担うような家事や家族の世話などを日常的に行っている 18 歳未満の子ども（ヤングケアラー）は、周囲の人から見えにくいため状況がわからず、必要な支援を受けることができていない現状がある。問 11 は、ヤングケアラーについて把握するための基礎資料とすることを目的として、今回調査で新設された項目である。

「どれも行ってない」が 90.9%と圧倒的であるが、「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている」が 4.0%、「障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」がともに 1.7%と、わずかではあるが通学のかたわら本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもがいる。ヤングケアラーの子どもたちがいるという視点を持ち、相談窓口の設置や関係機関の連携、早期発見など細やかな対策が求められる。

5. デートDVについて

デートDVの認知度は、「知らない」(62.2%)の割合が最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」(22.6%)となっており、あまり浸透していないといえる。男女で認知度に差が見られ、「内容まで知っている」で見ると、女性が21.8%であるのに対して、男性は9.0%と2倍以上のギャップを示している。また「内容まで知っている」男性は前回比1.6ポイント減であるのに対して、女性は前回比6.8ポイント増と、女性の方が男性より関心が高い。

デートDV相談機関の認知度は、「知らない」が7割で突出して高く、「玉名市役所女性・子ども相談室」、「DV相談ナビ」、「熊本県男女共同参画相談室らいふ」などの相談機関の認知度は低かった。また、デートDVについて相談したことがあるかたずねたところ、「いいえ」が98.1%であった。

恋人同士で起こるようなデートDVの経験をしたことがあるか6つの項目についてたずねた。どの項目も「経験はない」と回答した人の割合が98%を超えていた。一方で、ごく少数であるが、『行為に関わる経験を持つ』と回答した人がどの項目にもいる。わずかではあるが、デートDVが実際に発生しているという認識をもって、相談機関の役割の明確化と周知の取り組みを強化することが必要である。またデートDV防止教育や啓発事業をより一層進めていくことが重要である。

6. 自分らしく生きられる社会について

性の多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会を実現するための基礎資料とする目的で、今回調査で新設された項目である。

性的少数者(LGBT等)という言葉の認知度は、「言葉の意味まで知っている」の割合が最も高かった。また女性の方が男性よりも認知が高く、関心を持っていることがわかる。

次に自分の身体の性、心の性などに悩んだことがあるかたずねたところ、「悩んだことがある」は4.9%であった。また、性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたりといった経験についても、「ある」が4.9%であった。少数ではあるものの、身体の性と心の性との食い違いなどに悩みながら、周囲の心ない言動により苦しんでいる生徒が間違いなくいる。では、「ある」と回答した人がどこかに(誰かに)相談したことがあるかたずねたところ、「いいえ」の割合が約9割と高く、周囲の偏見や差別、否定的な反応を恐れ、相談もできずに悩んでいることがうかがえる。学校教育において性の多様性を尊重する価値観や知識を教えると同時に、校内環境の整備、専門機関との連携など地域全体で児童・生徒のサポートやケアを行うことが求められる。

また、子どもは、周りの大人の振る舞い方をみて自然と学んでいく。同性パートナー証明など多面的な施策を行い、新しい観点や視点を制度に組み込むことで性的少数者の存在が社会的に認知されるように働きかけることが重要である。そうなれば、様々な社会制度にセクシュアルマイノリティの存在が組み込まれ、社会的に受容することが「ふつう」のこととして浸透し、それをみた子どもは、新しい「ふつう」に準拠した世代へと変容していく。表面的ではなく本質的に多様性を受け入れる意識の変容は、時間がかかるとはいえ、誰もが自分らしく生きられる社会を実現するための取り組みを、市として積極的に進めることは重要である。

7. 男女共同参画の推進について

男女共同参画関連用語として実際に例示される言葉は、時代とともに変化しており、今回調査では新たに「アンコンシャス・バイアス」（無意識の思い込みや偏見）を追加した。こうした用語の認知度は、前回調査と比べ、「男女共同参画社会基本法」が 3.3%から 77.8%へ、「男女雇用機会均等法」が 3.8%から 69.6%へ、「男女共同参画社会」が 8.7%から 69.1%へ大きく増加しており、認知度の飛躍的な高まりが見られる。性別で見ると、「見たり、聞いたりしたものはない」以外のすべての選択肢で女性の方が高い認知度を示しており、男女で意識の差が見られた。「マタニティ・ハラスメント」の認知度で最も差があり、女性が 39.3%であるのに対して、男性は 20.0%と 19.3 ポイントの開きがあった。マタニティ・ハラスメントは妊娠・出産・育児休業等を理由とする嫌がらせや不利益な取り扱いのことで、男女共同参画社会を形成する上で克服すべき重要な課題であり、若い世代にも周知し理解を深める必要がある。

今後、男女があらゆる分野（仕事、家庭、学校、地域活動、政治など）でもっと平等になるために重要だと思うことについて 11 の選択肢を設けてたずねた。「学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること」が最も高い回答率を示しており、学校教育の重要性を感じている。前回調査と比べると、「男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること」が 13.9 ポイント増、「法律や制度上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」も 7.8 ポイント増となっている。いうまでもなく、市行政組織において男女共同参画の視点から慣行や制度、意識の改革に取り組み、行政自身が範を示すことが求められる。

第 2 編 調査結果

第 1 部 市民意識調査

第1部 市民意識調査

I. 調査の概要

1. 調査の目的

玉名市における男女共同参画社会の実現に向けて、「第4次玉名市男女共同参画計画」の策定にあたっての基礎資料として活用するために市民を対象に男女共同参画に関する意識調査を実施した。

2. 調査項目

- ① 回答者の属性
- ② 男女共同参画に関する意識について
- ③ 家庭生活の役割分担について
- ④ 仕事と家庭・地域生活の両立について
- ⑤ 女性が職業をもつことについて
- ⑥ 女性の参画について
- ⑦ 配偶者等からの暴力について
- ⑧ 防災分野における男女共同参画について
- ⑨ 農林水産業の分野における男女共同参画について
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の影響について
- ⑪ 自分らしく生きられる社会について
- ⑫ 男女共同参画の推進について

3. 集計分析上の注意事項

- ① 集計は少数第二位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ② 回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- ③ 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。
- ④ SQ、SSQは、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して、続けて行った質問である。
- ⑤ 文中の選択肢は、評した「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は、『 』とした。
- ⑥ 表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮または簡略して表記している場合がある。
- ⑦ 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

「玉名市男女共同参画に関する市民意識調査」 平成29年3月
報告書では、「前回調査」として標記している。

「熊本県男女共同参画に関する県民意識調査」 令和元年 11 月

報告書では、「県調査」として表記している。

調査対象は 20 歳以上の熊本県在住者である。

「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」 令和元年 11 月

報告書では、「国調査」として表記している。

調査対象は 18 歳以上の日本国籍を有する者である。

Ⅱ. 調査結果

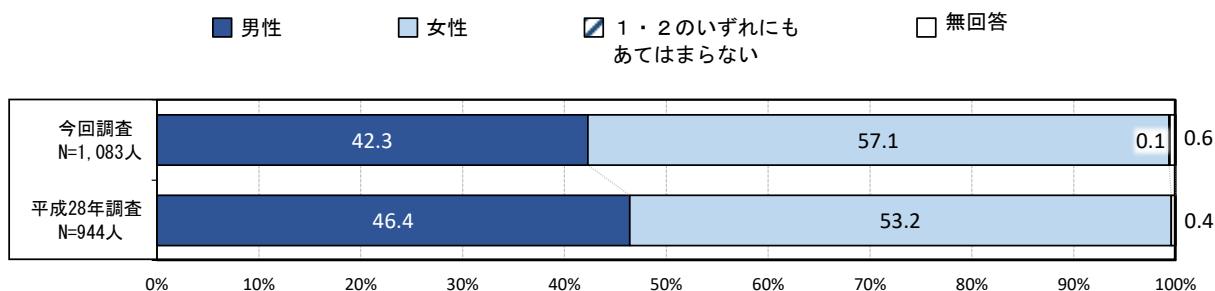
1. 回答者の属性

(1) 性別

問 1-1 あなたの性別は。(○は1つ)

回答者の男女比は、男性が42.3%、女性が57.1%と、女性がやや多い。

【性別】(前回調査比較)



【性別】(前回調査比較)

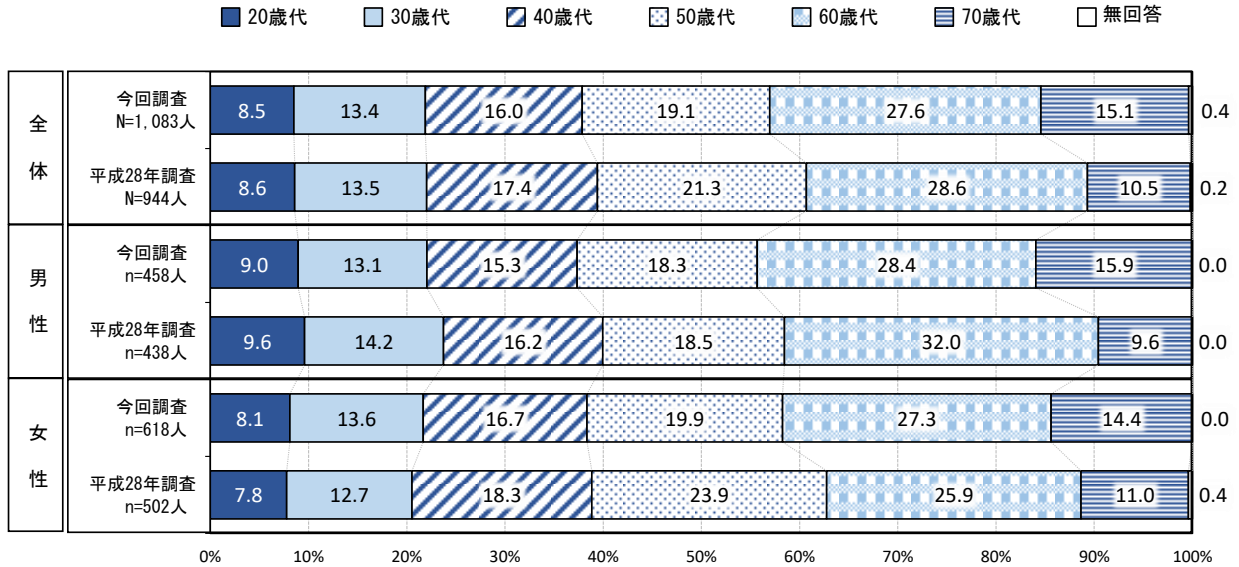
	回答数	男性		女性		まれに・ なにも2 いあ てい はず		無回答	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
今回調査	1,083	458	42.3	618	57.1	1	0.1	6	0.6
平成28年調査	944	438	46.4	502	53.2			4	0.4

(2) 年代別

問 1-2 あなたの年齢は。(○は1つ)
(令和3年10月1日現在)

年代別では、全体で60歳以上の割合が42.7%となっている。
前回調査とは、ほぼ同様の構成となっている。

【年齢別 / 性別】(前回調査比較)



【性別・年代別】(前回調査比較)

	調査年	回答数	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答		
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)			
全体	今回調査	1,083	92	8.5	145	13.4	173	16.0	207	19.1	299	27.6	163	15.1	4	0.4	
	平成28年調査	944	81	8.6	127	13.5	164	17.4	201	21.3	270	28.6	99	10.5	2	0.2	
	玉名市内の満20歳から74歳までの人口	41,168	5,136	12.5	6,422	15.6	7,355	17.9	7,525	18.3	9,773	23.7	4,957	12.0			
性別	男性	今回調査	458	41	9.0	60	13.1	70	15.3	84	18.3	130	28.4	73	15.9	0	0.0
		平成28年調査	438	42	9.6	62	14.2	71	16.2	81	18.5	140	32.0	42	9.6	0	0.0
	玉名市内の満20歳から74歳までの人口		20,324	2,589	12.7	3,252	16.0	3,687	18.1	3,595	17.7	4,810	23.7	2,391	11.8		
	女性	今回調査	618	50	8.1	84	13.6	103	16.7	123	19.9	169	27.3	89	14.4	0	0.0
		平成28年調査	502	39	7.8	64	12.7	92	18.3	120	23.9	130	25.9	55	11.0	2	0.4
玉名市内の満20歳から74歳までの人口		20,844	2,547	12.2	3,170	15.2	3,668	17.6	3,930	18.9	4,963	23.8	2,566	12.3			

(3) 職業別

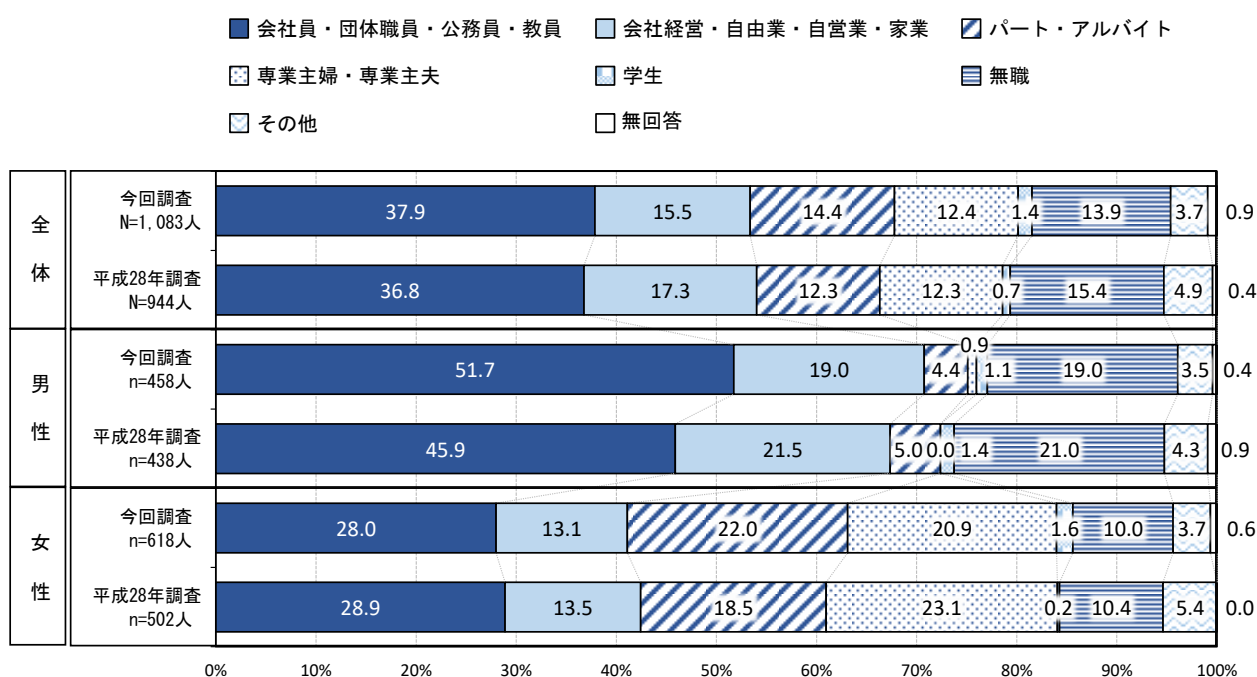
問 1-3 あなたのご職業は次のうちどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

全体では、「会社員・団体職員・公務員・教員」が最も高く 37.9%で、次に「会社経営・自由業・自営業・家業」が 15.5%、以下、「パート・アルバイト」(14.4%)、「無職」(13.9%)と続く。「無職」については、回答者の年齢層が 60 歳以上の割合が高いことが反映されている。

職業については、性別で大きな違いがある。女性は、「会社員・団体職員・公務員・教員」が最も高く 28.0%で、次に「パート・アルバイト」が 22.0. %、以下、「専業主婦」(20.9%)、「会社経営・自由業・自営業・家業」(13.1%)と続く。男性は、「会社員・団体職員・公務員・教員」が最も高く 51.7%、次に「会社経営・自由業・自営業・家業」が 19.0%、以下、「無職」(19.0%)、「パート・アルバイト」(4.4%)と続いた。なお、「会社員・団体職員・公務員・教員」「パート・アルバイト」を合計した『雇用者』は、女性は 50.0%に対し、男性の 56.1%が上回っていた。

前回調査との比較では、男性の「会社員・団体職員・公務員・教員」が増加している。

【 職業別 / 性別 】(前回調査比較)

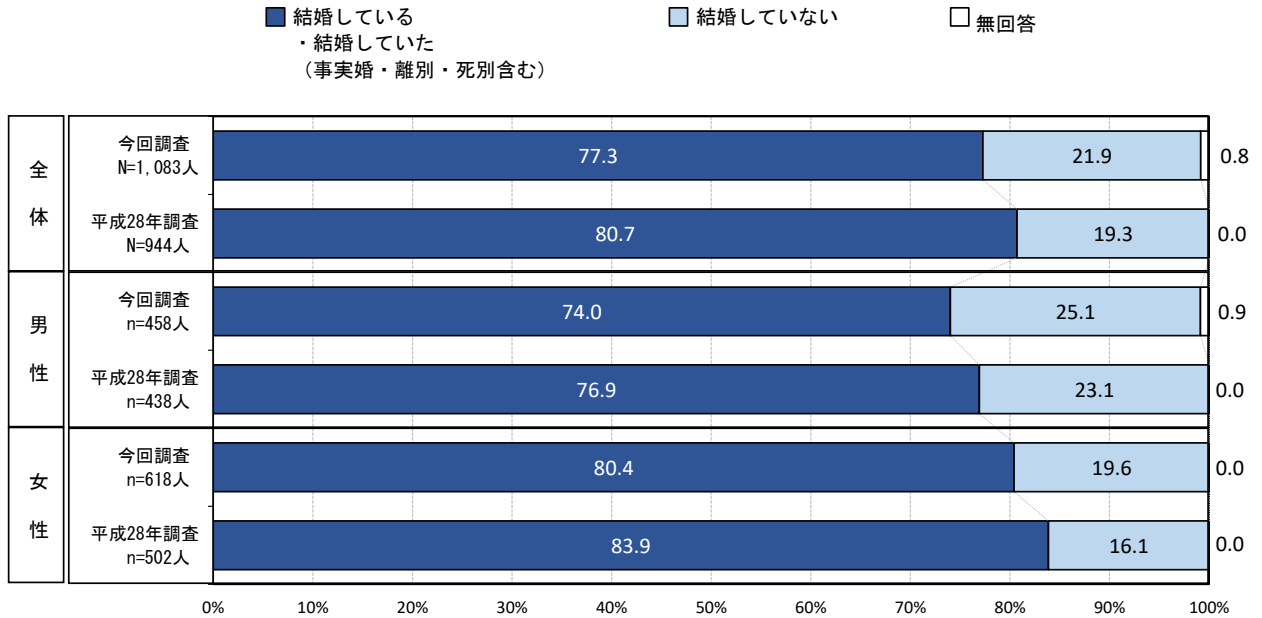


(4) 結婚の有無（未既婚別）

問 1-4 あなたは結婚したことがありますか。(〇は1つ)

前回調査と比べると、「結婚していない」未婚者が若干増加している。

【結婚の有無 / 性別】（前回調査比較）



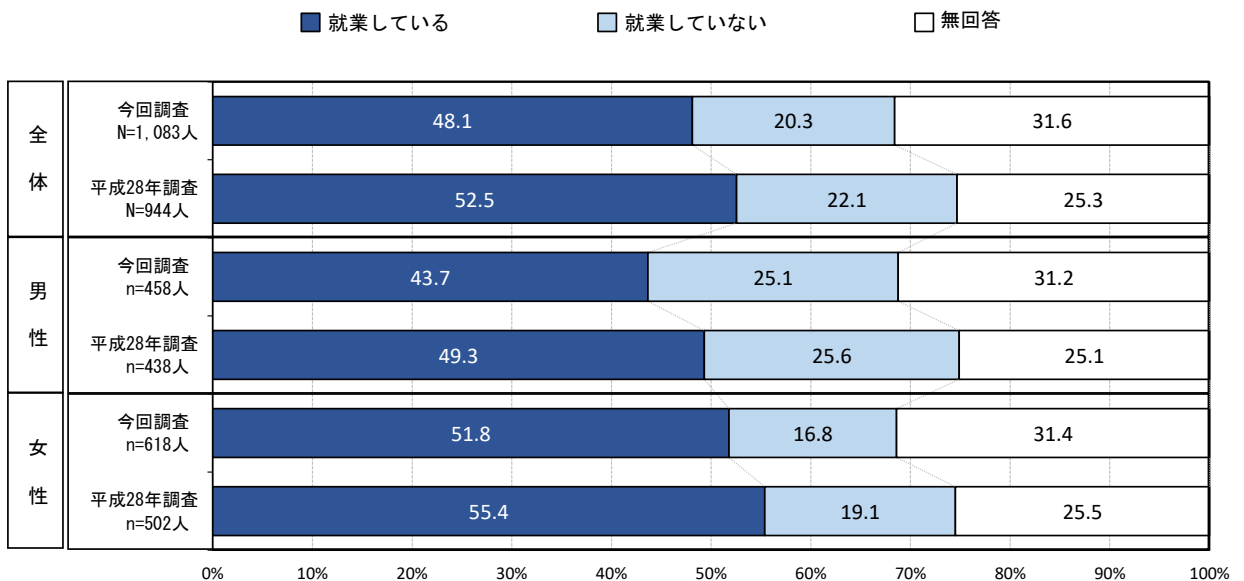
(5) 配偶者の就業の有無

問 1-5 配偶者のいらっしゃる方におたずねします。配偶者は就業されていますか。(〇は1つ)

配偶者の就業率は全体で48.1%となっている。

前回調査とは、ほぼ同様の構成となっている。

【配偶者の就業の有無 / 性別】（前回調査比較）

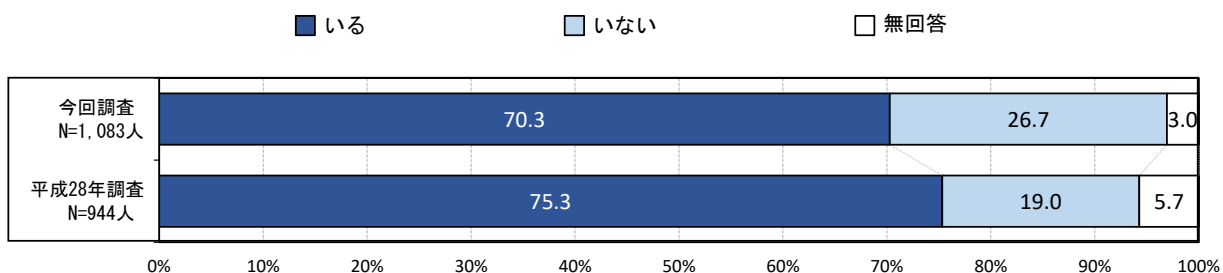


(6) 子どもの有無

問 1-6 お子さんがいらっしゃいますか。(〇は1つ)

前回調査と比べて、「いない」が増加している。

【子どもの有無】(前回調査比較)



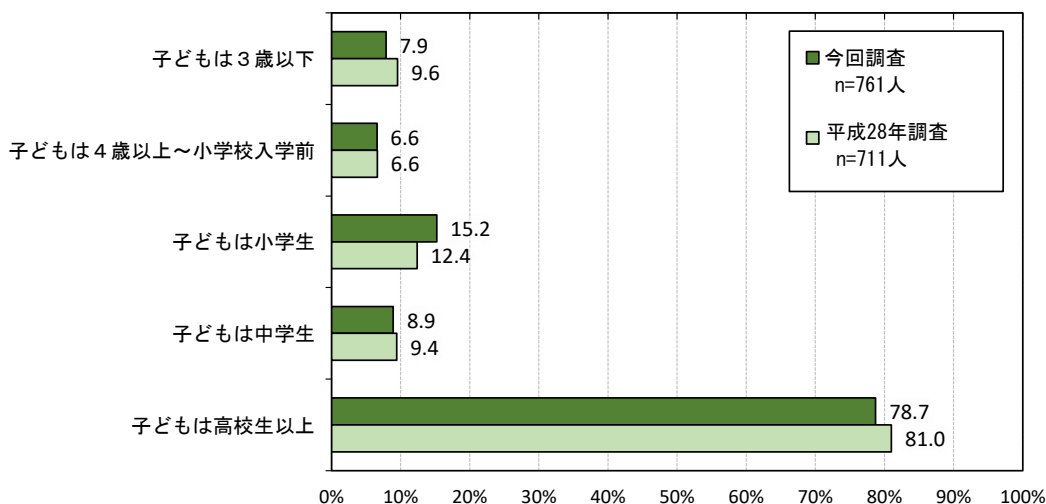
(7) 子どもの状況

問 1-7 お子さんがいらっしゃる方におたずねします。お子さんは次のどれにあてはまりますか。複数いらっしゃれば、それぞれお答えください。

子どもの状況については、「子どもは高校生以上」が78.7%で最も多い。

前回調査と比べると、「子どもは小学生」の割合がやや高くなっている他はほぼ同様の構成となってい。

【子どもの状況】(前回調査比較)



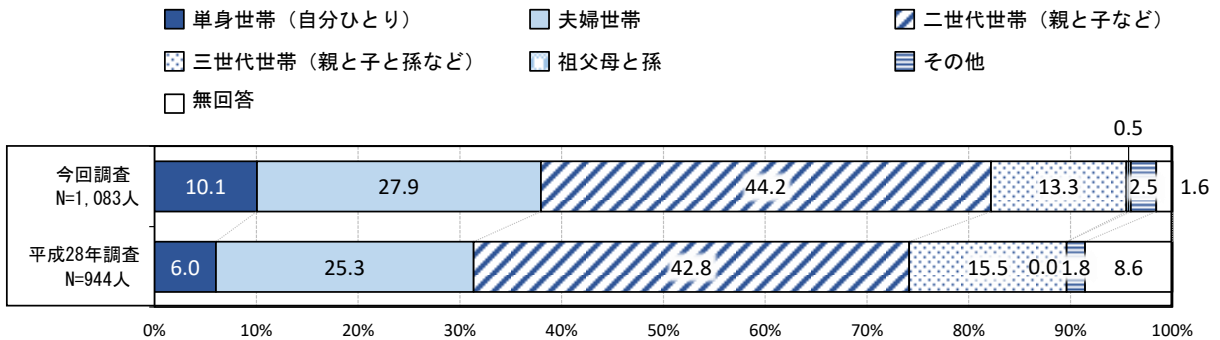
(8) 世帯状況別

問 1-8 あなたの世帯状況は。(○は1つ)

世帯の形態については、「二世帯世帯」は44.2%で最も多い。次いで「夫婦世帯」が27.9%、「三世帯世帯」と「単身世帯」がともに約1割となっている。

前回調査と比べると、「単身世帯(自分ひとり)」「夫婦世帯」「二世帯世帯(親と子など)」が若干増加している。

【世帯状況別】(前回調査比較)



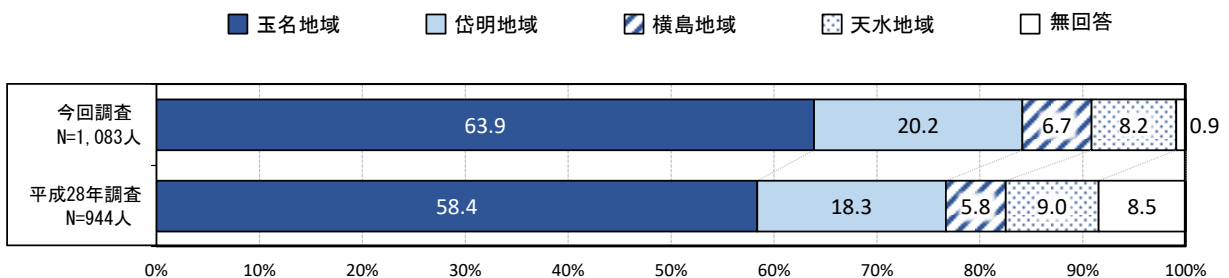
(9) 居住地域

問 1-9 あなたのお住まいの地域は。(○は1つ)

居住の地域については、「玉名地域」が63.9%、「岱明地域」が20.2%、「天水地域」が8.2%、「横島地域」が6.7%となっている。

前回調査とは、「玉名地域」「岱明地域」「横島地域」が増加し、「天水地域」が減少している。

【居住地域】(前回調査比較)



2. 男女共同参画に関する意識について

(1) 男女共同参画について学んだ経験

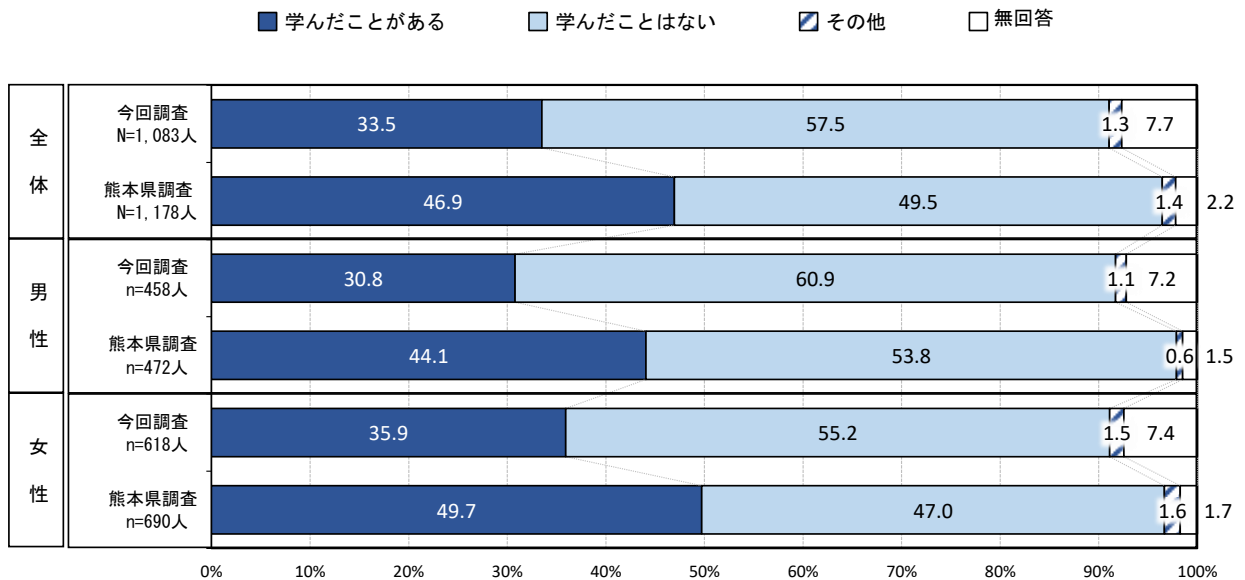
問2 あなたは、学校、職場、生涯学習講座等で、これまでに「男女共同参画」について学んだことはありますか。(〇は1つ)

全体では、「学んだことはない」(57.5%)と回答した人の割合は、「学んだことがある」(33.5%)を大きく上回る。

性別で見ると、「学んだことがない」と回答した人の割合は、「男性」で60.9%となっており、「女性」の55.2%を上回っている。

県調査との比較では、「学んだことがない」と回答した割合は、8ポイント高くなっていた。

【男女共同参画について学んだ経験 / 性別】(県調査比較)



全体：「ある」33.5% (県比 -13.4ポイント)
 :「ない」57.5% (県比 +8.0ポイント)
 男性：「ある」30.8% (県比 -13.3ポイント)
 :「ない」60.9% (県比 +7.1ポイント)
 女性：「ある」35.9% (県比 -13.8ポイント)
 :「ない」55.2% (県比 +8.2ポイント)

【男女共同参画について学んだ経験 / 性別】（県調査比較）

(%)

		回答数	学んだことがある	学んだことはない	その他	無回答	
全体	今回調査	1,083	33.5	57.5	1.3	7.7	
	熊本県調査	1,178	46.9	49.5	1.4	2.2	
性別	男性	今回調査	458	30.8	60.9	1.1	7.2
		熊本県調査	472	44.1	53.8	0.6	1.5
	女性	今回調査	618	35.9	55.2	1.5	7.4
		熊本県調査	690	49.7	47.0	1.6	1.7

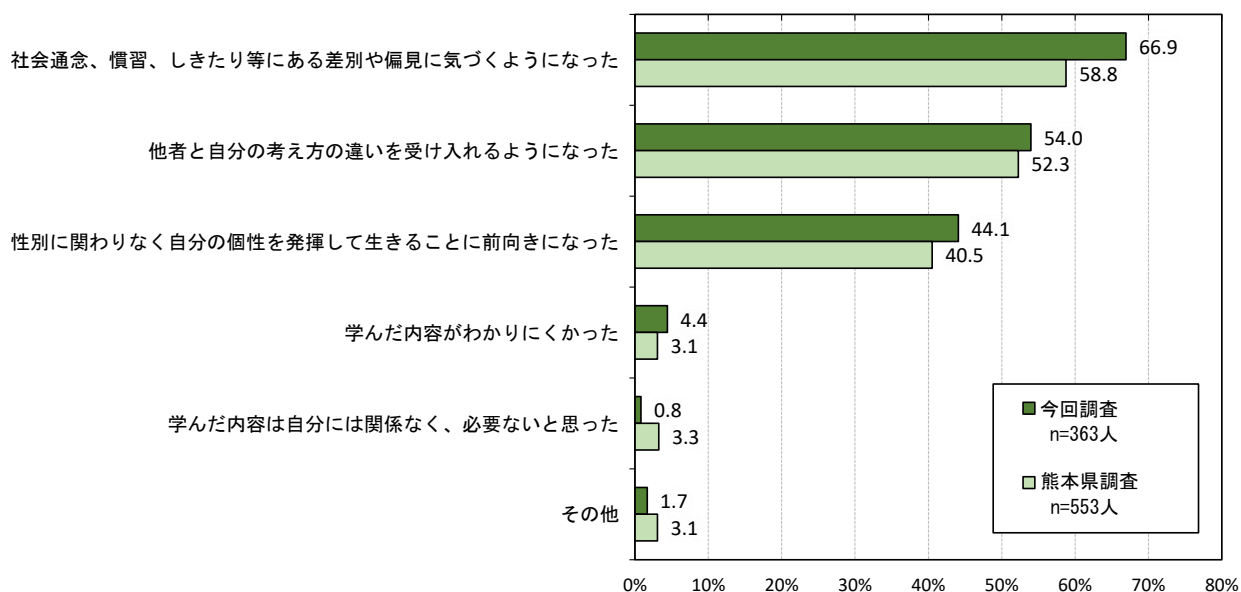
(2) 男女共同参画について学んだことに関する考え方

SQ 問2で「1.学んだことがある」と答えた方におたずねします。あなたは、学んだ「男女共同参画」の内容について、どのように考えますか。
(〇はいくつでも)

「社会通念・慣習・しきたり等にある差別や偏見に気づくようになった」と回答した人の割合が66.9%と最も高く、次いで「他者と自分の考え方の違いを受け入れるようになった」が54.0%で、「性別に関わりなく自分の個性を発揮して生きることに前向きになった」が44.1%と続いている。

県調査との比較では、上記の選択肢に回答した人の割合が高かった。

【男女共同参画について学んだことに関する考え方】(県調査比較)



《上位回答》

今回	○ 社会通念、慣習、しきたり等にある差別や偏見に気づくようになった	66.9%
	○ 他者と自分の考え方の違いを受け入れるようになった	54.0%
	○ 性別に関わりなく自分の個性を発揮して生きることに前向きになった	44.1%
県	○ 社会通念、慣習、しきたり等にある差別や偏見に気づくようになった	58.8%
	○ 他者と自分の考え方の違いを受け入れるようになった	52.3%
	○ 性別に関わりなく自分の個性を発揮して生きることに前向きになった	40.5%

【男女共同参画について学んだことに関する考え方 / 性別】（県調査比較）

		回答数	（％）					その他	
			にやき社会 な偏た会 つ見り通 たに等念 気づに慣 づくる習 よ差 う別し	よの他 う違者と にいと自 なを分の つ受けた た入考 れえ る方	に生分性 なきの別 なる個に ったこと性 たをわ に発り 前揮な 向しく ぎて自	に学 くん かだ つた 内容 がわ かり	いは学 と思ん つただ た、内 必要容 な自分 に		
全体	今回調査	363	66.9	54.0	44.1	4.4	0.8	1.7	
	熊本県調査	553	58.8	52.3	40.5	3.1	3.3	3.1	
性別	男性	今回調査	141	66.7	54.6	41.1	5.7	2.1	2.1
		熊本県調査	208	52.9	51.9	41.3	3.8	4.3	2.4
	女性	今回調査	222	67.1	53.6	45.9	3.6	0.0	1.4
		熊本県調査	343	62.7	52.8	39.7	2.6	2.6	3.5

(3) 男女の地位の平等感について

問3 あなたは、男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (①～⑧の項目それぞれ1つに○)

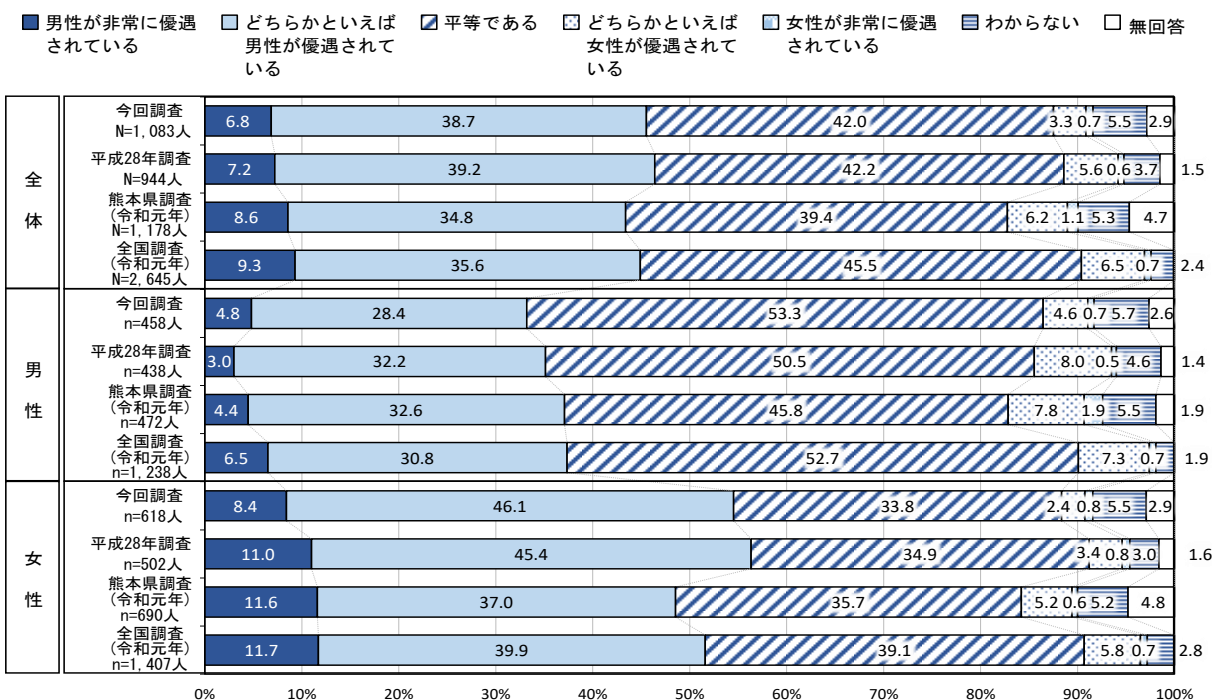
① 家庭生活では

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(38.7%)と、「男性が非常に優遇されている」(6.8%)を合わせた『男性優遇』と感じている人が45.5%いる。また、「平等である」と感じている人が42.0%で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(3.3%)と「女性が非常に優遇されている」(0.7%)を合わせた『女性優遇』と感じている人は4%となっている。

性別で見ると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『男性が非常に優遇されている』の女性の回答では低下している。家庭生活における男性の優位性が依然として高いが、経年変化で女性の認識においてはやや低くなってきている。

【① 家庭生活では/ 性別】(前回・県・全国調査比較)



全体：『男性優遇』 45.5% (前回比 -0.9ポイント)
 :『平等である』 42.0% (前回比 -0.2ポイント)
 男性：『男性優遇』 33.2% (前回比 -2.0ポイント)
 :『平等である』 53.3% (前回比 +2.8ポイント)
 女性：『男性優遇』 54.5% (前回比 -1.9ポイント)
 :『平等である』 33.8% (前回比 -1.1ポイント)

※『男性優遇』 = 「どちらかといえば男性が優遇されている」 + 「男性が非常に優遇されている」

② 職場では

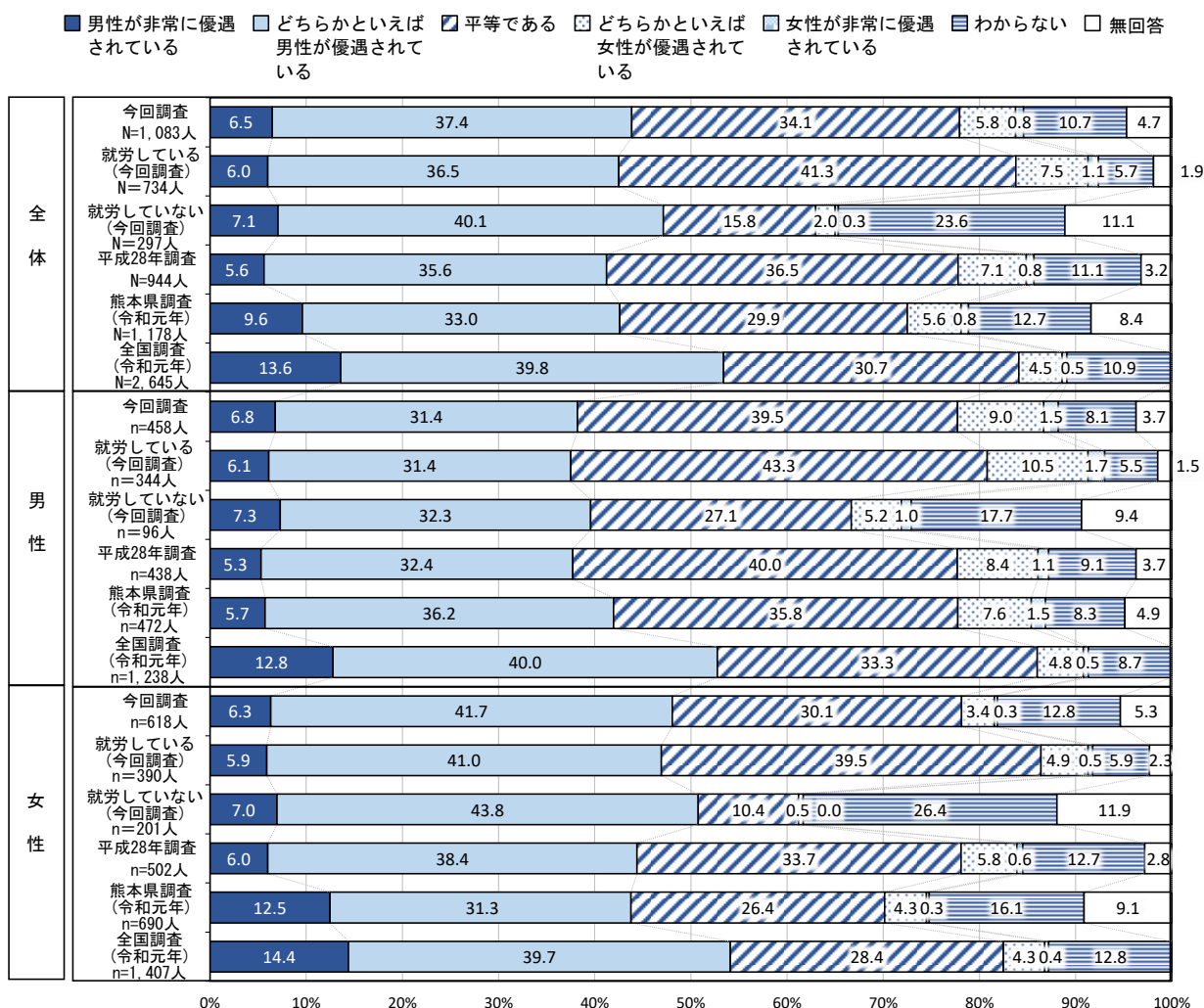
全体では、『男性優遇』と感じている人が43.9%いる。また、「平等である」と感じている人は34.1%で、『女性優遇』と感じている人は全体の6.6%しかいない。

性別でみると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『男性優位』の割合が高くなっており、男性に比べ女性の上昇率がやや高い。

就労の有無別でみると、就労していない方が『男性優遇』の割合が高くなっている。

【② 職場では/ 性別】(前回・県・全国調査比較)



全体：『男性優遇』 43.9% (前回比 +2.7ポイント)
 :『平等である』 34.1% (前回比 -2.4ポイント)
 男性：『男性優遇』 38.2% (前回比 +0.5ポイント)
 :『平等である』 39.5% (前回比 -0.5ポイント)
 女性：『男性優遇』 48.0% (前回比 +3.6ポイント)
 :『平等である』 30.1% (前回比 -3.6ポイント)

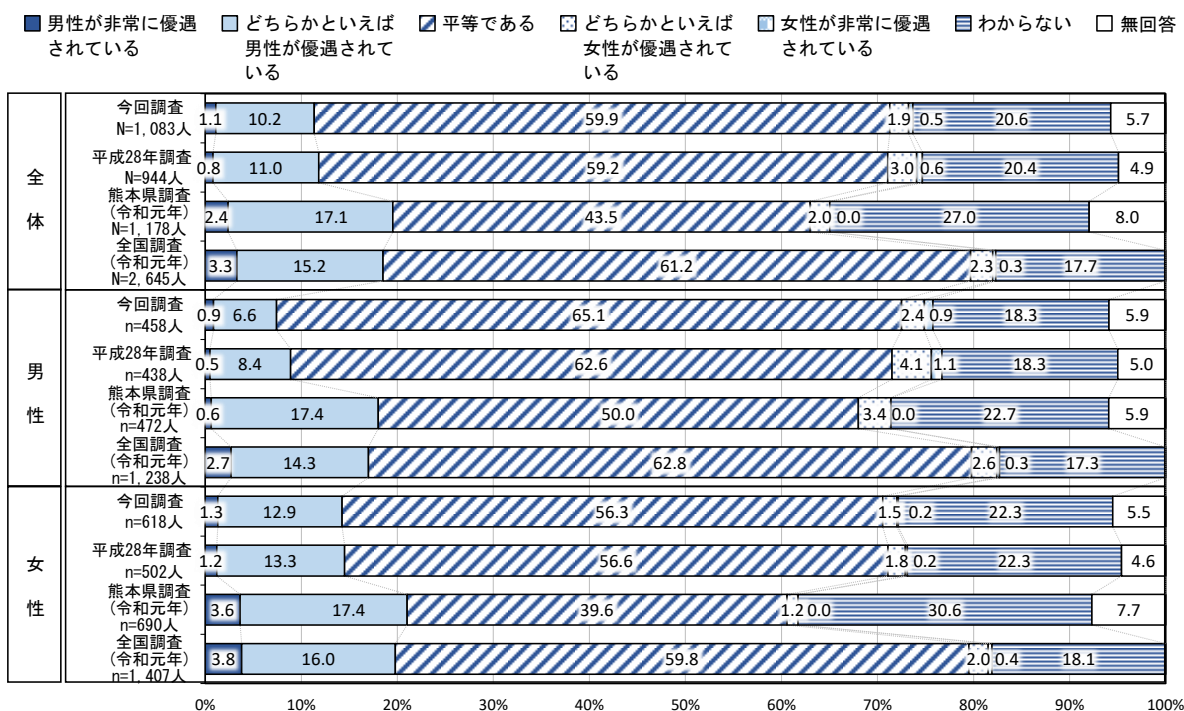
③ 学校教育の場では

全体では、「平等である」(59.9%)と感じている人が最も多い。また、『男性優遇』(11.3%)と感じている人の方が、『女性優遇』(2.4%)と感じている人よりも多い。

性別でみると、『男性優遇』と感じている人は男性よりも女性の方が2倍ほど高い割合となっている。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『女性優遇』と感じている人の割合が低くなっている。

【③ 学校教育の場では/ 性別】(前回・県・全国調査比較)



全体：『男性優遇』 11.3% (前回比 -0.5ポイント)
 :『平等である』 59.9% (前回比 +0.7ポイント)
 男性：『男性優遇』 7.5% (前回比 -1.4ポイント)
 :『平等である』 65.1% (前回比 +2.5ポイント)
 女性：『男性優遇』 14.2% (前回比 -0.3ポイント)
 :『平等である』 56.3% (前回比 -0.3ポイント)

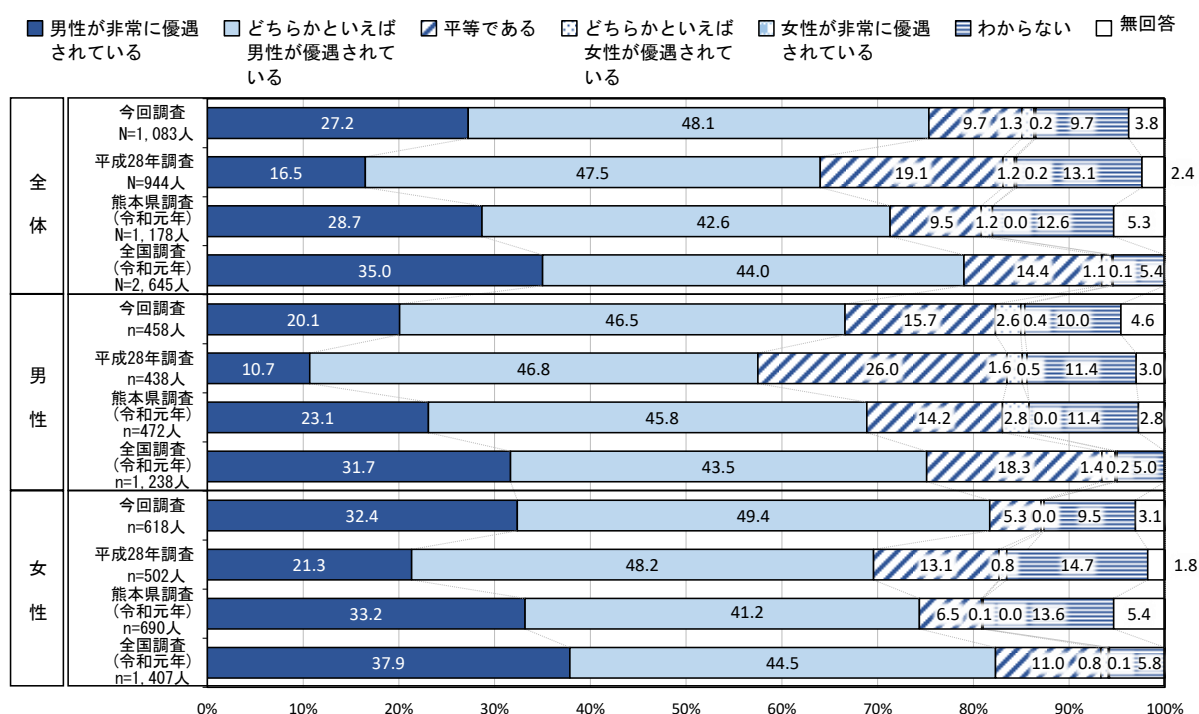
④ 政治の場では

全体では、『男性優遇』が75.3%を占めており、男性が優遇と感じている人の割合が高い。

性別で見ると、『男性優遇』と感じている人は、女性で81.8%となっており、男性の66.6%を大きく上回っている。「平等である」と感じている人は、男性の方が女性の3倍高い割合となっている。

前回調査との比較では、『男性優遇』の割合が高くなっている。政治の場における男性が優遇されているという認識が依然として高いことがうかがえる。

【④ 政治の場では/ 性別】(前回・県・全国調査比較)

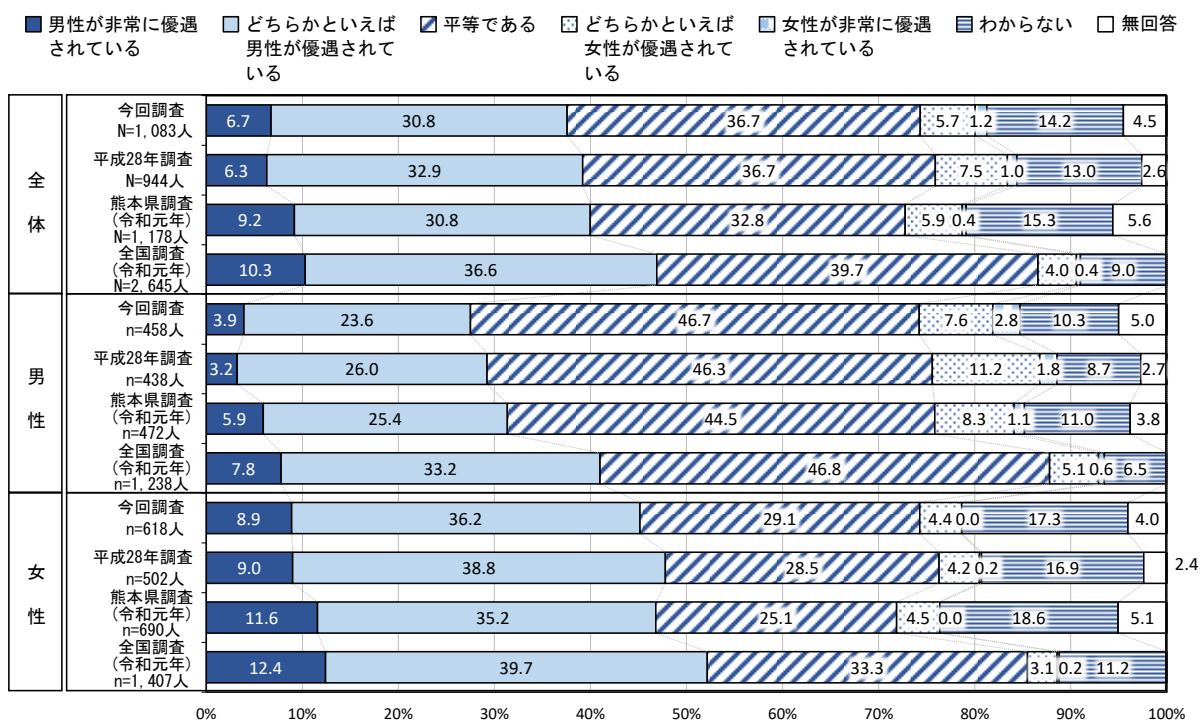


全体：『男性優遇』 75.3% (前回比 +11.3 ポイント)
 :『平等である』 9.7% (前回比 -9.4 ポイント)
 男性：『男性優遇』 66.6% (前回比 +9.1 ポイント)
 :『平等である』 15.7% (前回比 -10.3 ポイント)
 女性：『男性優遇』 81.8% (前回比 +12.3 ポイント)
 :『平等である』 5.3% (前回比 -7.8 ポイント)

⑤ 法律や制度の上では

全体では、『男性優遇』が37.5%で、「平等である」と感じている人は36.7%である。
性別で見ると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」や『女性優遇』と感じている人の割合は、どちらも男性の方が高くなっている。
前回調査との比較では、『男性優遇』の割合が低くなっている。

【⑤ 法律や制度の上では/ 性別】(前回・県・全国調査比較)



全体：『男性優遇』 37.5% (前回比 -1.7ポイント)
 :『平等である』 36.7% (前回比 ±0ポイント)
 男性：『男性優遇』 27.5% (前回比 -1.7ポイント)
 :『平等である』 46.7% (前回比 +0.4ポイント)
 女性：『男性優遇』 45.1% (前回比 -2.7ポイント)
 :『平等である』 29.1% (前回比 +0.6ポイント)

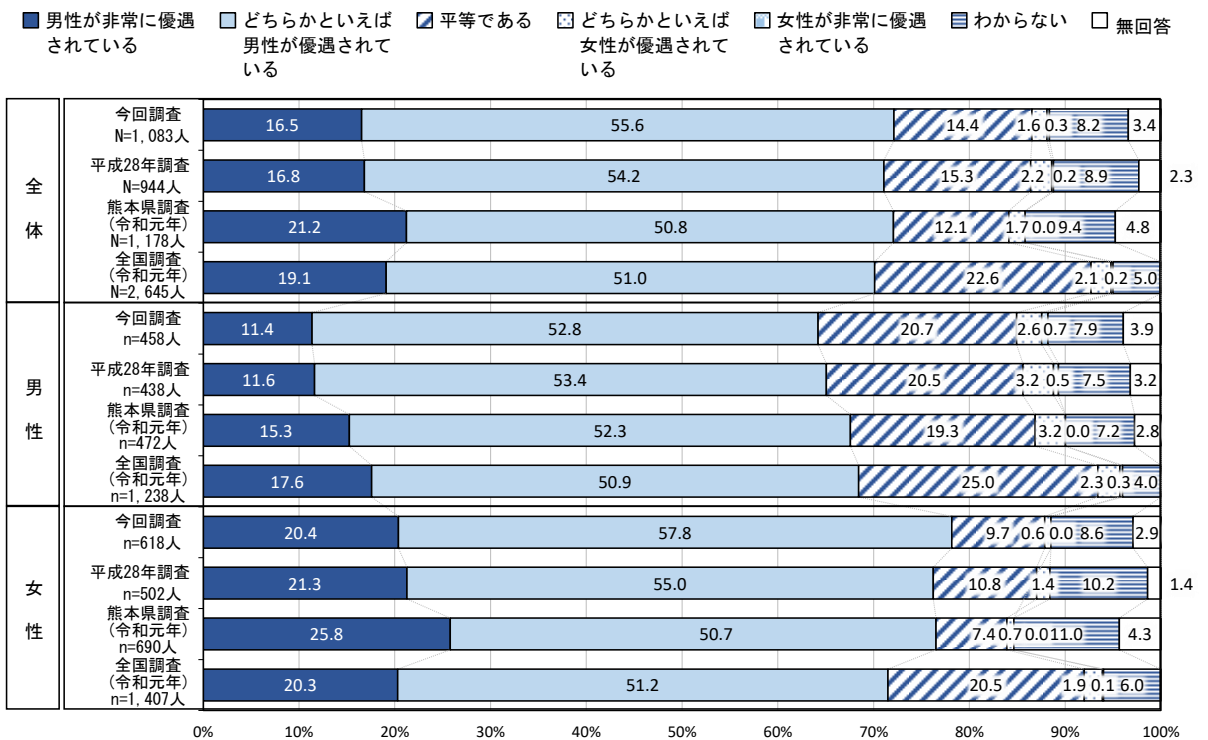
⑥ 社会通念や慣習・しきたり等では

全体では、『男性優遇』が72.1%を占めており、男性が優遇と感じている人の割合が高い。「平等である」と感じている人は14.4%、『女性優遇』と感じている人は全体の1.9%となっている。

性別で見ると、『男性優遇』と感じている人は「女性」で78.2%となっており、「男性」の64.2%を大きく上回っている。

前回調査との比較では、男性は『男性優遇』の割合が低くなっているのに対し、女性は『男性優遇』の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっている。社会通念や慣習・しきたり等における男性優遇の認識が依然として高いことがうかがえる。

【⑥ 社会通念や慣習・しきたり等では/ 性別】（前回・県・全国調査比較）



全体：『男性優遇』 72.1%（前回比 +1.1ポイント）
 ：『平等である』 14.4%（前回比 -0.9ポイント）
 男性：『男性優遇』 64.2%（前回比 -0.8ポイント）
 ：『平等である』 20.7%（前回比 +0.2ポイント）
 女性：『男性優遇』 78.2%（前回比 +1.9ポイント）
 ：『平等である』 9.7%（前回比 -1.1ポイント）

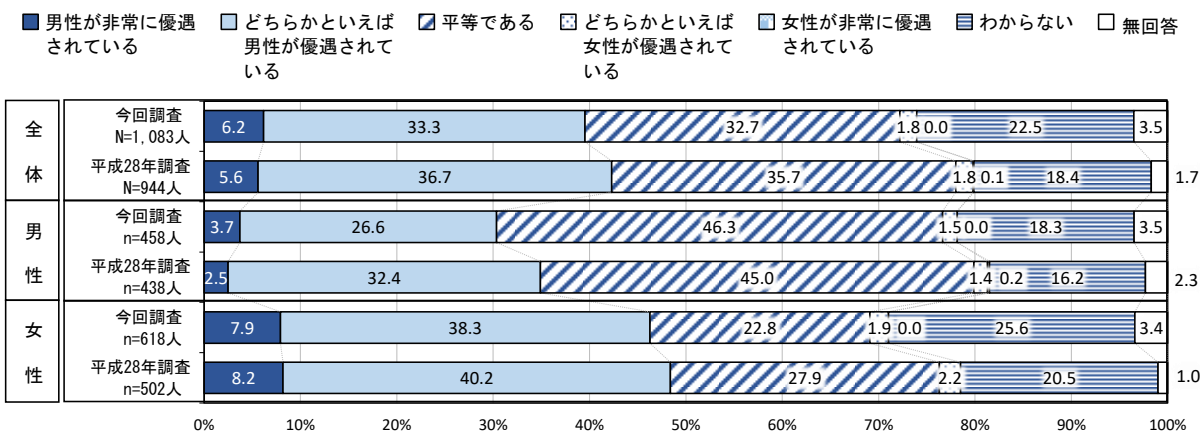
⑦ 地域（校区）では

全体では、『男性優遇』と感じている人が 39.5%、「平等である」と感じている人は 32.7%いる。また『女性優遇』と感じている人は全体の 1.8%となっている。

性別でみると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が女性の2倍高くなっている。

前回調査との比較では、『男性優遇』の割合が低くなっている。

【⑦ 地域（校区）では/ 性別】（前回調査比較）

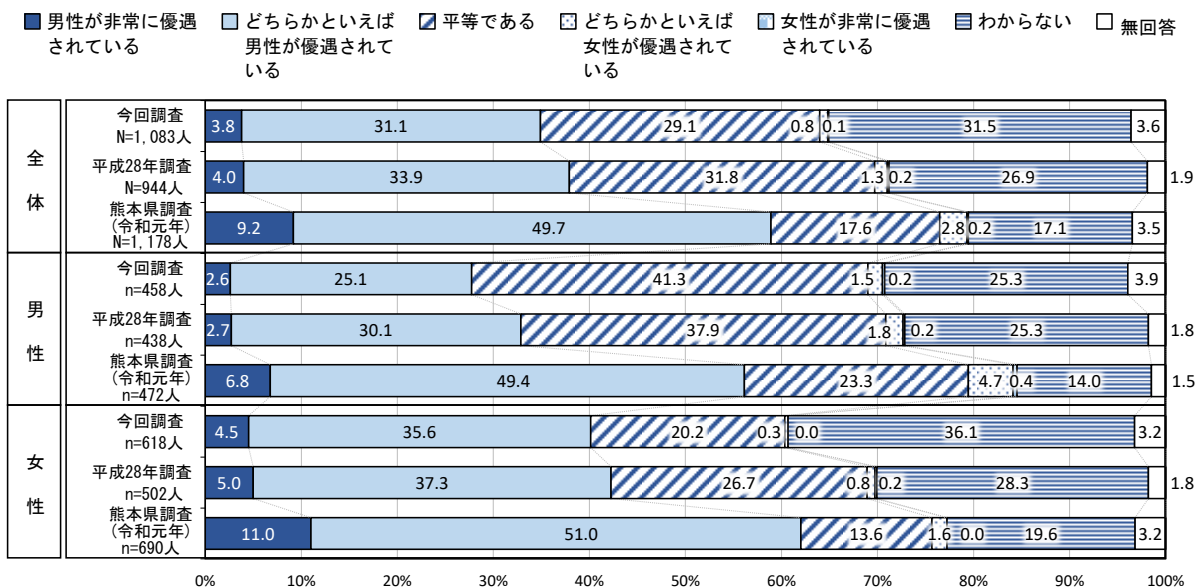


全体：『男性優遇』 39.5%（前回比 -2.8ポイント）
 ：『平等である』 32.7%（前回比 -3.0ポイント）
 男性：『男性優遇』 30.3%（前回比 -4.6ポイント）
 ：『平等である』 46.3%（前回比 +1.3ポイント）
 女性：『男性優遇』 46.2%（前回比 -2.2ポイント）
 ：『平等である』 22.8%（前回比 -5.1ポイント）

⑧ 玉名市では

全体では、『男性優遇』が 34.9%で、「平等である」と感じている人は 29.1%である。
性別でみると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高く、「平等である」や『女性優遇』と感じている人は、どちらも男性の方の割合が高くなっている。

【⑧ 玉名市では/ 性別】（前回・県調査比較）



全体：『男性優遇』 34.9%（前回比 -3.0ポイント）
 ：『平等である』 29.1%（前回比 -2.7ポイント）
 男性：『男性優遇』 27.7%（前回比 -5.1ポイント）
 ：『平等である』 41.3%（前回比 +3.4ポイント）
 女性：『男性優遇』 40.1%（前回比 -2.2ポイント）
 ：『平等である』 20.2%（前回比 -6.5ポイント）

【男女の地位の平等感について /性・年齢別】

(%)

	回答数	① 家庭生活では							② 職場では							
		男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	1,083	6.8	38.7	42.0	3.3	0.7	5.5	2.9	6.5	37.4	34.1	5.8	0.8	10.7	4.7	
男性	458	4.8	28.4	53.3	4.6	0.7	5.7	2.6	6.8	31.4	39.5	9.0	1.5	8.1	3.7	
女性	618	8.4	46.1	33.8	2.4	0.8	5.5	2.9	6.3	41.7	30.1	3.4	0.3	12.8	5.3	
男性	20歳代	41	4.9	17.1	63.4	4.9	0.0	7.3	2.4	2.4	31.7	34.1	17.1	2.4	12.2	0.0
	30歳代	60	3.3	31.7	56.7	5.0	0.0	1.7	1.7	3.3	31.7	46.7	10.0	3.3	3.3	1.7
	40歳代	70	5.7	22.9	57.1	5.7	1.4	5.7	1.4	4.3	28.6	40.0	17.1	2.9	5.7	1.4
	50歳代	84	3.6	19.0	60.7	6.0	0.0	9.5	1.2	6.0	31.0	45.2	8.3	1.2	8.3	0.0
	60歳代	130	4.6	35.4	45.4	3.1	0.8	6.2	4.6	7.7	34.6	40.0	5.4	0.0	6.9	5.4
女性	20歳代	73	6.8	35.6	46.6	4.1	1.4	2.7	2.7	13.7	28.8	28.8	2.7	1.4	13.7	11.0
	30歳代	50	8.0	30.0	46.0	6.0	0.0	6.0	4.0	6.0	24.0	48.0	2.0	0.0	18.0	2.0
	40歳代	84	11.9	44.0	33.3	1.2	1.2	6.0	2.4	8.3	44.0	31.0	1.2	1.2	9.5	4.8
	50歳代	103	10.7	51.5	30.1	0.0	1.9	2.9	2.9	6.8	40.8	32.0	7.8	1.0	8.7	2.9
	60歳代	123	6.5	46.3	33.3	2.4	0.8	10.6	0.0	4.9	43.1	38.2	5.7	0.0	8.1	0.0
70歳代	169	5.3	50.3	34.3	3.6	0.0	1.8	4.7	5.3	46.2	26.0	0.6	0.0	13.0	8.9	
70歳代	89	11.2	42.7	31.5	2.2	1.1	7.9	3.4	7.9	40.4	13.5	3.4	0.0	23.6	11.2	

	回答数	③ 学校教育の場では							④ 政治の場では							
		男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	1,083	1.1	10.2	59.9	1.9	0.5	20.6	5.7	27.2	48.1	9.7	1.3	0.2	9.7	3.8	
男性	458	0.9	6.6	65.1	2.4	0.9	18.3	5.9	20.1	46.5	15.7	2.6	0.4	10.0	4.6	
女性	618	1.3	12.9	56.3	1.5	0.2	22.3	5.5	32.4	49.4	5.3	0.3	0.0	9.5	3.1	
男性	20歳代	41	2.4	4.9	65.9	2.4	7.3	14.6	2.4	26.8	36.6	19.5	4.9	0.0	12.2	0.0
	30歳代	60	0.0	8.3	68.3	5.0	0.0	15.0	3.3	20.0	53.3	15.0	1.7	0.0	6.7	3.3
	40歳代	70	0.0	5.7	71.4	1.4	0.0	20.0	1.4	25.7	48.6	12.9	1.4	0.0	8.6	2.9
	50歳代	84	0.0	2.4	67.9	4.8	1.2	22.6	1.2	16.7	47.6	16.7	6.0	1.2	11.9	0.0
	60歳代	130	1.5	10.0	60.8	1.5	0.0	16.9	9.2	21.5	45.4	14.6	2.3	0.0	9.2	6.9
女性	20歳代	73	1.4	5.5	60.3	0.0	0.0	19.2	13.7	12.3	45.2	17.8	0.0	1.4	12.3	11.0
	30歳代	50	2.0	10.0	66.0	2.0	0.0	16.0	4.0	34.0	46.0	6.0	2.0	0.0	10.0	2.0
	40歳代	84	1.2	14.3	59.5	2.4	0.0	16.7	6.0	40.5	42.9	7.1	0.0	0.0	6.0	3.6
	50歳代	103	1.9	10.7	62.1	0.0	0.0	23.3	1.9	30.1	55.3	1.9	0.0	0.0	9.7	2.9
	60歳代	123	0.0	12.2	53.7	3.3	0.0	30.1	0.8	30.9	52.8	4.1	0.8	0.0	11.4	0.0
70歳代	169	2.4	14.2	55.0	1.2	0.0	18.9	8.3	33.7	50.3	5.9	0.0	0.0	5.9	4.1	
70歳代	89	0.0	14.6	47.2	0.0	1.1	25.8	11.2	25.8	43.8	7.9	0.0	0.0	16.9	5.6	

(%)

	回答数	⑤ 法律や制度の上では							⑥ 社会通念や慣習・しきたり等では							
		男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	どちらが優遇されれば	平等である	どちらが優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	1,083	6.7	30.8	36.7	5.7	1.2	14.2	4.5	16.5	55.6	14.4	1.6	0.3	8.2	3.4	
男性	458	3.9	23.6	46.7	7.6	2.8	10.3	5.0	11.4	52.8	20.7	2.6	0.7	7.9	3.9	
女性	618	8.9	36.2	29.1	4.4	0.0	17.3	4.0	20.4	57.8	9.7	0.6	0.0	8.6	2.9	
男性	20歳代	41	4.9	9.8	46.3	14.6	9.8	14.6	0.0	7.3	41.5	29.3	4.9	2.4	14.6	0.0
	30歳代	60	1.7	28.3	40.0	6.7	5.0	13.3	5.0	13.3	45.0	23.3	3.3	1.7	11.7	1.7
	40歳代	70	4.3	20.0	45.7	12.9	7.1	8.6	1.4	14.3	60.0	14.3	2.9	1.4	5.7	1.4
	50歳代	84	7.1	26.2	41.7	11.9	0.0	11.9	1.2	13.1	54.8	20.2	4.8	0.0	7.1	0.0
	60歳代	130	4.6	25.4	49.2	3.8	0.8	7.7	8.5	10.8	56.2	19.2	0.8	0.0	6.9	6.2
女性	20歳代	73	0.0	24.7	54.8	1.4	0.0	9.6	9.6	8.2	50.7	23.3	1.4	0.0	5.5	11.0
	30歳代	50	6.0	32.0	36.0	4.0	0.0	16.0	6.0	12.0	52.0	22.0	0.0	0.0	10.0	4.0
	40歳代	84	8.3	34.5	27.4	8.3	0.0	17.9	3.6	21.4	52.4	15.5	0.0	0.0	7.1	3.6
	50歳代	103	11.7	36.9	20.4	9.7	0.0	19.4	1.9	28.2	61.2	2.9	1.0	0.0	4.9	1.9
	60歳代	123	7.3	39.0	29.3	2.4	0.0	22.0	0.0	20.3	62.6	6.5	0.0	0.0	10.6	0.0
70歳代	169	9.5	41.4	27.2	2.4	0.0	14.2	5.3	20.7	58.0	8.9	1.2	0.0	7.7	3.6	
70歳代	89	9.0	25.8	40.4	1.1	0.0	14.6	9.0	14.6	55.1	11.2	1.1	0.0	12.4	5.6	

	回答数	⑦ 地域(校区)では							⑧ 玉名市(社会全体)では							
		男性が非常に優遇	どちらかというに男性が優遇されている	平等である	どちらかというに女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇	どちらかというに男性が優遇されている	平等である	どちらかというに女性が優遇されている	女性が非常に優遇	わからない	無回答	
全体	1,083	6.2	33.3	32.7	1.8	0.0	22.5	3.5	3.8	31.1	29.1	0.8	0.1	31.5	3.6	
男性	458	3.7	26.6	46.3	1.5	0.0	18.3	3.5	2.6	25.1	41.3	1.5	0.2	25.3	3.9	
女性	618	7.9	38.3	22.8	1.9	0.0	25.6	3.4	4.5	35.6	20.2	0.3	0.0	36.1	3.2	
男性	20歳代	41	7.3	12.2	46.3	0.0	0.0	34.1	0.0	2.4	7.3	48.8	0.0	2.4	39.0	0.0
	30歳代	60	1.7	25.0	51.7	1.7	0.0	18.3	1.7	1.7	20.0	43.3	1.7	0.0	31.7	1.7
	40歳代	70	1.4	20.0	54.3	1.4	0.0	21.4	1.4	4.3	20.0	42.9	2.9	0.0	28.6	1.4
	50歳代	84	3.6	25.0	45.2	3.6	0.0	22.6	0.0	3.6	21.4	45.2	2.4	0.0	27.4	0.0
	60歳代	130	4.6	34.6	40.0	1.5	0.0	13.1	6.2	2.3	35.4	36.2	1.5	0.0	16.9	7.7
女性	73	4.1	30.1	46.6	0.0	0.0	11.0	8.2	1.4	30.1	38.4	0.0	0.0	21.9	8.2	
女性	20歳代	50	10.0	4.0	30.0	8.0	0.0	46.0	2.0	2.0	12.0	30.0	2.0	0.0	52.0	2.0
	30歳代	84	9.5	27.4	25.0	1.2	0.0	32.1	4.8	3.6	27.4	19.0	0.0	0.0	45.2	4.8
	40歳代	103	9.7	40.8	18.4	1.9	0.0	27.2	1.9	6.8	37.9	16.5	0.0	0.0	36.9	1.9
	50歳代	123	5.7	45.5	20.3	0.0	0.0	28.5	0.0	5.7	37.4	20.3	0.0	0.0	36.6	0.0
	60歳代	169	9.5	46.7	23.7	1.8	0.0	13.0	5.3	4.7	43.2	17.8	0.6	0.0	28.4	5.3
70歳代	89	3.4	39.3	23.6	2.2	0.0	25.8	5.6	2.2	37.1	24.7	0.0	0.0	31.5	4.5	

(4) 固定的性別役割分担意識

問4 あなたは、『男は仕事、女は家庭』などと性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

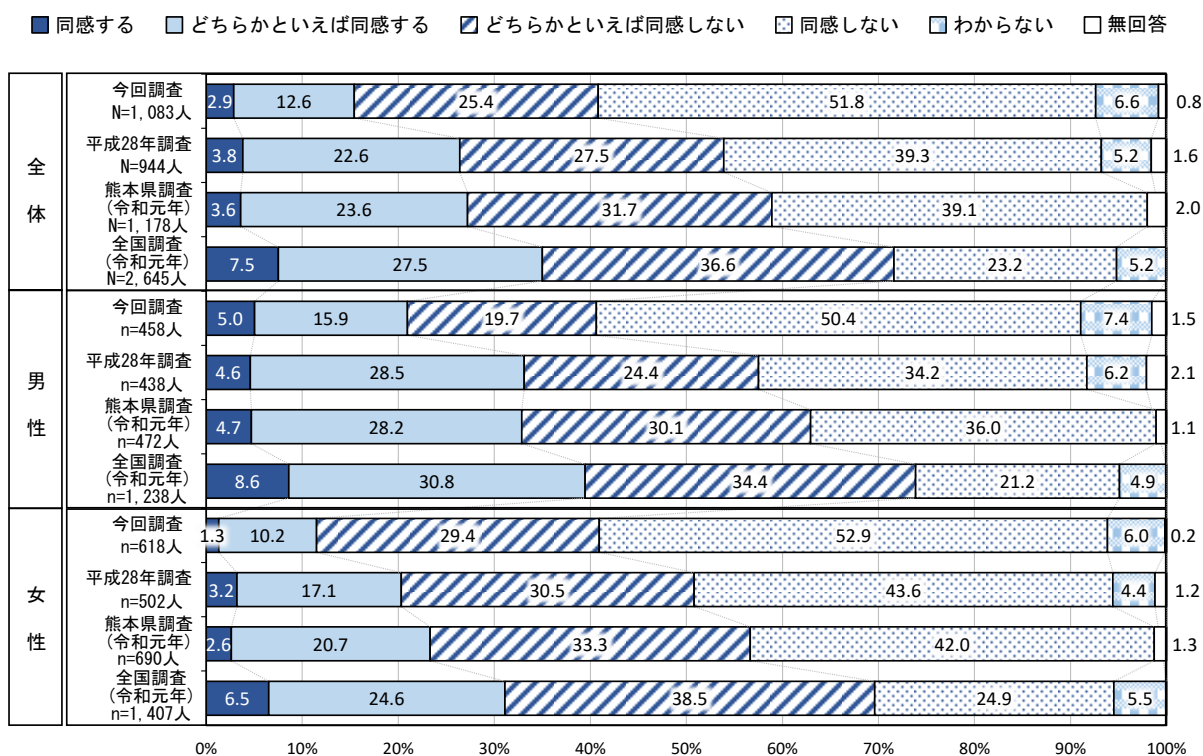
全体では、『同感しない』と感じている人の割合が77.2%、『同感する』が15.5%となっている。

性別で見ると、女性の方が『同感しない』と感じている人の割合が高い。また、『同感する』と感じている人の割合は、男性の方が女性の約2倍高い割合となっている。

前回調査との比較では、『同感しない』と感じている人の割合が高くなっている。

※『同感する (又はしない)』 = 「同感する (又はしない)」 + 「どちらかといえば同感する (又はしない)」

【固定的性別役割分担意識/ 性別】(前回・県・全国調査比較)



全体：『同感する』 15.5% (前回比 -10.9ポイント)
 :『同感しない』 77.2% (前回比 +10.4ポイント)
 男性：『同感する』 20.9% (前回比 -12.2ポイント)
 :『同感しない』 70.1% (前回比 +11.5ポイント)
 女性：『同感する』 11.5% (前回比 -8.8ポイント)
 :『同感しない』 82.3% (前回比 +8.2ポイント)

【固定的性別役割分担意識/性・年齢別】

(%)

		回答数	同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない	無回答
全体		1,083	2.9	12.6	25.4	51.8	6.6	0.8
男性		458	5.0	15.9	19.7	50.4	7.4	1.5
女性		618	1.3	10.2	29.4	52.9	6.0	0.2
男性	20歳代	41	4.9	7.3	7.3	65.9	14.6	0.0
	30歳代	60	1.7	16.7	16.7	58.3	5.0	1.7
	40歳代	70	1.4	17.1	18.6	57.1	5.7	0.0
	50歳代	84	6.0	16.7	23.8	44.0	9.5	0.0
	60歳代	130	3.8	19.2	22.3	46.9	6.2	1.5
	70歳代	73	12.3	12.3	20.5	42.5	6.8	5.5
女性	20歳代	50	2.0	8.0	26.0	54.0	10.0	0.0
	30歳代	84	1.2	4.8	22.6	67.9	3.6	0.0
	40歳代	103	1.0	9.7	34.0	52.4	2.9	0.0
	50歳代	123	0.8	8.9	26.0	56.1	7.3	0.8
	60歳代	169	0.6	11.8	32.0	51.5	4.1	0.0
	70歳代	89	3.4	15.7	32.6	37.1	11.2	0.0

(5) 性別にかかわりない機会の確保

問5 あなたは、男女が性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。(〇は1つ)

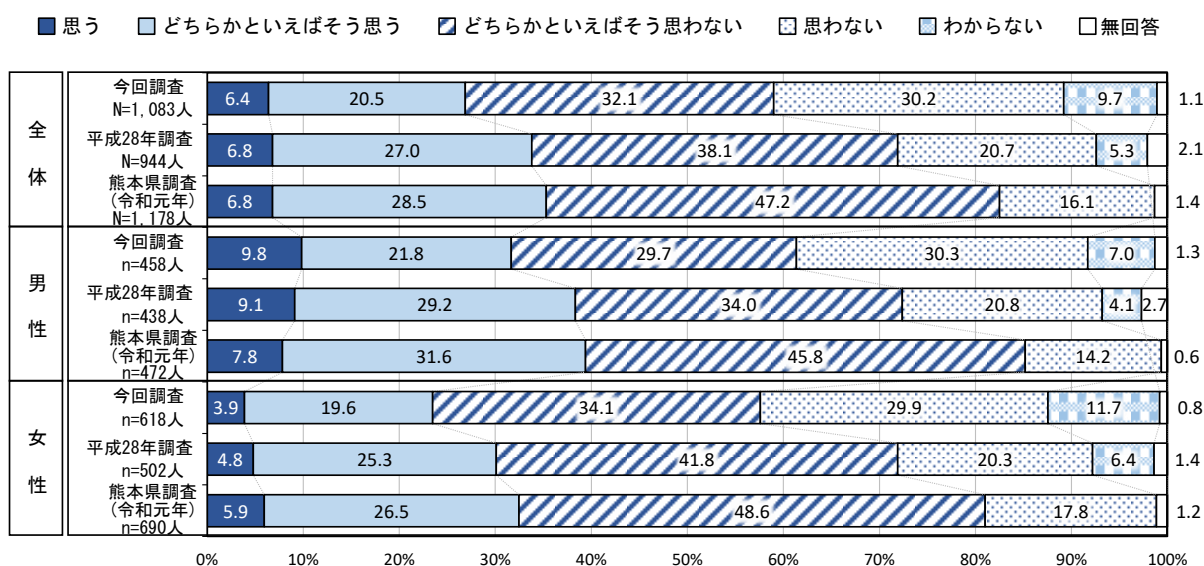
全体では、『そう思わない』と感じている人の割合が62.3%、『そう思う』が26.9%となっている。

性別で見ると、女性の方が『そう思わない』と感じている人の割合が高い。

前回調査との比較では、『そう思わない』と感じている人の割合が高くなっている。

※『そう思う(又はそう思わない)』=「思う(又は思わない)」+「どちらかといえばそう思う(又はどちらかといえばそう思わない)」

【性別にかかわりない機会の確保/性別】(前回・県調査比較)



全体：『そう思う』 26.9% (前回比 -6.9ポイント)
 :『そう思わない』 62.3% (前回比 +3.5ポイント)
 男性：『そう思う』 31.6% (前回比 -6.7ポイント)
 :『そう思わない』 60.0% (前回比 +5.2ポイント)
 女性：『そう思う』 23.5% (前回比 -6.6ポイント)
 :『そう思わない』 64.0% (前回比 +1.9ポイント)

【性別にかかわらず機会確保/性・年齢別】

(%)

		回答数	思う	どちらか そう思う といえ	どちらか そう思わ ないとい え	思わ ない	わ か ら な い	無 回 答
全体		1,083	6.4	20.5	32.1	30.2	9.7	1.1
男性		458	9.8	21.8	29.7	30.3	7.0	1.3
女性		618	3.9	19.6	34.1	29.9	11.7	0.8
男 性	20歳代	41	14.6	17.1	17.1	34.1	17.1	0.0
	30歳代	60	5.0	25.0	33.3	33.3	1.7	1.7
	40歳代	70	2.9	18.6	31.4	40.0	7.1	0.0
	50歳代	84	11.9	19.0	35.7	27.4	6.0	0.0
	60歳代	130	10.8	25.4	29.2	25.4	7.7	1.5
	70歳代	73	13.7	21.9	26.0	28.8	5.5	4.1
女 性	20歳代	50	6.0	24.0	34.0	16.0	20.0	0.0
	30歳代	84	3.6	20.2	27.4	35.7	13.1	0.0
	40歳代	103	1.0	24.3	35.9	32.0	5.8	1.0
	50歳代	123	5.7	16.3	38.2	27.6	10.6	1.6
	60歳代	169	4.1	16.6	37.3	32.0	10.1	0.0
	70歳代	89	3.4	21.3	27.0	29.2	16.9	2.2

(6) 子どもの育て方

問6 あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。子どものいない方は、一般的にどう思われるかお答えください。(①～③の項目それぞれ1つに○)

① 性別にかかわらず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要

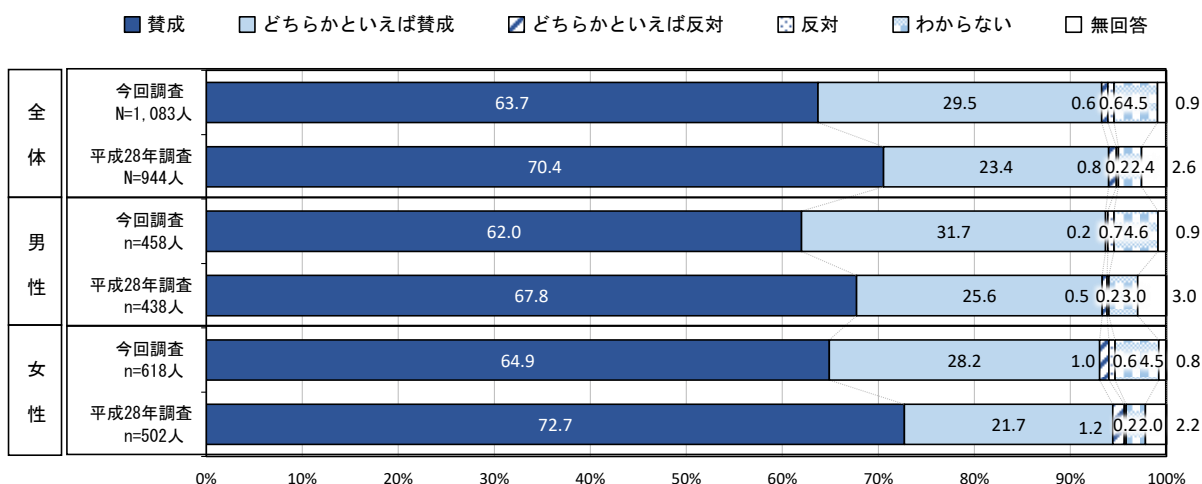
全体では、『賛成派』が 93.2%と高く、『反対派』の回答は 1.2%と非常に低くなっている。

性別にみると、男女ともに9割以上の方が『賛成派』となっている。

前回調査との比較では、「賛成」と感じている人の割合が低下している。

※『賛成派 (又は反対派)』 = 「賛成 (又は反対)」 + 「どちらかといえば賛成 (又はどちらかといえば反対)」
(以下、特に断りのない限り同様とする)

【① 経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要/ 性別】(前回調査比較)



全体：『賛成派』 93.2% (前回比 -0.6 ポイント)
 :『反対派』 1.2% (前回比 +0.2 ポイント)
 男性：『賛成派』 93.7% (前回比 +0.3 ポイント)
 :『反対派』 0.9% (前回比 +0.2 ポイント)
 女性：『賛成派』 93.1% (前回比 -1.3 ポイント)
 :『反対派』 1.6% (前回比 +0.2 ポイント)

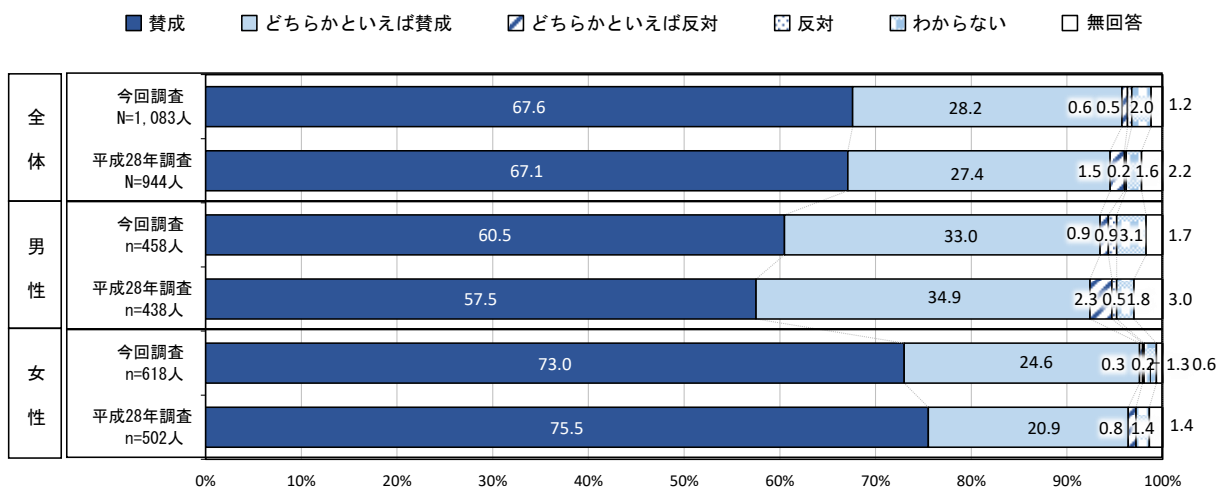
② 性別にかかわらず、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

全体では、『賛成派』が 95.8%と高く、『反対派』の回答は 1.1%と非常に低くなっている。

性別にみると、女性の方が『賛成派』の割合が高い。また、『反対派』の割合は、男性の方が女性の約 4 倍高い割合となっている。

前回調査との比較では、男女ともに『賛成派』の割合が高くなっている。

【② 炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい/ 性別】（前回調査比較）



全体：『賛成派』 95.8%（前回比 +1.3 ポイント）
 ：『反対派』 1.1%（前回比 -0.6 ポイント）
 男性：『賛成派』 93.5%（前回比 +1.1 ポイント）
 ：『反対派』 1.8%（前回比 -1.0 ポイント）
 女性：『賛成派』 97.6%（前回比 +1.2 ポイント）
 ：『反対派』 0.5%（前回比 -0.3 ポイント）

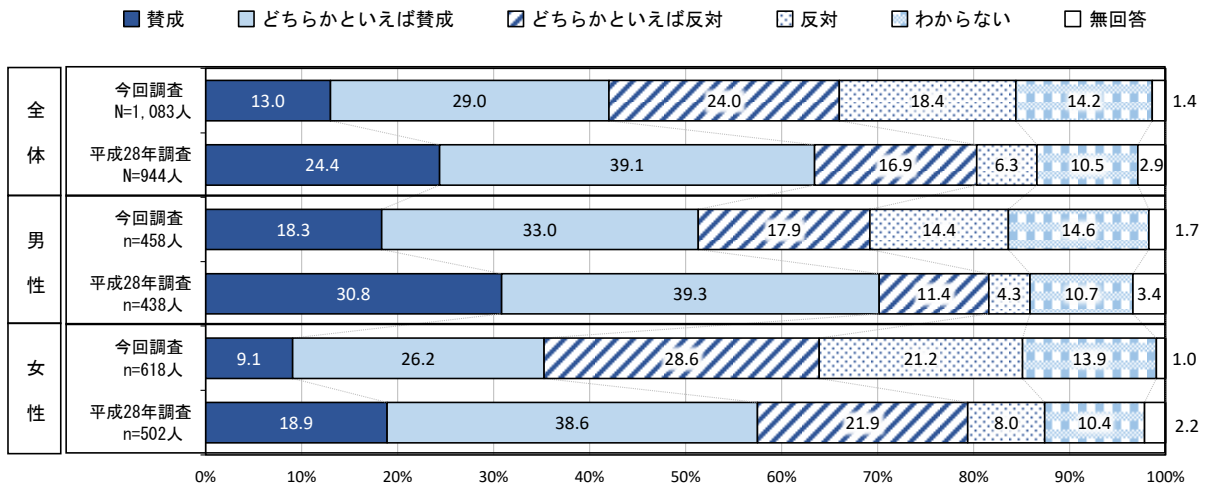
③ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

全体では、『賛成派』(42.0%)と、『反対派』(42.4%)が拮抗している。

性別にみると、女性に比べ男性の方が『賛成派』と回答している人の割合が高く、『反対派』と回答している割合は女性の方が高い。

前回調査との比較では、男女ともに『賛成派』の割合が大きく低下している。

【③ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい/ 性別】(前回調査比較)



全体：『賛成派』42.0% (前回比 -21.5ポイント)
 :『反対派』42.4% (前回比 +19.2ポイント)
 男性：『賛成派』51.3% (前回比 -18.8ポイント)
 :『反対派』32.3% (前回比 +16.6ポイント)
 女性：『賛成派』35.3% (前回比 -22.2ポイント)
 :『反対派』49.8% (前回比 +19.9ポイント)

【子どもの育て方/性・年齢別】

(%)

	回答数	① 経済的に自立できるような教育が必要だ						② 炊事・掃除・洗濯などの技術を身につけさせる						
		賛成	賛成どちらかといえば	反対どちらかといえば	反対	わからない	無回答	賛成	賛成どちらかといえば	反対どちらかといえば	反対	わからない	無回答	
全体	1,083	63.7	29.5	0.6	0.6	4.5	0.9	67.6	28.2	0.6	0.5	2.0	1.2	
男性	458	62.0	31.7	0.2	0.7	4.6	0.9	60.5	33.0	0.9	0.9	3.1	1.7	
女性	618	64.9	28.2	1.0	0.6	4.5	0.8	73.0	24.6	0.3	0.2	1.3	0.6	
男性	20歳代	41	58.5	31.7	0.0	0.0	9.8	0.0	70.7	22.0	0.0	0.0	7.3	0.0
	30歳代	60	56.7	38.3	0.0	0.0	3.3	1.7	65.0	25.0	0.0	1.7	5.0	3.3
	40歳代	70	48.6	47.1	0.0	1.4	2.9	0.0	61.4	32.9	1.4	1.4	2.9	0.0
	50歳代	84	64.3	27.4	0.0	1.2	6.0	1.2	69.0	27.4	0.0	0.0	2.4	1.2
	60歳代	130	67.7	27.7	0.8	0.8	2.3	0.8	53.8	42.3	0.8	0.8	0.8	1.5
	70歳代	73	68.5	23.3	0.0	0.0	6.8	1.4	52.1	35.6	2.7	1.4	4.1	4.1
女性	20歳代	50	64.0	28.0	2.0	0.0	6.0	0.0	74.0	26.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	84	59.5	29.8	0.0	1.2	8.3	1.2	72.6	22.6	1.2	0.0	2.4	1.2
	40歳代	103	67.0	29.1	1.9	0.0	1.0	1.0	77.7	21.4	0.0	0.0	1.0	0.0
	50歳代	123	61.0	31.7	0.0	1.6	5.7	0.0	71.5	26.8	0.0	0.0	1.6	0.0
	60歳代	169	69.2	25.4	1.8	0.6	1.8	1.2	75.7	21.3	0.0	0.6	1.8	0.6
	70歳代	89	65.2	25.8	0.0	0.0	7.9	1.1	64.0	32.6	1.1	0.0	0.0	2.2

	回答数	③ 男の子らしく、女の子らしく育てる (%)						
		賛成	賛成どちらかといえば	反対どちらかといえば	反対	わからない	無回答	
全体	1,083	13.0	29.0	24.0	18.4	14.2	1.4	
男性	458	18.3	33.0	17.9	14.4	14.6	1.7	
女性	618	9.1	26.2	28.6	21.2	13.9	1.0	
男性	20歳代	41	9.8	19.5	19.5	19.5	31.7	0.0
	30歳代	60	13.3	25.0	16.7	26.7	15.0	3.3
	40歳代	70	12.9	25.7	20.0	25.7	15.7	0.0
	50歳代	84	16.7	35.7	19.0	10.7	15.5	2.4
	60歳代	130	18.5	40.0	19.2	7.7	13.1	1.5
	70歳代	73	34.2	38.4	12.3	6.8	5.5	2.7
女性	20歳代	50	8.0	16.0	22.0	38.0	16.0	0.0
	30歳代	84	7.1	19.0	23.8	32.1	15.5	2.4
	40歳代	103	6.8	28.2	34.0	18.4	11.7	1.0
	50歳代	123	6.5	25.2	37.4	15.4	15.4	0.0
	60歳代	169	10.1	26.6	28.4	20.1	14.2	0.6
	70歳代	89	15.7	37.1	19.1	14.6	11.2	2.2

(7) 子どもの進学目標

問7 あなたは、学力や家計の事情などの条件が整っていると仮定した場合、子どもの進学目標をどの程度におくのが望ましいと考えますか。(①～②の項目それぞれ1つに○)

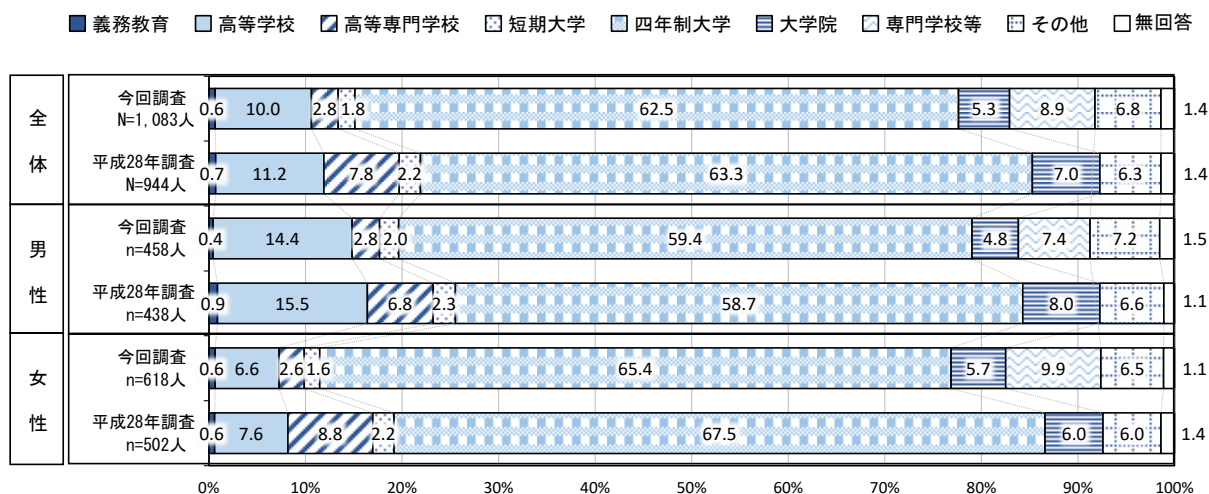
① 男の子の場合

全体では、「四年制大学」が最も高く 62.5%で、次に「高等学校」が 10.0%、以下、「専門学校等」(8.9%)、「その他」(6.8%)と続く。

性別で見ると、女性は、「四年制大学」が 65.4%で、次に「専門学校等」が 9.9%、以下、「高等学校」(6.6%)、「その他」(6.5%)と続く。男性は、「四年制大学」が 59.4%、次に「高等学校」が 14.4%、以下、「専門学校等」(7.4%)、「その他」(7.2%)と続いた。

前回調査では、「専門学校等」の選択肢を設定していなかったため、今回調査では、「高等専門学校」の割合が低下している傾向がうかがえる。

【① 男の子の場合/ 性別】(前回調査比較)



《上位回答》

	今回	前回		
全体	○ 四年制大学	62.5%	○ 四年制大学	63.3%
	○ 高等学校	10.0%	○ 高等学校	11.2%
	○ 専門学校等	8.9%	○ 高等専門学校	7.8%
男性	○ 四年制大学	59.4%	○ 四年制大学	58.7%
	○ 高等学校	14.4%	○ 高等学校	15.5%
	○ 専門学校等	7.4%	○ 大学院	8.0%
女性	○ 四年制大学	65.4%	○ 四年制大学	67.5%
	○ 専門学校等	9.9%	○ 高等専門学校	8.8%
	○ 高等学校	6.6%	○ 高等学校	7.6%

② 女の子の場合

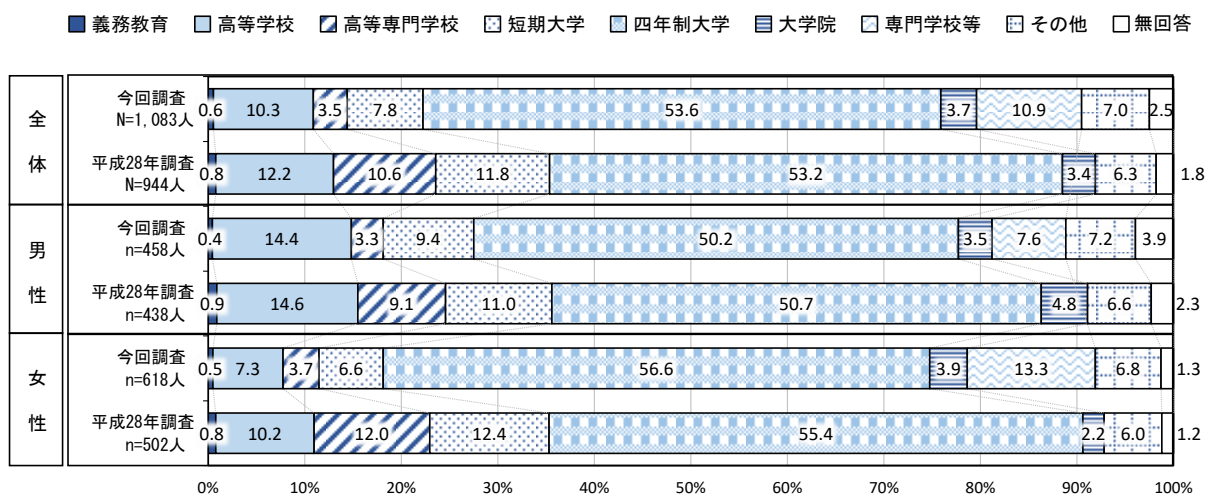
全体では、「四年制大学」が最も高く 53.6%で、次に「専門学校等」が 10.9%、以下、「高等学校」(10.3%)、「短期大学」(7.8%)と続く。

性別で見ると、女性は、「四年制大学」が 56.6%で、次に「専門学校等」が 13.3%、以下、「高等学校」(7.3%)、「その他」(6.8%)と続く。男性は、「四年制大学」が 50.2%、次に「高等学校」が 14.4%、以下、「短期大学」(9.4%)、「専門学校等」(7.6%)と続いた。

前回調査では、「専門学校等」の選択肢を設定していなかったため、今回調査では、「高等専門学校」の割合が低下している傾向がうかがえる。

男の子の場合と比べると、短期大学と回答した人の割合が高くなっている。

【② 女の子の場合/ 性別】(前回調査比較)



《上位回答》

	今回	前回		
全体	○ 四年制大学	53.6%	○ 四年制大学	53.2%
	○ 専門学校等	10.9%	○ 高等学校	12.2%
	○ 高等学校	10.3%	○ 短期大学	11.8%
男性	○ 四年制大学	50.2%	○ 四年制大学	50.7%
	○ 高等学校	14.4%	○ 高等学校	14.6%
	○ 短期大学	9.4%	○ 短期大学	11.0%
女性	○ 四年制大学	56.6%	○ 四年制大学	55.4%
	○ 専門学校等	13.3%	○ 短期大学	12.4%
	○ 高等学校	7.3%	○ 高等専門学校	12.0%

【子どもの進学目標 /性・年齢別】

(%)

	回答数	①男子の場合									
		義務教育	高等学校	高等専門学校	短期大学	四年制大学	大学院	専門学校等	その他	無回答	
全体	1,083	0.6	10.0	2.8	1.8	62.5	5.3	8.9	6.8	1.4	
男性	458	0.4	14.4	2.8	2.0	59.4	4.8	7.4	7.2	1.5	
女性	618	0.6	6.6	2.6	1.6	65.4	5.7	9.9	6.5	1.1	
男性	20歳代	41	0.0	31.7	0.0	7.3	41.5	9.8	2.4	4.9	2.4
	30歳代	60	0.0	11.7	3.3	3.3	65.0	1.7	1.7	8.3	5.0
	40歳代	70	0.0	17.1	2.9	0.0	55.7	2.9	10.0	10.0	1.4
	50歳代	84	2.4	15.5	0.0	1.2	56.0	6.0	7.1	11.9	0.0
	60歳代	130	0.0	11.5	4.6	2.3	63.1	3.8	7.7	6.2	0.8
	70歳代	73	0.0	8.2	4.1	0.0	65.8	6.8	12.3	1.4	1.4
女性	20歳代	50	0.0	16.0	0.0	2.0	74.0	2.0	4.0	2.0	0.0
	30歳代	84	1.2	14.3	3.6	3.6	54.8	3.6	7.1	10.7	1.2
	40歳代	103	0.0	6.8	1.0	0.0	72.8	6.8	7.8	2.9	1.9
	50歳代	123	0.0	2.4	1.6	1.6	65.0	6.5	12.2	10.6	0.0
	60歳代	169	1.8	4.7	2.4	0.0	63.9	7.1	13.0	5.9	1.2
	70歳代	89	0.0	3.4	6.7	4.5	65.2	4.5	9.0	4.5	2.2

	回答数	②女子の場合									
		義務教育	高等学校	高等専門学校	短期大学	四年制大学	大学院	専門学校等	その他	無回答	
全体	1,083	0.6	10.3	3.5	7.8	53.6	3.7	10.9	7.0	2.5	
男性	458	0.4	14.4	3.3	9.4	50.2	3.5	7.6	7.2	3.9	
女性	618	0.5	7.3	3.7	6.6	56.6	3.9	13.3	6.8	1.3	
男性	20歳代	41	0.0	29.3	2.4	4.9	41.5	9.8	2.4	4.9	4.9
	30歳代	60	1.7	11.7	3.3	11.7	48.3	1.7	5.0	8.3	8.3
	40歳代	70	0.0	18.6	2.9	8.6	50.0	4.3	4.3	10.0	1.4
	50歳代	84	1.2	15.5	2.4	7.1	47.6	4.8	7.1	11.9	2.4
	60歳代	130	0.0	11.5	4.6	9.2	53.8	1.5	10.8	6.2	2.3
	70歳代	73	0.0	8.2	2.7	13.7	53.4	2.7	11.0	1.4	6.8
女性	20歳代	50	0.0	16.0	0.0	8.0	68.0	2.0	4.0	2.0	0.0
	30歳代	84	1.2	13.1	4.8	7.1	50.0	2.4	8.3	11.9	1.2
	40歳代	103	0.0	7.8	0.0	3.9	67.0	4.9	12.6	2.9	1.0
	50歳代	123	0.0	3.3	1.6	6.5	63.4	4.1	10.6	10.6	0.0
	60歳代	169	1.2	5.3	5.3	6.5	51.5	5.3	17.8	5.9	1.2
	70歳代	89	0.0	5.6	9.0	9.0	44.9	2.2	19.1	5.6	4.5

3. 家庭生活の役割分担について

(1) 家庭内の役割分担

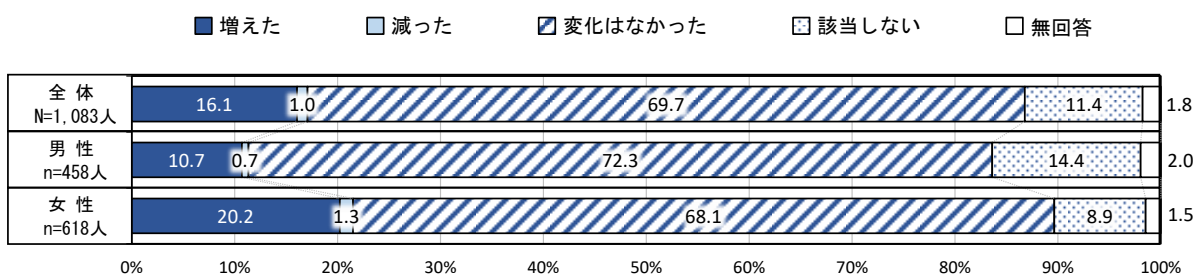
問8 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、家事や育児、介護の分担に変化はありましたか。(①~③の項目それぞれ1つに○)

① 家事

全体では、「変化はなかった」が69.7%を占めており、全体の7割の人が変化はなかったと回答している。また、「増えた」と感じている人は16.1%、「減った」と感じている人は1.0%となっている。

性別で見ると、女性に比べ男性の方が「変化はなかった」と回答している人の割合が高く、「増えた」と回答している割合は女性の方が約2倍高くなっている。

【① 家事/ 性別】



【家事/性・年齢別】

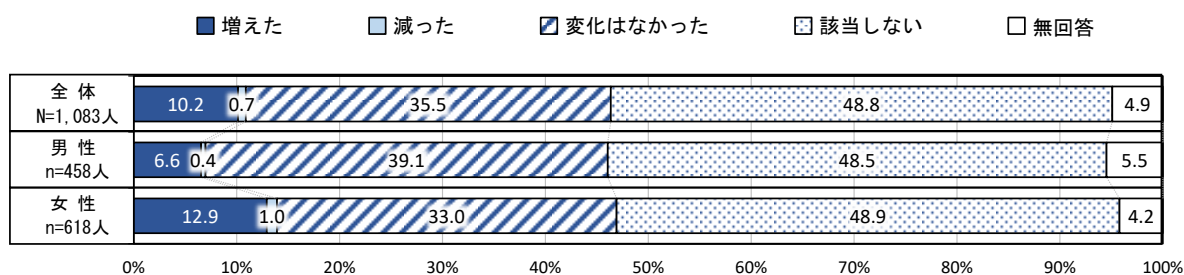
		回答数	増えた (%)	減った (%)	変化はなかった (%)	該当しない (%)	無回答 (%)
全体		1,083	16.1	1.0	69.7	11.4	1.8
男性		458	10.7	0.7	72.3	14.4	2.0
女性		618	20.2	1.3	68.1	8.9	1.5
男性	20歳代	41	7.3	0.0	65.9	26.8	0.0
	30歳代	60	15.0	1.7	70.0	10.0	3.3
	40歳代	70	15.7	0.0	70.0	12.9	1.4
	50歳代	84	10.7	2.4	75.0	11.9	0.0
	60歳代	130	8.5	0.0	75.4	13.8	2.3
	70歳代	73	8.2	0.0	71.2	16.4	4.1
女性	20歳代	50	12.0	2.0	62.0	24.0	0.0
	30歳代	84	28.6	0.0	63.1	8.3	0.0
	40歳代	103	34.0	1.9	56.3	5.8	1.9
	50歳代	123	20.3	0.8	70.7	7.3	0.8
	60歳代	169	12.4	2.4	74.6	8.9	1.8
	70歳代	89	15.7	0.0	74.2	6.7	3.4

② 育児

「該当しない」と「無回答」を除く育児を行う者では、「変化はなかった」(35.5%)が最も高く、次に「増えた」(10.2%)、「減った」(0.7%)と続いた。

性別で見ると、女性に比べ男性の方が「変化はなかった」と回答している人の割合が高く、「増えた」と回答している割合は女性の方が約2倍高くなっている。

【② 育児/ 性別】



【育児/性・年齢別】

(%)

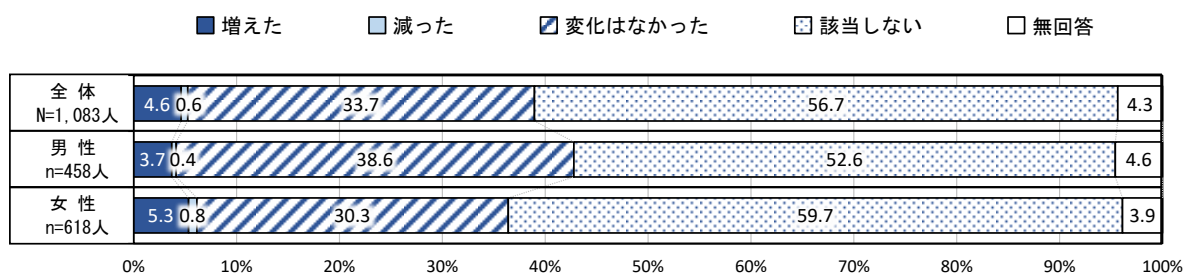
		回答数	増えた	減った	変化はなかった	該当しない	無回答
全体		1,083	10.2	0.7	35.5	48.8	4.9
男性		458	6.6	0.4	39.1	48.5	5.5
女性		618	12.9	1.0	33.0	48.9	4.2
男性	20歳代	41	2.4	0.0	29.3	65.9	2.4
	30歳代	60	23.3	0.0	43.3	26.7	6.7
	40歳代	70	7.1	1.4	55.7	32.9	2.9
	50歳代	84	4.8	1.2	48.8	44.0	1.2
	60歳代	130	3.8	0.0	30.0	59.2	6.9
	70歳代	73	1.4	0.0	30.1	57.5	11.0
女性	20歳代	50	8.0	0.0	26.0	66.0	0.0
	30歳代	84	28.6	0.0	40.5	29.8	1.2
	40歳代	103	26.2	1.9	38.8	30.1	2.9
	50歳代	123	7.3	0.8	39.8	48.8	3.3
	60歳代	169	7.1	1.8	30.8	54.4	5.9
	70歳代	89	4.5	0.0	18.0	68.5	9.0

③ 介護

「該当しない」と「無回答」を除く介護を行う者では、「変化はなかった」(33.7%)が最も高く、次に「増えた」(4.6%)、「減った」(0.6%)と続いた。

性別で見ると、女性に比べ男性の方が「変化はなかった」と回答している人の割合が高く、「増えた」と回答している割合は女性の方が高くなっている。

【③ 介護/ 性別】



【介護/性・年齢別】

		回答数	増えた	減った	変化はなかった	該当しない	無回答
全体		1,083	4.6	0.6	33.7	56.7	4.3
男性		458	3.7	0.4	38.6	52.6	4.6
女性		618	5.3	0.8	30.3	59.7	3.9
男性	20歳代	41	2.4	0.0	34.1	61.0	2.4
	30歳代	60	0.0	0.0	31.7	60.0	8.3
	40歳代	70	0.0	0.0	41.4	55.7	2.9
	50歳代	84	7.1	1.2	48.8	41.7	1.2
	60歳代	130	5.4	0.8	37.7	53.1	3.1
	70歳代	73	4.1	0.0	34.2	50.7	11.0
女性	20歳代	50	2.0	0.0	28.0	70.0	0.0
	30歳代	84	1.2	2.4	27.4	67.9	1.2
	40歳代	103	5.8	1.0	24.3	67.0	1.9
	50歳代	123	8.9	0.8	35.0	52.0	3.3
	60歳代	169	5.9	0.6	39.6	48.5	5.3
	70歳代	89	4.5	0.0	16.9	69.7	9.0

4. 仕事と家庭・地域生活の両立について

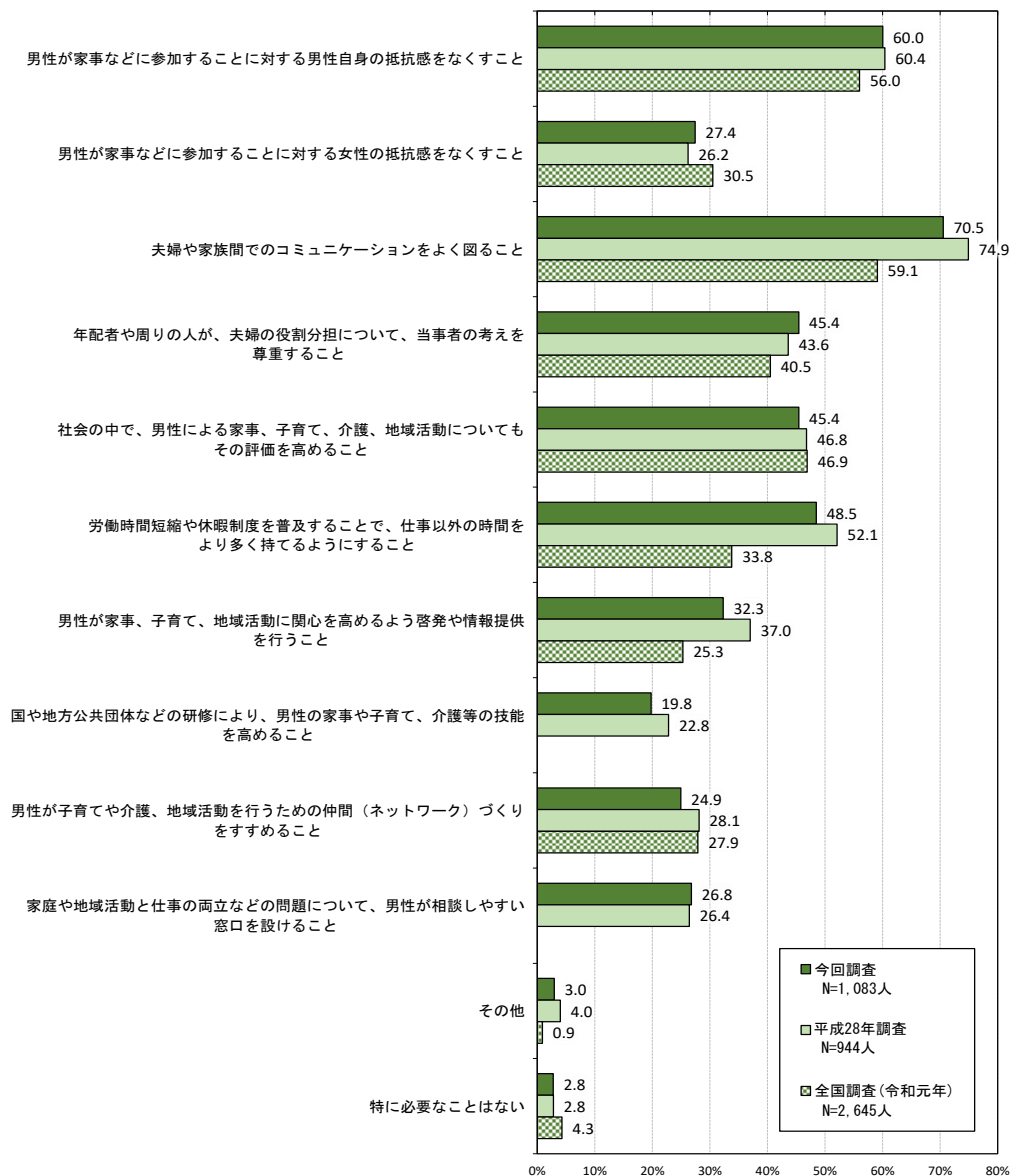
(1) 男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加

問9 男性が女性とともに家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(70.5%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(60.0%)の割合が特に高くなっている。

前回調査との比較では、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」、「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担について、当事者の考えを尊重すること」、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」についての割合が高くなっている。

【男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要なこと】(前回・全国調査比較)



《上位回答》

今回	○ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	70.5%
	○ 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	60.0%
	○ 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	48.5%
前回	○ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	74.9%
	○ 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	60.4%
	○ 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	52.1%

【男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要なこと/性別】（前回・全国調査比較）

		回答数	対する男性自身への参加をなくすこと	対する女性の参加をなくすこと	シヨンや家族間でのコミュニケーション	重なること	分年配者や周りの人が、夫婦の役割を尊重すること	その中で、介護、地域活動による家事、子育ての価値を高めること	多く持てるようにすること	(%)	
全体	今回調査	1,083	60.0	27.4	70.5	45.4	45.4	48.5	48.5		
	平成28年調査	944	60.4	26.2	74.9	43.6	46.8	52.1	52.1		
	全国調査	2,645	56.0	30.5	59.1	40.5	46.9	33.8	33.8		
性別	男性	今回調査	458	54.1	26.4	70.1	37.8	39.5	49.3	49.3	
		平成28年調査	438	55.5	24.0	72.6	33.6	40.6	51.6	51.6	
		全国調査	1,238	52.1	27.9	54.8	35.1	46.9	34.3	34.3	
	女性	今回調査	618	64.6	28.2	71.2	51.3	49.7	48.1	48.1	
		平成28年調査	502	64.7	28.1	76.9	52.6	52.4	52.6	52.6	
		全国調査	1,407	59.4	32.8	62.8	45.3	46.9	33.3	33.3	
		回答数	男性が家事、子育て、地域活動に関心が高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方公共団体などの研修による技能向上	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）をつくること	家庭や地域活動と仕事の両立などに関する課題を設けて、男性が相談しやすい環境を整えること	その他	特に必要なことはない			
全体	今回調査	1,083	32.3	19.8	24.9	26.8	3.0	2.8	2.8		
	平成28年調査	944	37.0	22.8	28.1	26.4	4.0	2.8	2.8		
	全国調査	2,645	25.3	27.9	27.9	0.9	4.3	4.3	4.3		
性別	男性	今回調査	458	26.9	19.4	20.5	23.4	3.3	4.4	4.4	
		平成28年調査	438	31.1	20.1	24.9	24.2	4.6	3.4	3.4	
		全国調査	1,238	25.5	25.7	25.7	1.1	4.7	4.7	4.7	
	女性	今回調査	618	36.6	20.1	28.3	29.4	2.8	1.6	1.6	
		平成28年調査	502	42.2	25.1	30.9	28.5	3.6	2.2	2.2	
		全国調査	1,407	25.2	29.9	29.9	0.7	3.9	3.9	3.9	

5. 女性が職業を持つことについて

(1) 女性が職業を持つことについて

問10 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。
(○は1つ)

全体では、『職業を持ち続ける』と回答した人の割合が52.6%と最も高く、『一度やめて再び就職』が29.8%となっており、この2つの回答が全体の8割を上回っている。

性別で見ると、男性に比べ女性の方が『職業を持ち続ける』と回答した割合が高く、『一度やめて再び就職』と「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」は男性の方が高くなっている。

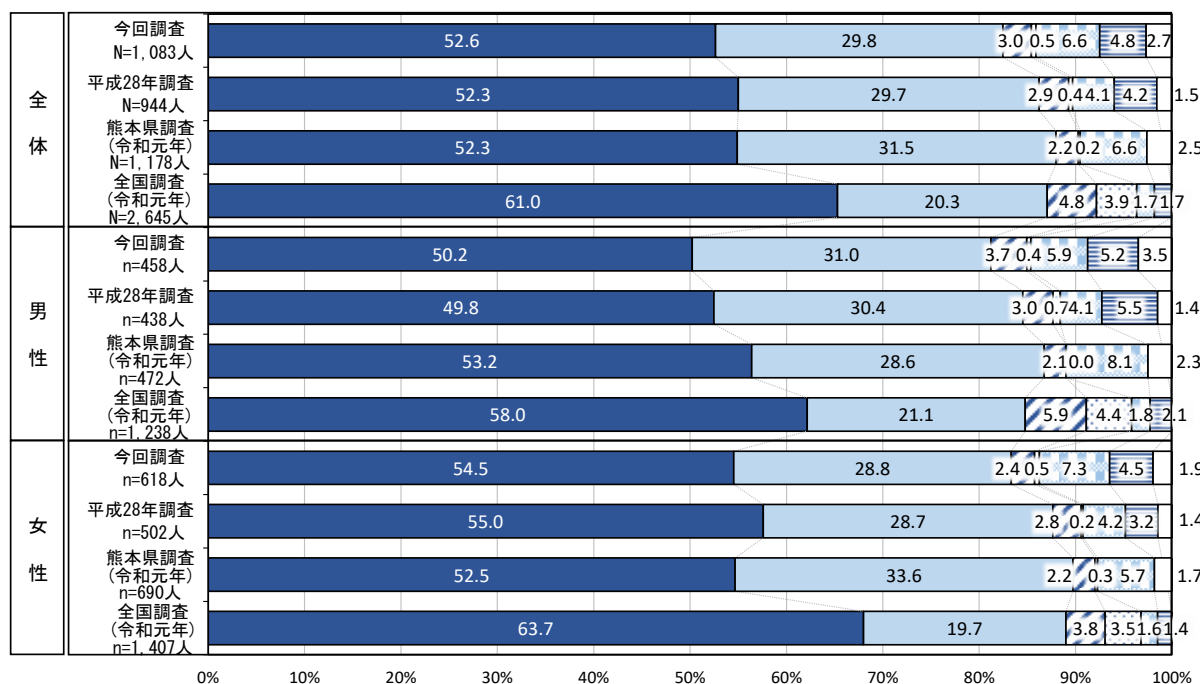
前回調査では、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」の選択肢を設定していたため厳密に比較はできないが、ほぼ同様の構成となっている。

※『職業を持ち続ける』 = 「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」

『一度やめて再び就職』 = 「子どもができたなら職業を持たず、仕事に就くことが可能になったら再び職業を持つ方がよい」

【女性が職業を持つことについて / 性別】(前回・県・全国調査比較)

- 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
- 子どもができたなら職業を持たず、仕事に就くことが可能になったら再び職業を持つ方がよい
- 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



《上位回答》

		今回		前回	
全体	○ 職業を持ち続ける	52.6%	○ 職業を持ち続ける	52.3%	
	○ 一度やめて再び就職	29.8%	○ 一度やめて再び就職	29.7%	
	○ その他	6.6%	○ その他	4.1%	
男性	○ 職業を持ち続ける	50.2%	○ 職業を持ち続ける	49.8%	
	○ 一度やめて再び就職	31.0%	○ 一度やめて再び就職	30.4%	
	○ その他	5.9%	○ わからない	5.5%	
女性	○ 職業を持ち続ける	54.5%	○ 職業を持ち続ける	55.0%	
	○ 一度やめて再び就職	28.8%	○ 一度やめて再び就職	28.7%	
	○ その他	7.3%	○ その他	4.2%	

		県		全国	
全体	○ 職業を持ち続ける	52.3%	○ 職業を持ち続ける	61.0%	
	○ 一度やめて再び就職	31.5%	○ 一度やめて再び就職	20.3%	
	○ その他	6.6%	○ 結婚するまでは、職業を持つ	4.8%	
男性	○ 職業を持ち続ける	53.2%	○ 職業を持ち続ける	58.0%	
	○ 一度やめて再び就職	28.6%	○ 一度やめて再び就職	21.1%	
	○ その他	8.1%	○ 結婚するまでは、職業を持つ	5.9%	
女性	○ 職業を持ち続ける	52.5%	○ 職業を持ち続ける	63.7%	
	○ 一度やめて再び就職	33.6%	○ 一度やめて再び就職	19.7%	
	○ その他	5.7%	○ 結婚するまでは、職業を持つ	3.8%	

【女性が職業を持つことについて、どのように考えますか/性・年齢別】

		(%)							
	回答数	子どもが 持ち続ける 方がよい	子どもが 再び就職を 持つ方が よい	子どもが 仕事に就く ことが可能 になったら	結婚する までは、 職業を持つ 方がよい	女性は 職業を持た ない方が よい	その他	わからない	無回答
		全体	1,083	52.6	29.8	3.0	0.5	6.6	4.8
男性	458	50.2	31.0	3.7	0.4	5.9	5.2	3.5	
女性	618	54.5	28.8	2.4	0.5	7.3	4.5	1.9	
男性	20歳代	41	39.0	31.7	4.9	0.0	9.8	9.8	4.9
	30歳代	60	41.7	26.7	5.0	1.7	16.7	6.7	1.7
	40歳代	70	62.9	20.0	2.9	0.0	4.3	8.6	1.4
	50歳代	84	58.3	22.6	2.4	0.0	7.1	6.0	3.6
	60歳代	130	50.8	41.5	2.3	0.0	1.5	2.3	1.5
	70歳代	73	41.1	35.6	6.8	1.4	2.7	2.7	9.6
女性	20歳代	50	54.0	30.0	2.0	0.0	12.0	2.0	0.0
	30歳代	84	57.1	23.8	2.4	1.2	9.5	6.0	0.0
	40歳代	103	53.4	20.4	1.9	1.0	13.6	6.8	2.9
	50歳代	123	59.3	31.7	0.8	0.0	3.3	3.3	1.6
	60歳代	169	56.2	29.0	2.4	0.0	7.1	3.0	2.4
	70歳代	89	43.8	38.2	5.6	1.1	1.1	6.7	3.4

(2) 女性が職業を持ち続けられない理由

問 11 一般的に、働きたい女性が職業を持ち続けられない理由について、あなたはどのように考えますか。(〇は1つ)

全体では、『制度が不十分』が最も高く 28.5%、次に『職場の雰囲気』が 20.8%、以下、『無回答』(13.2%)、『不利な慣習』(11.6%) と続く。

性別で見ると、ほぼ同様の構成となっている。

前回調査との比較では、『職場の雰囲気』の割合が低く、『不利な慣習』の割合がやや高くなっている。

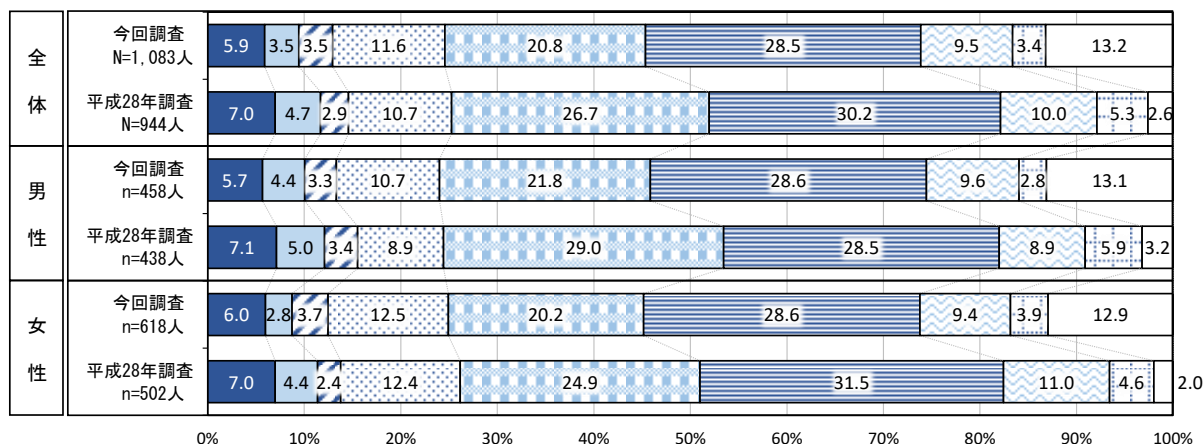
※ 『制度が不十分』 = 「仕事と家庭が両立できる制度が不十分だから」

『職場の雰囲気』 = 「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」

『不利な慣習』 = 「女性が働く上で不利な慣習が多いから」

【女性が職業を持つことについて / 性別】(前回調査比較)

- 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
- 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
- 女性の能力は正當に評価されていないから
- 女性が働く上で不利な慣習が多いから
- 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
- 仕事と家庭が両立できる制度が不十分だから
- 保育や介護などの施設が整っていないから
- その他
- 無回答



《上位回答》

	今回		前回	
全体	○ 制度が不十分	28.5%	○ 制度が不十分	30.2%
	○ 職場の雰囲気	20.8%	○ 職場の雰囲気	26.7%
	○ 不利な慣習	11.6%	○ 不利な慣習	10.7%
男性	○ 制度が不十分	28.6%	○ 職場の雰囲気	29.0%
	○ 職場の雰囲気	21.8%	○ 制度が不十分	28.5%
	○ 不利な慣習	10.7%	○ 不利な慣習	8.9%
			○ 保育や介護などの施設が整っていないから	8.9%
女性	○ 制度が不十分	28.6%	○ 制度が不十分	31.5%
	○ 職場の雰囲気	20.2%	○ 職場の雰囲気	24.9%
	○ 不利な慣習	12.5%	○ 不利な慣習	12.4%

【女性が職業を持ち続けられない理由/性・年齢別】

		(%)									
	回答数	女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから	女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから	女性の能力は正当に評価されていないから	思わない	育児休業などの仕事と家庭が両立できる職場の雰囲気ではないから	仕事と家庭が両立できる制度が不十分だから	保育や介護などの施設が整っていないから	その他	無回答	
全体	1,083	5.9	3.5	3.5	11.6	20.8	28.5	9.5	3.4	13.2	
男性	458	5.7	4.4	3.3	10.7	21.8	28.6	9.6	2.8	13.1	
女性	618	6.0	2.8	3.7	12.5	20.2	28.6	9.4	3.9	12.9	
男性	20歳代	41	4.9	7.3	4.9	9.8	26.8	26.8	4.9	2.4	12.2
	30歳代	60	6.7	1.7	1.7	10.0	20.0	33.3	5.0	6.7	15.0
	40歳代	70	5.7	4.3	5.7	11.4	21.4	18.6	8.6	4.3	20.0
	50歳代	84	3.6	7.1	4.8	10.7	20.2	22.6	13.1	2.4	15.5
	60歳代	130	6.2	3.1	2.3	9.2	21.5	37.7	10.8	0.8	8.5
	70歳代	73	6.8	4.1	1.4	13.7	23.3	26.0	11.0	2.7	11.0
女性	20歳代	50	14.0	6.0	2.0	18.0	10.0	24.0	8.0	4.0	14.0
	30歳代	84	3.6	2.4	3.6	9.5	20.2	29.8	4.8	6.0	20.2
	40歳代	103	5.8	1.0	1.0	16.5	22.3	31.1	3.9	3.9	14.6
	50歳代	123	4.1	2.4	4.9	13.8	23.6	26.8	9.8	4.9	9.8
	60歳代	169	4.1	3.6	4.7	9.5	19.5	30.2	13.6	2.4	12.4
	70歳代	89	10.1	2.2	4.5	11.2	20.2	27.0	12.4	3.4	9.0

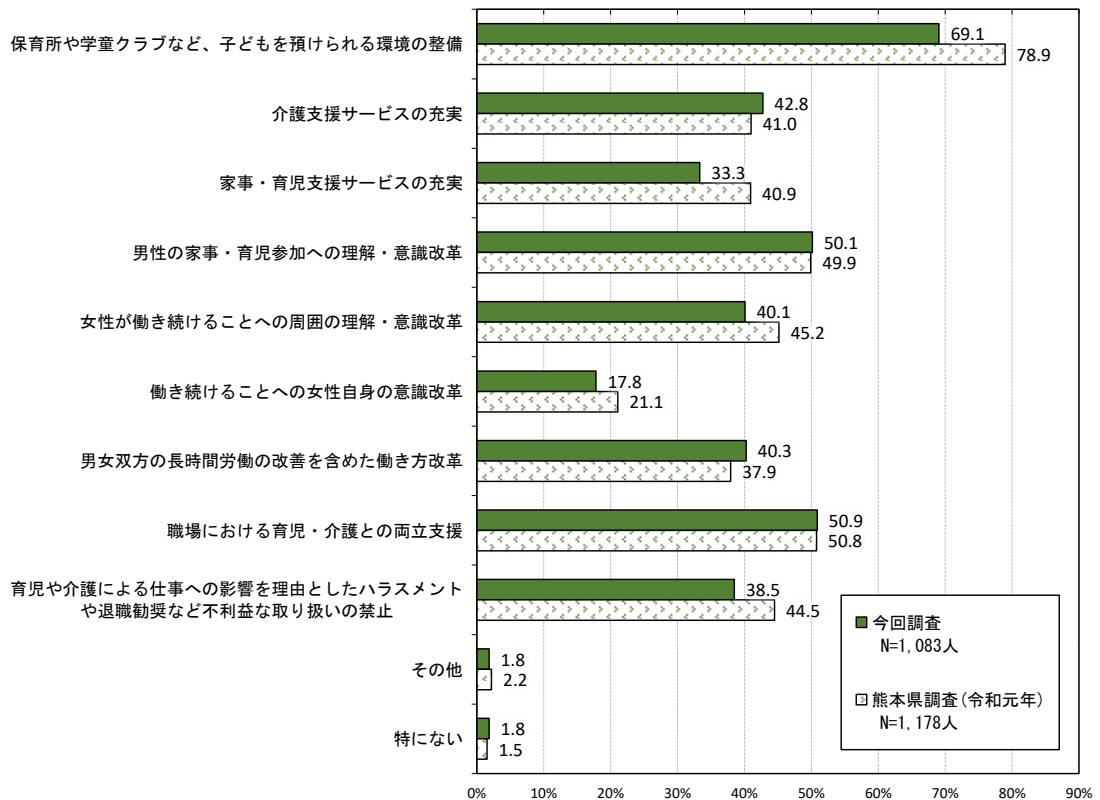
(3) 女性が働き続けるために必要なこと

問 12 あなたは、出産、育児、介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(69.1%)の割合が最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援」(50.9%)、「男性の家事・育児参加への理解・意識改革」(50.1%)、「介護支援サービスの充実」(42.8%)と続いている。

県調査との比較では、「介護支援サービスの充実」、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」の割合がやや高くなっている。

【女性が働き続けるために必要なこと】(県調査比較)



《上位回答》

今回	○ 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	69.1%
	○ 職場における育児・介護との両立支援	50.9%
	○ 男性の家事・育児参加への理解・意識改革	50.1%
県	○ 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	78.9%
	○ 職場における育児・介護との両立支援	50.8%
	○ 男性の家事・育児参加への理解・意識改革	49.9%

【女性が働き続けるために必要なこと/性別】（県調査比較）

(%)

		回答数	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事・育児参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	
全体	今回調査	1,083	69.1	42.8	33.3	50.1	40.1	17.8	
	熊本県調査	1,178	78.9	41.0	40.9	49.9	45.2	21.1	
性別	男性	今回調査	458	67.0	38.6	33.2	43.7	39.5	18.8
		熊本県調査	472	75.6	39.0	43.0	45.6	41.1	20.6
	女性	今回調査	618	70.6	46.1	33.3	55.0	40.5	17.3
		熊本県調査	690	82.3	42.8	40.0	53.9	48.3	21.4
		回答数	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援	育児や介護による仕事への影響などを理由としたハラスメントの禁止	その他	特になし		
全体	今回調査	1,083	40.3	50.9	38.5	1.8	1.8		
	熊本県調査	1,178	37.9	50.8	44.5	2.2	1.5		
性別	男性	今回調査	458	38.0	44.1	36.0	1.3	2.6	
		熊本県調査	472	33.9	47.7	40.3	2.3	1.7	
	女性	今回調査	618	42.4	55.8	40.3	2.3	1.3	
		熊本県調査	690	41.0	53.5	48.1	2.0	1.4	

6. 女性の参画について

(1) 女性がもっと進出した方がよい役職

問 13 あなたは、指導的立場にある次の役職に女性がもっと進出した方がよいと思いますか。(①～⑥の項目それぞれ1つに○)

①から⑥の役職について全体をみると、全ての役職において『進出した方がよい』と回答した人の割合が、『そう思わない』と回答した人の割合よりも高くなっている。

①民生委員 ③教育委員 ⑤市議会議員 ⑥職場の管理職については、8割以上が『進出した方がよい』と回答している。

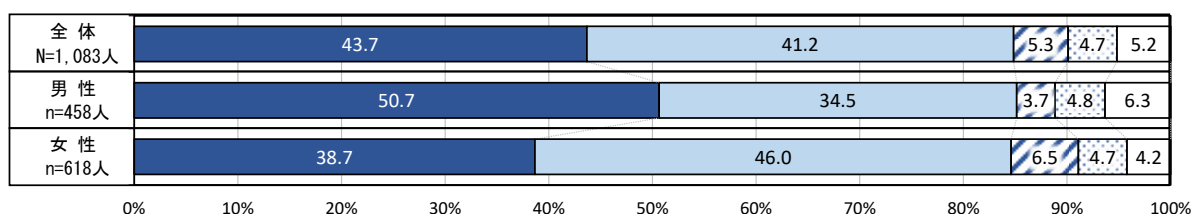
性別でみると、『進出した方がよい』と回答した割合は、①民生委員 ②行政協力委員 ③教育委員 ④PTA 会長・副会長においては男性の方が高く、⑤市議会議員 ⑥職場の管理職においては女性の方が高くなっている。

※『進出した方がよい』 = 「進出した方がよい」 + 「どちらかといえば進出した方がよい」

『そう思わない』 = 「そう思わない」 + 「どちらかといえばそう思わない」

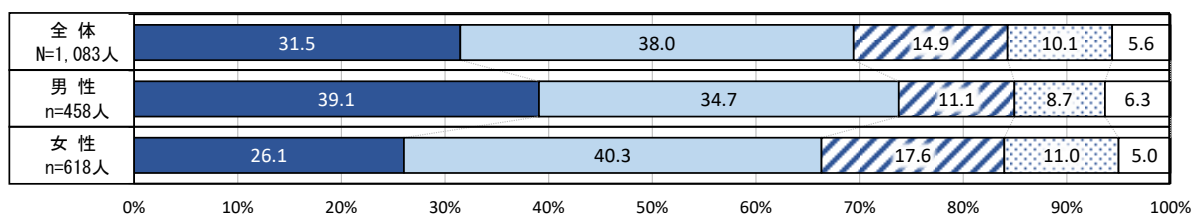
【① 民生委員 / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない □ 無回答



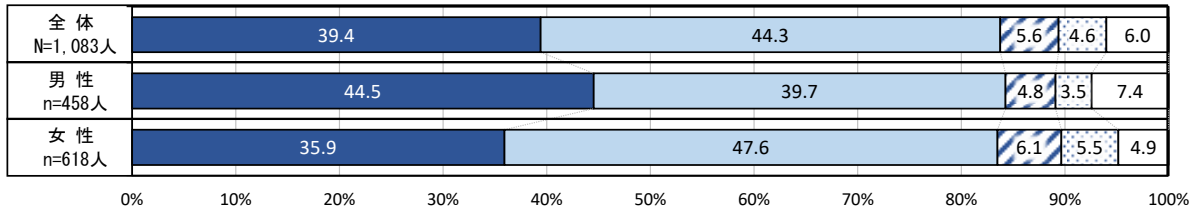
【② 行政協力員（区長） / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない □ 無回答



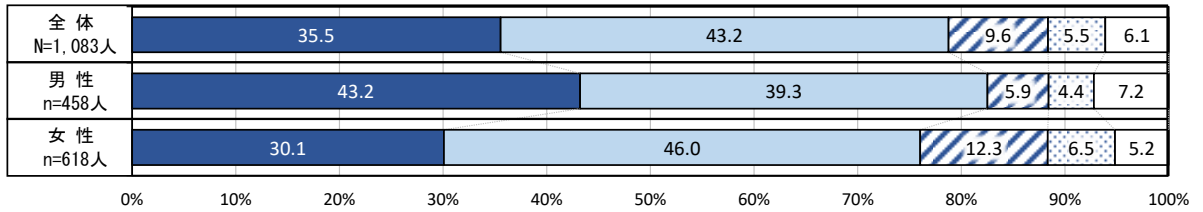
【③ 教育委員 / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



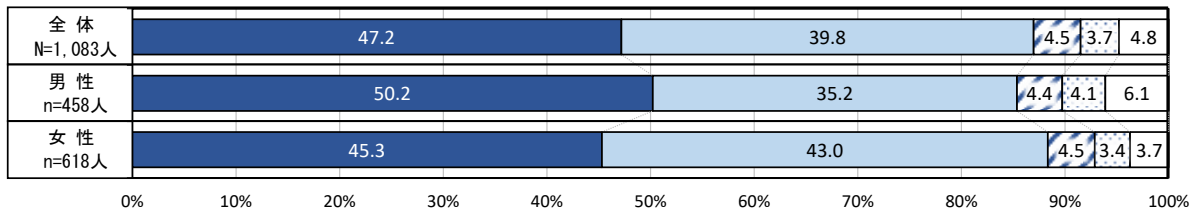
【④ PTA 会長・副会長 / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



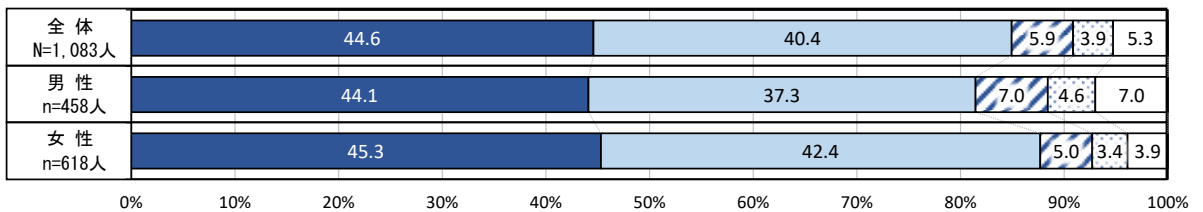
【⑤ 市議会議員 / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



【⑥ 職場の管理職 / 性別】

■ 進出した方がよい □ どちらかといえば進出した方がよい ▨ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答



【女性がもっと進出した方がよい役職 / 性・年齢別】

(%)

	回答数	①民生委員						回答数	②行政協力員(区長)						
		進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答			進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答		
全体	1,083	43.7	41.2	5.3	4.7	5.2	全体	1,083	31.5	38.0	14.9	10.1	5.6		
男性	458	50.7	34.5	3.7	4.8	6.3	男性	458	39.1	34.7	11.1	8.7	6.3		
女性	618	38.7	46.0	6.5	4.7	4.2	女性	618	26.1	40.3	17.6	11.0	5.0		
男性	20歳代	41	31.7	41.5	4.9	12.2	9.8	男性	20歳代	41	31.7	34.1	9.8	14.6	9.8
	30歳代	60	38.3	46.7	5.0	6.7	3.3		30歳代	60	43.3	35.0	13.3	5.0	3.3
	40歳代	70	51.4	35.7	4.3	4.3	4.3		40歳代	70	44.3	32.9	8.6	8.6	5.7
	50歳代	84	57.1	33.3	1.2	2.4	6.0		50歳代	84	40.5	38.1	8.3	7.1	6.0
	60歳代	130	52.3	33.1	3.1	3.8	7.7		60歳代	130	36.9	34.6	13.8	7.7	6.9
	70歳代	73	60.3	23.3	5.5	4.1	6.8		70歳代	73	37.0	32.9	11.0	12.3	6.8
女性	20歳代	50	42.0	40.0	8.0	10.0	0.0	女性	20歳代	50	38.0	38.0	10.0	14.0	0.0
	30歳代	84	36.9	47.6	7.1	4.8	3.6		30歳代	84	33.3	39.3	16.7	6.0	4.8
	40歳代	103	35.9	54.4	5.8	1.9	1.9		40歳代	103	25.2	50.5	15.5	6.8	1.9
	50歳代	123	36.6	47.2	5.7	7.3	3.3		50歳代	123	23.6	37.4	19.5	16.3	3.3
	60歳代	169	39.6	45.0	6.5	2.4	6.5		60歳代	169	23.1	40.8	17.8	10.7	7.7
	70歳代	89	42.7	38.2	6.7	5.6	6.7		70歳代	89	22.5	33.7	22.5	12.4	9.0

	回答数	③教育委員						回答数	④PTA会長・副会長						
		進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答			進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答		
全体	1,083	39.4	44.3	5.6	4.6	6.0	全体	1,083	35.5	43.2	9.6	5.5	6.1		
男性	458	44.5	39.7	4.8	3.5	7.4	男性	458	43.2	39.3	5.9	4.4	7.2		
女性	618	35.9	47.6	6.1	5.5	4.9	女性	618	30.1	46.0	12.3	6.5	5.2		
男性	20歳代	41	39.0	39.0	4.9	7.3	9.8	男性	20歳代	41	36.6	36.6	9.8	7.3	9.8
	30歳代	60	40.0	43.3	8.3	5.0	3.3		30歳代	60	36.7	45.0	10.0	5.0	3.3
	40歳代	70	51.4	31.4	8.6	2.9	5.7		40歳代	70	48.6	35.7	4.3	5.7	5.7
	50歳代	84	46.4	41.7	2.4	2.4	7.1		50歳代	84	48.8	39.3	3.6	2.4	6.0
	60歳代	130	44.6	40.0	3.8	2.3	9.2		60歳代	130	43.1	37.7	5.4	3.8	10.0
	70歳代	73	42.5	42.5	2.7	4.1	8.2		70歳代	73	41.1	42.5	5.5	4.1	6.8
女性	20歳代	50	44.0	38.0	6.0	12.0	0.0	女性	20歳代	50	38.0	38.0	12.0	12.0	0.0
	30歳代	84	42.9	41.7	4.8	6.0	4.8		30歳代	84	33.3	45.2	9.5	6.0	6.0
	40歳代	103	40.8	52.4	3.9	1.0	1.9		40歳代	103	34.0	49.5	10.7	3.9	1.9
	50歳代	123	34.1	51.2	5.7	6.5	2.4		50歳代	123	28.5	46.3	14.6	8.1	2.4
	60歳代	169	33.7	49.1	7.1	4.1	5.9		60歳代	169	28.4	47.9	11.8	4.1	7.7
	70歳代	89	25.8	44.9	9.0	7.9	12.4		70歳代	89	23.6	42.7	14.6	9.0	10.1

	回答数	⑤市議会議員						回答数	⑥職場の管理職						
		進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答			進出した方がよい	進出したらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	無回答		
全体	1,083	47.2	39.8	4.5	3.7	4.8	全体	1,083	44.6	40.4	5.9	3.9	5.3		
男性	458	50.2	35.2	4.4	4.1	6.1	男性	458	44.1	37.3	7.0	4.6	7.0		
女性	618	45.3	43.0	4.5	3.4	3.7	女性	618	45.3	42.4	5.0	3.4	3.9		
男性	20歳代	41	34.1	41.5	4.9	9.8	9.8	男性	20歳代	41	41.5	31.7	4.9	12.2	9.8
	30歳代	60	51.7	33.3	6.7	5.0	3.3		30歳代	60	48.3	28.3	11.7	8.3	3.3
	40歳代	70	58.6	31.4	2.9	2.9	4.3		40歳代	70	48.6	35.7	5.7	4.3	5.7
	50歳代	84	53.6	34.5	2.4	4.8	4.8		50歳代	84	47.6	40.5	3.6	2.4	6.0
	60歳代	130	47.7	36.9	4.6	3.1	7.7		60歳代	130	42.3	39.2	7.7	2.3	8.5
	70歳代	73	50.7	34.2	5.5	2.7	6.8		70歳代	73	37.0	42.5	8.2	4.1	8.2
女性	20歳代	50	44.0	42.0	6.0	8.0	0.0	女性	20歳代	50	46.0	38.0	6.0	10.0	0.0
	30歳代	84	48.8	38.1	6.0	2.4	4.8		30歳代	84	56.0	32.1	7.1	1.2	3.6
	40歳代	103	52.4	41.7	3.9	1.0	1.0		40歳代	103	53.4	41.7	2.9	1.0	1.0
	50歳代	123	40.7	52.0	0.8	4.1	2.4		50歳代	123	41.5	51.2	2.4	3.3	1.6
	60歳代	169	46.2	40.2	6.5	1.8	5.3		60歳代	169	43.8	43.2	4.7	3.0	5.3
	70歳代	89	39.3	42.7	4.5	6.7	6.7		70歳代	89	33.7	41.6	9.0	5.6	10.1

(2) 企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない原因

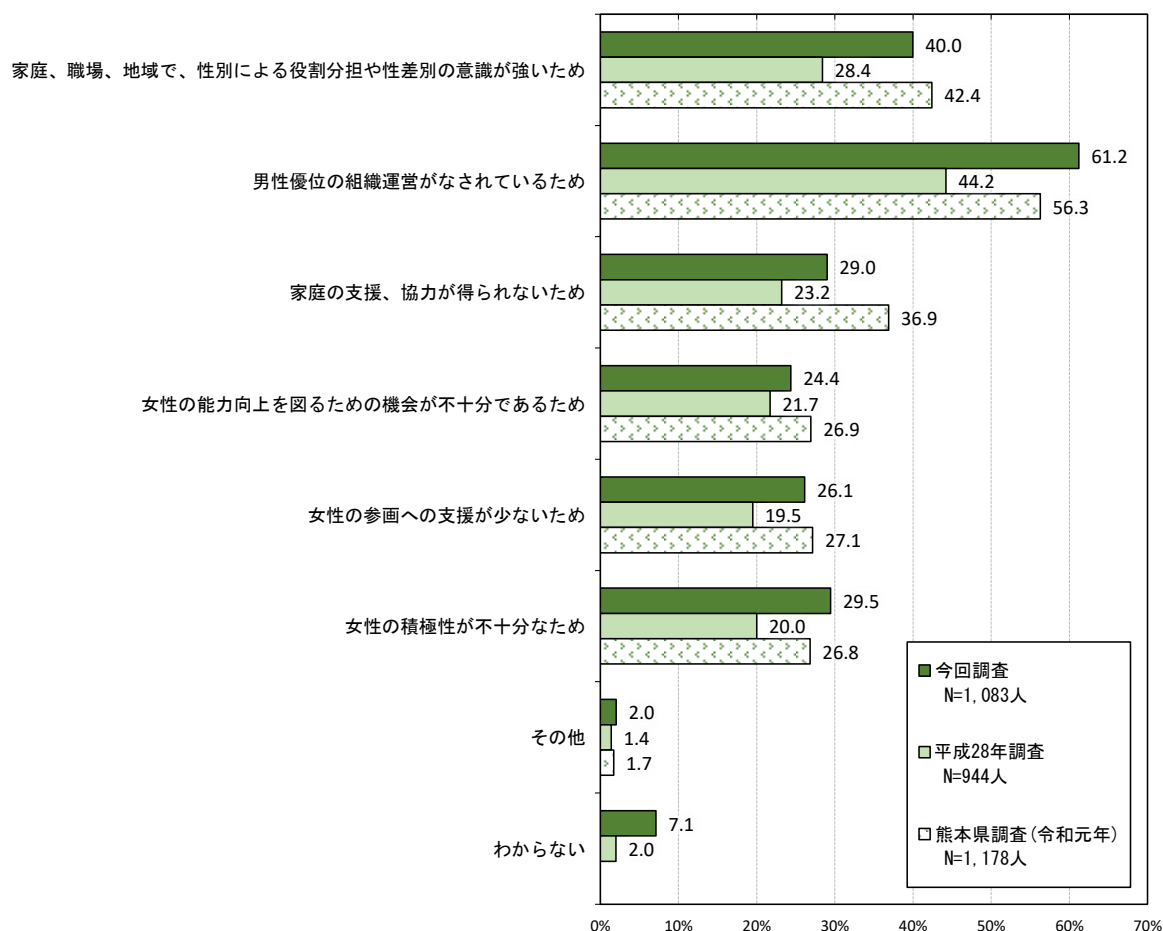
問 14 政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がまだまだ少ないと言われていますが、あなたは、その原因はなんだと思いますか。
(〇はいくつでも)

全体では、「男性優位の組織運営がなされているため」(61.2%)の割合が最も高く、次いで「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」(40.0%)、「女性の積極性が不十分なため」(29.5%)と続いている。

前回調査との比較では、すべての項目において割合が上昇しており、「男性優位の組織運営がなされているため」と「家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため」については10ポイント以上増加している。

県は「わからない」の選択肢がなかったため厳密には比較できないが、「男性優位の組織運営がなされているため」と「女性の積極性が不十分なため」の割合が県に比べて高くなっている。

【企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない原因】(前回・県調査比較)



※ 県は「わからない」の選択肢がなかった。

《上位回答》

今回	○ 男性優位の組織運営がなされているため	61.2%
	○ 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため	40.0%
	○ 女性の積極性が不十分なため	29.5%
前回	○ 男性優位の組織運営がなされているため	44.2%
	○ 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため	28.4%
	○ 家庭の支援、協力が得られないため	23.2%
県	○ 男性優位の組織運営がなされているため	56.3%
	○ 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため	42.4%
	○ 家庭の支援、協力が得られないため	36.9%

【企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない原因/性別】（前回・県調査比較）

		回答数	め役割家庭、 分担、職場、 性差別の意 識が別によ る	る男性優位 のため組織 運営がなさ れてい	め家庭の支 援、協力が 得られない た	が女性能力 向上を図る ための機 会	女性参画へ の支援が少 ないため	女性の積極 性が不十分 なため	その他	わからない	
全体	今回調査	1,083	40.0	61.2	29.0	24.4	26.1	29.5	2.0	7.1	
	平成28年調査	944	28.4	44.2	23.2	21.7	19.5	20.0	1.4	2.0	
	熊本県調査	1,178	42.4	56.3	36.9	26.9	27.1	26.8	1.7	7.6	
性別	男性	今回調査	458	38.2	61.1	24.7	23.8	28.2	27.1	3.1	7.6
		平成28年調査	438	24.9	43.6	16.4	19.4	17.4	16.9	1.4	3.0
		熊本県調査	472	37.0	59.8	33.5	25.3	27.3	26.3	1.0	6.6
	女性	今回調査	618	41.1	61.3	32.5	24.9	24.6	31.4	1.3	6.6
		平成28年調査	502	31.7	44.6	29.1	23.7	21.3	22.5	1.4	1.2
		熊本県調査	690	46.4	54.4	39.4	27.8	26.8	27.6	2.2	7.1

※ 県は「わからない」の選択肢がなかった。

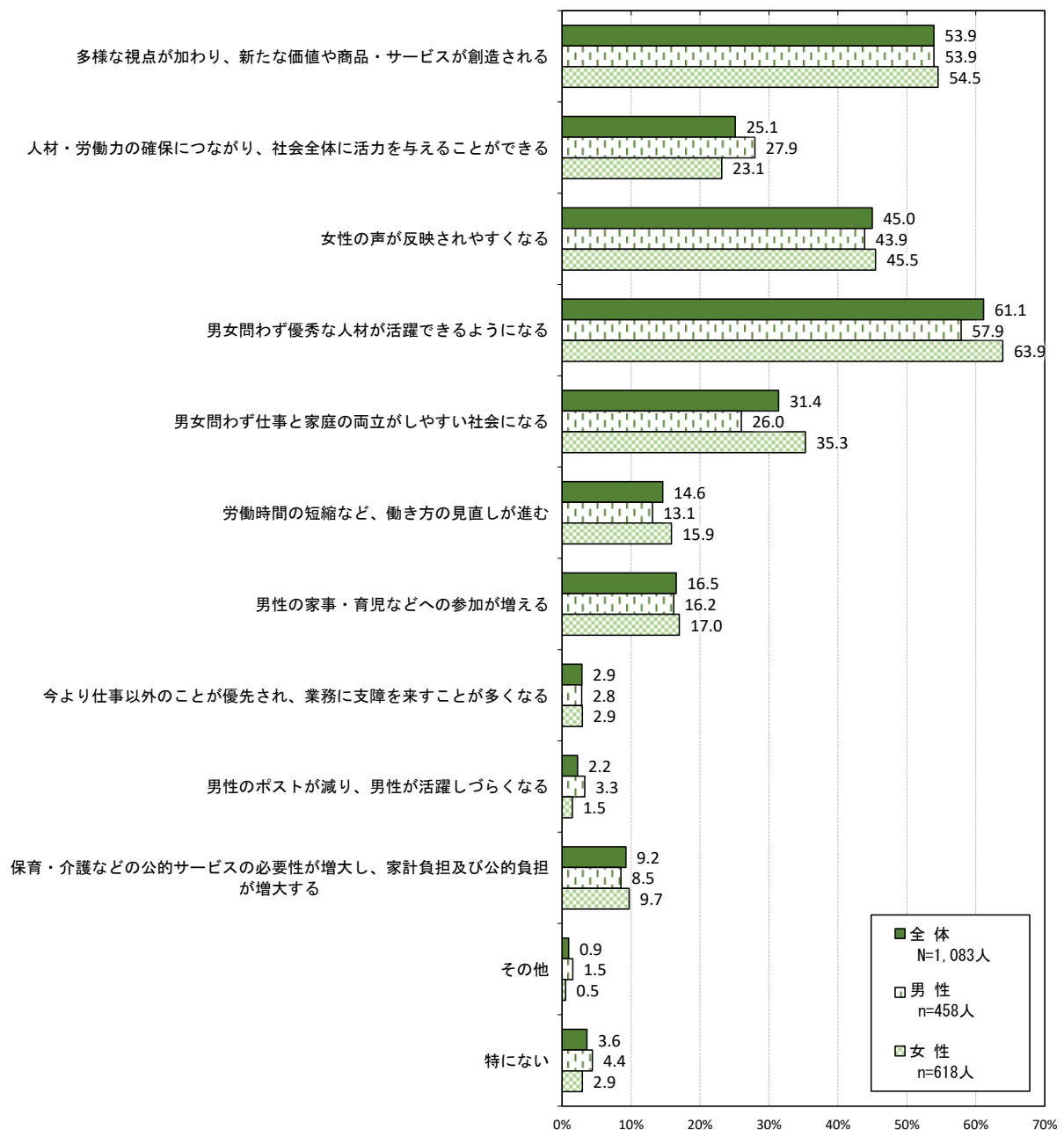
(3) 女性のリーダーが増えるとどのような影響があるか

問 15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(61.1%)の割合が最も高く、次いで「多様な視点が加わり、新たな価値や商品・サービスが創造される」(53.9%)、「女性の声が反映されやすくなる」(45.0%)と続いている。

性別で見ると、「男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる」と回答した人の割合は「女性」で35.3%となっており、「男性」の26.0%を9.3ポイント上回っている。

【女性のリーダーが増えるとどのような影響があるか / 性別】



【女性のリーダーが増えるるとどのような影響があるか / 性・年齢別】

(%)

	回答数	創造的な価値や商品・サービスが	多様な視点や加わり、新たな	人材・労働力の確保に与	えり、社会全体に活力を	が、社会全体に活力を	る女性の声が反映されやす	な女性活躍の場が広がる	躍り、女性活躍の場が広がる	立男女問わず仕事と家庭の両	方がしやす社会になる	労働時間の短縮など、働き
全体	1,083	53.9	25.1	45.0	61.1	31.4	14.6					
男性	458	53.9	27.9	43.9	57.9	26.0	13.1					
女性	618	54.5	23.1	45.5	63.9	35.3	15.9					
男性	20歳代	41	36.6	26.8	51.2	46.3	24.4	12.2				
	30歳代	60	51.7	25.0	51.7	53.3	33.3	16.7				
	40歳代	70	57.1	21.4	40.0	60.0	31.4	15.7				
	50歳代	84	54.8	28.6	39.3	58.3	23.8	8.3				
	60歳代	130	62.3	27.7	43.8	61.5	23.8	14.6				
	70歳代	73	46.6	37.0	42.5	58.9	21.9	11.0				
女性	20歳代	50	52.0	26.0	38.0	66.0	52.0	18.0				
	30歳代	84	56.0	11.9	52.4	66.7	47.6	20.2				
	40歳代	103	60.2	27.2	40.8	69.9	36.9	18.4				
	50歳代	123	60.2	18.7	48.8	61.8	37.4	13.8				
	60歳代	169	53.8	23.7	48.5	64.5	29.0	14.8				
	70歳代	89	41.6	32.6	38.2	55.1	21.3	12.4				

	回答数	参加が増える	先より、仕事以外のことが多くなる	が活躍のポストが減り、男性	計画的な負担が増大	保育・介護などの公共的負担が増大	その他	特にな
全体	1,083	16.5	2.9	2.2	9.2	0.9	3.6	
男性	458	16.2	2.8	3.3	8.5	1.5	4.4	
女性	618	17.0	2.9	1.5	9.7	0.5	2.9	
男性	20歳代	41	14.6	2.4	2.4	4.9	2.4	7.3
	30歳代	60	18.3	0.0	5.0	5.0	1.7	5.0
	40歳代	70	15.7	5.7	4.3	10.0	0.0	2.9
	50歳代	84	13.1	4.8	6.0	9.5	2.4	6.0
	60歳代	130	16.9	1.5	0.8	9.2	1.5	3.1
	70歳代	73	17.8	2.7	2.7	9.6	1.4	4.1
女性	20歳代	50	14.0	6.0	0.0	4.0	0.0	2.0
	30歳代	84	15.5	6.0	1.2	4.8	1.2	3.6
	40歳代	103	14.6	2.9	1.9	8.7	1.0	1.9
	50歳代	123	16.3	1.6	0.8	12.2	0.0	2.4
	60歳代	169	20.7	1.8	1.8	12.4	0.0	3.0
	70歳代	89	16.9	2.2	2.2	10.1	1.1	4.5

7. 配偶者などからの暴力について

(1) DVの認知度

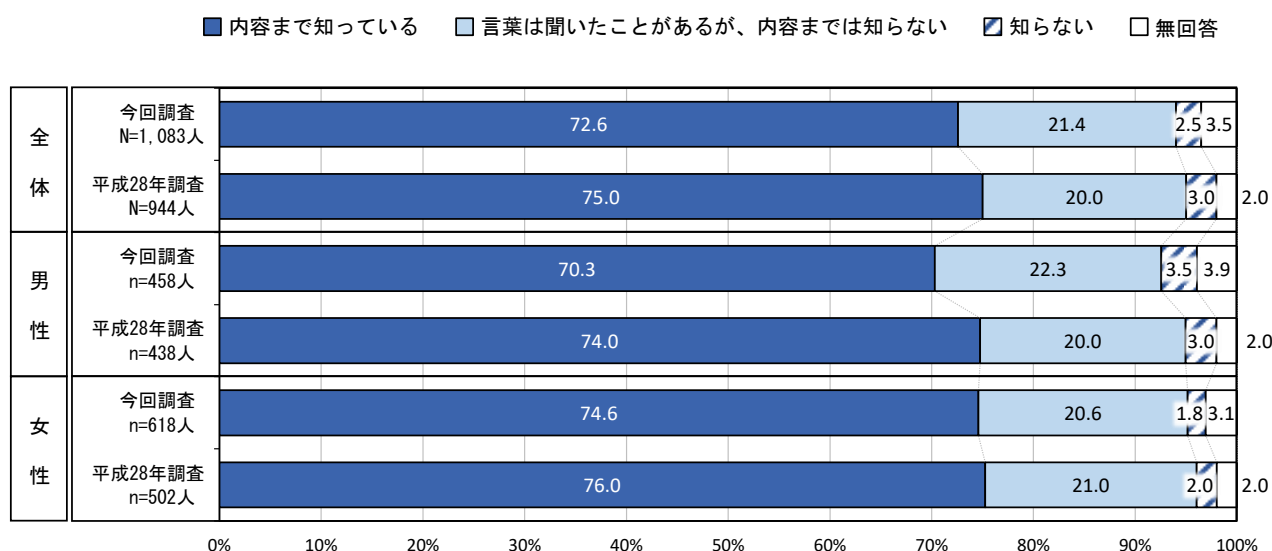
問 16 ドメスティック・バイオレンス（DV）について、あなたはどの程度ご存知ですか。（○は1つ）

全体では、「内容まで知っている」（72.6%）の割合が最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（21.4%）となっている。

性別で見ると、「内容まで知っている」と回答した人の割合は「女性」で74.6%となっており、「男性」の70.3%を4.3ポイント上回っている。

前回調査との比較では、「内容まで知っている」と回答した「男性」の割合がやや低くなっている。

【DVの認知度 / 性別】（前回調査比較）



全体：「内容まで知っている」72.6%（前回比 -2.4ポイント）
 「内容までは知らない」21.4%（前回比 +1.4ポイント）
 「知らない」2.5%（前回比 -0.5ポイント）
 男性：「内容まで知っている」70.3%（前回比 -3.7ポイント）
 「内容までは知らない」22.3%（前回比 +2.3ポイント）
 「知らない」3.5%（前回比 +0.5ポイント）
 女性：「内容まで知っている」74.6%（前回比 -1.4ポイント）
 「内容までは知らない」20.6%（前回比 -0.4ポイント）
 「知らない」1.8%（前回比 -0.2ポイント）

※ 「内容までは知らない」 = 「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」

【DVの認知度 / 性別】

(%)

		回答数	内容まで知っている	言葉は聞いたことがあ るが、内容までは知らない	知らない	無回答
全体		1,083	72.6	21.4	2.5	3.5
男性		458	70.3	22.3	3.5	3.9
女性		618	74.6	20.6	1.8	3.1
男性	20歳代	41	75.6	12.2	2.4	9.8
	30歳代	60	75.0	18.3	1.7	5.0
	40歳代	70	84.3	8.6	4.3	2.9
	50歳代	84	83.3	15.5	0.0	1.2
	60歳代	130	63.1	27.7	6.2	3.1
	70歳代	73	47.9	42.5	4.1	5.5
女性	20歳代	50	94.0	4.0	0.0	2.0
	30歳代	84	83.3	11.9	1.2	3.6
	40歳代	103	83.5	13.6	0.0	2.9
	50歳代	123	75.6	20.3	0.8	3.3
	60歳代	169	68.0	27.2	2.4	2.4
	70歳代	89	56.2	33.7	5.6	4.5

(2) DVに関する相談機関の認知度

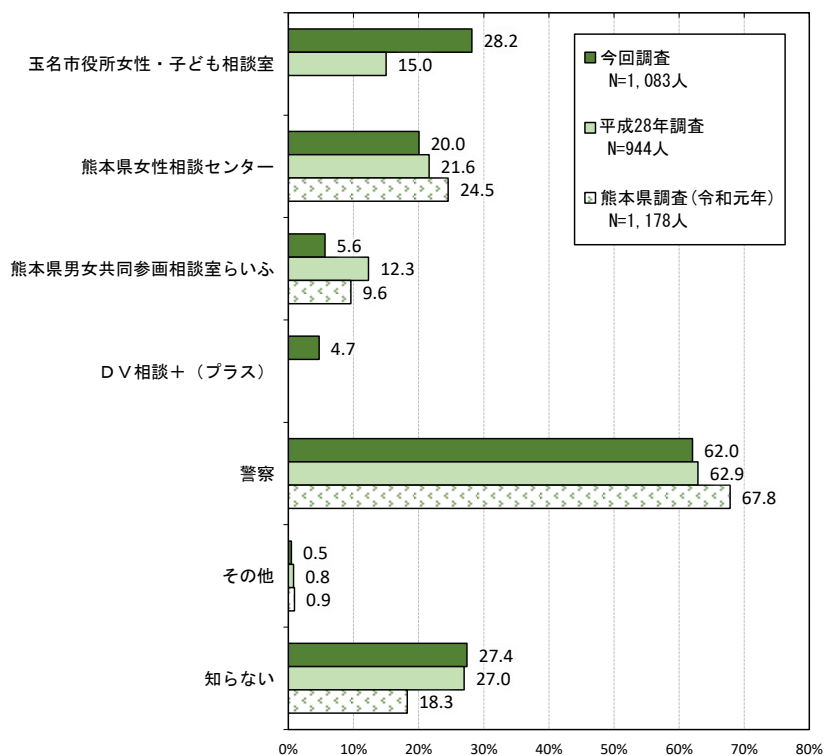
問17 ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する問題を相談できる機関が、市内、県内にありますが、ご存知の機関を教えてください。（〇はいくつでも）

全体では、「警察」（62.0%）の割合が突出して高く、次いで「玉名市役所女性・子ども相談室」（28.2%）と続いている。「知らない」と回答した人の割合は27.4%となっている。

前回調査では「DV相談+（プラス）」の選択肢を設定していなかったため厳密には比較できないが、「玉名市役所・子ども相談室」の割合が上昇し、「熊本県男女共同参画相談室らいふ」の割合が低下している。

県調査では「DV相談+（プラス）」の選択肢が無く、「福祉事務所」の選択肢が設定されていたため厳密には比較できないが、「知らない」と回答した人の割合が高くなっている。

【DVに関する相談機関の認知度】（前回・県調査比較）



※ 前回調査では、「DV相談+（プラス）」の選択肢を設定していなかった。

県調査では、「DV相談+（プラス）」の選択肢が無く、「福祉事務所」の選択肢が設定されていた。

《上位回答》

今回	○ 警察	62.0%
	○ 玉名市役所女性・子ども相談室	28.2%
	○ 知らない	27.4%
前回	○ 警察	62.9%
	○ 知らない	27.0%
	○ 熊本県女性相談センター	21.6%
県	○ 警察	67.8%
	○ 熊本県女性相談センター	24.5%
	○ 知らない	18.3%

【DVに関する相談機関の認知度 / 性別】(前回・県調査比較)

			玉名市役所女性・子ども相談室	熊本県女性相談センター	熊本県男女共同参画相談室らいふ	DV相談＋(プラス)	警察	その他	知らない	
全体	今回調査	1,083	28.2	20.0	5.6	4.7	62.0	0.5	27.4	
	平成28年調査	944	15.0	21.6	12.3		62.9	0.8	27.0	
	熊本県調査	1,178		24.5	9.6		67.8	0.9	18.3	
性別	男性	今回調査	458	29.0	15.1	6.3	5.5	59.6	0.7	31.4
		平成28年調査	438	14.8	19.4	11.0		63.5	0.9	28.5
		熊本県調査	472		19.9	10.4		68.9	0.6	19.9
	女性	今回調査	618	27.8	23.6	5.2	4.2	64.1	0.2	24.4
		平成28年調査	502	15.3	23.7	13.5		62.4	0.8	25.9
		熊本県調査	690		27.8	9.1		68.1	1.0	17.1

(3) パートナー（配偶者や恋人）の暴力について

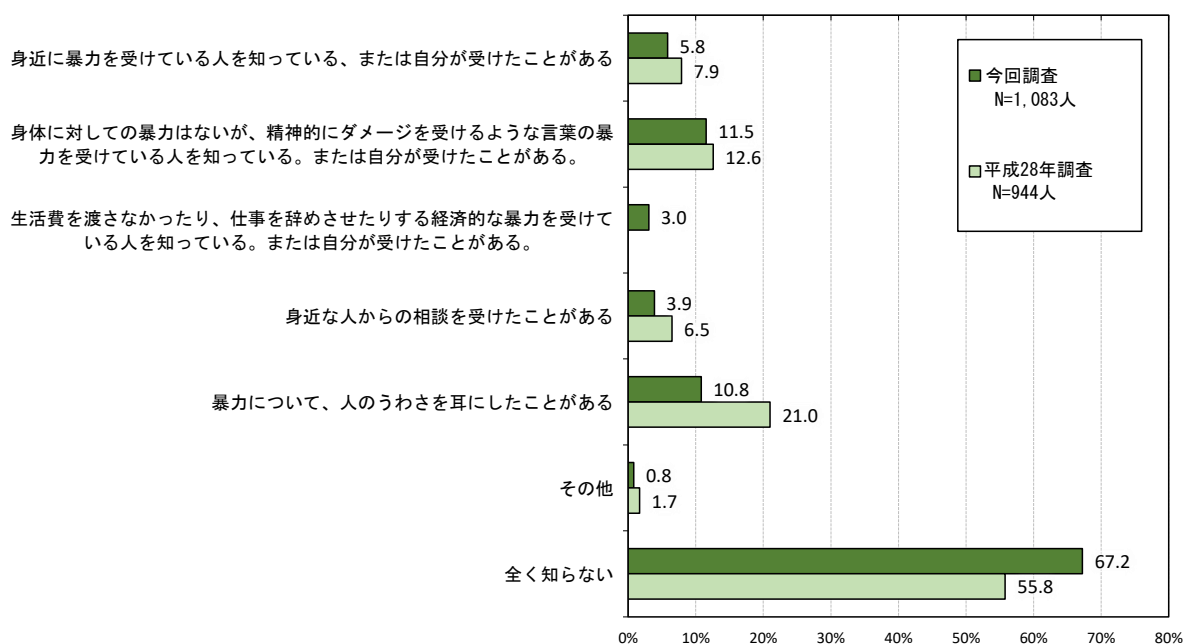
問 18 最近、パートナー（配偶者や恋人）との間で、一方が他方から、身体的・心理的・経済的な暴力を受けるというDVが社会問題となっていますが、あなたはパートナーからの暴力について、身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

全体では、「全く知らない」（67.2%）の割合が最も高く、約7割の人が回答している。以下、「身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。」（11.5%）、「暴力について、人のうわさを耳にしたことがある」（10.8%）と続いている。

前回調査との比較では、「全く知らない」が10ポイント以上増加し、「暴力について、人のうわさを耳にしたことがある」が10ポイント以上減少している。

※ 前回調査は「生活費を渡さなかったり、仕事を辞めさせたりする経済的な暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。」の選択肢がなかった

【パートナー（配偶者や恋人）の暴力について】（前回調査比較）



《上位回答》

今回	○ 全く知らない	67.2%
	○ 身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。	11.5%
	○ 暴力について、人のうわさを耳にしたことがある	10.8%
前回	○ 全く知らない	55.8%
	○ 暴力について、人のうわさを耳にしたことがある	21.0%
	○ 身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。	12.6%

【パートナー（配偶者や恋人）の暴力について / 性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	身近に暴力を受けている人を知っている、または自分が受けたことがある	身近ではないが聞いたことがある	身近ではないが聞いたことが無い	生活費を渡さなかったり、仕事を辞めさせたりする経済的な暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。	身近な人からの相談を受けたことがある	暴力について、人のうわさを耳にしたことがある	その他	全く知らない
全体	今回調査	1,083	5.8	11.5	3.0	3.9	10.8	0.8	67.2	
	平成28年調査	944	7.9	12.6	6.5	21.0	1.7	55.8		
性別	男性	今回調査	458	2.0	7.6	1.7	2.6	10.0	1.1	71.2
		平成28年調査	438	3.4	9.4	4.6	21.5	2.1	60.3	
	女性	今回調査	618	8.6	14.2	4.0	4.7	11.5	0.5	64.6
		平成28年調査	502	11.8	15.1	8.2	20.5	1.4	52.4	

※ 前回調査は「生活費を渡さなかったり、仕事を辞めさせたりする経済的な暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。」の選択肢がなかった

問18 その他

性別	年齢	内容
男性	30歳代	身近ではないが聞いたことがある
男性	30歳代	仕事上聞くことがあります
男性	40歳代	パートナーに対して言葉の暴力をしてきた
男性	50歳代	身近ではない人から相談を受けたことがある
男性	70歳代	身近な人の状況では聞いたことが無い
女性	20歳代	見聞きしたことや自分が受けた事はない
女性	30歳代	ニュースなどで知っている。身近ではない
女性	60歳代	受けた事はないし、身近に聞くこともない
その他 ※	20歳代	今ではないが過去に何度もある

※ 男性・女性のいずれにもあてはまらない

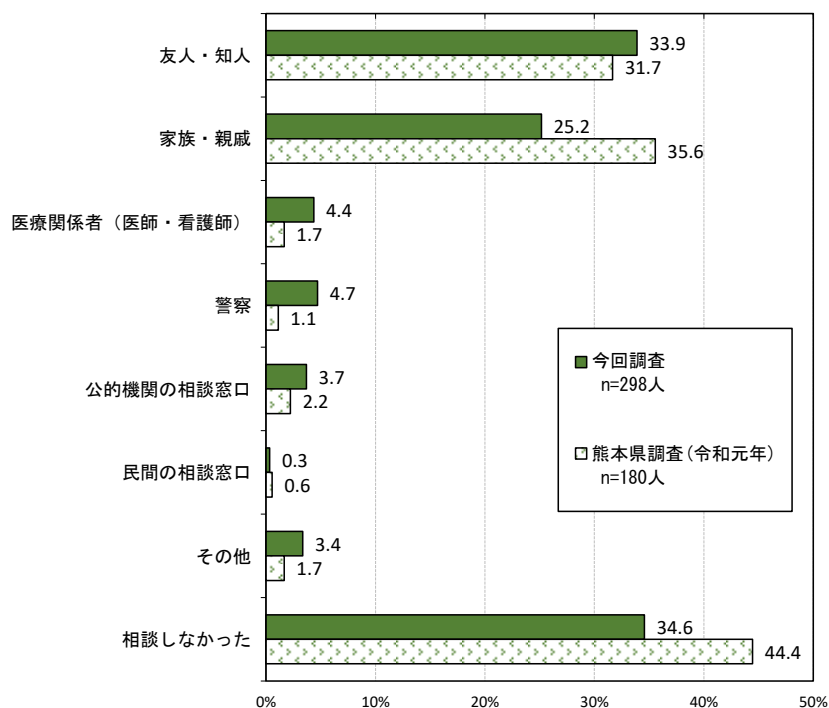
(4) 相談した相手

SQ 問 18で「1」～「6」と答えた方におたずねします。あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

全体では、「相談しなかった」(34.6%)の割合が最も高く、以下、「友人・知人」(33.9%)、「家族・親戚」(25.2%)と続いている。

県調査との比較では、「友人・知人」、「医療関係者(医師・看護師)」、「警察」、「公的機関の相談窓口」、「その他」の割合が高く、「家族・親戚」、「相談しなかった」の割合が低くなっている。

【相談した相手】(県調査比較)



《上位回答》

今回	○ 相談しなかった	34.6%
	○ 友人・知人	33.9%
	○ 家族・親戚	25.2%
県	○ 相談しなかった	44.4%
	○ 家族・親戚	35.6%
	○ 友人・知人	31.7%

【相談した相手 / 性別】（県調査比較）

			友人・知人	家族・親戚	医療関係者（医師・看護師）	警察	公的機関の相談窓口	民間の相談窓口	その他	相談しなかった	(%)	
全体	今回調査	298	33.9	25.2	4.4	4.7	3.7	0.3	3.4	34.6		
	熊本県調査	180	31.7	35.6	1.7	1.1	2.2	0.6	1.7	44.4		
性別	男性	今回調査	96	34.4	19.8	6.3	3.1	2.1	0.0	5.2	34.4	
		熊本県調査	54	20.4	16.7	3.7	1.9	3.7	0.0	1.9	61.1	
	女性	今回調査	199	33.7	27.6	3.5	5.5	4.5	0.5	2.5	35.2	
		熊本県調査	126	36.5	43.7	0.8	0.8	1.6	0.8	1.6	37.3	

SQ その他

性別	年齢	内容
男性	30歳代	管理職
男性	30歳代	仕事上関係機関と交流対応あります
男性	30歳代	本人に
男性	50歳代	弁護士
男性	60歳代	身近にいない
男性	70歳代	その時点の上司
女性	30歳代	業務で相談を受けている所を見た
女性	30歳代	自分の業務上得た情報なので支援者として介入した
女性	60歳代	夫に相談している
女性	60歳代	本人が言ったことではなく噂だから

SQ 相談しなかった

性別	年齢	内容
男性	20歳代	昔の話だった。噂話で聞いたレベル
男性	30歳代	自分の事ではない為。相談を受けた
男性	30歳代	噂でしかなく直接知らないから
男性	40歳代	噂話で正確さに欠けていたため
男性	40歳代	本人が認めなかった
男性	40歳代	他人事だから
男性	40歳代	対応済みだったから
男性	40歳代	原因がわからない
男性	50歳代	頼りになる人がいない
男性	50歳代	話を聞いた時には離婚していた
男性	50歳代	本人がしたがる
男性	50歳代	その時の関係者で処理
男性	50歳代	そのことに自分に関わるという発想自体なかった
男性	60歳代	身近なひとではなかったから
男性	60歳代	うわさだったので
男性	60歳代	自身が対応した
男性	60歳代	相談を受けた事を他言する必要なし
男性	60歳代	うわさなので失礼になる
男性	60歳代	相手を問い詰めて、証拠を出してくれと言われそう。言語の録音はむなしく感じます
男性	60歳代	事実か確認してから
男性	60歳代	はずかしいから言わなかった
男性	70歳代	身近では起きていない
女性	20歳代	個人的問題だと思った為
女性	20歳代	既に解決されていたため
女性	20歳代	本人から軽く話を聞いただけですでに機関に相談済みだった
女性	30歳代	職場でのことで、すでに上司も知っていたため
女性	30歳代	結局私が悪いと正当化される
女性	30歳代	自分が受けている時はDVと気づかなかったから
女性	30歳代	相談する気になれなかった
女性	40歳代	自分で考える時間が少なかった。相談しなかった
女性	40歳代	他の人がしたことを知ったから
女性	40歳代	既に裁判にまで進んでいたため
女性	40歳代	子供の時だったので相談出来なかった
女性	40歳代	離婚をすすめた。弁護士に相談もすすめた
女性	40歳代	うわさだから
女性	50歳代	本人がそれがDVだと気づいていない
女性	50歳代	うわさだったから
女性	50歳代	特にうわさだったので
女性	50歳代	噂の人が離婚されていたから
女性	50歳代	できなかった
女性	50歳代	過去の噂話だったので
女性	50歳代	本人に確認できないので
女性	50歳代	自分が悪いと思っていたから
女性	60歳代	直接の知人ではなく又聞きだったので
女性	60歳代	自分も相手に対して言葉の暴力を行うことがある
女性	60歳代	誰でも少なからずあると思うので
女性	60歳代	本人が言葉や表現をしていないうわさにすぎなかった
女性	60歳代	うわさで聞いただけで身近な人でなかったので確認していないから
女性	60歳代	うわさであり、本人からの相談がなかったため
女性	60歳代	本人があきらめている
女性	60歳代	うわさでしか知らない
女性	60歳代	受けていない
女性	60歳代	公的機関に相談するまでないと判断したため
女性	70歳代	本人が直接公共機関に相談したから
女性	70歳代	プライベートな事を他に知られたくなかった
女性	70歳代	人に知られたくなかった
女性	70歳代	一時的な借り住まいの中でのことであったため、相談というところまでは至らなかった
女性	70歳代	本人に相談するところは教えた
女性	70歳代	うわさを聞いただけなので
女性	70歳代	はっきりとした内容がわからないのに相談に行けない
女性	70歳代	そんなに深刻な事と思わなかった
女性	70歳代	相談しても解決しないから

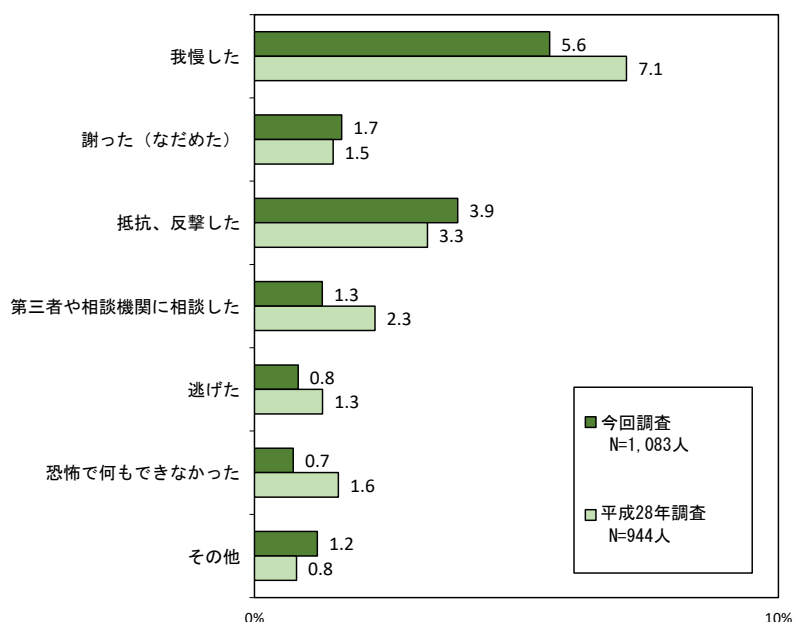
(5) DVを受けた時の対応

問19 「DVを受けたことがある」方におたずねします。あなたは、DVを受けた時どうしましたか。(〇はいくつでも)

全体では、「我慢した」(5.6%)の割合が最も高く、以下、「抵抗、反撃した」(3.9%)、「謝った(なだめた)」(1.7%)と続いている。

前回調査との比較では、「謝った(なだめた)」、「抵抗、反撃した」、「その他」の割合が高く、「我慢した」、「第三者や相談機関に相談した」、「逃げた」、「恐怖で何もできなかった」の割合が低くなっている。

【DVを受けた時の対応】(前回調査比較)



《上位回答》

今回	○ 我慢した	5.6%
	○ 抵抗、反撃した	3.9%
	○ 謝った(なだめた)	1.7%
前回	○ 我慢した	7.1%
	○ 抵抗、反撃した	3.3%
	○ 第三者や相談機関に相談した	2.3%

【DVを受けた時の対応 / 性別】(前回調査比較)

(%)

		回答数	我慢した	謝った(なだめた)	抵抗、反撃した	第三者や相談機関に相談した	逃げた	恐怖で何もできなかった	その他	
全体	今回調査	1,083	5.6	1.7	3.9	1.3	0.8	0.7	1.2	
	平成28年調査	944	7.1	1.5	3.3	2.3	1.3	1.6	0.8	
性別	男性	今回調査	458	2.2	1.1	2.4	0.4	0.0	0.2	1.3
		平成28年調査	438	3.9	0.9	2.1	0.9	0.7	2.4	0.6
	女性	今回調査	618	8.1	1.9	4.9	1.9	1.5	1.1	1.0
		平成28年調査	502	10.0	1.8	4.2	3.6	1.8	0.5	0.5

8. 防災の分野における男女共同参画について

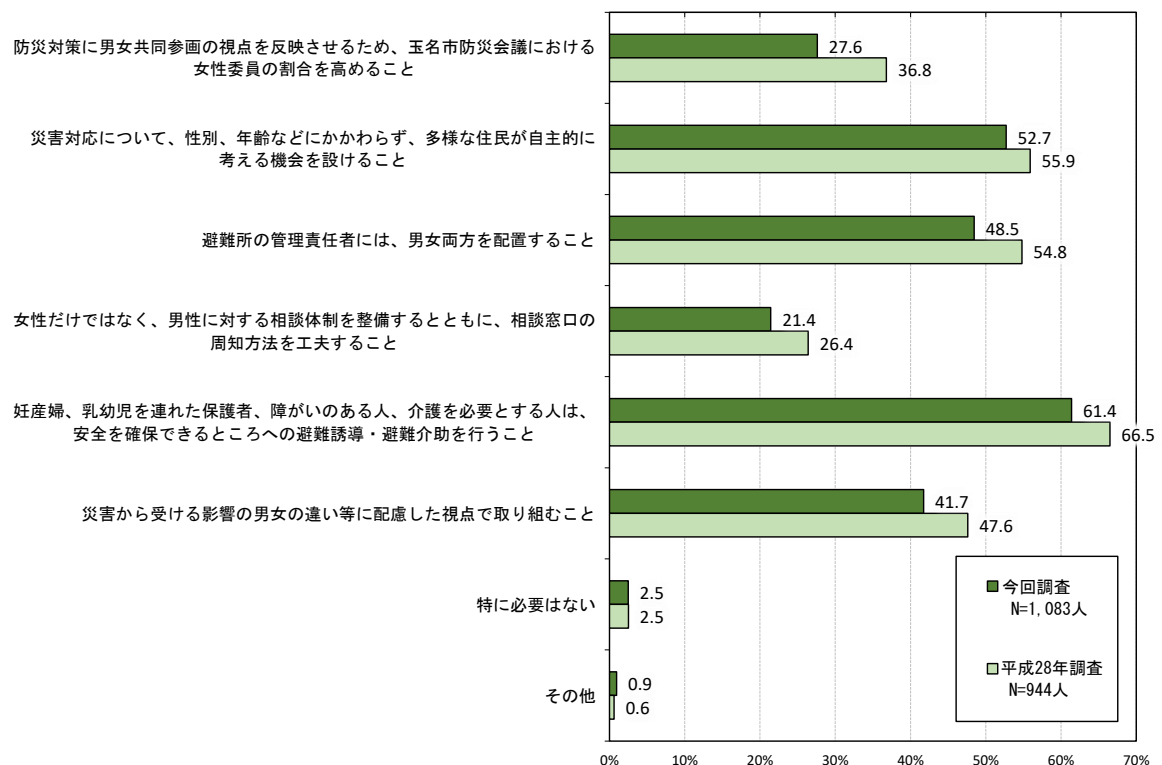
(1) 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立に必要なこと

問 20 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立には、どのようなことが必要と考えられますか。(〇はいくつでも)

全体では、「妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人は、安全を確保できるところへの避難誘導・避難介助を行うこと」(61.4%)の割合が最も高く、次いで、「災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること」(52.7%)、「避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること」(48.5%)と続いている。

前回調査との比較では、「特に必要はない」と「その他」を除く選択肢に回答した人の割合は低くなっている。

【男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立に必要なこと】(前回調査比較)



《上位回答》

今回	○ 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人は、安全を確保できるところへの避難誘導・避難介助を行うこと	61.4%
	○ 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること	52.7%
	○ 避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること	48.5%
前回	○ 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人は、安全を確保できるところへの避難誘導・避難介助を行うこと	66.5%
	○ 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること	55.9%
	○ 避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること	54.8%

【男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立に必要なこと / 性別】（前回調査比較）

		回答数	委員の割合を高めること	防災対策に男女共同参画の視点をおける女性	機会を設けること	災害対応について、性別、年齢などに考えるか	避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること	女性だけでなく、男性に相対する周知体制を整備すること	妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人への避難誘導・避難介助を行うこと	妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人への避難誘導・避難介助を行うこと	災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した視点で取り組むこと	特に必要はない	その他
全体	今回調査	1,083	27.6	52.7	48.5	21.4	61.4	41.7	2.5	0.9			
	平成28年調査	944	36.8	55.9	54.8	26.4	66.5	47.6	2.5	0.6			
性別	男性	今回調査	458	33.8	53.3	48.9	19.9	55.5	43.9	2.8	0.9		
		平成28年調査	438	36.3	56.4	52.3	23.5	58.2	43.8	2.5	0.7		
	女性	今回調査	618	23.3	52.4	48.2	22.7	66.2	40.3	2.3	1.0		
		平成28年調査	502	37.1	55.4	56.8	28.7	73.7	50.6	2.6	0.6		

9. 農林水産業の分野における男女共同参画について

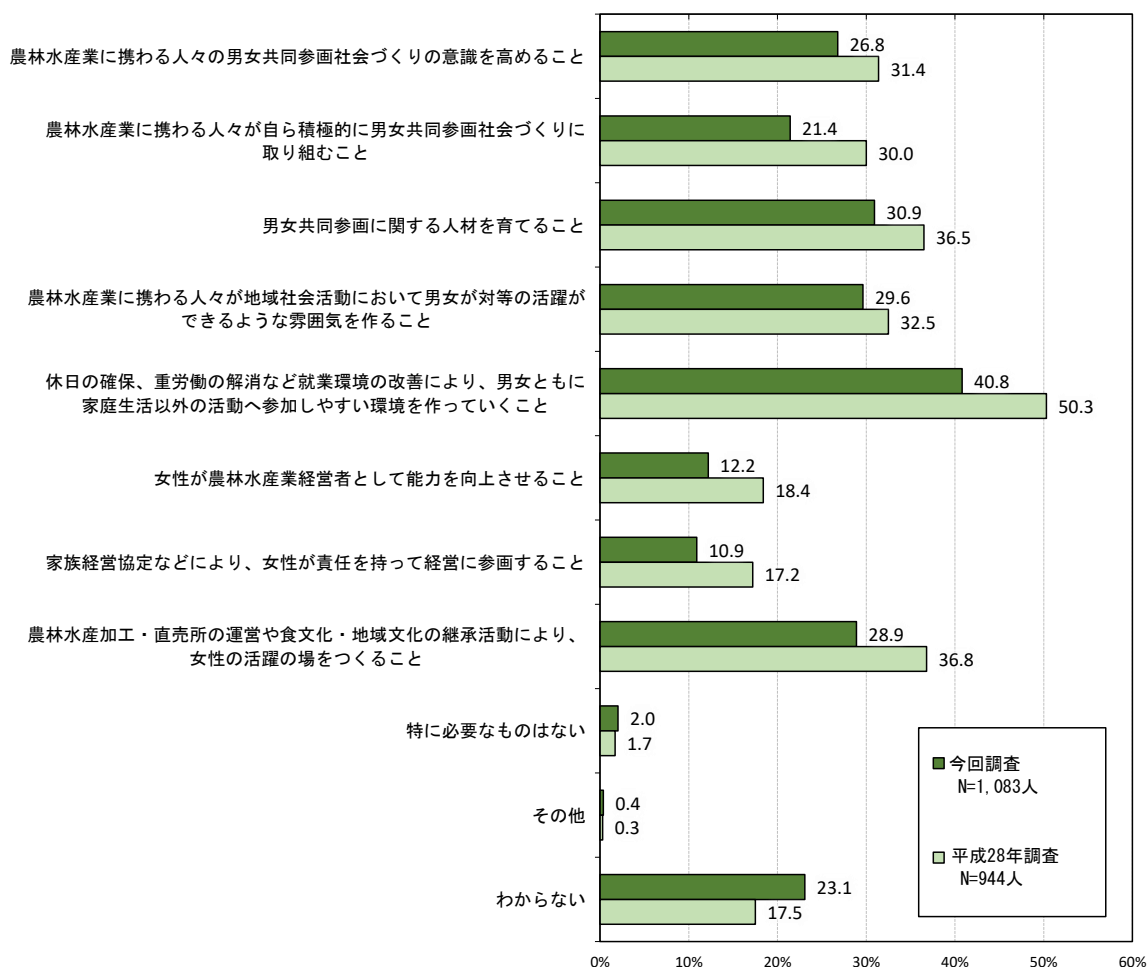
(1) 農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なこと

問 21 農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

全体では、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女ともに家庭生活以外の活動へ参加しやすい環境を作っていくこと」(40.8%)の割合が最も高く、次いで、「男女共同参画に関する人材を育てること」(30.9%)、「農林水産業に携わる人々が地域社会活動において男女が対等の活躍ができるような雰囲気を作ること」(29.6%)と続いている。

前回調査との比較では、「特に必要なものはない」と「その他」、「わからない」を除く選択肢に回答した人の割合は低くなっている。

【農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なこと】(前回調査比較)



《上位回答》

今回	○ 休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女ともに家庭生活以外の活動へ参加しやすい環境をつくっていくこと	40.8%
	○ 男女共同参画に関する人材を育てること	30.9%
	○ 農林水産業に携わる人々が地域社会活動において男女が対等の活躍ができるような雰囲気を作ること	29.6%
前回	○ 休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女ともに家庭生活以外の活動へ参加しやすい環境をつくっていくこと	50.3%
	○ 農林水産加工・直売所の運営や食文化・地域文化の継承活動により、女性の活躍の場をつくること	36.8%
	○ 男女共同参画に関する人材を育てること	36.5%

【農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なこと / 性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	農林水産業に携わる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること	農林水産業に携わる人々が自ら積極的に男女共同参画に取り組むこと	男女共同参画に関する人材を育てること	農林水産業に携わる人々が地域社会活動において男女が対等の活躍ができるような雰囲気を作ること	休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善へ参加しやすい環境を作っていくこと	女性が農林水産業経営者として能力を向上させること	
全体	今回調査	1,083	26.8	21.4	30.9	29.6	40.8	12.2	
	平成28年調査	944	31.4	30.0	36.5	32.5	50.3	18.4	
性別	男性	今回調査	458	28.6	21.8	33.8	31.7	43.0	15.1
		平成28年調査	438	30.6	30.6	34.7	32.4	51.6	18.9
	女性	今回調査	618	25.6	21.2	28.6	28.3	39.6	10.2
		平成28年調査	502	31.7	29.1	38.0	32.3	49.0	17.7

		回答数	家族経営協定などにより、女性が責任を持つて経営に参画すること	農林水産加工・直売所の運営や食文化の継承・活動により、女性の活躍の場をつくること	特に必要なものはない	その他	わからない	
全体	今回調査	1,083	10.9	28.9	2.0	0.4	23.1	
	平成28年調査	944	17.2	36.8	1.7	0.3	17.5	
性別	男性	今回調査	458	12.2	27.7	3.1	0.9	18.1
		平成28年調査	438	15.8	37.2	2.5	0.2	14.2
	女性	今回調査	618	10.0	29.4	1.3	0.0	26.9
		平成28年調査	502	18.1	36.1	1.0	0.4	20.5

10. 新型コロナウイルス感染症の影響について

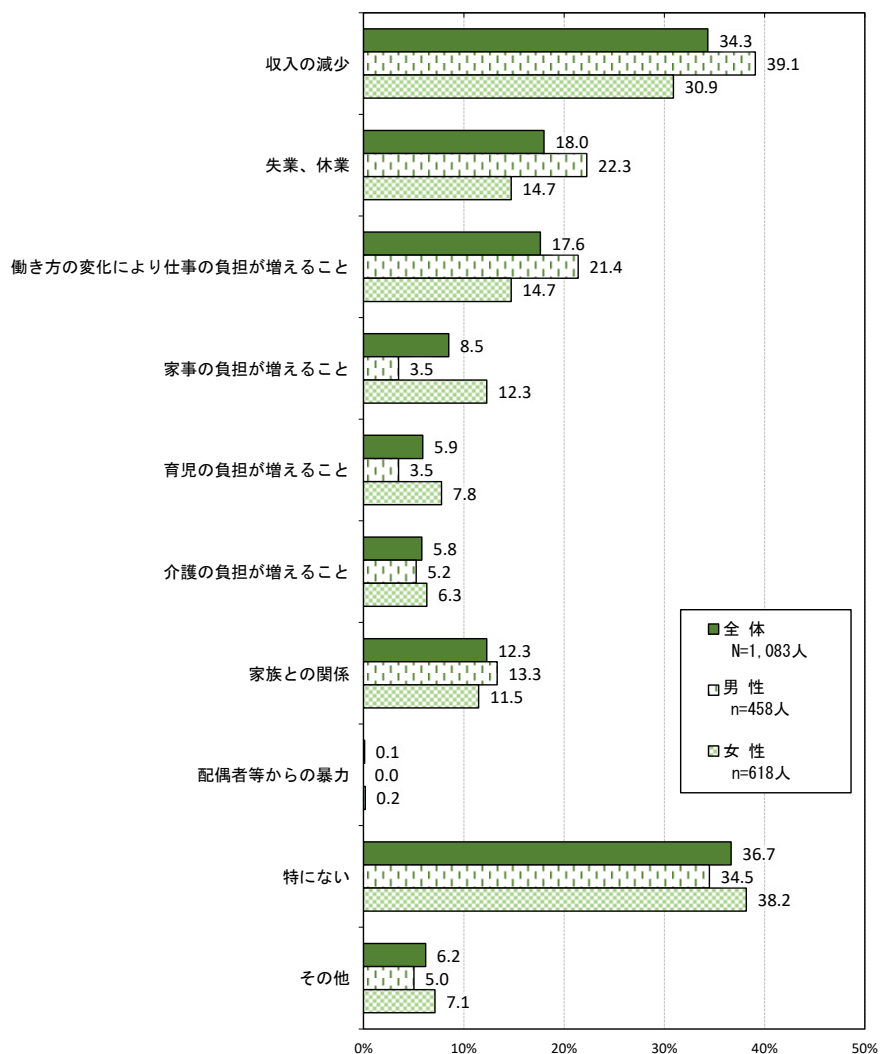
(1) 新型コロナウイルス感染症の影響により不安に感じていること

問 22 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により現在どのようなことに不安を感じていますか。(〇は3つまで)

全体では、「特にない」(36.7%)の割合が最も高く、次いで、「収入の減少」(34.3%)、「失業・休業」(18.0%)と続いている。

性別で見ると、「収入の減少」、「失業・休業」、「働き方の変化により仕事の負担が増えること」は女性に比べ男性で多く回答されており、「家事の負担が増えること」、「育児の負担が増えること」、「介護の負担が増えること」は男性に比べ女性の方が不安に感じている割合が高い。

【新型コロナウイルス感染症の影響により不安に感じていること / 性別】



【新型コロナウイルス感染症の影響により不安に感じていること / 性・年齢別】

(%)

	回答数	収入の減少	失業、休業	働き方の変化により仕事の負担が増えること	家事の負担が増えること	育児の負担が増えること	介護の負担が増えること	家族との関係	配偶者等からの暴力	特にない	その他	
全体	1,083	34.3	18.0	17.6	8.5	5.9	5.8	12.3	0.1	36.7	6.2	
男性	458	39.1	22.3	21.4	3.5	3.5	5.2	13.3	0.0	34.5	5.0	
女性	618	30.9	14.7	14.7	12.3	7.8	6.3	11.5	0.2	38.2	7.1	
男性	20歳代	41	51.2	26.8	39.0	2.4	0.0	4.9	0.0	36.6	0.0	
	30歳代	60	43.3	28.3	28.3	1.7	13.3	0.0	10.0	0.0	28.3	8.3
	40歳代	70	42.9	22.9	27.1	1.4	5.7	5.7	8.6	0.0	35.7	4.3
	50歳代	84	33.3	19.0	23.8	7.1	0.0	3.6	10.7	0.0	33.3	7.1
	60歳代	130	36.2	16.2	13.8	3.1	1.5	9.2	13.8	0.0	35.4	5.4
	70歳代	73	37.0	28.8	11.0	4.1	2.7	6.8	27.4	0.0	37.0	2.7
女性	20歳代	50	34.0	14.0	22.0	4.0	8.0	2.0	12.0	0.0	34.0	14.0
	30歳代	84	34.5	17.9	15.5	17.9	21.4	1.2	14.3	0.0	28.6	10.7
	40歳代	103	32.0	17.5	19.4	20.4	11.7	3.9	10.7	1.0	33.0	8.7
	50歳代	123	27.6	17.1	21.1	9.8	4.9	9.8	7.3	0.0	35.0	4.9
	60歳代	169	31.4	12.4	9.5	10.7	3.6	9.5	12.4	0.0	43.2	5.9
	70歳代	89	28.1	10.1	5.6	9.0	2.2	5.6	13.5	0.0	50.6	3.4

11. 自分らしく生きられる社会について

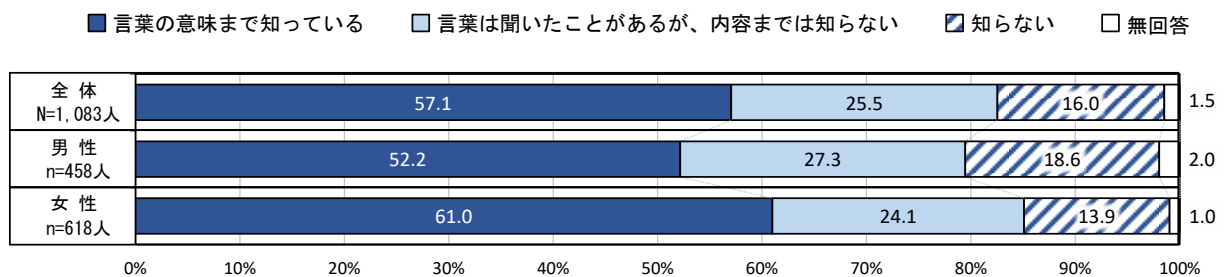
(1) 性的少数者という言葉の認知度

問 23 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

全体では、「言葉の意味まで知っている」（57.1%）の割合が最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（25.5%）となっている。

性別で見ると、「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合は、女性で61.0%となっており、男性の52.2%を8.8ポイント上回っている。

【性的少数者という言葉の認知度 / 性別】



【性的少数者という言葉の認知度 / 性・年齢別】

(%)

	回答数	言葉の意味まで知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	無回答	
全体	1,083	57.1	25.5	16.0	1.5	
男性	458	52.2	27.3	18.6	2.0	
女性	618	61.0	24.1	13.9	1.0	
男性	20歳代	41	68.3	14.6	17.1	0.0
	30歳代	60	56.7	20.0	16.7	6.7
	40歳代	70	60.0	22.9	17.1	0.0
	50歳代	84	65.5	16.7	16.7	1.2
	60歳代	130	41.5	37.7	18.5	2.3
	70歳代	73	35.6	38.4	24.7	1.4
女性	20歳代	50	84.0	6.0	10.0	0.0
	30歳代	84	81.0	7.1	11.9	0.0
	40歳代	103	72.8	22.3	4.9	0.0
	50歳代	123	64.2	23.6	12.2	0.0
	60歳代	169	51.5	33.1	12.4	3.0
	70歳代	89	29.2	36.0	33.7	1.1

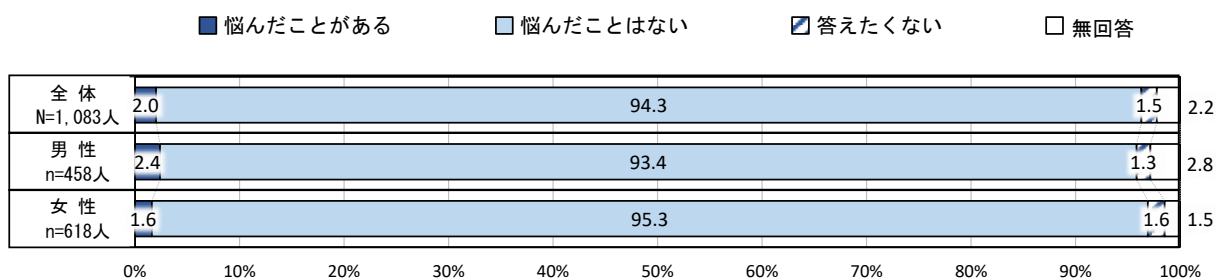
(2) 性的指向（同性愛等）に悩んだ経験

問 24 あなたは、自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだことがありますか。（○は1つ）

全体では、「悩んだことはない」と回答した人の割合は94.3%となっており、「悩んだことある」と回答した人の割合は2.0%となっている。

性別で見ると、ほぼ同様の構成となっている。

【性的指向（同性愛等）に悩んだ経験 / 性別】



【性的指向（同性愛等）に悩んだ経験 / 性・年齢別】

		回答数	悩んだことがある (%)	悩んだことはない (%)	答えたくない (%)	無回答 (%)
全体		1,083	2.0	94.3	1.5	2.2
男性		458	2.4	93.4	1.3	2.8
女性		618	1.6	95.3	1.6	1.5
男性	20歳代	41	4.9	95.1	0.0	0.0
	30歳代	60	1.7	90.0	3.3	5.0
	40歳代	70	1.4	97.1	1.4	0.0
	50歳代	84	1.2	97.6	0.0	1.2
	60歳代	130	3.1	92.3	1.5	3.1
	70歳代	73	2.7	89.0	1.4	6.8
女性	20歳代	50	10.0	88.0	2.0	0.0
	30歳代	84	2.4	92.9	4.8	0.0
	40歳代	103	1.9	95.1	1.9	1.0
	50歳代	123	0.0	100.0	0.0	0.0
	60歳代	169	0.0	96.4	0.6	3.0
	70歳代	89	1.1	93.3	2.2	3.4

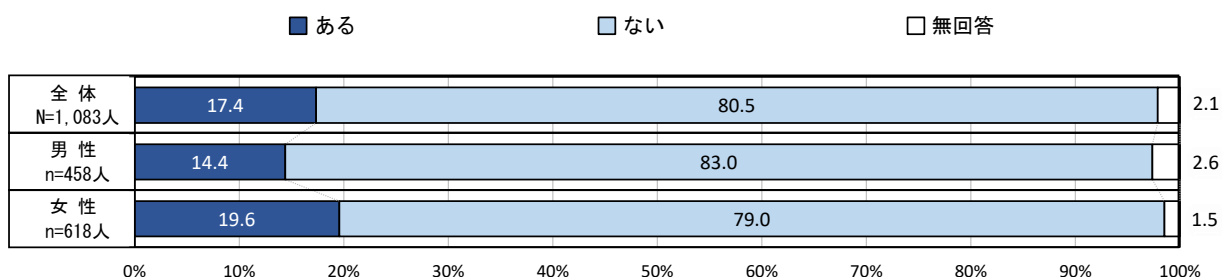
(3) 性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験

問 25 あなたは、性的少数者（LGBT等）に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことがありますか。（○は1つ）

全体では、「ない」と回答した人の割合は80.5%となっており、「ある」と回答した人の割合は17.4%となっている。

性別で見ると、男性に比べ女性の方が「ある」と回答した割合が5.2ポイント高くなっている。

【性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験 / 性別】



【性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験 / 性・年齢別】
(%)

		回答数	ある	ない	無回答
全体		1,083	17.4	80.5	2.1
男性		458	14.4	83.0	2.6
女性		618	19.6	79.0	1.5
男性	20歳代	41	12.2	85.4	2.4
	30歳代	60	21.7	73.3	5.0
	40歳代	70	20.0	80.0	0.0
	50歳代	84	16.7	82.1	1.2
	60歳代	130	12.3	84.6	3.1
	70歳代	73	5.5	90.4	4.1
女性	20歳代	50	36.0	64.0	0.0
	30歳代	84	36.9	63.1	0.0
	40歳代	103	22.3	75.7	1.9
	50歳代	123	16.3	83.7	0.0
	60歳代	169	14.8	82.8	2.4
	70歳代	89	4.5	92.1	3.4

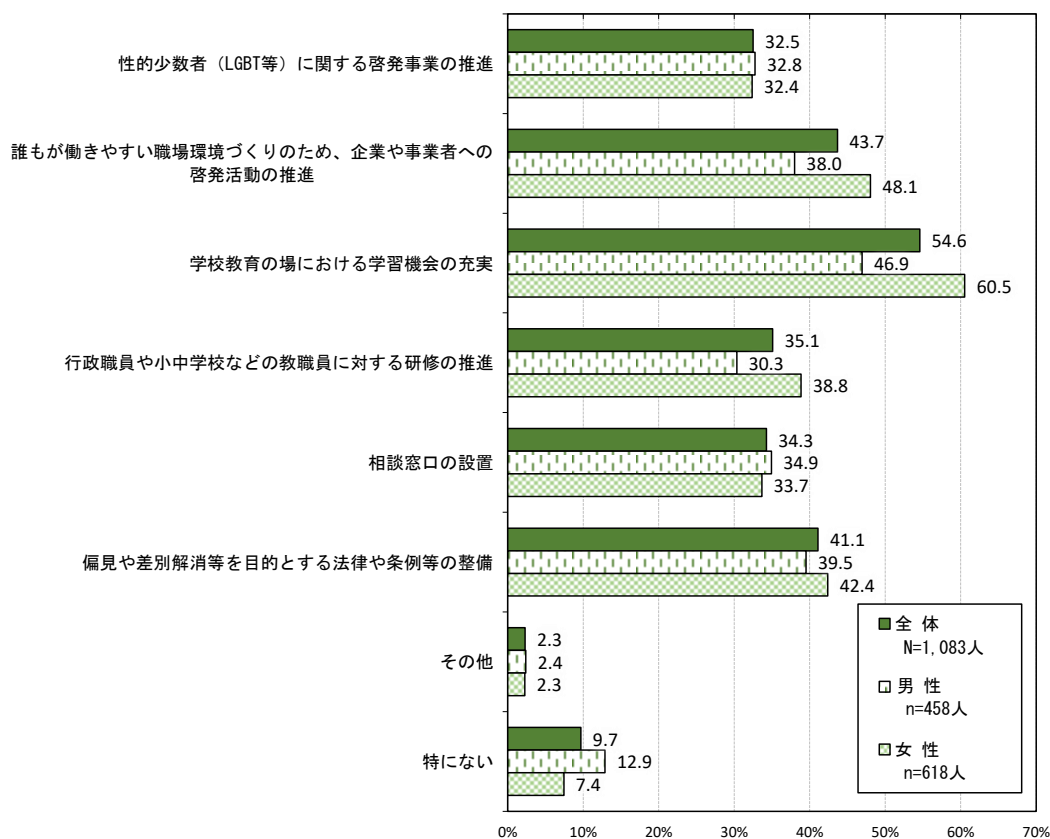
(4) 性的少数者の人たちが生活しやすい社会を実現するために必要な施策

問 26 あなたは、性的少数者（LGBT等）の人たちにとって偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような施策が必要だと思いますか。
 (〇はいくつでも)

全体では、「学校教育の場における学習機会の充実」(54.6%)の割合が最も高く、次いで、「誰もが働きやすい職場環境づくりのため、企業や事業者への啓発活動の推進」(43.7%)、「偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備」(41.1%)となっている。

性別で見ると、「学校教育の場における学習機会の充実」と回答した人の割合は「女性」で60.5%となっており、「男性」の46.9%を13.6ポイント上回っている。

【性的少数者の人たちが生活しやすい社会を実現するために必要な施策 / 性別】



【性的少数者の人たちが生活しやすい社会を実現するために必要な施策 / 性・年齢別】

(%)

	回答数	性的少数者の啓発の推進	誰もが働きやすい職場環境づくりのため、企業や事業者への啓発活動の推進	学校教育の場における学習機会の充実	行政職員や小中学校などの教職員に対する研修の推進	相談窓口の設置	偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備	その他	特になし	
全体	1,083	32.5	43.7	54.6	35.1	34.3	41.1	2.3	9.7	
男性	458	32.8	38.0	46.9	30.3	34.9	39.5	2.4	12.9	
女性	618	32.4	48.1	60.5	38.8	33.7	42.4	2.3	7.4	
男性	20歳代	41	31.7	58.5	56.1	39.0	39.0	2.4	12.2	
	30歳代	60	38.3	36.7	45.0	28.3	31.7	1.7	15.0	
	40歳代	70	34.3	32.9	44.3	30.0	22.9	35.7	2.9	18.6
	50歳代	84	32.1	38.1	53.6	36.9	28.6	46.4	3.6	10.7
	60歳代	130	29.2	40.8	45.4	26.2	46.9	43.1	2.3	10.8
	70歳代	73	34.2	27.4	41.1	27.4	32.9	31.5	1.4	12.3
女性	20歳代	50	34.0	44.0	74.0	36.0	32.0	38.0	4.0	8.0
	30歳代	84	31.0	53.6	76.2	39.3	31.0	44.0	7.1	4.8
	40歳代	103	46.6	49.5	68.9	39.8	33.0	44.7	1.9	2.9
	50歳代	123	36.6	52.8	59.3	39.0	31.7	43.1	1.6	4.1
	60歳代	169	27.2	46.7	57.4	44.4	39.6	43.8	0.6	7.7
	70歳代	89	20.2	39.3	36.0	28.1	29.2	37.1	1.1	19.1

12. 男女共同参画の推進について

(1) 男女共同参画に関する用語の認知度

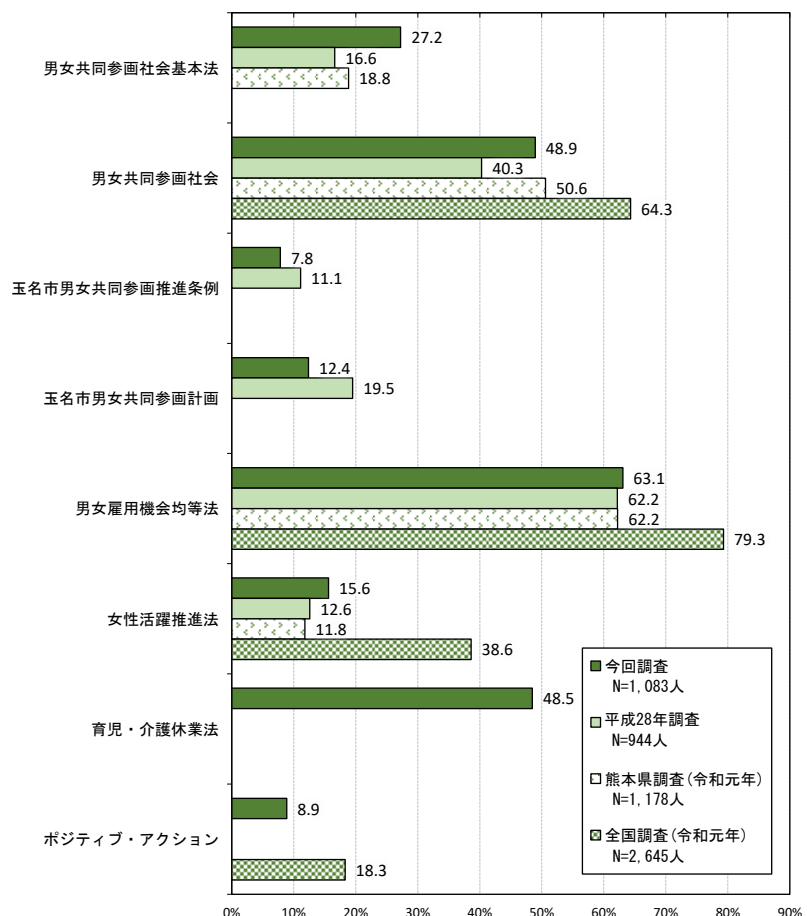
問 27 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。(〇はいくつでも)

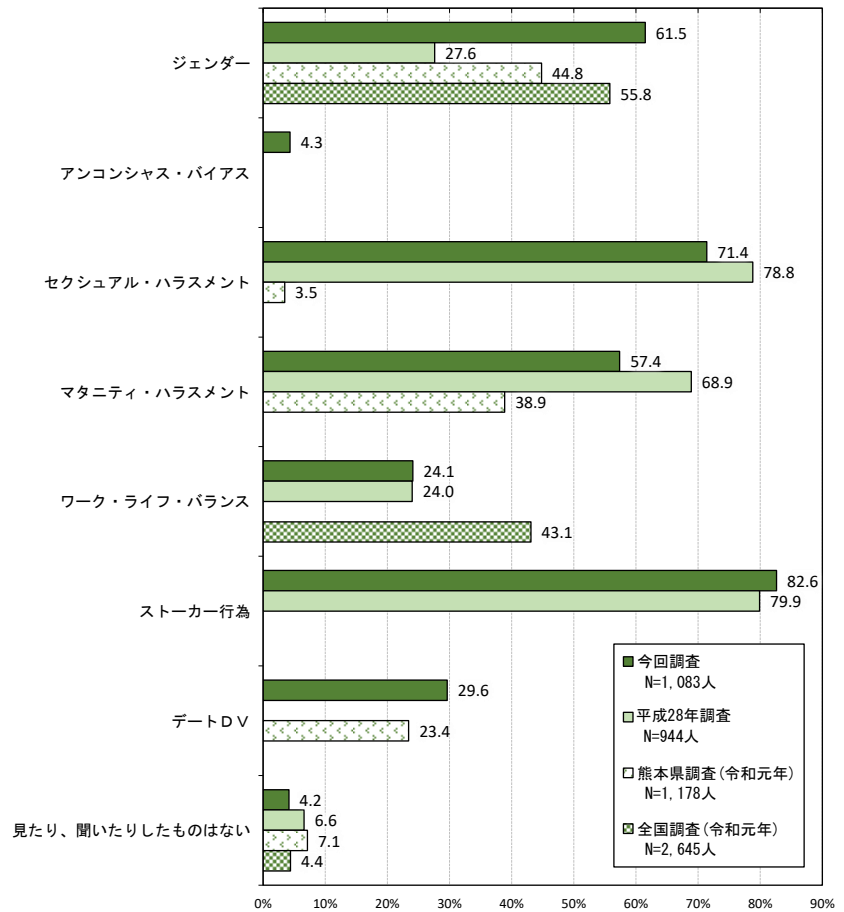
全体で男女共同参画に関する用語の認知度が高かったものは、「ストーカー行為」(82.6%)、「セクシュアル・ハラスメント」(71.4%)、「男女雇用機会均等法」(63.1%)、「ジェンダー」(61.5%)であった。

また、最も認知度が低かった用語は、「アンコンシャス・バイアス」で全体の4.3%しか認知していない。

前回調査では「育児介護休業法」「ポジティブ・アクション」など4つの選択肢がなかったため厳密には比較できないが、「ジェンダー」と回答した人は33.9ポイント増、「男女共同参画社会基本法」と回答した人の割合は27.2%で10.6ポイント増と、前回に比べて特に増加している。一方、「マタニティ・ハラスメント」と回答した人の割合は57.4%で前回よりも11.5ポイント減少している。

【男女共同参画に関する用語の認知度】(前回・県・全国調査比較)





《上位回答》

今回	○ ストーカー行為	82.6%
	○ セクシュアル・ハラスメント	71.4%
	○ 男女雇用機会均等法	63.1%
前回	○ ストーカー行為	79.9%
	○ セクシュアル・ハラスメント	78.8%
	○ マタニティ・ハラスメント	68.9%
県	○ 男女雇用機会均等法	62.2%
	○ 男女共同参画社会	50.6%
	○ ジェンダー	44.8%
全国	○ 男女雇用機会均等法	79.3%
	○ 男女共同参画社会	64.3%
	○ ジェンダー	55.8%

【男女共同参画に関する用語の認知度 / 性別】（前回・県・全国調査比較）

(%)

		回答数	男女共同参画社会基本法	男女共同参画社会	玉名市男女共同参画推進条例	玉名市男女共同参画計画	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション	
全体	今回調査	1,083	27.2	48.9	7.8	12.4	63.1	15.6	48.5	8.9	
	平成28年調査	944	16.6	40.3	11.1	19.5	62.2	12.6			
	熊本県調査	1,178	18.8	50.6			62.2	11.8			
	全国調査	2,645		64.3			79.3	38.6		18.3	
性別	男性	今回調査	458	29.5	46.3	9.2	12.2	63.8	14.4	43.2	9.6
		平成28年調査	438	17.4	36.5	10.5	15.3	64.6	13.9		
		熊本県調査	472	23.7	55.3			70.6	11.2		
		全国調査	1,238		67.4			81.3	42.4		19.8
	女性	今回調査	618	25.7	51.3	7.0	12.6	62.9	16.5	52.4	8.4
		平成28年調査	502	16.1	43.6	11.8	23.1	60.0	11.6		
		熊本県調査	690	15.9	48.0			58.0	12.5		
		全国調査	1,407		61.5			77.5	35.3		16.9

		回答数	ジェンダー	アンコンシャス・バイアス	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	ワーク・ライフ・バランス	ストーカー行為	デートDV	見たり、聞いたりしたものはない	
全体	今回調査	1,083	61.5	4.3	71.4	57.4	24.1	82.6	29.6	4.2	
	平成28年調査	944	27.6		78.8	68.9	24.0	79.9		6.6	
	熊本県調査	1,178	44.8		3.5	38.9			23.4	7.1	
	全国調査	2,645	55.8				43.1			4.4	
性別	男性	今回調査	458	57.2	5.0	75.5	64.2	22.9	79.3	26.2	4.8
		平成28年調査	438	27.9		76.7	65.3	24.7	77.4		7.1
		熊本県調査	472	43.0		72.9	52.5			21.0	7.4
		全国調査	1,238	55.2				44.3			3.8
	女性	今回調査	618	64.9	3.9	79.8	79.0	25.1	85.4	32.4	3.7
		平成28年調査	502	27.5		80.7	71.9	23.3	82.1		6.2
		熊本県調査	690	47.1		71.7	61.6			25.7	6.7
		全国調査	1,407	56.4				42.1			5.0

※ 前回調査・県調査・全国調査で設定していなかった選択肢には斜めの罫線を引いている。

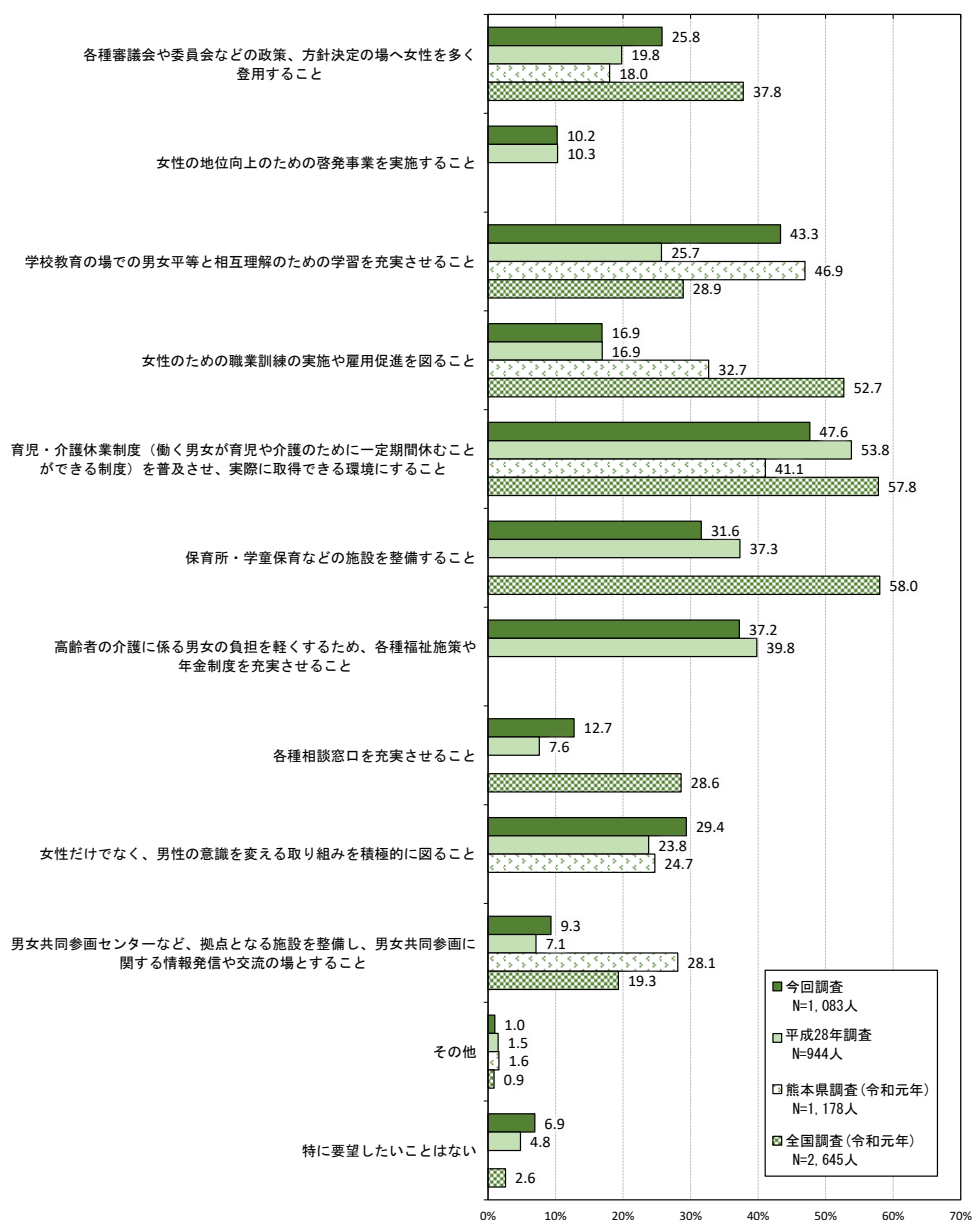
(2) 行政が男女共同参画社会形成のために力を入れるべき施策

問 28 玉名市が、男女共同参画社会を形成するために力を入れるべき施策は何だと思えますか。(〇は3つまで)

全体では、「育児・介護休業制度（働く男女が育児や介護のために一定期間休むことができる制度）を普及させ、実際に取得できる環境にすること」（47.6%）が最も割合が高く、次いで「学校教育の場での男女平等と相互理解のための学習を充実させること」（43.3%）、「高齢者の介護に係る男女の負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること」（37.2%）、「保育所・学童保育などの施設を整備すること」（31.6%）と続いている。

前回調査との比較では、「学校教育の場での男女平等と相互理解のための学習を充実させること」と回答した人の割合は17.6ポイント増と、前回に比べて特に増加している。

【行政が男女共同参画社会形成のために力を入れるべき施策】（前回・県・全国調査比較）



《上位回答》

今回	○ 育児・介護休業制度（働く男女が育児や介護のために一定期間休むことができる制度）を普及させ、実際に取得できる環境にすること	47.6%
	○ 学校教育の場での男女平等と相互理解のための学習を充実させること	43.3%
	○ 高齢者の介護に係る男女の負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること	37.2%
前回	○ 育児・介護休業制度（働く男女が育児や介護のために一定期間休むことができる制度）を普及させ、実際に取得できる環境にすること	53.8%
	○ 高齢者の介護に係る男女の負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること	39.8%
	○ 保育所・学童保育などの施設を整備すること	37.3%

【行政が男女共同参画社会形成のために力を入れるべき施策 / 性別】（前回・県・全国調査比較）

			の各種審議会や委員会などの政策、方針決定	る女性の地位向上のための啓発事業を実施すること	め学校教育の場での男女平等と相互理解のため	図女性のための職業訓練の実施や雇用促進を	す度の普及させ、実際に取得できる環境に	と保育所・学童保育などの施設を整備すること	
		回答数							
全体	今回調査	1,083	25.8	10.2	43.3	16.9	47.6	31.6	
	平成28年調査	944	19.8	10.3	25.7	16.9	53.8	37.3	
	熊本県調査	1,178	18.0		46.9	32.7	41.1		
	全国調査	2,645	37.8		28.9	52.7	57.8	58.0	
性別	男性	今回調査	458	29.0	12.4	41.7	17.0	38.4	32.3
		平成28年調査	438	24.0	10.7	27.4	15.3	50.7	37.2
		熊本県調査	472	21.8		47.5	33.1	39.4	
		全国調査	1,238	38.6		30.7	49.4	50.3	54.5
	女性	今回調査	618	23.6	8.7	44.7	16.8	54.7	31.1
		平成28年調査	502	16.1	10.0	24.3	18.5	56.4	37.3
		熊本県調査	690	15.7		47.4	33.0	42.5	
		全国調査	1,407	37.2		27.4	55.5	64.4	61.1

※ 県調査・全国調査で設定していなかった選択肢には斜めの罫線を引いている。

		回答数	高齢者の介護に係る男女の負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること	各種相談窓口を充実させること	女性だけでなく、男性の意識を変える取り組みを積極的に図ること	男女共同参画センターなど、拠点となる施設を整備し、男女共同参画に関する情報発信や交流の場とすること	その他	特に要望したいことはない	
全体	今回調査	1,083	37.2	12.7	29.4	9.3	1.0	6.9	
	平成28年調査	944	39.8	7.6	23.8	7.1	1.5	4.8	
	熊本県調査	1,178			24.7	28.1	1.6		
	全国調査	2,645		28.6		19.3	0.9	2.6	
性別	男性	今回調査	458	35.2	12.7	21.8	11.8	1.7	7.6
		平成28年調査	438	38.8	7.3	20.5	8.2	1.8	4.6
		熊本県調査	472			26.3	32.6	2.1	
		全国調査	1,238		29.4		21.0	1.1	2.9
	女性	今回調査	618	39.0	12.8	35.0	7.4	0.5	6.3
		平成28年調査	502	40.6	8.0	26.9	6.2	1.2	5.0
		熊本県調査	690			24.1	25.4	1.3	
		全国調査	1,407		27.9		17.8	0.7	2.3

※ 県調査・全国調査で設定していなかった選択肢には斜めの罫線を引いている。

問28 その他

性別	年齢	内容
男性	20歳代	しなくていいです
男性	20歳代	相続窓口や制度の周知
男性	30歳代	男女比が偏る組織を作らない
男性	30歳代	市の職員一人一人がお役所仕事という意識を捨て、誰のために何の為に働くのか責任を持った仕事をしてほしい
男性	30歳代	市議の質の向上
男性	40歳代	男性がもっと家庭的な事に目を向けるようにすること
男性	60歳代	男女共同参画という公的言語に重要性を感じない
男性	70歳代	玉名市中高生を対象に「特別授業」開催 講師加藤陽子先生 テキスト「それでも日本人は戦争を選んだ」
女性	30歳代	年配の方は引退する事
女性	40歳代	男性特に年配者の意識改革
女性	40歳代	SNSキーワードが何もヒットしない、探しづらい

問 29 男女共同参画についてのご意見（男女共同参画のためにできること等）、この調査に関する感想などがありましたら、ご自由にご記入ください。

最も多かった意見内容は、「男女共同参画について」で21.4%、次いで「この意識調査について」（19.8%）、「男女平等について」（12.2%）、「人々の意識に関すること」（6.9%）となっている。

【集計結果】

NO.	意見内容	件数	割合（%）
1	男女共同参画について	28	21.4
2	男女平等について	16	12.2
3	人々の意識に関すること	9	6.9
4	子育て・教育について	8	6.1
5	女性の参画について	7	5.3
6	自分らしく生きられる社会について	4	3.1
7	仕事と家庭生活の両立について	3	2.3
8	職場環境について	2	1.5
9	相談窓口の充実	2	1.5
10	新型コロナウイルス感染症の影響について	1	0.8
11	この意識調査について	26	19.8
12	その他	25	19.1
計		131	100.0

【項目別の内容】

■ 男女共同参画について

性別	年齢	内容
女性	30歳代	男性の育休をもっとすすめるべき。女性にしかわからない事や、悩みがあるため上に立つ者ももっと女性を増やすべき。子育てに対するもっといい制度が出来れば、もっともっと女性が活躍できるはず。
女性	60歳代	いろいろな分野でも男性がまだ優位で活躍されているので、多少は仕方ないかと思います。でも家事、育児などは多少今の若い人は男性でもよく手伝っているみたいで良いと思います。男女共同参画は完全には今の現状では無理があると思います。
女性	30歳代	男だから女だからではなく、女の割合を増すでもなく、出来る人がすることだと思う。上に立つべき人が上に立つべきだと思う。人として成長し、人としての意志を述べる。
男性	40歳代	男と女では知力の差はあまりないですが、視点は多少違うと思うので、そういうところを重視しつつ、やはり体力差はあるので適材適所を重視して仕事内容など割り振りをすればよい。男女差別は良くないが、体力差を女性が理解すべき。男女平等にして何が良くなるのか、何が悪くなるのか基本に戻って最初から議論すべき。
男性	20歳代	男とか女とか単純なグループわけをせず、人がそれぞれ自分の得意な事に対して十分な力を発揮できるような社会を目指すことが大切と思う。どんなに頑張っても女性は男性と同じ力仕事はできません。する必要もありますか。私はないと思います。出来る人がすればいいのです。ただ、したい人の事を出来ないと責めたり、排除したりしてはいけません。出来るようにいろいろと手を尽くすのが政治だだと思います。育児は親が3歳まではした方が良くと思います。愛情いっぱい育てるべきです。その方が子供の特性も早くわかり(発達障害など)教育・育児の方法もその子供にあわせた方法をとることが出来、可能性を広げたり才能を引き延ばすことになるからです。その間、どちらかの親が仕事を休んだりやめたとしても、その後再び自分がしたい仕事に戻り、キャリアや収入に影響が出ないようにする事が政治の力だと思います。まずは教育です。そして、社会にロボット・デジタルなどどんどん最新の技術を導入し、労働時間の短縮、労働手数の短縮、仕事量を減らし教育や医療、介護など人間が必要な場には人を投入できるようにしていき、なんでもかんでも平等ではなく人が自分を大切に、周りの人も自分と同じように大切にすることが平等ではないかと思います。このアンケート、昨年もきました。家族の中でも私だけです。なぜですか？調査方法がわるいのでは？
女性	40歳代	教育に携わる側の意識が低いと思うことがある。子どもから聞く話に不平等差があると話が出ることがあるため。「男女共同参画」が全体的に知られていない様に思える。情報が少ない。
女性	60歳代	正直、このアンケート調査が届くまで男女共同参画についてあまり興味がなかった。広報での記事もただ読むだけであっていた。現在60代の私は18歳で就職したところは多少なりとも男女の格差は感じつつも、自分の意見を言える場所や自己啓発の機会を与えてくれる職場だった。幸か不幸か我が家には子供が出来ず、「子供を作らずに仕事ばかりしていることに人間として一人前でない」と偏見の言葉も投げかけられたが、夫や職場の仲間の協力と支えのおかげで27年間楽しく過ごすことが出来、ちょっとだけ管理職もさせてもらった。今は自営業の夫を手伝って生活しているが、女性が決して不遇されているとは思えない。逆に男性の方が女性優先で存在がちいさくなっているようで老女が思うにちょっと可哀想。世の中色々な人がいるので何とも言えないが、男女共同参画というメッセージを発信しなくてはいけない現状がちょっと寂しい。お互いがそれぞれの価値を認め合ったらいいのと思う。
男性	70歳代	将来的には早くこのような男女共同参画についての推進などが笑い話になるような時代となるように望みます。
男性	50歳代	女性がより活躍できる社会というのは良い事だと思うし、活躍したい人の行動を阻むような問題は改善されなければならないと思います。ただ、男女共同参画の推進という言葉で何が変わるのかよくわかりません。男女の賃金格差は未だ大きいと耳にします。活躍できる人は身体を壊さないで存分に頑張って、活躍できない人も見捨てられないような社会になって欲しいと思います。この度は男女平等とは何かについて考える良い機会になりました。ありがとうございました。
女性	30歳代	性別に関係なく能力で評価される社会になること。男女にかかわらず育児・介護などで仕事に影響する場合、多くは他の従業員(現場の人)の負担も増加する。そのことを雇用者側が理解するように努める事なども必要だと思う。
男性	20歳代	祖父祖母の代、父母の代、そして私達夫婦の代、家事・育児に関する男女共同参画は良い方向なのかなと思う。もっと若いころから意識改革が重要と感じました。
女性	30歳代	男女共同参画、この名称はジェンダーの方からしたらどうなのでしょう。
男性	60歳代	男女共同参画が都会の都合の良い男女平等の言い訳にならないように対策をとってほしい。
女性	30歳代	男女共同参画推進は難しいと思う。女性は独身の時には仕事に集中できるけど結婚し、子供がきたら思うように働けない人もいっぱいいる。玉名は保育園も空いていないし、働きたくても出来ない人もいます。そこを改善してほしい。女性が働きやすい会社は田舎にない。どこも人手不足で雇うのだから子供の発熱などでしぶしぶ休むなどすると嫌味を言われる。仕方ない事だと思う。それとLGBT問題は、田舎では特に理解されないと思う。年配の人は特に変人とか思わない。仕方ない事だと思う。強く生きるしかない。

女性	50歳代	男女共同参画という機関ができてしばらくした20年ほど前に小地区の委員として多少関わらせていただきました。田舎になるほど、また中年以降になるにつれてその意識はあまりなく、なかなか浸透するのは難しいだろうと思っていましたが近年ようやく変わりつつあると感じています。今後もすべて男女変わりなく…というのは難しいと思いますが、性別関係なく社会で生活していける時代になるように願います。
女性	60歳代	男女共同参画という言葉がもう少し馴染みやすい言葉で表現できないかなと思います。
女性	40歳代	男女共同参画の言葉だけ一人歩きしているような気がします。女性の地位は昔に比べてたかくなったというものの、現実男性と女性の賃金格差もまだあるし、女性は無理せず腰かけ程度に働いとけばといった考えもまだ年配の男性にはあるようだ。女性も男性に家事などを任せてやってほしい気持ちはあっても、させてみてもつい結局自分がした方がと働くことも。収入は増えるにしても男女フルタイムでの共働きは大変。男女双方意識&働き方改革、努力忍耐がなければ共同参画は厳しいと考えます。男女間の性差は永遠のテーマ、絶対埋められないと思います。
男性	20歳代	男女共同参画はいりません。金の無駄です。男女は同権だが平等には絶対できません。そもそも身体づくりが違うのだから。平等というなら女性専用車両とかいらないでしょう。女性にも仕事とを言いながらホワイトカラーの仕事しかしてないでしょう。ブルーカラーの仕事している女性ほとんど見たことありません。男女平等というなら全部隅々まで徹底的に平等にしてください。絶対矛盾がでてくるから。
男性	70歳代	男女共同参画を推進する中であって権利は主張するが義務を果たすことの重要性を教育すべきと考えます。中国などにおいては男女が本当に均等に扱われています。ただし、女性特有のことについては別途配慮すべきですが。
男性	40歳代	男女共同を推進するためにはもっと若者が働けるように雇用を促すような施設を作ってほしいです。
女性	60歳代	男女それぞれの良さ(個性)を仕事で活かせることは大切です。残念ながら熊本では未だに男尊女卑の考え方を持つ人が多い様に思います。男・女関係なく個々の能力を正確に把握し適材適所活躍の場を与えてほしいと切に願います。さらに、保育所・学童保育の施設の充実は迅速に取り組むべきことと考えます。
女性	30歳代	男性と女性では役割が異なるのでなかなか難しいとは思う。(どうやっても男性に子供は産めないし、母乳もあげられないので出産時期は女性は産休を取らざるを得ない)ただ産休、育休をとったことにより出世に響くのはやはり好ましくないと思う。(必ず必要な休みなので考慮してほしい)また職業によっても男女、LGBT差別のないよう採用してほしい。仕事をしている女性でも「結婚して辞めたい」と考える女性も多いので、まずこの考えをなくす方向にする。環境を整えなければならないと思う。(学校や家庭での教育)
女性	70歳代	都会より地方は女性の地位がまだまだ低いように感じます。
男性	70歳代	日本はかつての「男尊女卑の男社会」からまだまだ欧米には及ばないものの、「男女共同参画社会」へと変貌しつつあります。これは関係の皆さんのたゆまぬ努力の賜物です。今後とも男女それぞれの能力・個性を生かした男女共同参画に関する各種の取り組みが推進され、住みよくて誇れる日本になることを期待します。育児休業手当(3年間の法制化1, 出産後1年目100%保障、2~3年目80%保障2, 育児休業からの適正な職場復帰3, 自営業者に対する育児休業手当の充実。
女性	30歳代	前に比べ、今の子供たちは男だから女からの意識はないように思います。周りの大人が男女共同参画を意識しなければいけないと思います。子供たちに昭和な考えを植え付けないようにすれば世の中は変わると思います。まずは、女性首相を誕生させることからではないでしょうか。あと男女半々の黨員にする。同性婚を認める。男女共同参画の推進はそれからです。上が変わらないと下は変わりません。
女性	40歳代	私が勤務している会社は女性の育休後の対応等もかなり手厚い方である。以前よりいろんな意味で良化しているのは事実だが、生活している地区やその他ではまだ男性が優遇されている感じである。
男性	30歳代	私が個人的に思うことだが、熊本は男尊女卑な考えが強い所だと思う。特に高齢者の方々が男は外で仕事、女は家庭を守ることが当たり前ということを耳にする。女性は家事・育児を全面的に負担する事が当たり前のような事を言う。そのようなことは、現代社会においてふさわしくない差別的なのでは?と考える。特に高齢の祖父母と共に同居していると「風呂は男が先、女は後」「飯は男が先、女は後」のような正直どうでもいい慣習を押し付けてくるため家庭内トラブルになることが多々ある。すべての高齢者が現代社会にふさわしくない考え方をしていると思わないが、一部の人間がそのような発言をしている事は事実。子供や若年者は学校教育により、男女共同参画について学んでおり、理解は進んでいると思われる。男女共同参画を推進するためには全人口の半数を占める高齢者の再教育、または理解を促す活動を行うことが必要なのではないだろうか。だが、問題はそれだけではない。男女共同参画というと「女性側の問題」と思われるところがある。しかしこの課題は「男性側の問題」でもあると思う。男性の多くは性別分業の発想から脱却出来ていない。世の中の男性たちの意識と生活スタイルが変わらなければ男女共同参画は進まないのではないだろうか。女性の中には高い能力を持つ人も多くいる。そのような女性の持っている力を見抜き、女性一人一人が活躍できる社会形成を進めないとならない事を男性たちに正しく認識してもらう必要がある。
女性	50歳代	アンケートに答えながら、自分の中にもまだまだ男女の役割や社会的地位などに対する偏見があることを感じました。日常の中でも時折考えていくことが必要であると思いました。

■ 男女平等について

性別	年齢	内容
男性	40歳代	「レディースデー」や「女性専用車両」などの女性優遇の制度を利用しておきながら「社会は男性優遇だ」と感じている女性が多い事を滑稽に思う。自分たちに有利有益なことはそのままにしておいて不利なものを改善しろというのはいかがなものか。上記を例に挙げるならレディースデーや女性専用車両の撤廃・廃止、もしくはメンズデーや男性専用車両の設立・設置をすべきではないだろうか。他に女性立ち入り禁止の土俵や島があるが、そういう古くて無意味な物をなくすべきではないだろうか。現実を見ると男女平等の社会はまだまだ先の事だと思う。
男性	60歳代	男と女性は身体づくりが違うように格差は生じると思う。
男性	30歳代	結果平等は不要。機会平等の社会になっている。
女性	60歳代	現在年金をもらって働いている方がたくさんおられます。60～70過ぎて介護もされています。収入面でも男性の方とはぜんぜん違います。早く男女平等になって欲しいものです。
女性	50歳代	公的機関での男女平等は制度面でも待遇でも進んでいると思います。個人の意識の差はあると思いますが、制度で守られている場を多く感じます。民間は啓発の機会が少ないのか女性自身がおかしいと感じていないのでは？と思う場を会話の中から感じました。中小企業の中にも慣れあいをよしとし、変化を望まない雰囲気があるのではないのでしょうか。公的機関にしてもらおうということの意識こそ変えるべきです。
男性	60歳代	このアンケートの調査は大変意義ある事だと思いました。男女平等に対する意識改革になりました。私たちの組織でも（地域資源保全会）積極的に女性を登用して意見を尊重したいと思いました。
男性	70歳代	自然界における男女の役割はあると思う。あまりにも社会的に神経的に考えない方が良くかもしれない。女性も昔から活躍していたでしょう。ただ情勢を守るのは男性です。男性の野性味とやさしさです。
女性	30歳代	少しでも男女平等になり、過ごしやすくなるように願っています。
男性	50歳代	男女平等だからといって議員の数を男女同じにしなければならないなどはナンセンスかなと思う。一般人の目では男だろうが女だろうが関係なく有能な人がやるべきなのだ。そのとき、有能な人が男しかいなければ男だけ100%でもいいし、女しかいなければ女100%でもいいのである。「男女平等だから人数も男女議員は同じね」というのは平等という名の悪平等でしかない。
女性	50歳代	男性女性の格差がなくなる世の中になることを願う。学校教育の場だけでなく、地域社会、政治の中心全体の意識改革がまだまだ不十分で、より良い未来が築けるような行政にしてほしい。
男性	60歳代	問20で記入した通り、男女には身体的差がもともとあるのだから、これを均一に考えないでいただきたい。現実には、ホワイトカラーは女性が多く、肉体労働のブルーカラーは男性が多いということは、まさにその差を補うための就労と思える。女性が働く場とはホワイトカラーの職場をより多く準備してあげることで、どんな仕事でもよいわけではない。そこを踏み違えてはいけない。
男性	50歳代	何事にも男女平等で分け隔てのない社会づくりが出来るようにしていけたら良いと思います。
女性	30歳代	日本は先進国の中では「男女平等」がおくれているほうであるし、日本の中で地方である玉名はより遅れています。私自身は玉名へ移住して2年ほどになりますが、以前東京にいたころより自分のキャリアを大切にしている女性が少なく感じています。それは色々な要因があるのですが、小さな子供を持つ女性が自分のキャリアも追及していくことが「悪」のようにとらえられているようにも感じます。例えば私も小さな子供がいて、正社員として働いていますが、だいたい言われるのは「大変ですね」です。本来、女性は女性らしく、男性は男性らしくというのは「そうあるべきである」と世間が勝手に押し付けているものであり、結婚するのもしないのも、子供を産むのも産まないのも個人の自由であり尊重されるべきです。多様な生き方を認める社会になることでマイノリティーの人達が暮らしやすい社会になります。女性は女性らしく子供を産んで家庭に入るべきではなく、子供を産む事は女性にしかできませんが、主婦は主夫でもよいわけです。共働きであれば家事、育児は半々であるべきです。それがあたりまえになれば一人ではなく二人子供を産みたいと思う女性が増えるかもしれません。
男性	70歳代	一年一年過ぎるのに男女の格差はなくなっていると思えます。私は結婚は出来ませんでした。男性に出来て女性には出来ない事があり、また反対の事もあると思います。女性の社会進出を大いに希望してやみません。70代になりましたが、介護の分野では女性の人が多いですね。男性も昔から我が強くて女性に対する理解が出来ずにいます。（私の場合ですが）女性の人も声をかけてくれたらと思っています。アンケートは難しかったです。
女性	40歳代	法的社会的には性別などの平等化は進んできていると思う。能力では性別などの差別をするべきではないと思う。性別問わず、体質や障がいなど個人差があることに対応出来るように、そういうことをマイナス面として排除しようとする社会ではなく個性としてプラスにできる社会になってほしい。性別に関係なく、思想・考え方で役職が決まって欲しい。
女性	50歳代	難しい問題だと思います。質問の答えになっていないと思いますが、私の母が施設にお世話になっていたとき、お風呂介助やトイレ介助に男性の方が入られると不安そうな、悲しそうなお顔をしていました。私もその立場になったら絶対に嫌だと思います。男女平等はとても良いと思いますが、それはそれでとても大変な事だと思います。

■ 人々の意識に関すること

性別	年齢	内容
男性	60歳代	各人が他者への思いやりを推進し、協同して前向きに取り組むことが大事ですね。
女性	30歳代	個人で色々な考え方や性別があり、差別などを受けなくて自由に意見を言えたりする環境作りや意識改革。
男性	50歳代	女性の社会進出として、多くの女性が自ら考えている人が少ない。
女性	20歳代	そもそも男女間での意識の違いが大きくあると思う。女性は出産育児と仕事を両立させようとするために若いうちから将来について真剣に悩むが、男性は悩まない人が多いと感じる。悩むことが正解というわけではなく、女性の方が悩んでしまうというこの意識の違いをどうにかしないことには男女共同参画は実現しないのではないかと思います。そのためにも小学校などの小さいうちから平等であって差別する事は間違っている。性差なんてないという意識になるように教育に組み込んでいくことが求められると思います。意識の改善で男女平等は大きく進むのではないかと考えます。
女性	70歳代	男女平等と言われているが、家事・育児・介護など女性に負担がかかっているのが現状だと思います。負担を少しでも軽くするためには、男性の意識をかえてもらいお互いの協力が必要だと思います。
男性	30歳代	日本においては女性に「自分が家計を支えるんだ」という意識が低い。(結婚相手に自分より高い収入を求めている事からもわかる)男性もそれをわかっているし、結果的に女性のリーダーが出て来ない。
男性	60歳代	先ず女性が意識改革し、周りは温かく見守り協力する事。
女性	40歳代	約30年ぶりに玉名市に戻り就職もし、生活し2年になるが、都市部との意識の差に日々驚くことが多い。何が一番ネックか考えてみるが、やはり高齢者の男女に関しての意識に低さが幅を利かせていると思う。子供の教育でしっかり性差で差別される(区別)ことが無い社会にしていかなければ若い人は益々住みづらい町になると思う。何よりこのようなアンケート自体びっくりした。質問の内容も個々の多様な考え方、生活様式というものも考慮されておらず、製作者側もどっぷり男女差別の中に入り込んでいるということにも疑問を持った。
女性	60歳代	若いころ「ウーマンリブ」が叫ばれていましたが、時代は変わったなと思います。若いころから刷り込まれた意識はなかなか変えにくいと思います。

■ 子育て・教育について

性別	年齢	内容
女性	60歳代	これまでの慣習がすぐ変わることは不可能です。だからこそ幼少期からの教育が絶対必要だと思います。男女ともに働く社会を創るならば、考え方、行動も変わらなければ日本の社会は成り立たないと思います。
女性	60歳代	女性が仕事をもって子育てをするためには、周りに手助けしてくれる人材が必要です。送迎など積極的に頼める人材や事業所が大切だと思います。我が家でも学校の送迎、病院、塾など祖父母の補助が不可欠です。母親は熊本市内に努める看護師です。祖父母がいなくても何とか育てていける施策を考えてほしいものです。よろしくをお願いします。
女性	40歳代	全ての人の意識改革(教育)が全てだと思います。
女性	60歳代	男女ともに自分がどのような人生を歩みたいかそれを考える事が出来る人(子)になって欲しい。そのためには学校での教育(幼稚園、保育園から段階的に)が必要と思う。様々な選択が出来る社会、認める社会であって欲しい。
女性	40歳代	共働きですが、子供が病気の時はあるいは学校などの行事の時は休むことが出来ません。また災害時預け先がなく困ったこともありました。安心して働くためのサポート支援の充実をお願いします。
男性	60歳代	保育所・学童保育の施設が特に玉名は少ないと聞きました。待機児童が多いとも聞きますので整備を宜しくをお願いします。
女性	40歳代	保育所職員の質を高めてほしい。安心して預けられる場にしてほしい。
男性	60歳代	まずは幼少の時から教育を変えなければ考えは変わりにくいのではないかと思います。

■ 女性の参画について

性別	年齢	内容
男性	50歳代	各種委員などの選考に際して、女性枠を設ける事については好ましいとは思わない。性別にかかわらず能力のある人が登用されるべきであって、性別を前提に考えるのはおかしいと思います。意識を変える事が必要であり、そのためには学校教育が重要になる。時間が掛かる問題だと思います。
男性	60歳代	自身の地域を見ると役員になる女性が少ないと思う。これらは昔ながらの男性中心的な慣習が依然として残っているのと、女性自身の向上心が少ないように思われる。さらに、玉名市各地域の区長を見ても、ほとんどが男性となっており、これらを見ても女性自身が多忙なのか、意識の向上がないのか、環境が整っていないのかわからないが女性区長の誕生が望まれる。
女性	60歳代	市政に女性の参戦しやすい環境。古い考えを持ち続ける人材と若い世代との交代を早く進め、新しい時代へと進む。公的機関の建物の内容も女性や高齢者にとって不親切な作りが多い。もっと考えて作るべき。女性の意見をもっと入れるべき。
女性	70歳代	十数年前に大牟田から転居しました。福岡と熊本の学校の雰囲気が違っていました。女性管理職に対する嫌悪や反感。自分の考えや思いを言うことに対する男性教師、全員ではないが校長の反感が伝わってきました。私は管理職ではありませんが、熊本の風土なのかな？と感じました。地域活動でも無言での「女は前に出るな」という感じを受けました。熊本は自然も豊かで素晴らしい所です。緑もいっぱいです。農業の担い手が力仕事の男性が主だったので。その流れがあるのかもしれませんが…長く深く意識下にある女性を見下げる気配。これからの発展と意識が変わっていくには何が出来るのか？と…新しい若い人達の教育、人権意識ではないかと思います。今までも女性が支えてきている部分は大きいです。女性が組織のリーダーになること、そのリーダーを支えていく男性があり、ともにより良い社会を作っていけたら良いと思います。
男性	60歳代	多様性が求められる社会においては女性の視点からの意見が必要であり、これまで以上に女性の参画が必要。男性女性ということではなく、平等の社会であるべきである。業種にもよるが、経営者の意識改革が必要と考える。玉名市における女性の登用率はどうか調査なども行ってはどうか。少子高齢が進む中で、経済の衰退を止める為に玉名市として男女共同参画の推進は重要である。その為には企業だけに求めるのではなく、福祉行政をセットで進める事は言うまでもない。
男性	30歳代	もうすぐ選挙ですが女性は何人当選されるのでしょうか。
女性	40歳代	日々の仕事の中で、女性は有期雇用として働くことが多く、昇給がなかなか認められません。能力があっても昇給するには男性以上の働きをしなければ認めてもらえず、家庭との両立で働きづらくなってきています。有期雇用として数年(最高3年)働いたならば職員として認めていかないと労基にも指摘されるのではないのでしょうか。いろいろと検討され男女共同と言われてはいますがまずは職場、社会が人を大切にすることを推進していくことが基本かと思います。

■ 自分らしく生きられる社会について

性別	年齢	内容
女性	30歳代	LGBTだけでなくA（アセクシャル）があることも理解される社会になって欲しいと思う。アセクシャル＝無性愛者一人一人が自分らしく生きられる世の中になったら素敵だと思います。そのためには偏見を持たず、たくさんの方が理解できるようになるのが大切でしょう。誰だろうと本気で好きになれることは素晴らしいことです。男同士、女同士が気持ち悪いとか、男らしい女らしいという考えがなくなれば良いと思います。
女性	70歳代	LGBTまさしくこの世の中にその人達を保護するのも良しだが、少子化社会に現実に向かい合った社会現実に出産率を高めましょうと傍らLGBTの相談窓口の設置するなどちぐはぐで賛成できない。
女性	60歳代	自分らしく生きやすい社会に慣れたらよいと思います。
女性	50歳代	女性が男性になりたい、男性が女性になりたいと意見を言うこと、何も恥ずかしくないと考えます。素はすべて人間です。そうであるべきと考えること自体もう古いのでは。LGBTのニュースを見るたびに思います。人はすべて平等で幸せであるべきだと考えます。

■ 仕事と家庭生活の両立について

性別	年齢	内容
女性	60歳代	家庭を持つ男性が家事・育児・介護・仕事をすべてこなせる社会になれば女性も同様に仕事をこなせるようになると思います。支え合うシステムづくりを世界に先駆けて示してほしいです。
女性	30歳代	女性にばかり求めないでほしい。一番は男性が出産や育児に興味を持ち、奥さんをフォローして理解してくれないと(女性の立場を)共同参画にならない。職場以前に家庭内でやったことのない人に話は通じないと思う。
男性	30歳代	育児などは女性だけでなく男性も取りやすい社会にしないと変わらない。会社に勤務する会社員である以上、人事異動の内命ができれば従わざるをえない。その結果女性が仕事をやめるなどにも繋がっていると思う。

■ 職場環境について

性別	年齢	内容
男性	70歳代	女性が働ける職場を作してほしいです。
男性	40歳代	男性の意識の前に各会社の意識を変える必要があると思うし、男女共同というより女性優遇に聞こえる部分もあると思う。女性でも両立させている方もおられるし、社会が変わっていくことで人は変わると思う。

■ 相談窓口の充実

性別	年齢	内容
女性	60歳代	相談窓口を充実させて、意見を集めてから対策を急ぐところから手を付けてほしいです。困りごとがあってもどこで相談して良いかわからない。また、行きづらいつわられました。相談が気軽にできる環境があれば対策や改善も早いかなと思います。
女性	60歳代	男性女性関係なく個人が得意な方がそれをする考えです。また、相談窓口がわかりやすく、沢山あれば良いかな。すると皆生活しやすいと思います。

■ 新型コロナウイルス感染症の影響について

性別	年齢	内容
女性	20歳代	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、妊娠健診や出産に立ち会うこと、母親学級への参加など、男性が父になる自覚が芽生える機会が減ったと思う。

■ この意識調査について

性別	年齢	内容
男性	20歳代	アンケートについて設問数がやや多いと感じました。60~70代の方は負担感がある量だと思いました。
女性	50歳代	今まで玉名市における男女共同参画についての認識がありませんでしたのでこの意識調査のとりくみは素晴らしいと思いました。性別に関係なくみんなが生きやすい社会、個性が尊重される世の中になって欲しいと思います。
女性	40歳代	紙による調査だけでなく、QRによるデータ読み込みで回答できるなどすると集計も楽にでき、仕事の効率化が出来るのでは？両方のパターンが可能にするなどいかがでしょうか？
男性	70歳代	基礎資料だけで終わらないように。
女性	40歳代	このアンケートを役立てて改善していただければいいのですが、今現在でもつらい思いをしている女性もいると思います。何か変わるかもしれないと期待させるだけでなく確実に、素早い改善策が出来れば良いと思います。
女性	60歳代	時間をさいてまでアンケートに答えました。(30分) この中の1つでも玉名市が実現されること期待しています。アンケートに希望する施策を出しすぎる。もう少し絞った箇条書きにするべき。最初から実現難しいと思うから。これを全部実現させてくれと市民から本気で要望があったら出来ない事は目に見えているでしょう。私は率直によく読みましたが、他の人が果たしてよく読んで内容を理解するのか、何のためにやるのかをわかっているのか？次回からは簡単にわかりやすい内容をお願いします。
女性	30歳代	質問が難しくてどれに丸をつけたらいいかわからないものが多かったです。
女性	60歳代	質問自体がそもそも男尊女卑を感じられます。

男性	30歳代	女性の進出や登用を増やすべきかとの設問があるが、女性を増やすべきかどうかを考えるのは視点がずれていると感じる。まっとうに評価されて女性が増える(役職など)ぶんには良いが、男女共同参画のために女性を増やすのは間違いだと思う。女性労働者への正当な評価がなされていると世の中が感じているかどうかを確認するようなアンケートにされてはどうか。
女性	30歳代	積極的にこのような意識調査を行うことは大変良いと思います。今後も継続していただきたいです。型にはまらない就業の仕方が広まれば男女性差なく個人のやりたいことの実現などが容易になるのではないかと思います。小中での義務教育のカリキュラムに必須として追加しても良いのではと思います。小冊子を作成し、理解を深める為に、各家庭に配布する事も良いと思います。
男性	40歳代	設問が多い。
女性	30歳代	そもそも男女を形式的な平等に揃えるのはナンセンス。働きたい女性は働けばいいし、働きたくない女性は養われる道を選ぶことがあってもいい。働き手が少ないからと言って女性を無理に駆り出すことで少子化が進んでいる。働いていない女性は悪いとすらとれるこの意識調査にこそアンコンシャスバイアスがあるのではないかと。
男性	30歳代	大切な事だと思うが内容が多く、だんだん面倒になってくる。
男性	60歳代	大変良い事だと思います。このアンケートがこれからの市政に生かされることを望みます。
男性	50歳代	調査ご苦労様です。行政で実施される各調査方法に関してのお願いなのですが、各種webポータルサービスなどを使用したスマートフォンやPCによるインターネットを介した方法も積極的に取り入れていただければ有難いと存じます。60歳代以上の方は、紙でしか回答できない方が多いと思いますので、紙とweb併用も調査によってはやむを得ないと思いますが、60歳未満世代は各種調査でもデジタルデバイスの日常生活における使用頻度が非常に高い世代であり、解答には全く支障はないと思います。デジタル化による行政活動の効率化と行政サービスの迅速化に玉名市役所全体で取り組んで頂きたいと思ます。
男性	30歳代	問1と4は男女差別になりませんか？1は女性を多くより、男女の比率を同じにすればいいと思う。女性の人数が男性より多くなった場合、男性が女性の意見に流されることだってある。4は男性の為の訓練は？
男性	60歳代	問2 1の件、農林水産業の経験がないため具体的に答える事は出来ません。
女性	50歳代	内容が難しかった。
男性	20歳代	プライベートが忙しいので質問の量を減らすかこれを送ってこないでほしい。
女性	30歳代	ペーパーレス、SDGsの中この紙は無駄だと思います。
女性	70歳代	勉強不足のため返答が難しかった。
女性	50歳代	まだこんな調査してるのか〜と残念。
女性	70歳代	無作為に選ばれたとはいえ70才を過ぎた私には少々負担に思えるアンケートでした。男女共同参画ということも初めて知りました。こんな回答で参考になれば幸いです。
男性	30歳代	より綿密なアンケートをしたいことはわかるが、内容をもっと簡単に答えられるようにしないと気軽にできない。途中で疲れるし、考えてしまうので気が重くなる。
男性	60歳代	2000人のアンケートで終わらず、もっと多数の市民へのアンケートでデーターをとり、広く広報玉名他で市民へ知らせてください。
女性	60歳代	この調査をされる時年齢を考えられたのかなと思いました。まず思ったことは、「なぜ高齢者の私が…」でした。ですので、私自身の子や孫の為にと思ってお答えしました。働き盛りのもっと若い方へのアンケートがよろしいのではと考えたりもしました。昔ながらの考え方がヒョイと頭をかすめ、お役に立つ意見もあまりなく申し訳ない思いで書き進めたというのが本音でした。アンケートをまとめたりされるのですね。お疲れ様です。

■ その他

性別	年齢	内容
女性	30歳代	男性も一度出産を経験して、子供とずっと一緒にいるという事をしてみたいらしいと本気で思う。子供をもっと大切にしたい。特に私の親世代は「男は～、女は～」とよく言う。この言葉は嫌い。
男性	30歳代	「性」という枠にとらわれすぎず、人として思いやりのある社会に多様性、寛容性のある社会になることを祈っています。
女性	60歳代	あまりにも時代が変化してついていけません。今の時代は良いけれど段々と優しさがなくなっていく気がします。
女性	70歳代	アンケートに参加させて頂きましたこと本当に良かったと思いました。いろいろ勉強になり、自分自身幸せなんだなと思いました。
男性	60歳代	今頃やってもしょうがないのでは？
女性	70歳代	今は近隣同士でも声をかけられない時代。昔みたいにおせっかいばあさんがいなくて寂しいです。子供たちにも声をかけづらいです。
女性	30歳代	鉛筆は持っています。つけなくてもよいと思います。
男性	60歳代	介護と仕事で数年苦労しているので住みやすい玉名市になって欲しい。
男性	20歳代	健闘を祈る。
女性	40歳代	今回のアンケートでも「女性が」「女性のため」「女性の」など女性という言葉が多い事がまだまだ男・女に差がある世の中なんだなと感じました。男女共同参画という言葉はずいぶん前からあるのに進んでいないのかと思います。もっとわかりやすく国民にお知らせする方法をしっかりと考え、男女差のない世の中になればと思います。近年思うことは「女性専用」はOKなのに「男性専用」となると「女性差別だ」など女性を優遇しすぎの傾向があると思っています。あくまで男女差のない事と望みます。
女性	60歳代	今度はモニターに選んでいただきありがとうございます。これを機会に「世の中にある差別」本当にたくさんあります。人種差別、性差別、障がい者差別、部落差別などなど心の中にある自己の気持ちと向き合い、常に金子みすずさんの「みんな違ってみんないい」をこれ心情にしたいと考えています。
女性	70歳代	最初から財布を私が握っています。男と女と関係なく財布も握っている人が強いと思います。楽しいです。
女性	70歳代	女性が働きやすい保育所や学童クラブなどの環境の整備と保育士さんの待遇をよくして頂きたいと思います。また、学校教育の場で偏見や差別について子供たち自身に考えさせ、家庭においてももう少し政治、経済、性別の役割分担などについて話し合ってもらいたいと思います。現在あるスポーツサークルにはいっておりますが、たまにはあります。が休憩中にアンケートの内容のお話をさせていただくと白けてしまい残念です。
男性	30歳代	女性の立場を向上させることはとても良いことですし、まだまだ男性より女性が活躍している場が多いのもっと女性の立場を考える事は大切だと思います。ですが、ここ最近思うのは、女性の事を慮っている事が多く、男性の事を置き去りにしているのかと感じる事も少ないですがあります。女性の事を考え、様々な施策をすることは現代の世の中で必要な事だとは思いますが、男性の事も少し考えてほしいと思います。
男性	70歳代	住みやすい玉名市となってほしい。
男性	50歳代	前例がないので無理できないのでは変化はしないと思います。チャレンジしながら修正して進行する事も良いと思います。労働力の低下で一方的や年配者への負担をしないようにする事も大切だと思います。
女性	50歳代	互いに思いやり、感謝がないと人間関係は難しいと思います。子供達は個性を伸ばしてあげてほしいし、大人が子供を守ってあげられる玉名であってほしい。
男性	50歳代	玉名市内にある各企業、個人経営企業などへ個々の事業所で実際に実施している事を報告していただき、報告がない所は行政指導を行う。
男性	30歳代	多様性が求められる時代なので、色々な意見があっていいと思う。
女性	60歳代	人として幸せな毎日が過ごせるように願っています。
男性	30歳代	保身のため回答はひかえさせてもらいます。協力はしたいのですが…テクノロジー犯罪の被害にあっていますのですいません。
女性	60歳代	両親が国家公務員・地方公務員（教師）でしたので父は家事も手伝い、母は経済的に自立していたので私の家庭は数十年前から男女共同参画でした。私は東京で大学生活（4年）を過ごし、そのまま就職、結婚して4年前に40数年ぶりに帰郷している所です。それで玉名・熊本県内のことはほとんどわかりません。以前夫の転勤先の名古屋市内に住んでいたころ（20年程前）名古屋市役所でお仕事したことがあり、市のイベントで「男女共同参画」へのセミナーがありました。その時地域の有力者で高齢の男性が怒って帰られたことがありました。その後世の中も変わって少しは浸透しているかとは思いますが…今玉名で生活して、若い人たちと後期高齢者の考えの差があるように思えます。共働き家庭でも家事は女性がすべきの考えの方が多く感じます。よくも悪くも昔からの考えが続いている方が多いのにも驚いています。
女性	60歳代	老若男女関係なく、みんなが相手を思いやり、支え合って生活を楽しくできるような環境作りを切に望みます。
男性	60歳代	私の生活地区は年配の人が多くいます。戦後すぐの教育で年よりは偉いと思っている人が多くいます。へきへきしています。
男性	60歳代	国策レベルとなると思いますが、給与130万の壁が社会進出を拒んでいると思います。厚生年金の本人と3号被扶養者の格差(同一にすべきでないか)。

第 2 部 中生意識調査

第2部 中学生意識調査

I. 調査の概要

1. 調査の目的

玉名市における男女共同参画社会の実現に向けて、「第4次玉名市男女共同参画計画」の策定にあたっての基礎資料として活用するために市内の中学生を対象に男女共同参画に関する意識調査を実施した。

2. 調査項目

- ① 回答者の属性
- ② 男女共同参画に関する意識について
- ③ 将来のことなどについて
- ④ 家庭生活について
- ⑤ デートDVについて
- ⑥ 自分らしく生きられる社会について
- ⑦ 男女共同参画社会の推進について

3. 集計分析上の注意事項

- ① 集計は少数第二位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ② 回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- ③ 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。
- ④ SQ、SSQは、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して、続けて行った質問である。
- ⑤ 文中の選択肢は、評した「」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は、『』とした。
- ⑥ 表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮または簡略して表記している場合がある。
- ⑦ 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

「玉名市男女共同参画に関する市民意識調査」 平成29年3月
報告書では、「前回調査」として標記している。

II. 調査結果

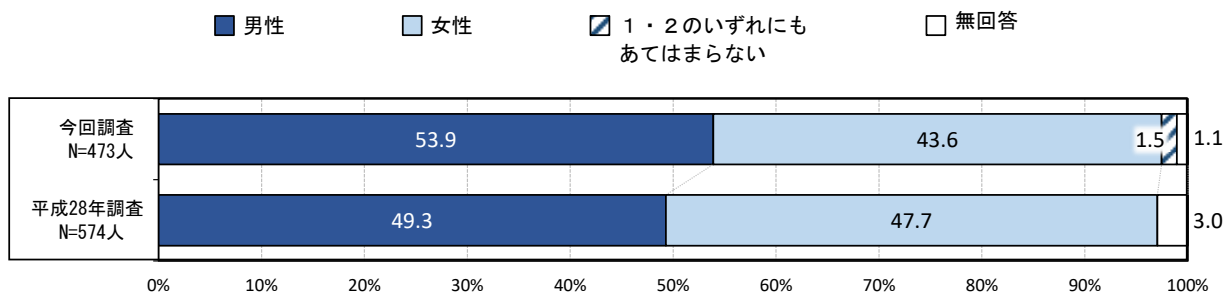
1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

回答者の男女比は、男性が53.9%、女性が43.6%と、男性がやや多い。

【性別】(前回調査比較)



※ 前回調査では「1・2のいずれにもあてはまらない」の選択肢がなかった。

【性別】(前回調査比較)

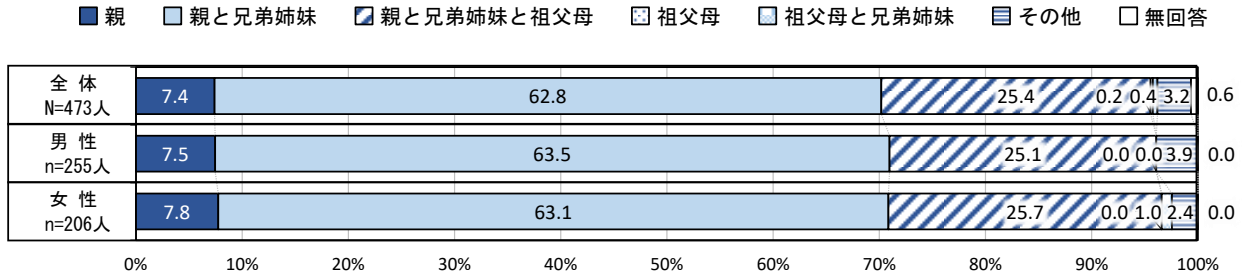
	回答数	男性		女性		まれ1 らに・2 なも2 いあ の てい はず		無 回 答	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
今回調査	473	255	53.9	206	43.6	7	1.5	5	1.1
平成28年調査	574	283	49.3	274	47.7			17	3.0

(2) 家族形態別

問2 あなたと一緒に暮らしている家族（仕事や学校の関係などで、離れている人も含みます）は誰ですか。（○は1つ）

家族形態については、「親と兄弟姉妹」が62.8%で最も多い。次いで「親と兄弟姉妹と祖父母」が25.4%、「親」が7.4%などとなっている。

【家族形態別 / 性別】



【家族形態別 / 性別】

	回答数	親		親と兄弟姉妹		親と兄弟姉妹と祖父母		祖父母		祖父母と兄弟姉妹		その他		無回答	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
全体	473	35	7.4	297	62.8	120	25.4	1	0.2	2	0.4	15	3.2	3	0.6
男性	255	19	7.5	162	63.5	64	25.1	0	0.0	0	0.0	10	3.9	0	0.0
女性	206	16	7.8	130	63.1	53	25.7	0	0.0	2	1.0	5	2.4	0	0.0

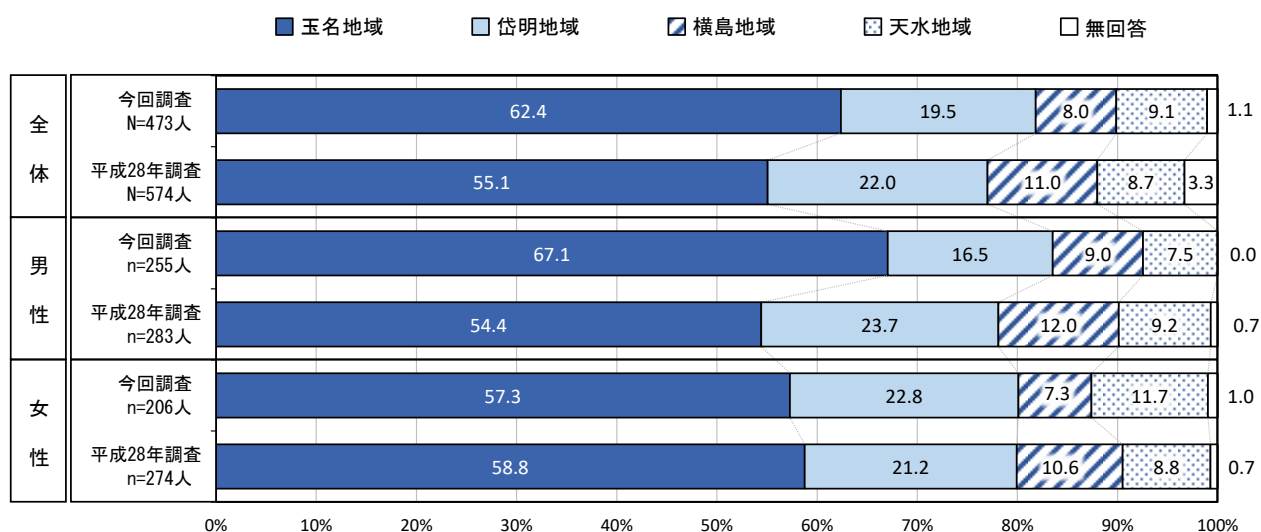
(3) 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域は。(○は1つ)

居住の地域については、「玉名地域」が62.4%、「岱明地域」が19.5%、「天水地域」が9.1%、「横島地域」が8.0%となっている。

前回調査との比較では、「玉名地域」「天水地域」が増加し、「岱明地域」「横島地域」が減少している。

【居住地域 / 性別】(前回調査比較)



【居住地域 / 性別】(前回調査比較)

	回答数	玉名地域		岱明地域		横島地域		天水地域		無回答		
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	
全体	473	295	62.4	92	19.5	38	8.0	43	9.1	5	1.1	
男性	255	171	67.1	42	16.5	23	9.0	19	7.5	0	0.0	
女性	206	118	57.3	47	22.8	15	7.3	24	11.7	2	1.0	
H28	全体	574	316	55.1	126	22.0	63	11.0	50	8.7	19	3.3
	男性	283	154	54.4	67	23.7	34	12.0	26	9.2	2	0.7
	女性	274	161	58.8	58	21.2	29	10.6	24	8.8	2	0.7

※参考資料 【中学校別】(前回調査比較)

	回答数	玉名中学校		玉南中学校		玉陵中学校		有明中学校		岱明中学校		天水中学校	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
今回調査	472	178	37.7	43	9.1	44	9.3	71	15.0	95	20.1	41	8.7
前回調査	574	223	38.9	48	8.4	53	9.2	71	12.4	124	21.6	55	9.6

2. 男女共同参画に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感について

問4 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。
 (①～⑧の項目それぞれ1つに○)

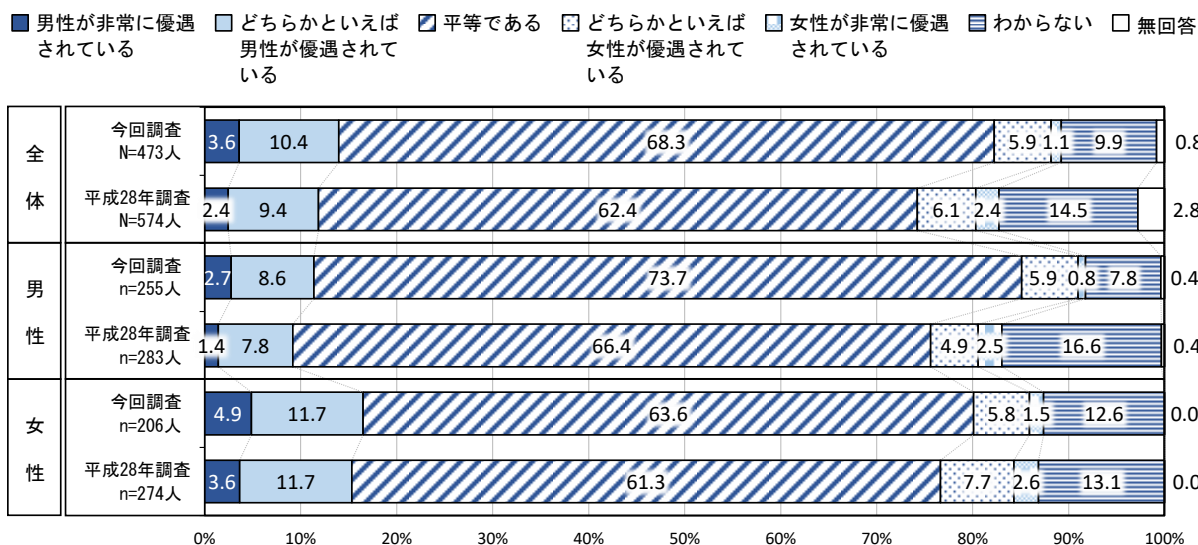
① 家庭生活では

全体では、「平等である」と感じている人の割合が68.3%で最も高い。また、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(10.4%)と、「男性が非常に優遇されている」(3.6%)を合わせた『男性優遇』と感じている人が14.0%で、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(5.9%)と「女性が非常に優遇されている」(1.1%)を合わせた『女性優遇』と感じている人は7%となっている。

性別でみると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『男性優遇』の回答が男女ともに上昇している。一方で、家庭生活における男女の地位が「平等である」と感じている人の割合も高くなっている。

【① 家庭生活では / 性別】(前回調査比較)



全体：『男性優遇』 14.0% (前回比 +2.2 ポイント)
 :『平等である』 68.3% (前回比 +5.9 ポイント)
 男性：『男性優遇』 11.3% (前回比 +2.1 ポイント)
 :『平等である』 73.7% (前回比 +7.3 ポイント)
 女性：『男性優遇』 16.6% (前回比 +1.3 ポイント)
 :『平等である』 63.6% (前回比 +2.3 ポイント)

※『男性優遇』 = 「どちらかといえば男性が優遇されている」 + 「男性が非常に優遇されている」
 『女性優遇』 = 「どちらかといえば女性が優遇されている」 + 「女性が非常に優遇されている」

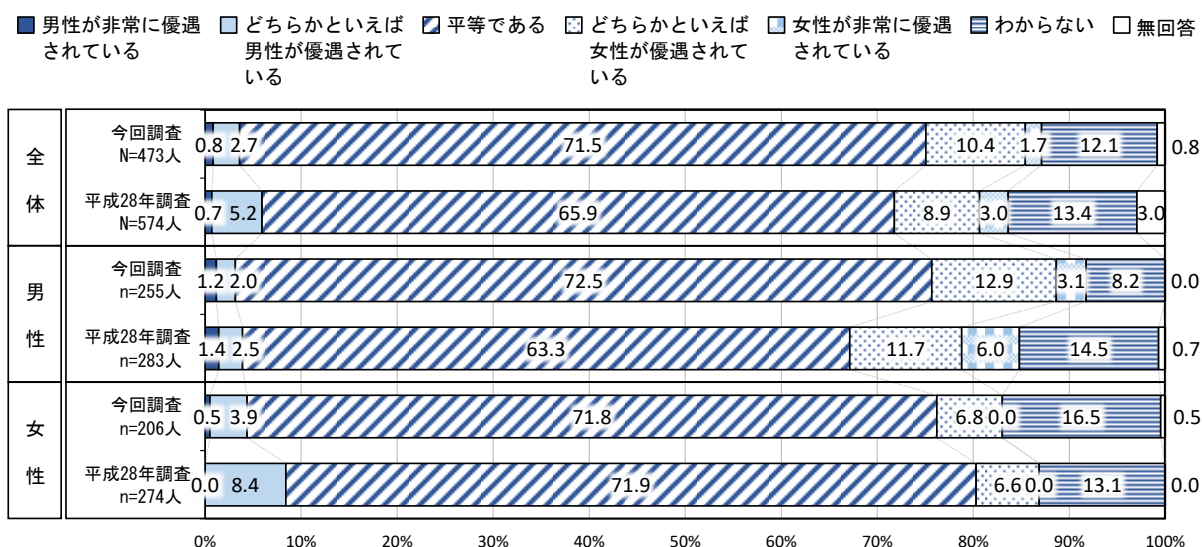
② 学校の中では

全体では、「平等である」と感じている人が 71.5%を占めている。また、『女性優遇』と感じている人が 12.1%で、『男性優遇』と感じている人は全体の 3.5%となっている。

性別で見ると、『女性優遇』や「平等」と感じている人の割合は、どちらも男性の方が高くなっているが、『男性優遇』の割合は、男女ともに非常に低い。

前回調査との比較では、「平等」「どちらかといえば女性が優遇されている」の割合が高くなっており、女性に比べ男性の上昇率が高い。また、男女ともに『男性優遇』の割合が低くなっている。

【② 学校の中では / 性別】（前回調査比較）



全体：『男性優遇』 3.5%（前回比 -2.4ポイント）
 ：『平等である』 71.5%（前回比 +5.6ポイント）
 男性：『男性優遇』 3.2%（前回比 -0.7ポイント）
 ：『平等である』 72.5%（前回比 +9.2ポイント）
 女性：『男性優遇』 4.4%（前回比 -4.0ポイント）
 ：『平等である』 71.8%（前回比 -0.1ポイント）

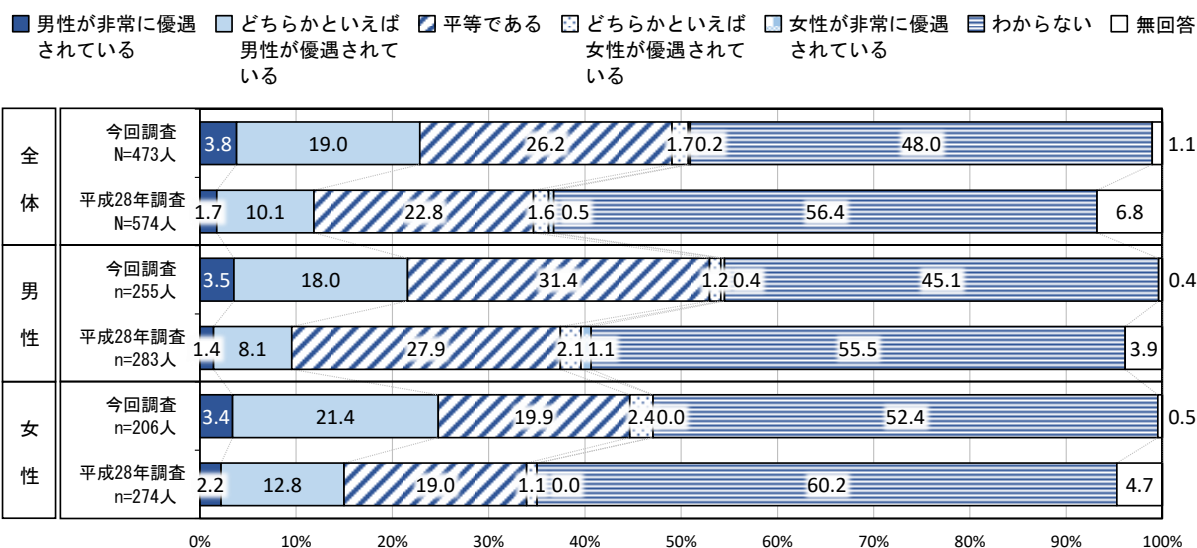
③ 仕事の場では

全体では、「わからない」(48%)と感じている人が最も多く、実際に働いていないためか判断に迷っていると推察される。そのような状況でも『男性優遇』(22.8%)が、『女性優遇』(1.9%)を大きく上回っている。

性別で見ると、『男性優遇』と感じている人は男性よりも女性の方が高い割合となっている。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、男女ともに『男性優遇』と感じている人の割合が高くなっている。

【③ 仕事の場では / 性別】(前回調査比較)



全体：『男性優遇』 22.8% (前回比 +11.0ポイント)
 :『平等である』 26.2% (前回比 + 3.4ポイント)
 男性：『男性優遇』 21.5% (前回比 +12.0ポイント)
 :『平等である』 31.4% (前回比 + 3.5ポイント)
 女性：『男性優遇』 24.8% (前回比 + 9.8ポイント)
 :『平等である』 19.9% (前回比 + 0.9ポイント)

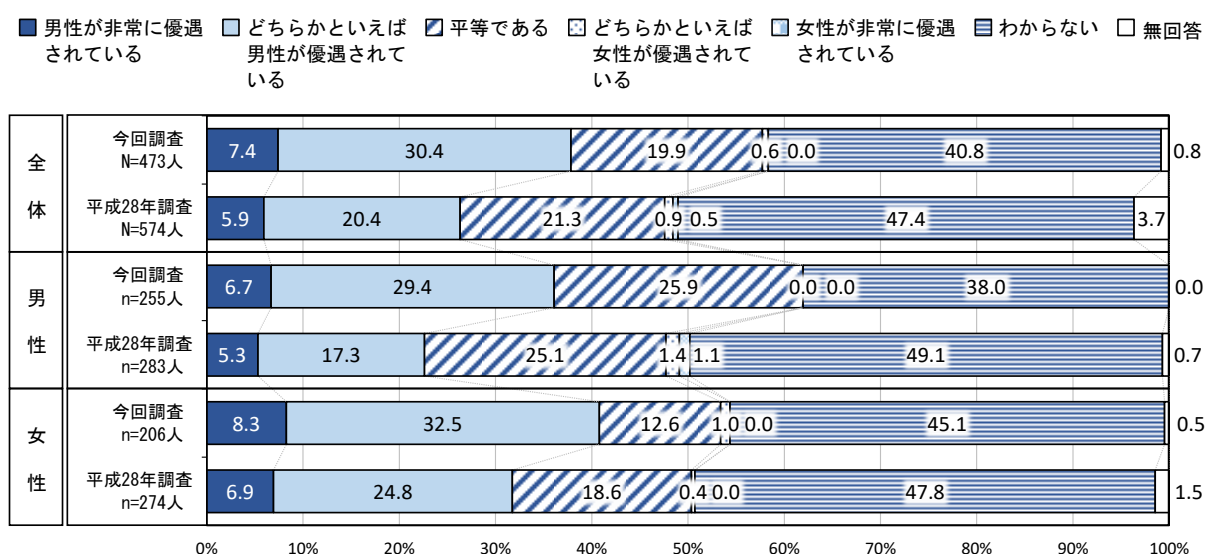
④ 政治の場では（国会議員や市議会議員など）

全体では、『男性優遇』が37.8%で、「平等である」と感じている人は19.9%である。また、「わからない」（40.8%）と感じている人が最も多い。

性別で見ると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高く、「平等である」と感じている人は、男性の方が女性の2倍高い割合となっている。

前回調査との比較では、『男性優遇』の割合が高くなっている。政治の場における男性が優遇されているという認識が依然として高いことがうかがえる。

【④ 政治の場では / 性別】（前回調査比較）



全体：『男性優遇』 37.8%（前回比 +11.5ポイント）
 ：『平等である』 19.9%（前回比 - 1.4ポイント）
 男性：『男性優遇』 36.1%（前回比 +13.5ポイント）
 ：『平等である』 25.9%（前回比 + 0.8ポイント）
 女性：『男性優遇』 40.8%（前回比 + 9.1ポイント）
 ：『平等である』 12.6%（前回比 - 6.0ポイント）

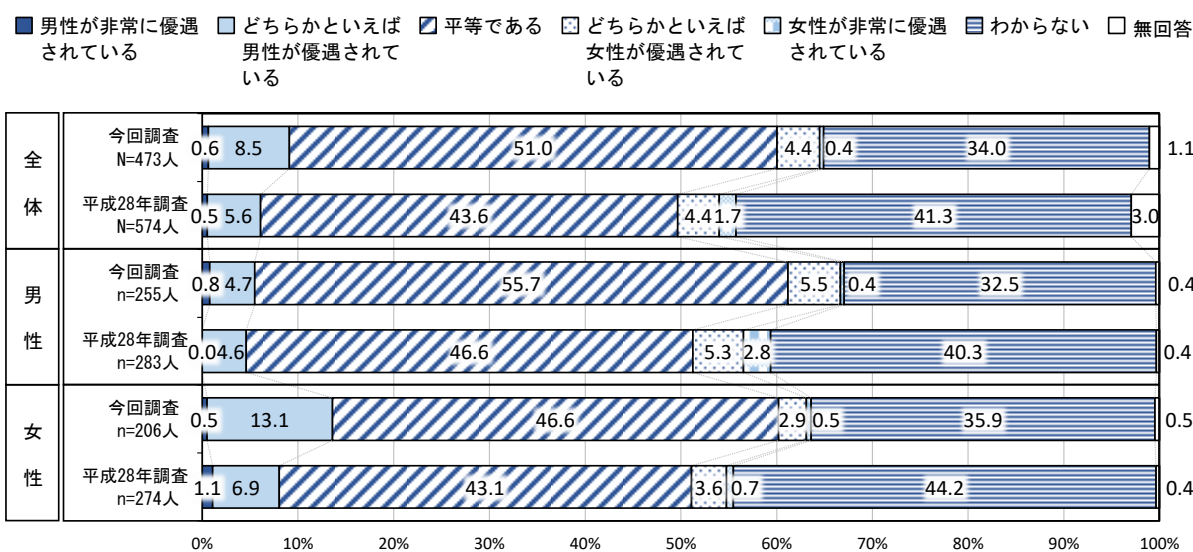
⑤ 法律や制度の上では

全体では、「平等である」が51.0%で、次いで「わからない」の34.0%を合わせると8割を超えている。

性別で見ると、男性に比べ女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。一方で、「平等である」や『女性優遇』と感じている人の割合は、どちらも男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『男性優遇』『平等である』の割合が高くなっている。

【⑤ 法律や制度の上では / 性別】（前回調査比較）



全体：『男性優遇』 9.1%（前回比 +3.0ポイント）
 ：『平等である』 51.0%（前回比 +7.4ポイント）
 男性：『男性優遇』 5.5%（前回比 +0.9ポイント）
 ：『平等である』 55.7%（前回比 +9.1ポイント）
 女性：『男性優遇』 13.6%（前回比 +5.6ポイント）
 ：『平等である』 46.6%（前回比 +3.5ポイント）

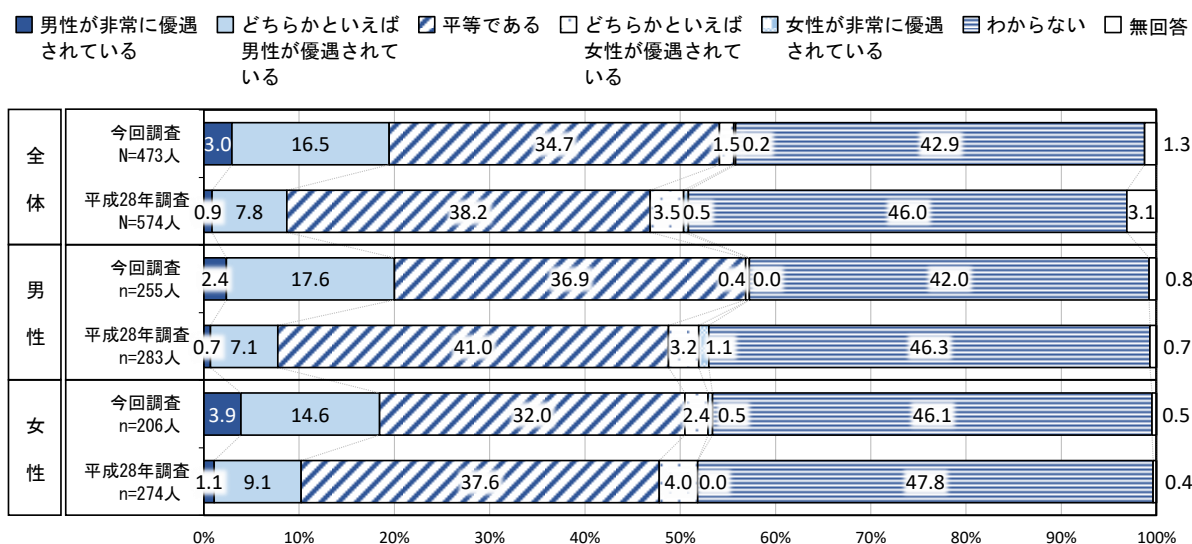
⑥ 慣習やしきたり等では

全体では、「わからない」と感じている人が42.9%で最も高く、次いで「平等である」(34.7%)と続いている。『男性優遇』と感じている人は19.5%、『女性優遇』と感じている人は全体の1.7%となっている。

性別で見ると、『男性優遇』と感じている人は「男性」で20.0%となっており、「女性」の18.5%を上回っている。

前回調査との比較では、男女ともに『男性優遇』の割合が高く、『女性優遇』『平等』の割合が低くなっている。社会通念や慣習・しきたり等における男性優遇の認識が依然として高いことがうかがえる。

【⑥ 慣習やしきたり等では / 性別】(前回調査比較)



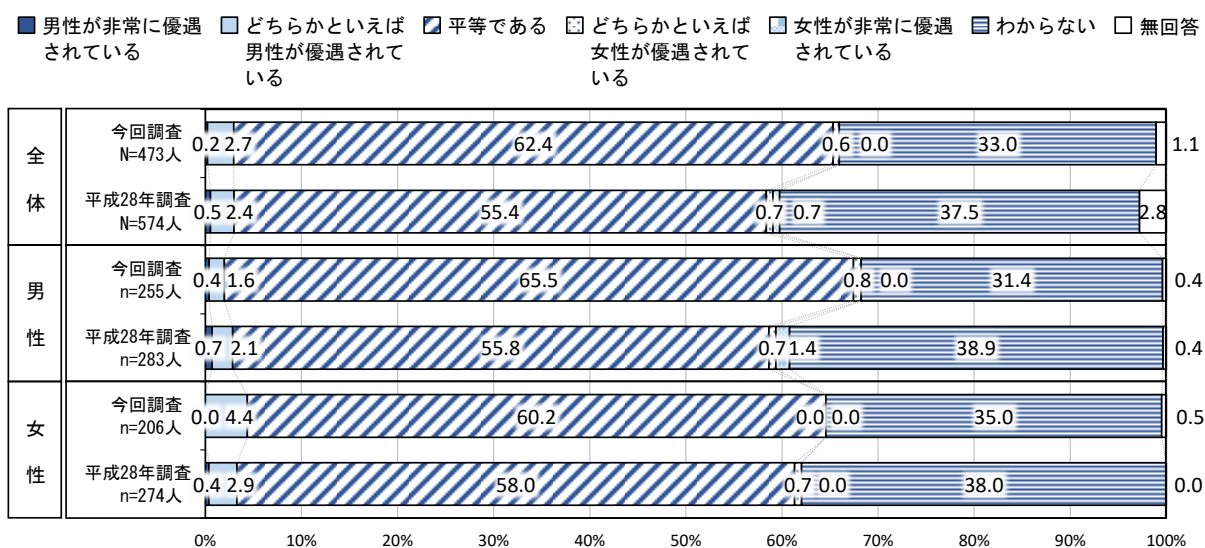
全体：『男性優遇』 19.5% (前回比 +10.8ポイント)
 :『平等である』 34.7% (前回比 - 3.5ポイント)
 男性：『男性優遇』 20.0% (前回比 +12.2ポイント)
 :『平等である』 36.9% (前回比 - 4.1ポイント)
 女性：『男性優遇』 18.5% (前回比 + 8.3ポイント)
 :『平等である』 32.0% (前回比 - 5.6ポイント)

⑦ 地域（校区）では

全体では、「平等である」と感じている人が62.4%で、次いで「わからない」の33.0%を合わせると9割を超えている。前回調査との比較では、「平等である」の割合が高くなっている。また、『男性優遇』と感じている人の割合は2.9%で、『女性優遇』(0.6%)よりも高くなっている。

性別で見ると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高い。また、「平等である」と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

【⑦ 地域（校区）では / 性別】（前回調査比較）



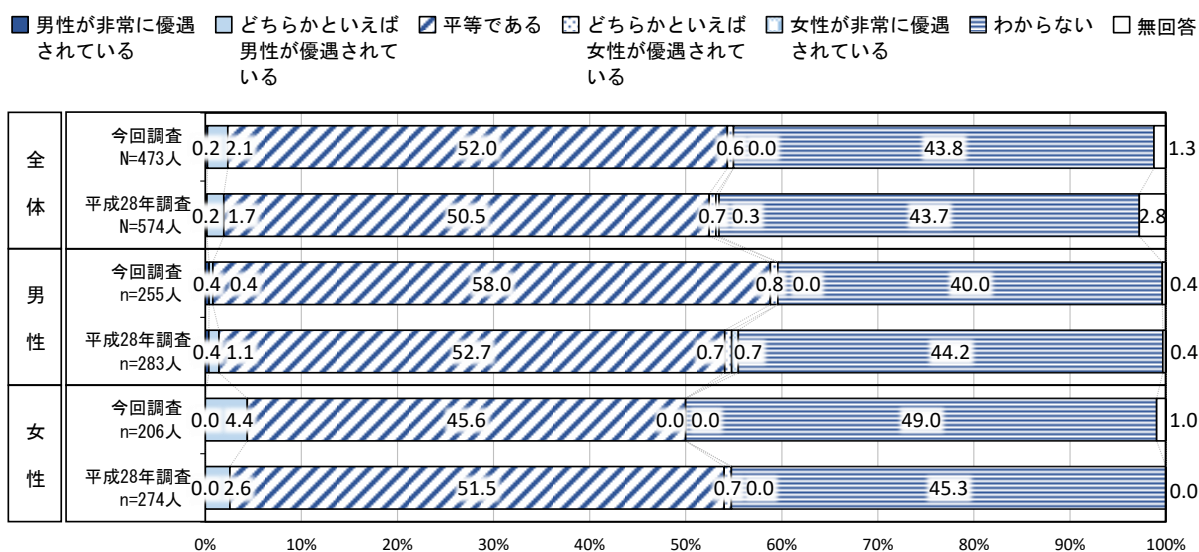
全体：『男性優遇』 2.9%（前回比 ±0ポイント）
 ：『平等である』62.4%（前回比 +7.0ポイント）
 男性：『男性優遇』 2.0%（前回比 -0.8ポイント）
 ：『平等である』65.5%（前回比 +9.7ポイント）
 女性：『男性優遇』 4.4%（前回比 +1.1ポイント）
 ：『平等である』60.2%（前回比 +2.2ポイント）

⑧ 玉名市では

全体では、「平等である」と感じている人は52.0%で、次いで「わからない」の43.8%を合わせると9割を超えている。また、『男性優遇』と感じている人の割合は2.3%で、『女性優遇』(0.6%)よりも高くなっている。

性別で見ると、女性の方が『男性優遇』と感じている人の割合が高く、一方で「平等である」や『女性優遇』と感じている人は、どちらも男性の割合が高くなっている。

【⑧ 玉名市では / 性別】(前回調査比較)



全体：『男性優遇』 2.3% (前回比 +0.4 ポイント)
 :『平等である』 52.0% (前回比 +1.5 ポイント)
 男性：『男性優遇』 0.8% (前回比 -0.7 ポイント)
 :『平等である』 58.0% (前回比 +5.3 ポイント)
 女性：『男性優遇』 4.4% (前回比 +1.8 ポイント)
 :『平等である』 45.6% (前回比 -5.9 ポイント)

【男女の地位の平等感について /性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	① 家庭生活では						② 学校の中では							
			男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体	今回調査	473	3.6	10.4	68.3	5.9	1.1	9.9	0.8	0.8	2.7	71.5	10.4	1.7	12.1	0.8
	平成28年調査	574	2.4	9.4	62.4	6.1	2.4	14.5	2.8	0.7	5.2	65.9	8.9	3.0	13.4	3.0
性別	男性	今回調査	255	2.7	8.6	73.7	5.9	0.8	7.8	0.4	1.2	72.5	12.9	3.1	8.2	0.0
	平成28年調査	283	1.4	7.8	66.4	4.9	2.5	16.6	0.4	1.4	2.5	63.3	11.7	6.0	14.5	0.7
女性	今回調査	206	4.9	11.7	63.6	5.8	1.5	12.6	0.0	0.5	3.9	71.8	6.8	0.0	16.5	0.5
	平成28年調査	274	3.6	11.7	61.3	7.7	2.6	13.1	0.0	0.0	8.4	71.9	6.6	0.0	13.1	0.0

		回答数	③ 仕事では						④ 政治では								
			男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	今回調査	473	3.8	19.0	26.2	1.7	0.2	48.0	1.1	7.4	30.4	19.9	0.6	0.0	40.8	0.8	
	平成28年調査	574	1.7	10.1	22.8	1.6	0.5	56.4	6.8	5.9	20.4	21.3	0.9	0.5	47.4	3.7	
性別	男性	今回調査	255	3.5	18.0	31.4	1.2	0.4	45.1	0.4	6.7	29.4	25.9	0.0	0.0	38.0	0.0
	平成28年調査	283	1.4	8.1	27.9	2.1	1.1	55.5	3.9	5.3	17.3	25.1	1.4	1.1	49.1	0.7	
女性	今回調査	206	3.4	21.4	19.9	2.4	0.0	52.4	0.5	8.3	32.5	12.6	1.0	0.0	45.1	0.5	
	平成28年調査	274	2.2	12.8	19.0	1.1	0.0	60.2	4.7	6.9	24.8	18.6	0.4	0.0	47.8	1.5	

		回答数	⑤ 法律や制度の上では						⑥ 慣習やしきたり等では								
			男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	今回調査	473	0.6	8.5	51.0	4.4	0.4	34.0	1.1	3.0	16.5	34.7	1.5	0.2	42.9	1.3	
	平成28年調査	574	0.5	5.6	43.6	4.4	1.7	41.3	3.0	0.9	7.8	38.2	3.5	0.5	46.0	3.1	
性別	男性	今回調査	255	0.8	4.7	55.7	5.5	0.4	32.5	0.4	2.4	17.6	36.9	0.4	0.0	42.0	0.8
	平成28年調査	283	0.0	4.6	46.6	5.3	2.8	40.3	0.4	0.7	7.1	41.0	3.2	1.1	46.3	0.7	
女性	今回調査	206	0.5	13.1	46.6	2.9	0.5	35.9	0.5	3.9	14.6	32.0	2.4	0.5	46.1	0.5	
	平成28年調査	274	1.1	6.9	43.1	3.6	0.7	44.2	0.4	1.1	9.1	37.6	4.0	0.0	47.8	0.4	

		回答数	⑦ 地域（校区）では						⑧ 玉名市では								
			男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性が非常に優遇されている	男性が優遇されている	どちらかといえれば平等である	どちらかといえれば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答	
全体	今回調査	473	0.2	2.7	62.4	0.6	0.0	33.0	1.1	0.2	2.1	52.0	0.6	0.0	43.8	1.3	
	平成28年調査	574	0.5	2.4	55.4	0.7	0.7	37.5	2.8	0.2	1.7	50.5	0.7	0.3	43.7	2.8	
性別	男性	今回調査	255	0.4	1.6	65.5	0.8	0.0	31.4	0.4	0.4	0.4	58.0	0.8	0.0	40.0	0.4
	平成28年調査	283	0.7	2.1	55.8	0.7	1.4	38.9	0.4	0.4	1.1	52.7	0.7	0.7	44.2	0.4	
女性	今回調査	206	0.0	4.4	60.2	0.0	0.0	35.0	0.5	0.0	4.4	45.6	0.0	0.0	49.0	1.0	
	平成28年調査	274	0.4	2.9	58.0	0.7	0.0	38.0	0.0	0.0	2.6	51.5	0.7	0.0	45.3	0.0	

(2) 固定的性別役割分担意識

問5 日本には『男性は家族を養うために仕事をし、女性は仕事をする男性を支えるために家庭のこと（家事・育児・介護など）をする』という性別によって役割を固定する考え方』がありました。いまだにそのような考え方が残っていますが、あなたはごどう思いますか。（○は1つ）

全体では、『そう思わない』と感じている人の割合が56.9%、『そう思う』が29.0%となっている。

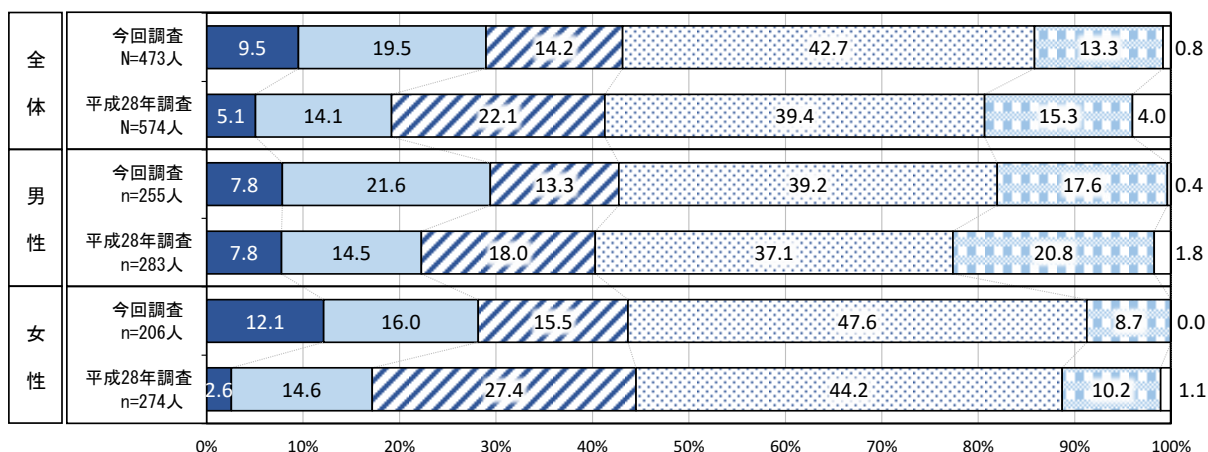
性別でみると、女性の方が『そう思わない』と感じている人の割合が高い。また、『そう思う』と感じている人の割合は、男性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『そう思う』と感じている人の割合が高くなっている。

※『そう思う（又はそう思わない）』＝「思う（又は思わない）」＋「どちらかといえばそう思う（又はどちらかといえばそう思わない）」

【固定的性別役割分担意識 / 性別】（前回調査比較）

■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない □ 思わない □ わからない □ 無回答



全体：『そう思う』 29.0%（前回比 +9.8ポイント）
 ：『そう思わない』 56.9%（前回比 -4.6ポイント）
 男性：『そう思う』 29.4%（前回比 +7.1ポイント）
 ：『そう思わない』 52.5%（前回比 -2.6ポイント）
 女性：『そう思う』 28.1%（前回比 +10.9ポイント）
 ：『そう思わない』 63.1%（前回比 -8.5ポイント）

【固定的性別役割分担意識/性・年齢別】

(%)

		回答数	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえ ば	思わない	わからない	無回答	
全体	今回調査	473	9.5	19.5	14.2	42.7	13.3	0.8	
	平成28年調査	574	5.1	14.1	22.1	39.4	15.3	4.0	
性別	男性	今回調査	255	7.8	21.6	13.3	39.2	17.6	0.4
		平成28年調査	283	7.8	14.5	18.0	37.1	20.8	1.8
	女性	今回調査	206	12.1	16.0	15.5	47.6	8.7	0.0
		平成28年調査	274	2.6	14.6	27.4	44.2	10.2	1.1

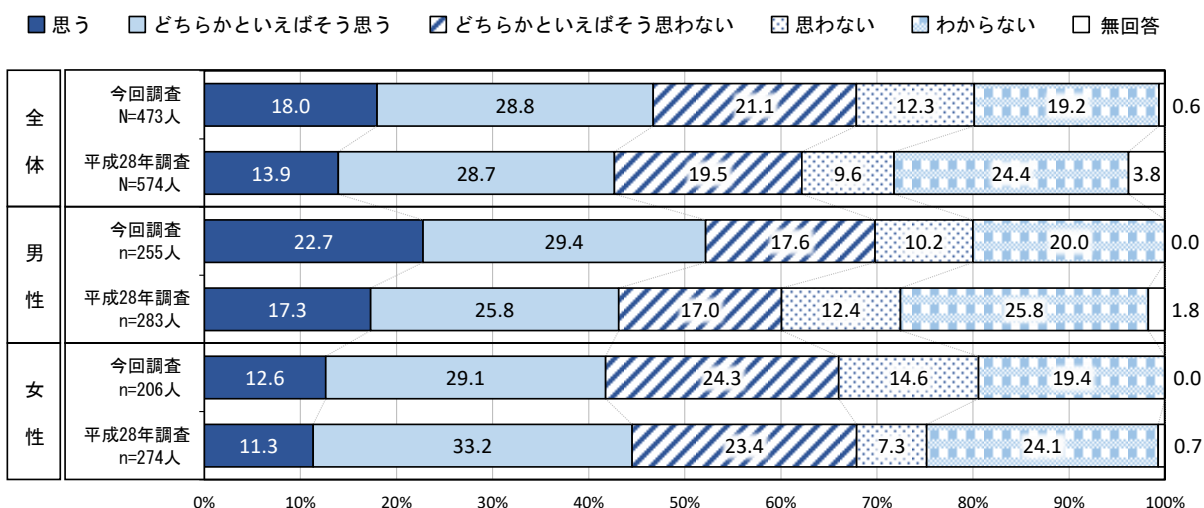
(3) 性別にかかわらず性別の確保

問6 あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。(〇は1つ)

全体では、『思う』と感じている人の割合が46.8%、『思わない』が33.4%となっている。
性別で見ると、女性の方が『思わない』と感じている人の割合が高い。
前回調査との比較では、「思う」と感じている人の割合が高くなっている。

※『思う(又は思わない)』=「思う(又は思わない)」+「どちらかといえばそう思う(又はどちらかといえばそう思わない)」

【性別にかかわらず性別の確保 / 性別】(前回調査比較)



全体：『思う』 46.8% (前回比 +4.2ポイント)
 :『思わない』 33.4% (前回比 +4.3ポイント)
 男性：『思う』 52.1% (前回比 +9.0ポイント)
 :『思わない』 27.8% (前回比 -1.6ポイント)
 女性：『思う』 41.7% (前回比 -2.8ポイント)
 :『思わない』 38.9% (前回比 +8.2ポイント)

【性別にかかわらず機会確保/性・年齢別】

(%)

		回答数	思う	どちらか そう思う といえ ば	どちらか そう思 わない といえ ば	思わ ない	わ か ら な い	無 回 答	
全体	今回調査	473	18.0	28.8	21.1	12.3	19.2	0.6	
	平成28年調査	574	13.9	28.7	19.5	9.6	24.4	3.8	
性別	男性	今回調査	255	22.7	29.4	17.6	10.2	20.0	0.0
		平成28年調査	283	17.3	25.8	17.0	12.4	25.8	1.8
	女性	今回調査	206	12.6	29.1	24.3	14.6	19.4	0.0
		平成28年調査	274	11.3	33.2	23.4	7.3	24.1	0.7

3. 将来のことなどについて

(1) 文系・理系のタイプ

問7 あなたは、現在の自分は文系・理系のどちらのタイプだと思いますか。
(○はひとつ)

全体では、「わからない」(21.6%)が最も多く、次いで「理系タイプである」(18.8%)、以下、「どちらかといえば文系タイプである」(16.9%)、「どちらかといえば理系タイプである」(14.4%)と続いている。

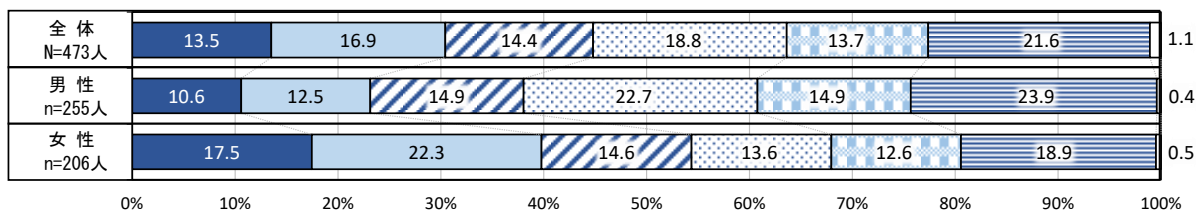
性別で見ると、女性は、「どちらかといえば文系タイプである」が22.3%、次いで「わからない」が18.9%、以下、「文系タイプである」(17.5%)、「どちらかといえば理系タイプである」(14.6%)と続く。男性は、「わからない」が23.9%、次いで「理系タイプである」が22.7%、以下、「どちらかといえば理系タイプである」(14.9%)と「文系・理系どちらも同じくらいである」(14.9%)が同じ割合で続いた。また、女性では、『理系派』(28.2%)に比べ、『文系派』が39.8%と高く、男性では、『文系派』(23.1%)に比べ、『理系派』が37.6%と高くなっている。

※ 『文系派』 = 「文系タイプである」 + 「どちらかといえば文系タイプである」

『理系派』 = 「理系タイプである」 + 「どちらかといえば理系タイプである」

【文系・理系のタイプ / 性別】

- 文系タイプである
- どちらかといえば理系タイプである
- 文系・理系どちらも同じくらいである
- 無回答
- どちらかといえば文系タイプである
- 理系タイプである
- わからない



【文系・理系のタイプ / 性別】

	回答数	文系タイプである	文系どちらかタイプと いえる	理系どちらかタイプと いえる	理系タイプである	も文系と同じ・理系 どちら	わからない	無回答
全体	473	13.5	16.9	14.4	18.8	13.7	21.6	1.1
男性	255	10.6	12.5	14.9	22.7	14.9	23.9	0.4
女性	206	17.5	22.3	14.6	13.6	12.6	18.9	0.5

(2) 文系・理系の進路

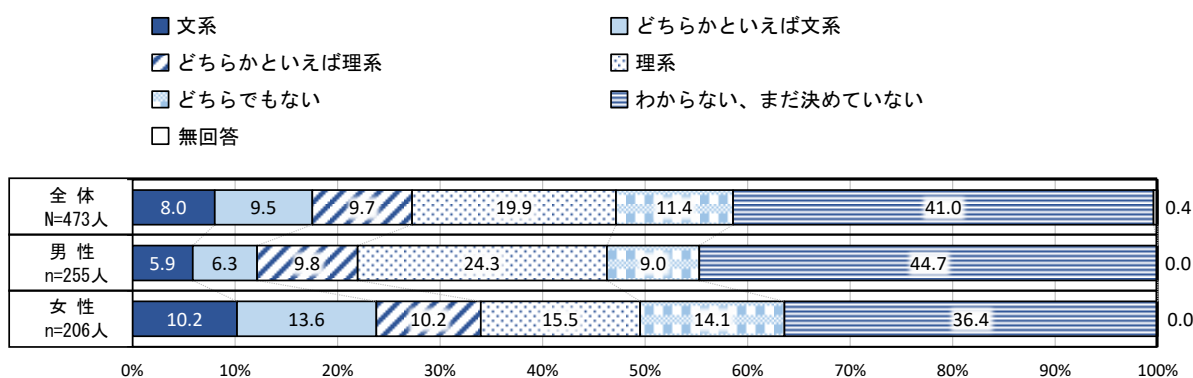
問8 あなたは、将来は文系と理系どちらの進路に進みたいですか。(〇は1つ)

全体では、「わからない、まだ決めていない」が41.0%で最も高く、次いで「理系」が19.9%、以下、「どちらでもない」(11.4%)、「どちらかといえば理系」(9.7%)と続いている。

性別で見ると、女性は、「わからない、まだ決めていない」が36.4%で、次いで「理系」が15.5%、以下、「どちらでもない」(14.1%)、「どちらかといえば文系」(13.6%)と続く。男性は、「わからない、まだ決めていない」が44.7%、次いで「理系」が24.3%、以下、「どちらかといえば理系」(9.8%)、「どちらでもない」(9.0%)と続く。男女ともに『理系派』に進みたいと考えている人の割合が高いが、男性の方が『理系派』の割合が高い。

※ 『理系派』 = 「理系」 + 「どちらかといえば理系」

【文系・理系の進路/ 性別】



【文系・理系の選択 / 性別】

	回答数	文系	文系どちらかといえば	理系どちらかといえば	理系	どちらでもない	決められていない、まだ	無回答
全体	473	8.0	9.5	9.7	19.9	11.4	41.0	0.4
男性	255	5.9	6.3	9.8	24.3	9.0	44.7	0.0
女性	206	10.2	13.6	10.2	15.5	14.1	36.4	0.0

(3) 男女のあり方

問9 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。
 (①~④の項目それぞれ1つに○)

① 男女とも経済的自立ができるようになるのがよい

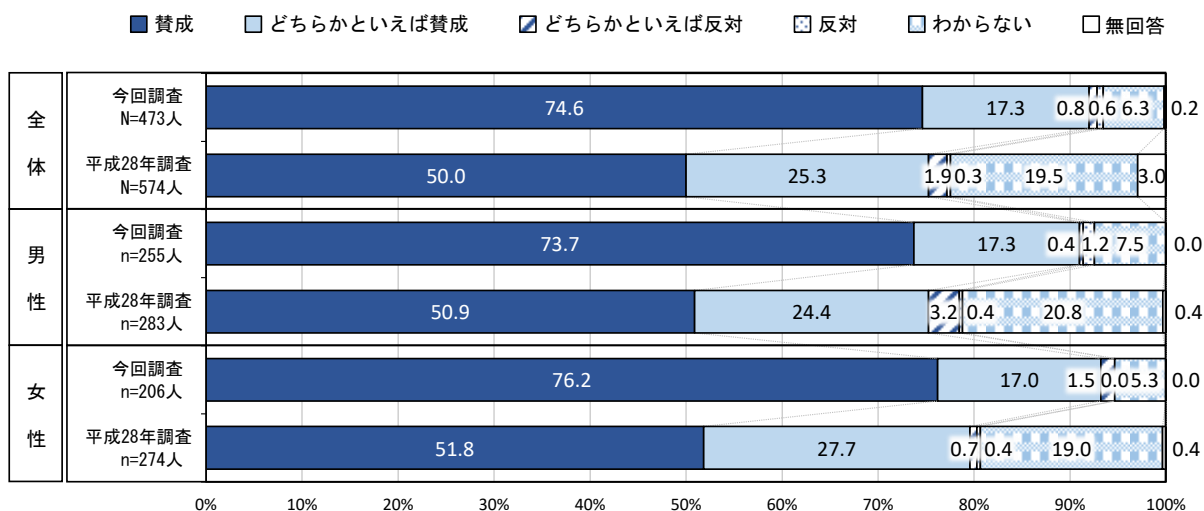
全体では、『賛成派』が 91.9%と高く、『反対派』の回答は 1.4%と非常に低くなっている。

性別で見ると、男女ともに9割以上の人が性に関わらず経済的に自立できるようになるのがよいと考えている。

前回調査との比較では、「賛成」と感じている人の割合が男女ともに 20 ポイント以上高くなっている。

※『賛成派 (又は反対派)』 = 「賛成 (又は反対)」 + 「どちらかといえば賛成 (又はどちらかといえば反対)」
 (以下、特に断りのない限り同様とする)

【① 男女とも経済的自立ができるようになるのがよい / 性別】 (前回調査比較)



全体：『賛成派』 91.9% (前回比 +16.6 ポイント)
 :『反対派』 1.4% (前回比 - 0.8 ポイント)
 男性：『賛成派』 91.0% (前回比 +15.7 ポイント)
 :『反対派』 1.6% (前回比 - 2.0 ポイント)
 女性：『賛成派』 93.2% (前回比 +13.7 ポイント)
 :『反対派』 1.5% (前回比 + 0.4 ポイント)

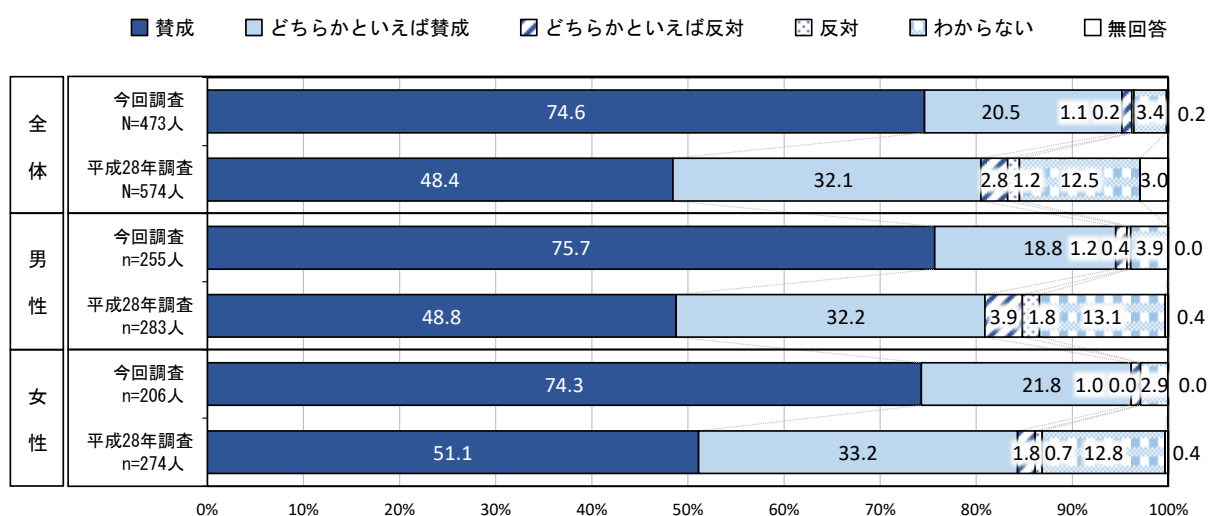
② 男女とも家事ができるようになるのがよい

全体では、『賛成派』が95.1%となっており、9割以上の人が性に関わらず家事ができるようになるのがよいと考えている。

性別で見ると、男女ともに9割以上の人が『賛成派』となっているが、男性に比べ女性の方が高い割合となっている。

前回調査との比較では、男女ともに「賛成」と感じている人の割合が20ポイント以上高くなっており、家事・掃除・洗濯などができるようになることの必要性を感じている傾向がうかがえる。

【② 男女とも家事ができるようになるのがよい / 性別】（前回調査比較）



全体：『賛成派』95.1%（前回比 +14.6ポイント）
 ：『反対派』1.3%（前回比 -2.7ポイント）
 男性：『賛成派』94.5%（前回比 +13.5ポイント）
 ：『反対派』1.6%（前回比 -4.1ポイント）
 女性：『賛成派』96.1%（前回比 +11.8ポイント）
 ：『反対派』1.0%（前回比 -1.5ポイント）

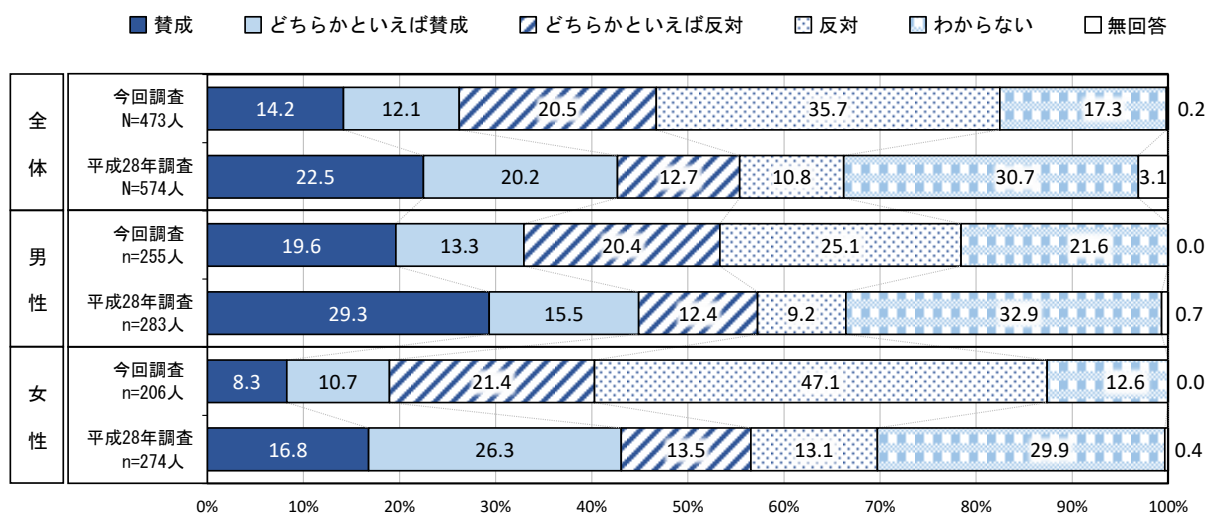
③ 男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい

全体では、『反対派』が56.2%となっており、『賛成派』は26.3%となっている。

性別で見ると、女性に比べ男性の方が『賛成派』と回答している人の割合が高く、『反対派』と回答している割合は女性の方が高い。

前回調査との比較では、男女ともに『賛成派』の割合が低下し、『反対派』の割合が上昇している。

【③ 男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい / 性別】（前回調査比較）



全体：『賛成派』26.3%（前回比 -16.4ポイント）
 ：『反対派』56.2%（前回比 +32.7ポイント）
 男性：『賛成派』32.9%（前回比 -11.9ポイント）
 ：『反対派』45.5%（前回比 +23.9ポイント）
 女性：『賛成派』19.0%（前回比 -24.1ポイント）
 ：『反対派』68.5%（前回比 +41.9ポイント）

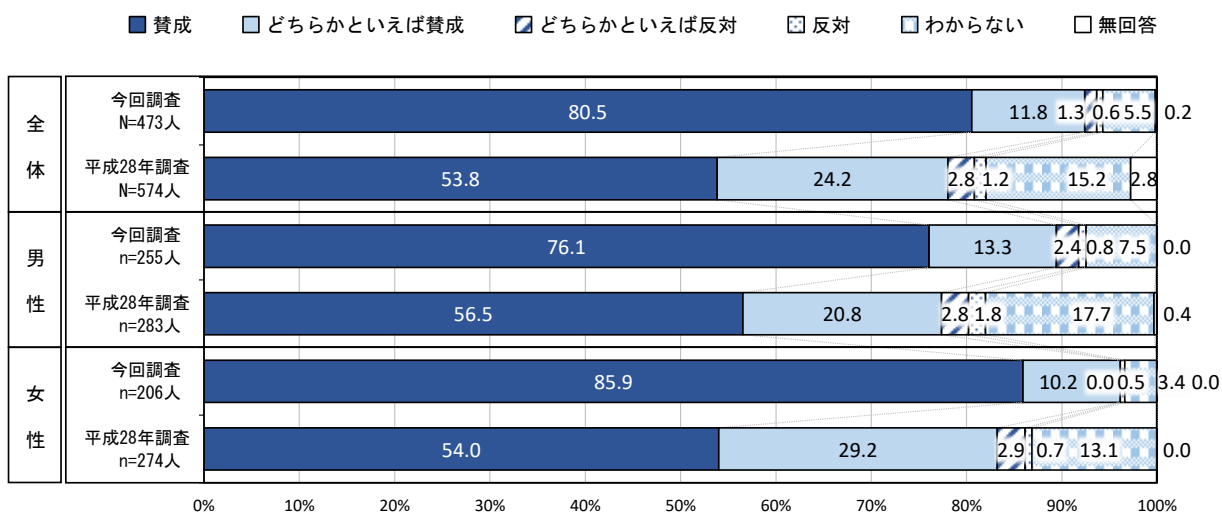
④ 性別にかかわらず個性に応じて生きていくのがよい

全体では、『賛成派』が92.3%となっており、9割以上の人が性に関わらず個性に応じて生きていくのがよいと考えている。

性別で見ると、女性の方が『賛成派』の割合が高く、一方で、『反対派』の割合は男性の方が女性の約6倍高い割合となっている。

前回調査との比較では、男女ともに『賛成派』の割合が10ポイント以上高くなっている。

【④ 性別にかかわらず個性に応じて生きていくのがよい / 性別】（前回調査比較）



全体：『賛成派』 92.3%（前回比 +14.3ポイント）
 ：『反対派』 1.9%（前回比 - 2.1ポイント）
 男性：『賛成派』 89.4%（前回比 +12.1ポイント）
 ：『反対派』 3.2%（前回比 - 1.4ポイント）
 女性：『賛成派』 96.1%（前回比 +12.9ポイント）
 ：『反対派』 0.5%（前回比 - 3.1ポイント）

【男女のあり方/性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	① 男女とも経済的自立ができるようになるのがよい						② 男女とも家事ができるようになるのがよい						
			賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	
全体	今回調査	473	74.6	17.3	0.8	0.6	6.3	0.2	74.6	20.5	1.1	0.2	3.4	0.2	
	平成28年調査	574	50.0	25.3	1.9	0.3	19.5	3.0	48.4	32.1	2.8	1.2	12.5	3.0	
性別	男性	今回調査	255	73.7	17.3	0.4	1.2	7.5	0.0	75.7	18.8	1.2	0.4	3.9	0.0
		平成28年調査	283	50.9	24.4	3.2	0.4	20.8	0.4	48.8	32.2	3.9	1.8	13.1	0.4
	女性	今回調査	206	76.2	17.0	1.5	0.0	5.3	0.0	74.3	21.8	1.0	0.0	2.9	0.0
		平成28年調査	274	51.8	27.7	0.7	0.4	19.0	0.4	51.1	33.2	1.8	0.7	12.8	0.4

		回答数	③ 男は男らしく、女は女らしく生きていくのがよい						④ 性別にかかわらず個性に応じて生きていくのがよい						
			賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	
全体	今回調査	473	14.2	12.1	20.5	35.7	17.3	0.2	80.5	11.8	1.3	0.6	5.5	0.2	
	平成28年調査	574	22.5	20.2	12.7	10.8	30.7	3.1	53.8	24.2	2.8	1.2	15.2	2.8	
性別	男性	今回調査	255	19.6	13.3	20.4	25.1	21.6	0.0	76.1	13.3	2.4	0.8	7.5	0.0
		平成28年調査	283	29.3	15.5	12.4	9.2	32.9	0.7	56.5	20.8	2.8	1.8	17.7	0.4
	女性	今回調査	206	8.3	10.7	21.4	47.1	12.6	0.0	85.9	10.2	0.0	0.5	3.4	0.0
		平成28年調査	274	16.8	26.3	13.5	13.1	29.9	0.4	54.0	29.2	2.9	0.7	13.1	0.0

(4) 女性が職業を持つことについて

問10 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。
(○は1つ)

全体では、『一度やめて再び就職』と回答した人の割合が45.7%と最も高く、『職業を持ち続ける』が25.6%となっており、この2つの回答が全体の7割を上回っている。

性別で見ると、男性に比べ女性の方が『職業を持ち続ける』『一度やめて再び就職』と回答した割合が高く、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」「結婚するまでは、職業を持つ方がよい」は男性の方が高くなっている。

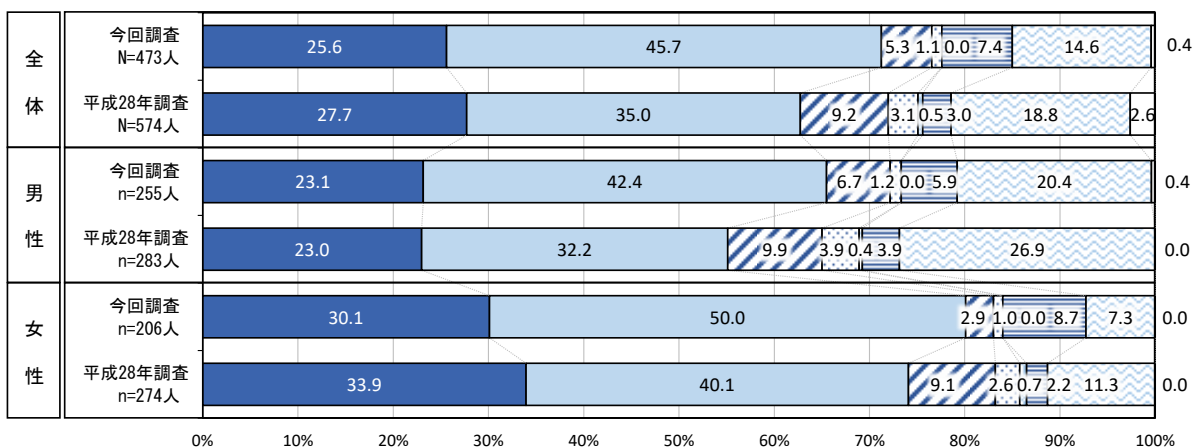
前回調査との比較では、『一度やめて再び就職』と回答した人の割合が10.7ポイント高くなっている。

※『職業を持ち続ける』 = 「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」

『一度やめて再び就職』 = 「子どもができたなら職業を持たず、仕事をする事が可能な場合は再び職業を持つ方がよい」

【女性が職業を持つことについて / 性別】(前回調査比較)

- 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
- 子どもができたなら職業を持たず、仕事をする事が可能な場合は再び職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



《上位回答》

	今回		前回	
全体	○ 一度やめて再び就職	45.7%	○ 一度やめて再び就職	35.0%
	○ 職業を持ち続ける	25.6%	○ 職業を持ち続ける	27.7%
	○ わからない	14.6%	○ わからない	18.8%
男性	○ 一度やめて再び就職	42.4%	○ 一度やめて再び就職	32.2%
	○ 職業を持ち続ける	23.1%	○ わからない	26.9%
	○ わからない	20.4%	○ 職業を持ち続ける	23.0%
女性	○ 一度やめて再び就職	50.0%	○ 一度やめて再び就職	40.1%
	○ 職業を持ち続ける	30.1%	○ 職業を持ち続ける	33.9%
	○ その他	8.7%	○ わからない	11.3%

【女性が職業を持つことについて、どのように考えますか/性別】（前回調査比較）

			子どもが 続けられ る方がよ い	子どもが できるま では、再 び職業を 持つこと がよい	子どもが できるま では、職 業を持 つ方がよ い	結婚す るまでは 、職業を 持つ方が よい	女性 は職業を 持たない 方がよい	その他	わか らない	無回 答	
全体	今回調査	473	25.6	45.7	5.3	1.1	0.0	7.4	14.6	0.4	
	平成28年調査	574	27.7	35.0	9.2	3.1	0.5	3.0	18.8	2.6	
性別	男性	今回調査	255	23.1	42.4	6.7	1.2	0.0	5.9	20.4	0.4
		平成28年調査	283	23.0	32.2	9.9	3.9	0.4	3.9	26.9	0.0
	女性	今回調査	206	30.1	50.0	2.9	1.0	0.0	8.7	7.3	0.0
		平成28年調査	274	33.9	40.1	9.1	2.6	0.7	2.2	11.3	0.0

4. 家庭生活について

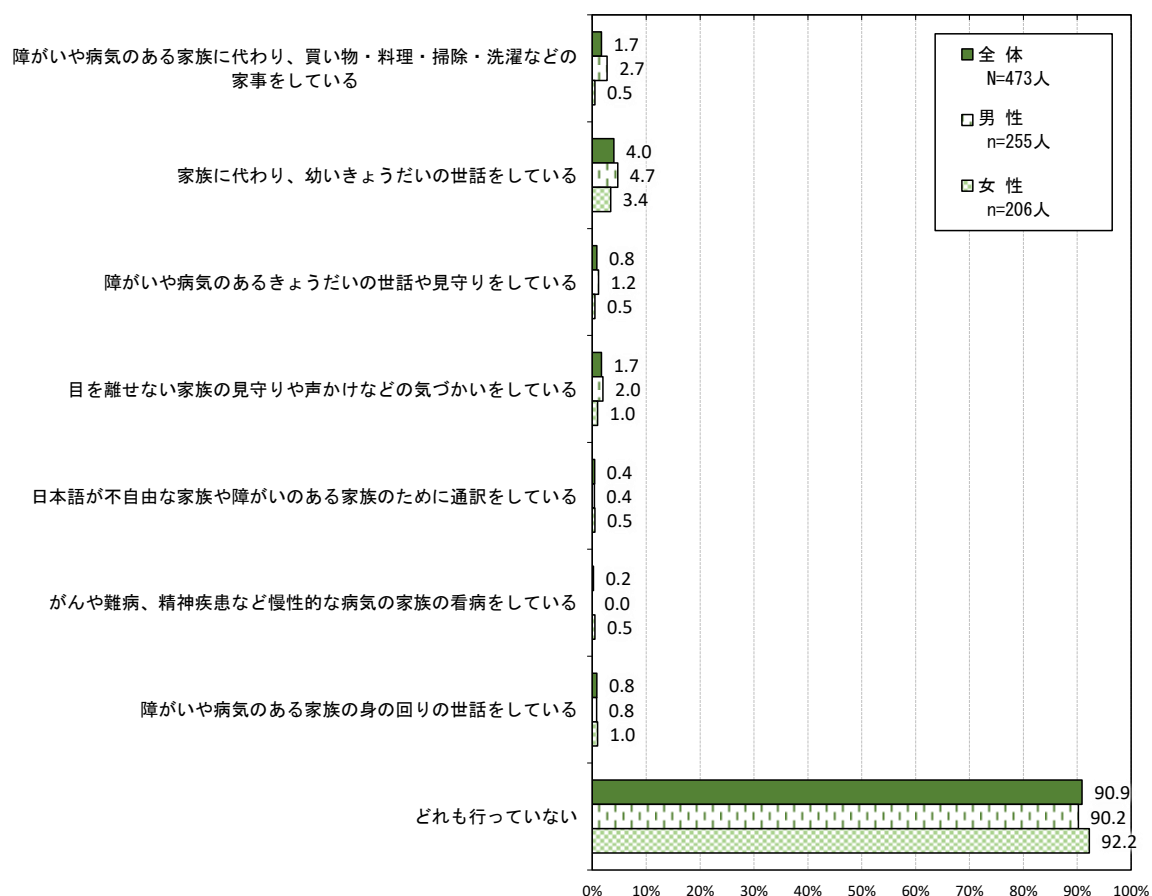
(1) ヤングケアラー

問11 あなたは、家族に代わって以下のことを行っていますか。(〇はいくつでも)

全体では、「どれも行ってない」(90.9%)の割合が最も高く、次いで「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている」(4.0%)、「障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」がともに1.7%と続いている。

性別でみると、「障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている」と回答した人の割合は「男性」で2.7%となっており、「女性」の0.5%を2.2ポイント上回っている。

【ヤングケアラー / 性別】



《上位回答》

		今回	
全体	○ どれも行ってない		90.9%
	○ 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている		4.0%
	○ 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている		1.7%
	○ 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている		1.7%
男性	○ どれも行ってない		90.2%
	○ 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている		4.7%
	○ 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている		2.7%
	○ 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている		1.0%
女性	○ どれも行ってない		92.2%
	○ 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている		3.4%
	○ 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている		1.0%
	○ 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている		1.0%

【ヤングケアラー / 性別】

		(%)							
回答数	障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている	障がいや病気のある家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	日本語が不自由な家族や障がいのある家族のために通訳をしてい	日本語が不自由な家族や障がいがある家族の精神疾患など慢性的な病気、家族の看病をしてい	障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	どれも行ってない	
全体	473	1.7	4.0	0.8	1.7	0.4	0.2	0.8	90.9
男性	255	2.7	4.7	1.2	2.0	0.4	0.0	0.8	90.2
女性	206	0.5	3.4	0.5	1.0	0.5	0.5	1.0	92.2

5. デートDVについて

(1) デートDVの認知度

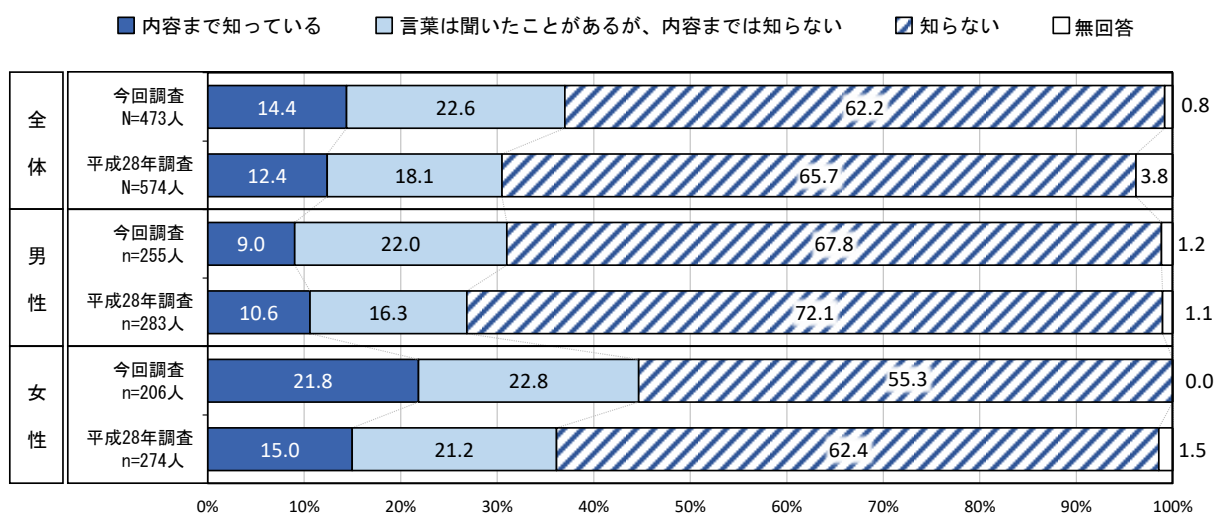
問12 あなたは、「デートDV」について知っていますか。(〇は1つ)

全体では、「知らない」(62.2%)の割合が最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」(22.6%)となっている。「内容まで知っている」と回答した人の割合は14.4%と最も低く、あまり知られていない。

性別でみると、男性に比べ女性の方が「内容まで知っている」と回答した人の割合が2倍ほど高くなっている。

前回調査との比較では、「内容まで知っている」と回答した「男性」の割合がやや低くなっている。

【デートDVの認知度 / 性別】(前回調査比較)



全体：「内容まで知っている」14.4% (前回比 +2.0ポイント)
 : 「内容までは知らない」22.6% (前回比 +4.5ポイント)
 : 「知らない」62.2% (前回比 -3.5ポイント)
 男性：「内容まで知っている」9.0% (前回比 -1.6ポイント)
 : 「内容までは知らない」22.0% (前回比 +5.7ポイント)
 : 「知らない」67.8% (前回比 -4.3ポイント)
 女性：「内容まで知っている」21.8% (前回比 +6.8ポイント)
 : 「内容までは知らない」22.8% (前回比 +1.6ポイント)
 : 「知らない」55.3% (前回比 -7.1ポイント)

※ 「内容までは知らない」 = 「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」

【デートDVの認知度 / 性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	る内容まで知っている	ではあるが知らない	言葉は聞いたこと	知らない	無回答
全体	今回調査	473	14.4	22.6	62.2	0.8	
	平成28年調査	574	12.4	18.1	65.7	3.8	
性別	男性	今回調査	255	9.0	22.0	67.8	1.2
		平成28年調査	283	10.6	16.3	72.1	1.1
	女性	今回調査	206	21.8	22.8	55.3	0.0
		平成28年調査	274	15.0	21.2	62.4	1.5

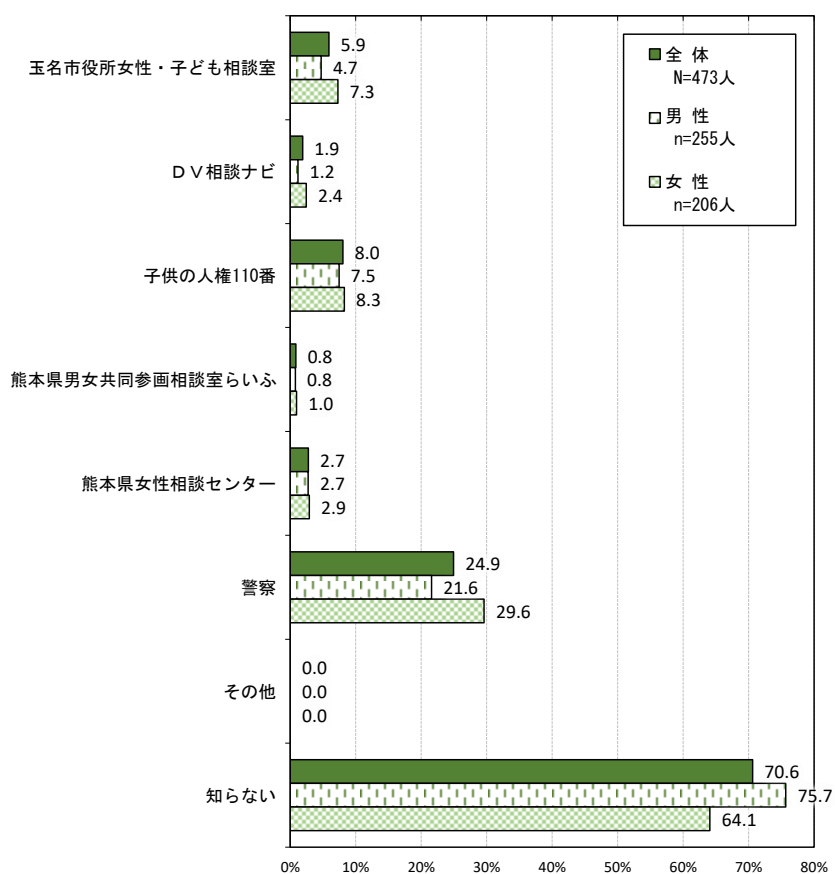
(2) デートDVに関する相談機関の認知度

問13 「デートDV」に関する問題で相談できるところが、市内、県内にありますが、知っているところを教えてください。(〇はいくつでも)

全体では、「知らない」(70.6%)の割合が突出して高く、多くの人が相談できる機関を知らない。次いで「警察」(24.9%)、以下、「子供の人権110番」(8.0%)、「玉名市役所女性・子ども相談室」(5.9%)と続いている。

性別でみると、「知らない」と回答した人の割合は、「男性」で75.7%となっており、「女性」の64.1%を11.6ポイント上回っている。

【デートDVに関する相談機関の認知度 / 性別】



《上位回答》

		今回	
全体	○ 知らない	70.6%	
	○ 警察	24.9%	
	○ 子供の人権110番	8.0%	
男性	○ 知らない	75.7%	
	○ 警察	21.6%	
	○ 子供の人権110番	7.5%	
女性	○ 知らない	64.1%	
	○ 警察	29.6%	
	○ 子供の人権110番	8.3%	

【デートDVに関する相談機関の認知度 / 性別】

		(%)							
	回答数	玉名市役所女性・子ども相談室	DV相談ナビ	子供の人権110番	熊本県男女共同参画相談室ららふ	熊本県女性相談センター	警察	その他	知らない
全体	473	5.9	1.9	8.0	0.8	2.7	24.9	0.0	70.6
男性	255	4.7	1.2	7.5	0.8	2.7	21.6	0.0	75.7
女性	206	7.3	2.4	8.3	1.0	2.9	29.6	0.0	64.1

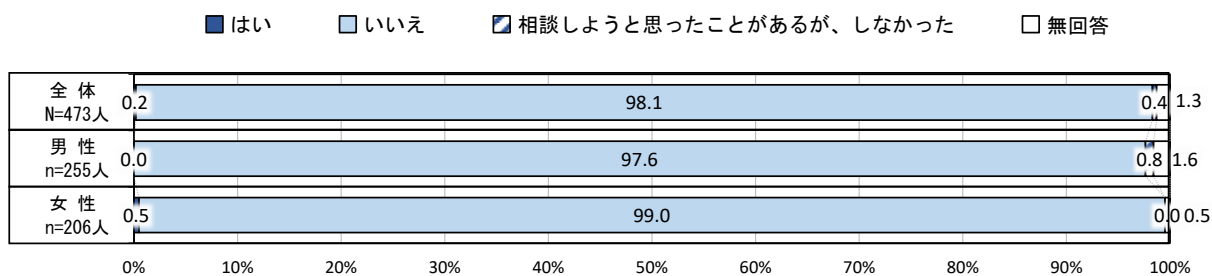
(3) デートDVの相談有無

問 14 あなたは、「デートDV」について相談したことがありますか。(○は1つ)

全体では、「いいえ」(98.1%)の割合が突出して高くなっており、「相談しようと思ったことがあるが、しなかった」は0.4%、「はい」は0.2%となっている。

性別で見ると、「はい」と回答した人の割合は、男性が0%であるのに対して、女性は0.5%と男性に比べ高い。一方で、「相談しようと思ったことがあるが、しなかった」と回答した人の割合は、女性が0%であるのに対して、男性は0.8%と女性に比べ高くなっている。

【デートDVの相談有無 / 性別】



【デートDVの相談有無 / 性別】

(%)					
	回答数	はい	いいえ	相談しようと思ったことがあるが、しなかった	無回答
全体	473	0.2	98.1	0.4	1.3
男性	255	0.0	97.6	0.8	1.6
女性	206	0.5	99.0	0.0	0.5

(4) デートDVの経験について

問 15 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。(①～⑥の項目それぞれ1つに○)

① 携帯のメッセージを勝手に見たり、連絡先を勝手に消したりする

全体では、「経験はない」が98.1%と高く、『行為に関わる経験を持つ』の回答は1.7%と非常に低くなっているが、ごくわずかながら、実際の行為に関わる経験を持つ中学生がいる。

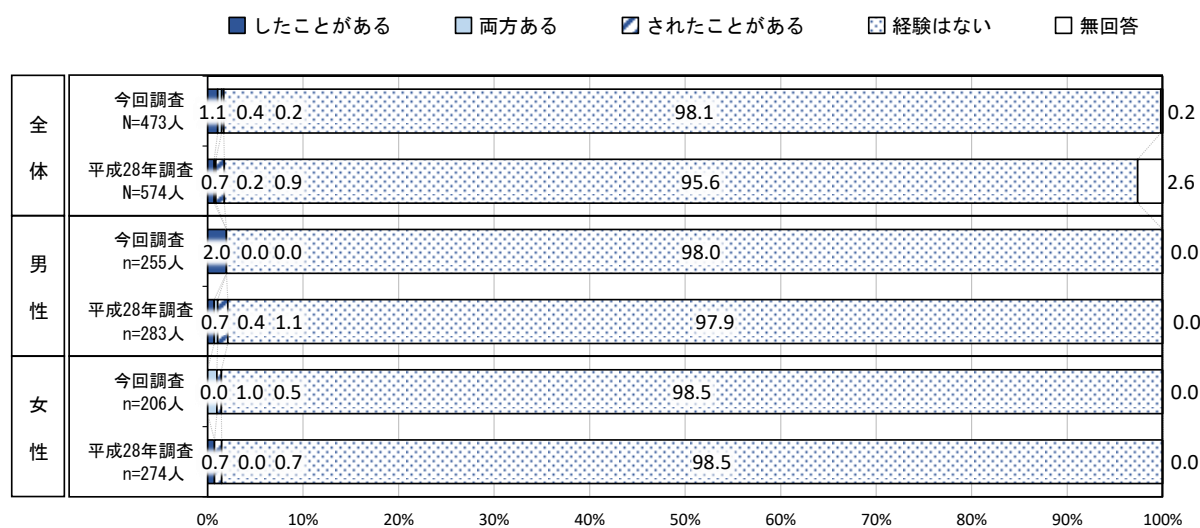
性別で『行為に関わる経験を持つ』の内訳をみると、男性では「したことがある」(2.0%)、女性では「両方ある」(1.0%)、「されたことがある」(0.5%)の選択肢にごく少数であるが回答している。

前回調査との比較では、『行為に関わる経験を持つ』の回答が低下している。

※『行為に関わる経験を持つ』＝「したことがある」＋「両方ある」＋「されたことがある」

(以下、特に断りのない限り同様とする)

【① 携帯のメッセージを勝手に見たり、連絡先を勝手に消したりする/ 性別】(前回調査比較)



全体：「したことがある」 1.1% (前回比 +0.4ポイント)
 :「両方ある」 0.4% (前回比 +0.2ポイント)
 :「されたことがある」 0.2% (前回比 -0.7ポイント)

男性：「したことがある」 2.0% (前回比 +1.3ポイント)
 :「両方ある」 0.0% (前回比 -0.4ポイント)
 :「されたことがある」 0.0% (前回比 -1.1ポイント)

女性：「したことがある」 0.0% (前回比 -0.7ポイント)
 :「両方ある」 1.0% (前回比 +1.0ポイント)
 :「されたことがある」 0.5% (前回比 -0.2ポイント)

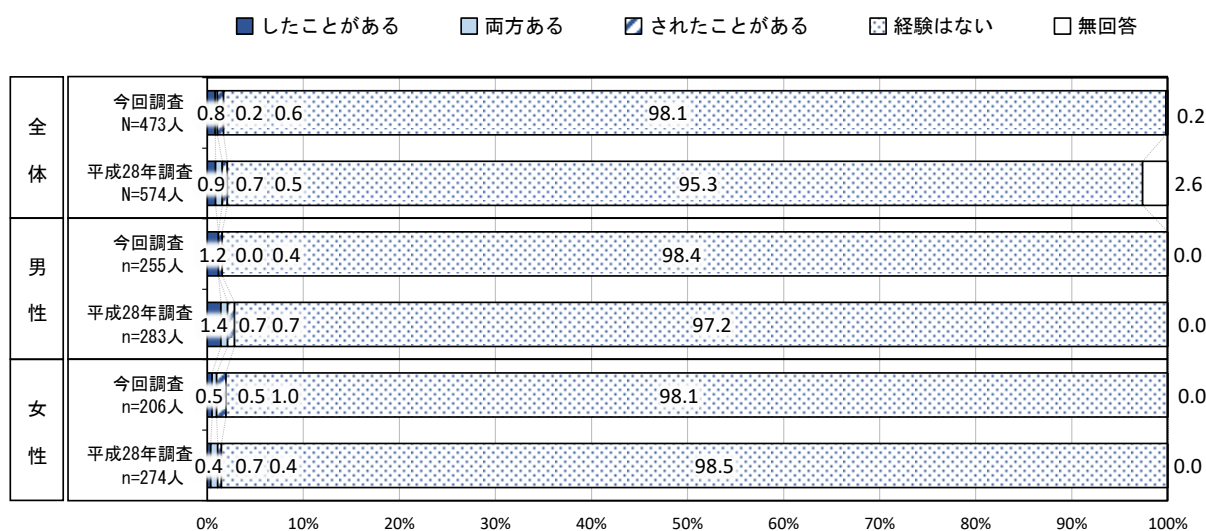
② 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする

全体では、「経験はない」と回答した割合が98.1%と最も高い。ごく少数であるが1.6%の中学生が『行為に関わる経験を持つ』と回答している。

性別で見ると、女性に比べ男性の方が「したことがある」と回答した割合が高く、「されたことがある」は女性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『行為に関わる経験を持つ』と回答した割合が低下している。

【② 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする/ 性別】（前回調査比較）



全体：「したことがある」 0.8%（前回比 -0.1ポイント）
 ：「両方ある」 0.2%（前回比 -0.5ポイント）
 ：「されたことがある」 0.6%（前回比 +0.1ポイント）
 男性：「したことがある」 1.2%（前回比 -0.2ポイント）
 ：「両方ある」 0.0%（前回比 -0.7ポイント）
 ：「されたことがある」 0.4%（前回比 -0.3ポイント）
 女性：「したことがある」 0.5%（前回比 +0.1ポイント）
 ：「両方ある」 0.5%（前回比 -0.2ポイント）
 ：「されたことがある」 1.0%（前回比 +0.6ポイント）

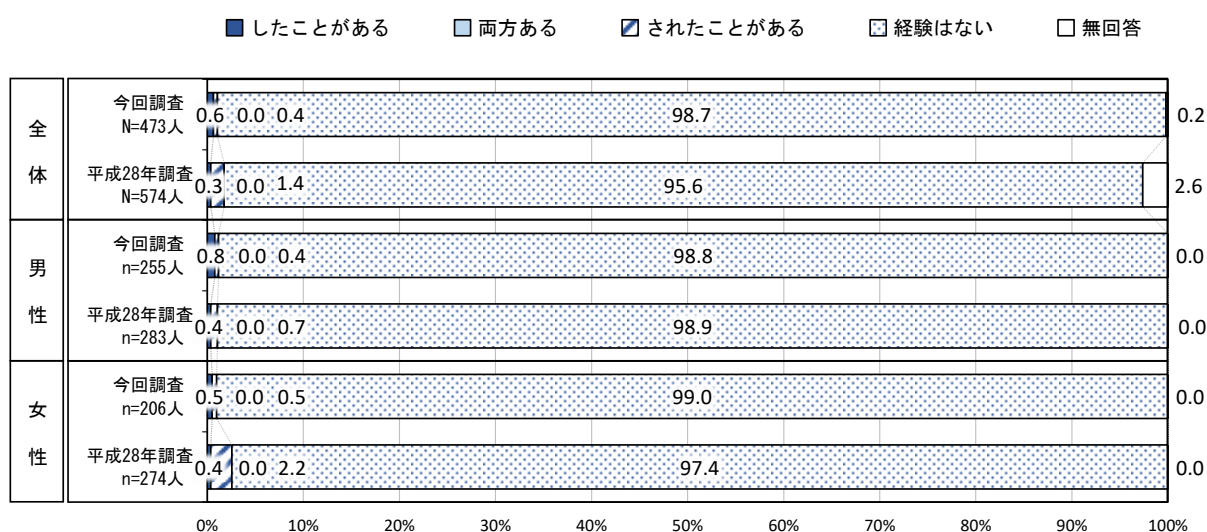
③ 付きまったり、信じられない回数や内容のメッセージをする

全体では、「経験はない」と回答した割合が98.7%と最も高い。ごく少数であるが1.0%の中学生が『行為に関わる経験を持つ』と回答している。

性別にみると、女性に比べ男性の方が「したことがある」と回答した割合が高く、「されたことがある」は女性の方が高くなっている。

前回調査との比較では、『行為に関わる経験を持つ』と回答した割合が低下している。

【③ 付きまったり、信じられない回数や内容のメッセージをする/ 性別】（前回調査比較）



全体：「したことがある」 0.6%（前回比 +0.3ポイント）
 ：「両方ある」 0.0%（前回比 ±0ポイント）
 ：「されたことがある」 0.4%（前回比 -1.0ポイント）
 男性：「したことがある」 0.8%（前回比 +0.4ポイント）
 ：「両方ある」 0.0%（前回比 ±0ポイント）
 ：「されたことがある」 0.4%（前回比 -0.3ポイント）
 女性：「したことがある」 0.5%（前回比 +0.1ポイント）
 ：「両方ある」 0.0%（前回比 ±0ポイント）
 ：「されたことがある」 0.5%（前回比 -1.7ポイント）

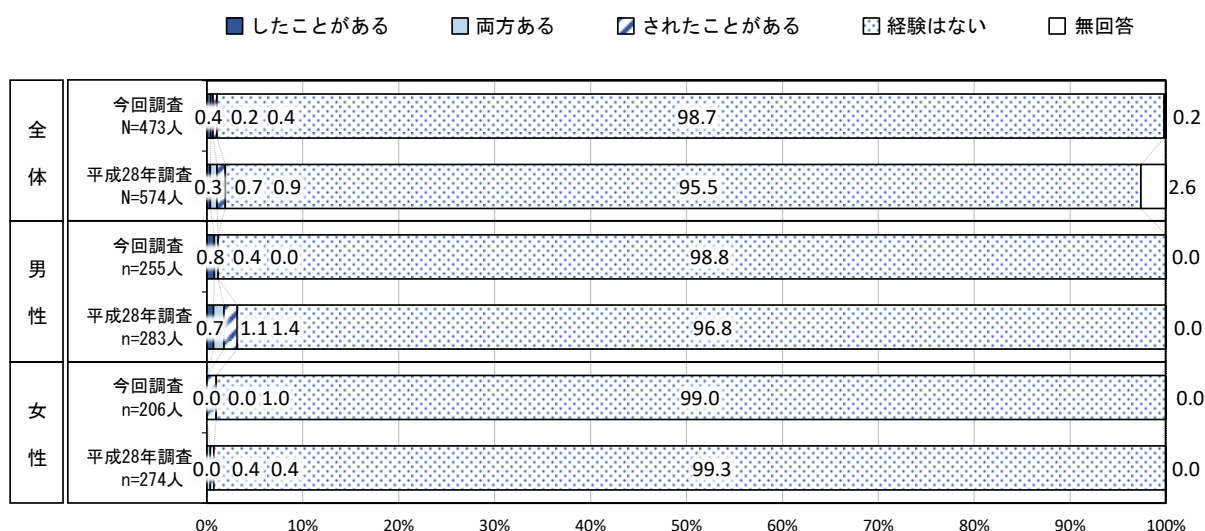
④ なぐる、けるなどの暴力をふるう

全体では、「経験はない」と回答した割合が98.7%と最も高い。ごく少数であるが1.0%の中学生が『行為に関わる経験を持つ』と回答している。

性別で『行為に関わる経験を持つ』の内訳をみると、男性では「したことがある」(0.8%)、「両方ある」(0.4%)、女性では「されたことがある」(1.0%)の選択肢にごくわずかながら回答している。

前回調査との比較では、『行為に関わる経験を持つ』と回答した割合が低下している。

【④ なぐる、けるなどの暴力をふるう/ 性別】(前回調査比較)



全体：「したことがある」 0.4% (前回比 +0.1ポイント)
 「両方ある」 0.2% (前回比 -0.5ポイント)
 「されたことがある」 0.4% (前回比 -0.5ポイント)
 男性：「したことがある」 0.8% (前回比 +0.1ポイント)
 「両方ある」 0.4% (前回比 -0.7ポイント)
 「されたことがある」 0.0% (前回比 -1.4ポイント)
 女性：「したことがある」 0.0% (前回比 ±0ポイント)
 「両方ある」 0.0% (前回比 -0.4ポイント)
 「されたことがある」 1.0% (前回比 +0.6ポイント)

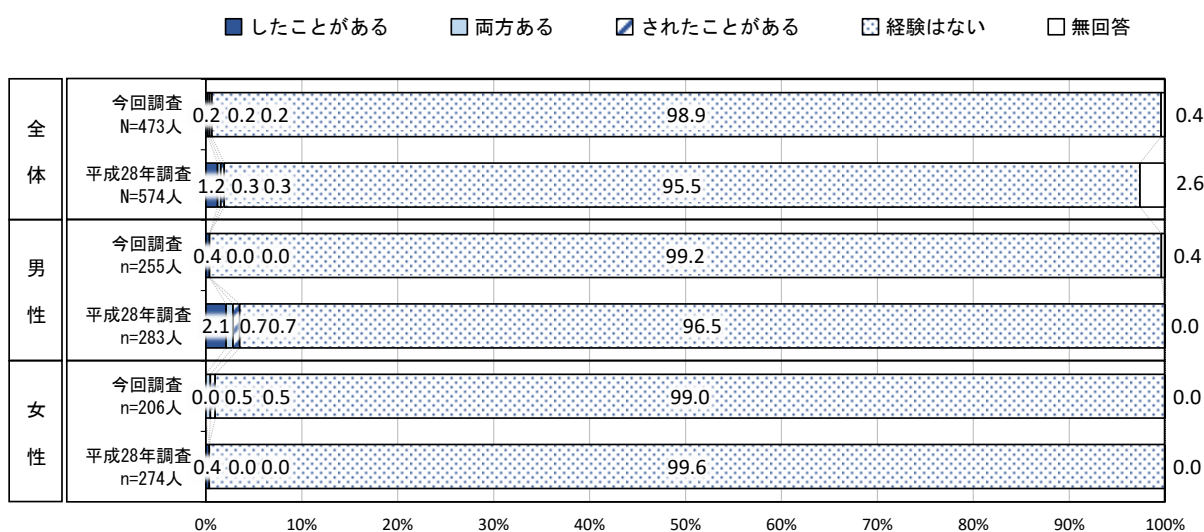
⑤ 大声でどなる

全体では、「経験はない」と回答した割合が98.9%と最も高い。ごく少数であるが0.6%の中学生が『行為に関わる経験を持つ』と回答している。

性別で『行為に関わる経験を持つ』の内訳をみると、男性では「したことがある」(0.4%)、女性では「両方ある」(0.5%)、「されたことがある」(0.5%)の選択肢にごくわずかながら回答している。

前回調査との比較では、『行為に関わる経験を持つ』と回答した割合が低下している。

【⑤ 大声でどなる/ 性別】(前回調査比較)



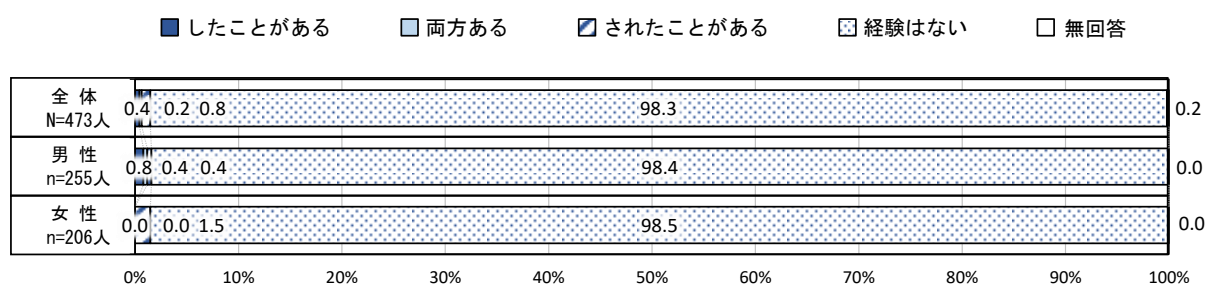
全体：「したことがある」 0.2% (前回比 -1.0ポイント)
 ：「両方ある」 0.2% (前回比 -0.1ポイント)
 ：「されたことがある」 0.2% (前回比 -0.1ポイント)
 男性：「したことがある」 0.4% (前回比 -1.7ポイント)
 ：「両方ある」 0.0% (前回比 -0.7ポイント)
 ：「されたことがある」 0.0% (前回比 -0.7ポイント)
 女性：「したことがある」 0.0% (前回比 -0.4ポイント)
 ：「両方ある」 0.5% (前回比 +0.5ポイント)
 ：「されたことがある」 0.5% (前回比 +0.5ポイント)

⑥ 相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする

全体では、「経験はない」と回答した割合が98.3%と最も高い。ごく少数であるが1.4%の中学生が『行為に関わる経験を持つ』と回答している。

性別で『行為に関わる経験を持つ』の内訳をみると、男性では「したことがある」(0.8%)、「両方ある」(0.4%)、「されたことがある」(0.4%)の選択肢にごくわずかながら回答しており、女性では「されたことがある」(1.5%)の選択肢にごくわずかながら回答している。

【⑥ 相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする/ 性別】



※ 前回調査では、「相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする」の設問はなかった。

【デートDVの経験について/性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	① 携帯のメッセージを勝手に見たり、連絡先を勝手に消したりする					② 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする					
			したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	
全体	今回調査	473	1.1	0.4	0.2	98.1	0.2	0.8	0.2	0.6	98.1	0.2	
	平成28年調査	574	0.7	0.2	0.9	95.6	2.6	0.9	0.7	0.5	95.3	2.6	
性別	男性	今回調査	255	2.0	0.0	0.0	98.0	0.0	1.2	0.0	0.4	98.4	0.0
		平成28年調査	283	0.7	0.4	1.1	97.9	0.0	1.4	0.7	0.7	97.2	0.0
	女性	今回調査	206	0.0	1.0	0.5	98.5	0.0	0.5	0.5	1.0	98.1	0.0
		平成28年調査	274	0.7	0.0	0.7	98.5	0.0	0.4	0.7	0.4	98.5	0.0

		回答数	③ 付きまとったり、信じられない回数や内容のメッセージをする					④ なぐる、けるなどの暴力をふるう					
			したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	
全体	今回調査	473	0.6	0.0	0.4	98.7	0.2	0.4	0.2	0.4	98.7	0.2	
	平成28年調査	574	0.3	0.0	1.4	95.6	2.6	0.3	0.7	0.9	95.5	2.6	
性別	男性	今回調査	255	0.8	0.0	0.4	98.8	0.0	0.8	0.4	0.0	98.8	0.0
		平成28年調査	283	0.4	0.0	0.7	98.9	0.0	0.7	1.1	1.4	96.8	0.0
	女性	今回調査	206	0.5	0.0	0.5	99.0	0.0	0.0	0.0	1.0	99.0	0.0
		平成28年調査	274	0.4	0.0	2.2	97.4	0.0	0.0	0.4	0.4	99.3	0.0

		回答数	⑤ 大声でどなる					⑥ 相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする					
			したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない	無回答	
全体	今回調査	473	0.2	0.2	0.2	98.9	0.4	0.4	0.2	0.8	98.3	0.2	
	平成28年調査	574	1.2	0.3	0.3	95.5	2.6						
性別	男性	今回調査	255	0.4	0.0	0.0	99.2	0.4	0.8	0.4	0.4	98.4	0.0
		平成28年調査	283	2.1	0.7	0.7	96.5	0.0					
	女性	今回調査	206	0.0	0.5	0.5	99.0	0.0	0.0	0.0	1.5	98.5	0.0
		平成28年調査	274	0.4	0.0	0.0	99.6	0.0					

※ 前回調査では、⑥「相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする」の設問はなかった。

6. 自分らしく生きられる社会について

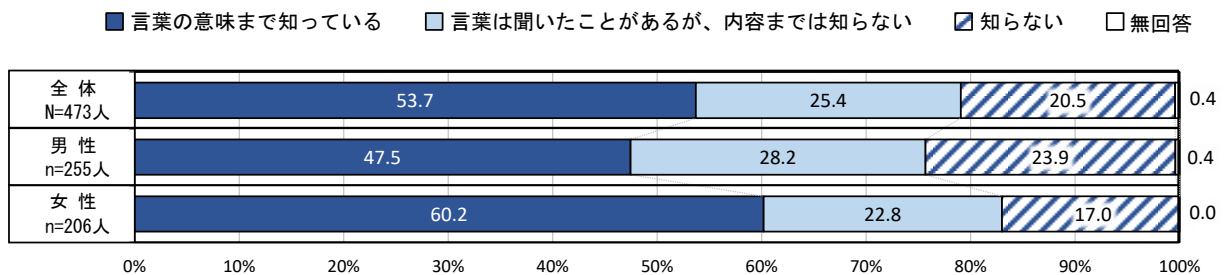
(1) 性的少数者という言葉の認知度

問 16 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

全体では、「言葉の意味まで知っている」（53.7%）の割合が最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（25.4%）となっている。

性別で見ると、「言葉の意味まで知っている」と回答した人の割合は、女性で60.2%となっており、男性の47.5%を12.7ポイント上回っている。

【性的少数者という言葉の認知度 / 性別】



【性的少数者という言葉の認知度 / 性別】

(%)

	回答数	言葉の意味まで知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	無回答
全体	473	53.7	25.4	20.5	0.4
男性	255	47.5	28.2	23.9	0.4
女性	206	60.2	22.8	17.0	0.0

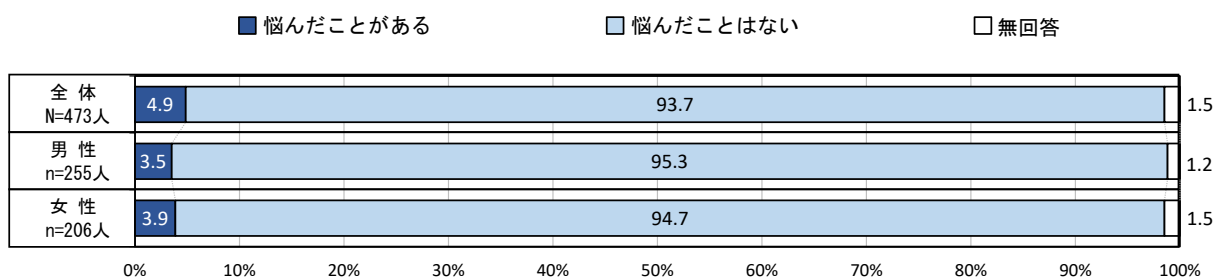
(2) 性的指向に悩んだ経験

問 17 あなたは、自分の身体の性、心の性などに悩んだことがありますか。
(○は1つ)

全体では、「悩んだことはない」と回答した人の割合は93.7%となっており、「悩んだことある」と回答した人の割合は4.9%となっている。

性別で見ると、ほぼ同様の構成となっている。

【性的指向に悩んだ経験 / 性別】



【性的指向に悩んだ経験 / 性別】

(%)

	回答数	あ悩んだことが	な悩んだことは	無回答
全体	473	4.9	93.7	1.5
男性	255	3.5	95.3	1.2
女性	206	3.9	94.7	1.5

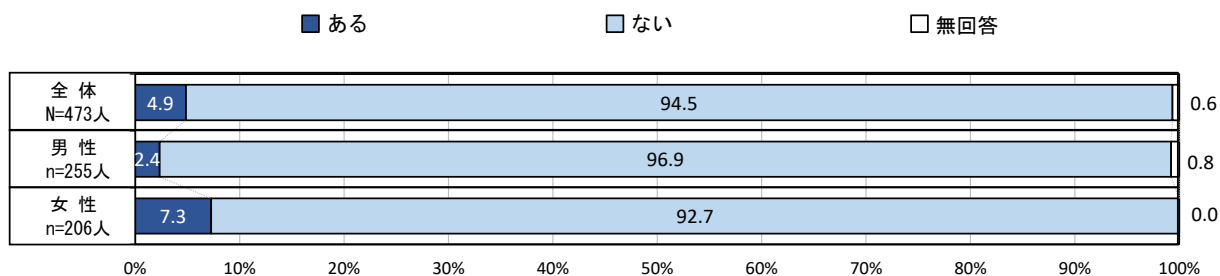
(3) 性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験

問 18 あなたは、性的少数者（LGBT等）に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことがありますか。（○は1つ）

全体では、「ない」と回答した人の割合は94.5%となっており、「ある」と回答した人の割合は4.9%となっている。

性別で見ると、男性に比べ女性の方が「ある」と回答した割合が4.9ポイント高くなっている。

【性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験 / 性別】



【性的少数者に関する差別的な言動を受けたり、見聞きした経験 / 性別】

(%)

	回答数	ある	ない	無回答
全体	473	4.9	94.5	0.6
男性	255	2.4	96.9	0.8
女性	206	7.3	92.7	0.0

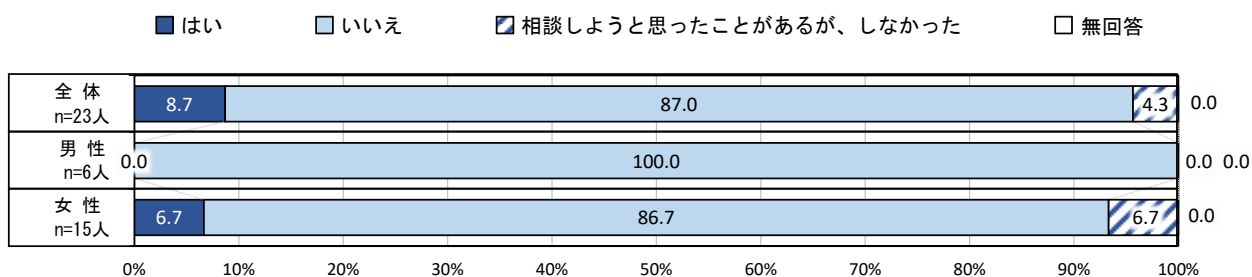
(4) 相談した経験

SQ 問18で「1. ある」と答えた方におたずねします。どこか（誰かに）相談したことがありますか。（〇は1つ）

全体では、「いいえ」（87.0％）の割合が最も高く、次いで、「はい」（8.7％）、「相談しようと思ったことがあるが、しなかった」（4.3％）と続いた。

性別で見ると、女性では「いいえ」（86.7％）の割合が最も高く、「はい」と「相談しようと思ったことがあるが、しなかった」が6.7％であった。男性ではすべての人が「いいえ」と回答している。男女ともに「いいえ」の割合が高く、周囲の偏見や差別、否定的な反応を恐れ、相談もできずに悩んでいることがうかがえる。

【相談した経験 / 性別】



【相談した経験 / 性別】

(%)

	回答数	はい	いいえ	相談しようと思ったことがあるが、しなかった	無回答
全体	23	8.7	87.0	4.3	0.0
男性	6	0.0	100.0	0.0	0.0
女性	15	6.7	86.7	6.7	0.0

7. 男女共同参画社会の推進について

(1) 男女共同参画に関する用語の認知度

問 19 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。(〇はいくつでも)

全体で男女共同参画に関する用語の認知度が高かったものは、「ストーカー行為」(85.6%)、「セクシュアル・ハラスメント」(77.8%)、「男女共同参画社会基本法」(77.8%)、「男女雇用機会均等法」(69.6%)であった。

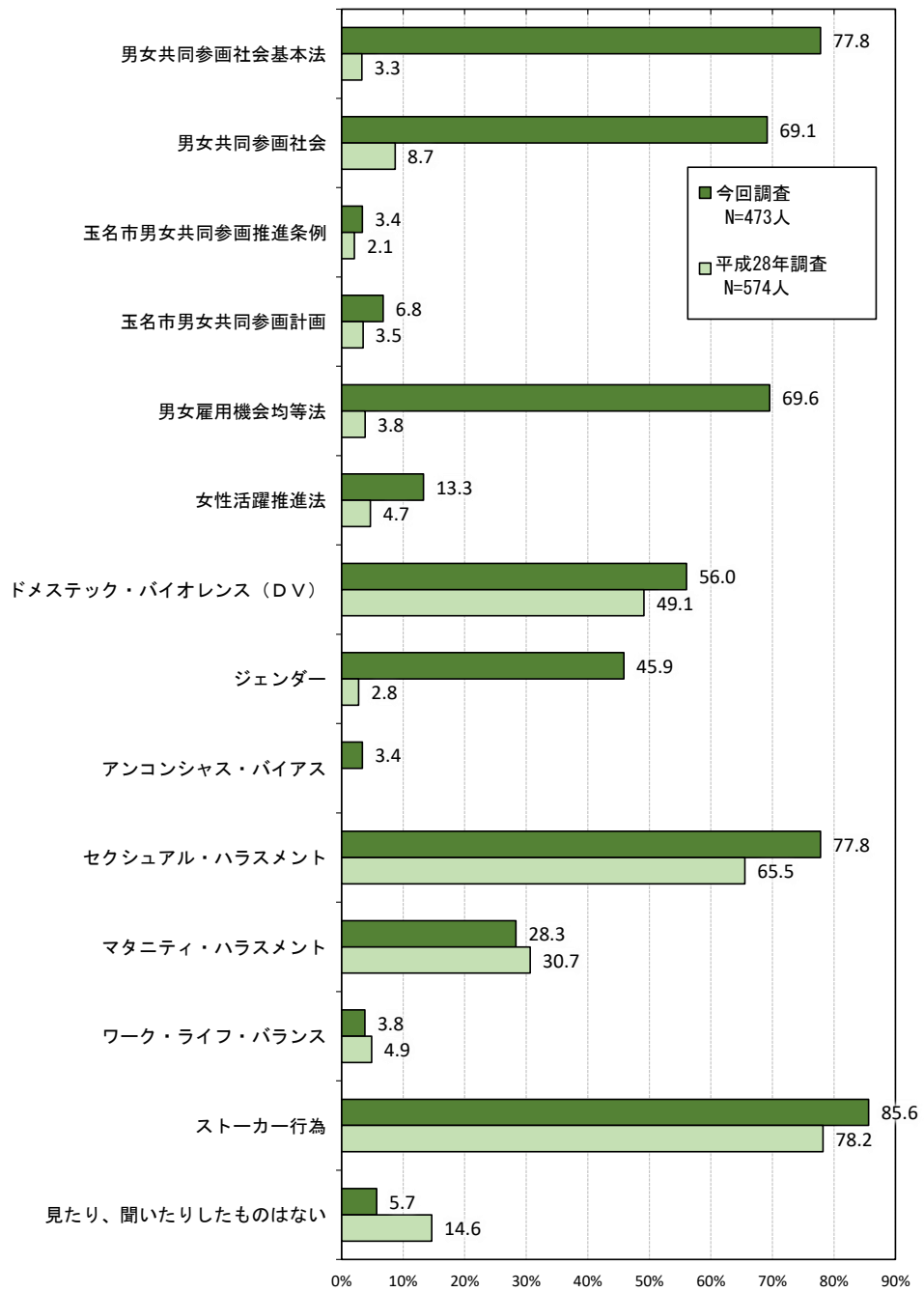
また、最も認知度が低かった用語は、「玉名市男女共同参画推進条例」「アンコンシャス・バイアス」で全体の3.4%しか認知していない。

前回調査では「アンコンシャス・バイアス」の選択肢がなかったため厳密には比較できないが、「男女共同参画社会基本法」と回答した人は74.5ポイント増、「男女雇用機会均等法」と回答した人の割合は65.8ポイント増、「男女共同参画社会」と回答した人の割合は69.1%で60.4ポイント増と、前回に比べて特に増加している。一方、「マタニティ・ハラスメント」「ワーク・ライフ・バランス」「見たり、聞いたりしたものはなし」と回答した人の割合は前回よりも減少している。

《上位回答》

	今回		前回	
全体	○ ストーカー行為	85.6%	○ ストーカー行為	78.2%
	○ セクシュアル・ハラスメント	77.8%	○ セクシュアル・ハラスメント	65.5%
	○ 男女共同参画社会基本法	77.8%	○ ドメスティック・バイオレンス(DV)	49.1%
	○ 男女雇用機会均等法	69.6%		
男性	○ ストーカー行為	84.3%	○ ストーカー行為	76.3%
	○ セクシュアル・ハラスメント	74.9%	○ セクシュアル・ハラスメント	62.5%
	○ 男女共同参画社会基本法	74.9%	○ ドメスティック・バイオレンス(DV)	44.5%
	○ 男女雇用機会均等法	65.9%		
女性	○ ストーカー行為	87.9%	○ ストーカー行為	84.7%
	○ 男女共同参画社会基本法	82.0%	○ セクシュアル・ハラスメント	72.3%
	○ セクシュアル・ハラスメント	81.6%	○ ドメスティック・バイオレンス(DV)	56.6%

【男女共同参画に関する用語の認知度】（前回調査比較）



【男女共同参画に関する用語の認知度 / 性別】（前回調査比較）

									(%)	
		回答数	男女共同参画社会基本法	男女共同参画社会	玉名市男女共同参画推進条例	玉名市男女共同参画計画	男女雇用機会均等法	女性活躍推進法	ドメステック・バイオレンス(DV)	
全体	今回調査	473	77.8	69.1	3.4	6.8	69.6	13.3	56.0	
	平成28年調査	574	3.3	8.7	2.1	3.5	3.8	4.7	49.1	
性別	男性	今回調査	255	74.9	64.3	3.1	5.5	65.9	13.3	50.6
		平成28年調査	283	2.8	6.7	2.5	3.5	3.9	3.9	44.5
	女性	今回調査	206	82.0	76.7	3.9	8.3	74.8	13.6	62.6
		平成28年調査	274	4.0	11.3	1.8	3.6	4.0	5.8	56.6

		回答数	ジェンダー	アンコンシャス・バイアス	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	ワーク・ライフ・バランス	ストーカー行為	見たり、聞いたりしたものはない	
全体	今回調査	473	45.9	3.4	77.8	28.3	3.8	85.6	5.7	
	平成28年調査	574	2.8		65.5	30.7	4.9	78.2	14.6	
性別	男性	今回調査	255	40.4	3.1	74.9	20.0	3.1	84.3	6.7
		平成28年調査	283	2.1		62.5	25.4	5.3	76.3	19.4
	女性	今回調査	206	51.0	3.9	81.6	39.3	4.4	87.9	4.4
		平成28年調査	274	3.6		72.3	37.6	4.7	84.7	10.2

※ 前回調査で設定していなかった選択肢には斜めの罫線を引いている。

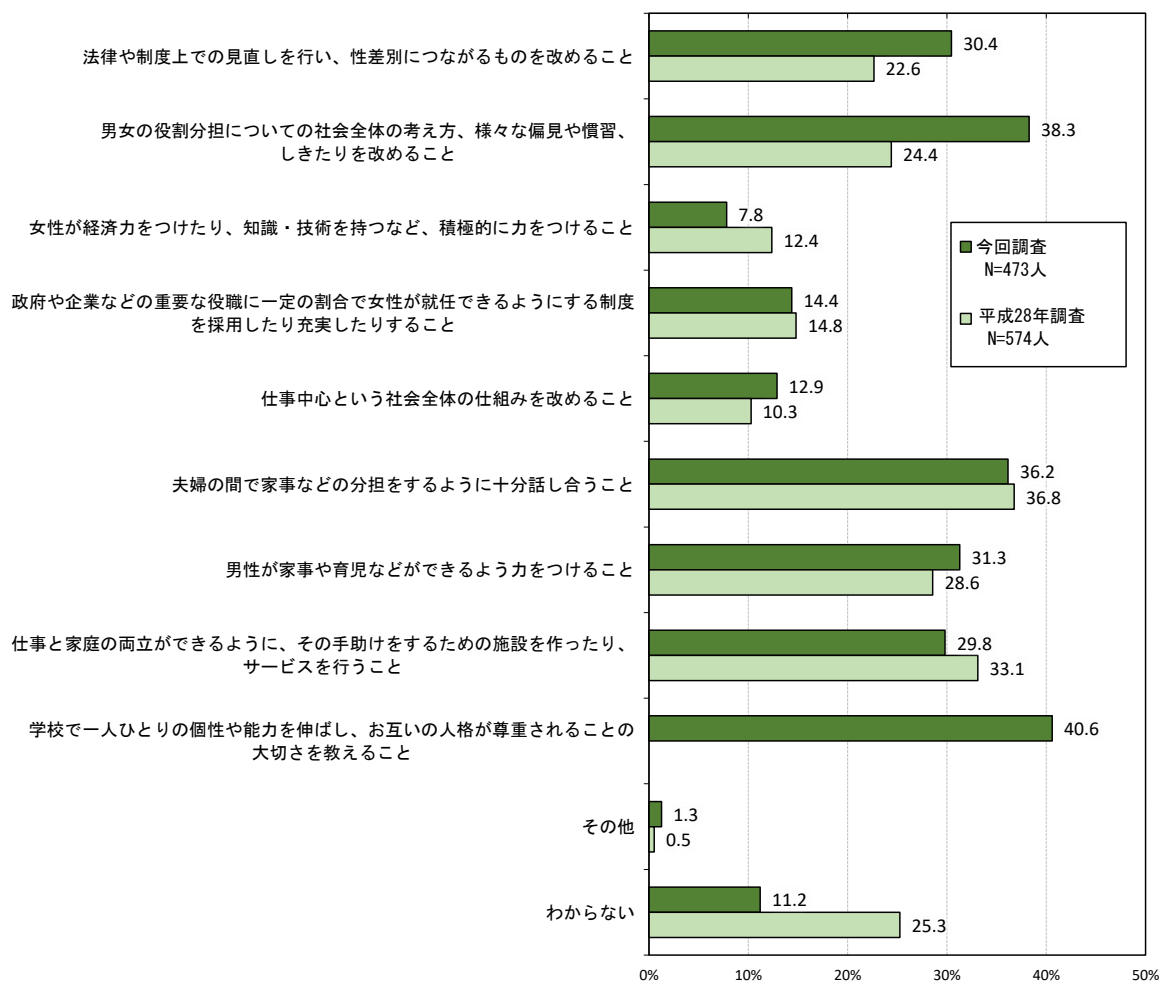
(2) 男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと

問 20 あなたは、今後、男女があらゆる分野（仕事、家庭、学校、地域活動、政治など）でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

全体では、「学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること」（40.6%）の割合が最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること」（38.3%）、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」（36.2%）と続いている。

前回調査では「学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること」の選択肢がなかったため厳密には比較できないが、「男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること」と回答した人の割合が前回に比べて10ポイント以上増加している。

【男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと】（前回調査比較）



《上位回答》

今回		
全体	○ 学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること	40.6%
	○ 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること	38.3%
	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	36.2%
男性	○ 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること	35.7%
	○ 学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること	35.3%
	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	33.7%
女性	○ 学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること	46.6%
	○ 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習、しきたりを改めること	41.3%
	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	38.8%

前回		
全体	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	36.8%
	○ 仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設を作ったり、サービスを行うこと	33.1%
	○ 男性が家事や育児などができるよう力をつけること	28.6%
男性	○ わからない	31.4%
	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	30.7%
	○ 仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設を作ったり、サービスを行うこと	29.3%
女性	○ 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	45.3%
	○ 仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設を作ったり、サービスを行うこと	38.7%
	○ 男性が家事や育児などができるよう力をつけること	29.9%

【男女があらゆる分野で平等になるために重要なこと / 性別】（前回調査比較）

(%)

		回答数	めい、律や制度上の見直しを改めること	習、全男の役割分担についての見直しを改めること	力識女性が経済力を持つこと、積極的知識・技術を持つこと	実よ一政府や企業などの重要な役割を担うこと	み仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	る夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	
全体	今回調査	473	30.4	38.3	7.8	14.4	12.9	36.2	
	平成28年調査	574	22.6	24.4	12.4	14.8	10.3	36.8	
性別	男性	今回調査	255	30.6	35.7	9.4	13.3	14.1	33.7
		平成28年調査	283	26.1	28.3	9.9	12.0	12.7	30.7
	女性	今回調査	206	30.6	41.3	5.8	16.5	10.2	38.8
		平成28年調査	274	20.4	21.5	15.7	18.2	8.4	45.3

		回答数	よ男性が家事や育児などができること	こと設に、仕事と家事の両立が難しいところ	とされ伸学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばすこと	その他	わからない	
全体	今回調査	473	31.3	29.8	40.6	1.3	11.2	
	平成28年調査	574	28.6	33.1	0.5	25.3		
性別	男性	今回調査	255	32.5	22.7	35.3	0.4	14.9
		平成28年調査	283	29.0	29.3	0.7	31.4	
	女性	今回調査	206	29.6	38.3	46.6	2.4	7.3
		平成28年調査	274	29.9	38.7	0.4	20.1	

※ 前回調査で設定していなかった選択肢には斜めの罫線を引いている。

問 21 男女共同参画についてのご意見（男女共同参画推進のためにできることなど）、この調査に対するご感想などがありましたら、自由に書いてください。

最も多かった意見内容は、「男女平等について」で26.9%、次いで「自分らしく生きられる社会について」(14.1%)、「この意識調査について」(12.8%)、「男女共同参画について」(10.3%)となっている。

【集計結果】

NO.	意見内容	件数	割合 (%)
1	男女平等について	21	26.9
2	自分らしく生きられる社会について	11	14.1
3	男女共同参画について	8	10.3
4	職場環境について	4	5.1
5	仕事と家庭生活の両立について	3	3.8
6	相談窓口について	2	2.6
7	この意識調査について	10	12.8
8	その他	19	24.4
計		78	100.0

【項目別の内容】

■ 男女平等について

性別	内容
男子	こういう男女平等問題は一部のSNS利用者が過激な発言をしたりすることがあります。私たち中学生もわからない事があるので、誤解がないようにこういう問題はしっかりと教えるべきだと考えました。
男子	みんなどんなときも平等であるべきだ。
男子	男と女を共に平等にする。
男子	こんなことをしなくてもよくなるくらい男女平等の社会が来ればいいなと思いました。
男子	男女平等でよいと思います。
男子	男女平等の社会、家庭を作っていきたい。
男子	男女平等を目指して頑張りましょう。
男子	もっとみんなが平等になる為にじぶんの生活を見直そうと思った。
男子	身体であったり性格であったり、あきらかに違う部分があるので、男性と女性は差別化されている。これを棚に上げて男女平等の議論をする需要はあまりない。政治参加、経済活動、何をもって平等化するのかあまりわからない。自分的には、男女が平等である事も大事だけれど公平であることがもっと大事だと思う。
男子	女性と違って出来ない決めつけていたので男女平等にしないといけないと思いました。
男子	男女が平等になることはいいことだと思った。仕事も家事も男女一緒に行った方が良いと思った。
男子	男性と女性が同じように変わりなく生活できることが大切だと思う。人間で出来る事は限られている。男性と女性ではその範囲が違うだけで男性と女性では同じ人間として出来る事は一緒だと思う。性別で特別扱いを受けたり、差別したりしているのは結局同じ人間です。人間の中には男・女があるだけで、同じ生活をしている所には差別が起きないのはあたりまえです。男女で偏見的な差がついたのは、昔から伝わってきたものが現代見えてきているのです。今変えなくていいので、少しずつ今からそういう社会への定着を求めます。
女子	男女は平等が良いと思いました。
女子	中学生の制服の男女の違いをなくす。または女子はズボンも、男子はスカートでもいい選べるようにする。
女子	男女共同参画などは最近社会の授業で習ったけど、今でも男女の差別がある事を知りました。平等に生活していくためには、一人一人が互いに理解し尊重していくことが大切だと思います。日本は世界と比べて男女の差別が根強く残っている為「女だから…」という言葉がなくすべきだと思います。
女子	中学校の制服を男女どちらでも選べるようにする。若い世代から考えが改められていくと思う。
女子	日本の社会はまだ戦時中の「男性が優位」という考え方が根強く残っていると思います。先進国の中でも男女平等が遅れていると思います。だから玉名市から変えていって欲しいです。
女子	男女の差別がなくなるためには、もっと男女と話す機会を増やしたらよいと思いました。
女子	この調査が男女が力を合わせてこれからの社会をつくり、支え合っていくための良いきっかけになればいいなと思います。みんなが等しく扱われ、暮らせるような社会にしていってほしいし、これからの社会を担っていく私たちも「平等」ということについてしっかりと考えていかなければいけないと感じました。
女子	もしかしたら生活の中で差別があるかもしれないので見直してみようと思いました。
女子	男女の平等っていうのはとても大切な事だけど難しいことでもあると思います。男性と女性の差っていうのはゼロなわけじゃないですから。今の社会は昔に比べたら男女の平等っていう点ですごく良くなってると思いますけど、やっぱり男女の差とかそういう意識は完全には消えないと思うのでなんというか一人一人がちゃんと思いやりとかを持ってほしいなと思います。

■ 自分らしく生きられる社会について

性別	内容
男子	性的少数者（LGBTなど）のことが良く分からなかったからこの問題でよく分かってよかった。こういったものをこれからの社会に繋げていきたい。
男子	自分の頭の中にも少し男性らしさ、女性らしさという固定概念があったので、それも改めて「自分らしさ」という考え方を大事にしていこうと思った。自分も人の苦しみを理解し、伝える人になる。
男子	とても楽しかった。自分はバイセクシャルなので、私たちが生きやすい社会にして欲しいです。
男子	1人ひとりがそれぞれの生き方で生きやすいような社会になっていけばいいと思います。
男子	LGBTの問題等を考える時には、LGBTではない人が勝手に予想したことで話を進めるのではなく、LGBTの方本人の話を直接聞いて考えていくことが大切だと思う。
女子	LGBTなど認められる社会になって欲しい。
女子	男子も女子も関係ないし、「男女」って言葉使っている時点でどちらにも当てはまらない人が生きにくいなと思いました。
女子	このアンケートのように男女ではなく、男・女・LGBTとしたらLGBTの方々が少しは楽になるのかなと思います。
女子	LGBTQ+についてももう少し理解してほしい。
女子	LGBTの人に関しては、私自身テレビでしか見たり聞いたりしている人で、きっと他の人もLGBTの人に会うと付き合い方や接し方がわからないと思います。だからLGBTの人と直接話したりする場を増やすことが大事だと思います。
その他 ※	1人1人の個性を尊重し合える社会になればいいなと思います。

※ 男子・女子のいずれにもあてはまらない

■ 男女共同参画について

性別	内容
男子	社会の公民で少し授業をしたくらいで、あまりこのことについて考える事がなかったから少しでも考える事ができたので良かったです。
男子	改めて見直さないというがわかった。
男子	僕は完全な男女共同参画社会にはならないと思う。理由は、男性の得意な事（力仕事など）や女性の得意な事（家事など）があると思う。それは男性だから女性だからというわけではなく、得意不得意があるからです。例えば女性に無理やり力仕事をしろといっても出来る人もいるけど男性よりかは出来ない人が多いと思う。その逆もあると思う。男性も女性もいずれにしろすべての事（力仕事や家事）をすべてやるにこしたことはないが、厳しいと思う。だからお互いが協力し、カバーしあっていく必要があると思う。問20の7のような機会を増やすなど。
男子	男は仕事、女は家事という考えをなくす。
女子	本当に男女共同参画はできるんですか？
女子	もっと男性女性が協力しあう社会になって欲しいです。
女子	もっと「男女共同参画社会」の知識を深めて、一人一人の考えや価値観を大切にしていこうと思いました。
女子	もっと男女と一緒に協力できるような取り組みが必要だと思う。

■ 職場環境について

性別	内容
男子	少しずつ女性の就職する割合が増えてきているけど、看護師や保育士などの男性の割合がとても少ないように思ったりします。だから玉名市に男性の割合をもう少し増やしてくれるとありがたいです。
男子	同じ職場で男女の給料の差を縮めること。
男子	会社の中でも女性が出世したりすると良いと思います。
女子	女性が働きやすい環境や職場を増やしてほしい。

■ 仕事と家庭生活の両立について

性別	内容
男子	女性だから男性だからという偏見はつまらないし、良くない。女性は仕事などにも比較的すぐに馴染めそうなイメージはあるが、男性が家事を完璧にこなすイメージがない→家事や育児について学ぶ機会を増やす。
男子	男女ともに家事が出来ると生活もしやすくなり、男女の偏見も減ると思う。
男子	男性も家事を行い、男女が働けることが大切だと思います。

■ 相談窓口について

性別	内容
男子	他の人がDVなどを受けて相談所とかあるのはわかるけど、やっぱり自分におきかえて考えてみると、相談できる場所があっても気軽に相談出来ない環境の人がいるかもしれないから気軽に、何も心配しないで相談できる場所があったら良いと思う。
女子	デートDVの件ですが、いつもはどの時間帯に開かれていますか？

■ この意識調査について

性別	内容
男子	いろんな知らない言葉が出てきて難しかった。もっとわかりやすくして欲しい。かなり今の社会の問題についてきて素晴らしいと思った。社会で習った単語がいっぱい出てきたから「やったー」って思った。
男子	このような調査はとても大切なので良いと思いました。
男子	これをする事で男女共同参画の考えが深まるので続けた方が良いと思いました。
男子	玉名市は年寄りしかいないので、このようなアンケートをとってもあまり意味がないと思う。
男子	僕はこのアンケートをやって、なぜこれを書かないといけないのかわからなかった。
男子	このようなアンケートで僕たちの事や他の人達の事を知って、もっと良くしていくところなどがとてもいいなと思いました。
男子	問12と問15はあんまり中学生にはないのでもっと他ののにしてほしいです。
女子	最初の方に自分の性別を描く必要はあったのですか？書きたくない人だっているのにそのことを考えなかったのですか？男女共同参画に「男女」という文字が書いてあるのは何も思わないのですか？
女子	性別が男でも女でもある人がいると思うので「どちらにも当てはまる」を追加するといいいのではないかと考えました。
女子	改めて性とか男女について深く考えさせられました。今回は中3だけでしたが、他の学年でもした方が良くと思います。また、子供だけでなく大人にもこういうアンケートをしてもらった方がより良くなると思います。

■ その他

性別	内容
男子	人間が滅亡すれば差別、偏見はなくなる。
男子	もっとなかよくする。
男子	昔の考えをなくす。
男子	知らなかったことを知ることが出来た。(デートDVやアンコンシャス・バイアスやワーク・ライフ・バランスなど)
男子	学校の先生の中で、生徒の事好きな人と優しくしたり、嫌いな人を悪く扱っているように思います。男子にやさしく、女子に怒ったりするのはだめだと思います。
男子	今回のアンケートで自分が生活をしている中であまり考えたことがなかったけど、今回のアンケートで考えられるようになった。
男子	いろいろな事がわかった。
男子	人は人。男とか女とか関係ない。
女子	法律を見直して、多くの人が何も気にせず暮らしていけるようにしたほうが良いと思いました。
女子	私のクラスは男の子のほうが多いので、男の子のほうに前に出たりしているし、女の子は前に出たい人だけ出ているのであまりわかりませんでした。
女子	相撲。
女子	みんなが住みよい社会になると良いと思う。難しいだろうけど頑張ってください。出来ることがあれば協力します。
女子	陸上の大会などで、毎回女子のトラック競技は本部から遠く、あまり目立たないバックストレートで行われることが多いです。男子はメインストレートで行われていますが、これは何か仕方ない理由があるのかとても不思議に思っていました。もしこれで男性が優遇されているのならそれも改めるべきだと思います。
女子	初めて聞いた言葉があったり、相談する場所があるんだなと思った。
女子	わかりません。
女子	今結構たくさんの偏見があると思うので固定。
女子	女性の被害ばかりが多く、また無実の男性もいる中で男女だけで人を見るのではなく、その人のキャリアなどがちゃんと審査される世の中になって欲しいです。また、パートナーシップ制度などのLGBTを推進していく動きも必要になっていると思います。
女子	いろいろわからないことがありました。
女子	口だけでなく、それがきちんと行動に移せるのか一つ一つの言葉に責任を持ってほしい。

調查票

男女共同参画に関する市民意識調査

調査へのご協力をお願い

日頃より、市民の皆さまには本市行政にご協力をいただき、ありがとうございます。

玉名市では、男女が性別にとらわれることなく、喜びや責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っております。

このたび、市内にお住いの男女 2,000 人の方を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することになりました。

この調査は、市民の皆さまの男女共同参画に関する考え方などをお伺いし、今後の玉名市の男女共同参画行政を充実させていくための基礎資料とすることを目的として実施するものです。

この調査票の送付にあたって、市内にお住いの満 20 歳以上の方々を無作為に選びましたところあなた様が選ばれました。お答えいただいた内容は全て統計的に処理し、上記の目的以外には使用いたしませんので、ありのままをご記入いただきますようお願いいたします。

お忙しいところ恐れ入りますが、ご協力をお願いします。

令和3年 10 月

玉名市長 藏原 隆浩

ご記入にあたって

1. この調査票はあなたご自身でご記入ください。
(宛名に記載されているご本人がご回答ください。)
2. 質問ごとに「○」をつける数が違いますので、ご注意ください。
3. 「その他」に「○」をつけられた場合、記述いただく質問には、お手数ですが、その内容を具体的にご記入ください。
4. 調査票・返信用封筒には住所・氏名を記入する必要はありません。
5. 回答を終えられましたら、調査票のみを同封の返信用封筒に入れ、

10月12日(火)までに ご投函ください。(切手は不要です)

【問い合わせ先】 わからないことがございましたら、下記までお問い合わせください。

玉名市役所 総務部 人権啓発課 男女共同参画係 電話 0968-75-1119

あなたご自身のことについておたずねします。

問 1-1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

※戸籍上の性別にかかわらず、ご自身が自認される性別でご回答ください。

- | | |
|-------|---------------------|
| 1. 男性 | 3. 1・2のいずれにもあてはまらない |
| 2. 女性 | |

問 1-2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

※令和3年10月1日現在の年齢でお答えください。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳代 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | 6. 70歳代 |

問 1-3 あなたのご職業は次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つ)

(2つ以上の職業をお持ちの場合は、主たる職業を1つだけ選んでください。
なお、出産・育児・介護などで休業中の場合は、働いているものとして回答してください。)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 会社員・団体職員・公務員・教員 | 5. 学生 |
| 2. 会社経営・自由業・自営業・家業 | 6. 無職 |
| 3. パート・アルバイト | 7. その他() |
| 4. 専業主婦・専業主夫 | |

問 1-4 あなたは結婚したことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. 結婚している・結婚していた
(事実婚・離別・死別含む) | 2. 結婚していない
⇒問1-6へ |
|-----------------------------------|----------------------|

問 1-5 配偶者のいらっしゃる方におたずねします。配偶者は就業されていますか。
(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 就業している | 2. 就業していない |
|-----------|------------|

問 1-6 あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問 1-7 お子さんがいらっしゃる方におたずねします。お子さんは次のどれにあてはまりますか。複数いらっしゃれば、それぞれお答えください。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 子どもは3歳以下 | 4. 子どもは中学生 |
| 2. 子どもは4歳以上～小学校入学前 | 5. 子どもは高校生以上 |
| 3. 子どもは小学生 | |

問1-8. あなたの世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 単身世帯(自分ひとり) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫など) |
| 2. 夫婦世帯 | 5. 祖父母と孫 |
| 3. 二世帯世帯(親と子など) | 6. その他() |

問1-9. あなたのお住まいの地域は、どちらですか。(〇は1つ)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 玉名地域 | 2. 岱明地域 | 3. 横島地域 | 4. 天水地域 |
|---------|---------|---------|---------|

男女共同参画に関する意識についておたずねします。

問2. あなたは、学校、職場、生涯学習講座等で、これまでに「男女共同参画」について学んだことはありますか。(〇は1つ)

【学びの例】・自分らしさを大切にすること

- ・命や性の大切さ
- ・配偶者や交際相手からの暴力のこと
- ・性別に関わりなく個性を發揮する大切さのこと
- ・性別に関わりなく夢をもって将来の進路を選択する大切さのこと
- ・家族の助け合い、支え合いのこと など

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. 学んだことがある | 3. その他() |
| 2. 学んだことはない⇒問3へ | |

問2-1. 問2で「1. 学んだことがある」と答えた方におたずねします。

あなたは、学んだ「男女共同参画」の内容について、どのように考えますか。(〇はいくつでも)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 社会通念、慣習、しきたり等にある差別や偏見に気づくようになった |
| 2. 他者と自分の考え方の違いを受け入れるようになった |
| 3. 性別に関わりなく自分の個性を發揮して生きることに前向きになった |
| 4. 学んだ内容がわかりにくかった |
| 5. 学んだ内容は自分には関係なく、必要ないと思った |
| 6. その他(具体的に) |

問3. あなたは、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(①～⑧の項目それぞれについてあてはまるもの1つに○)

	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない
【記載例】	1	2	③	4	5	6
① 家庭生活では ⇒	1	2	3	4	5	6
② 職場では ⇒	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場では ⇒	1	2	3	4	5	6
④ 政治の場では ⇒	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上では ⇒	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念や慣習・しきたり等では ⇒	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域（校区）では ⇒	1	2	3	4	5	6
⑧ 玉名市では ⇒	1	2	3	4	5	6

問4. あなたは、『「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方』について、どう思いますか（○は1つ）

1. 同感する	4. 同感しない
2. どちらかといえば同感する	5. わからない
3. どちらかといえば同感しない	

問5. あなたは、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。（○は1つ）

1. 思う	4. 思わない
2. どちらかといえばそう思う	5. わからない
3. どちらかといえばそう思わない	

問6. あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。子どものいない方は、一般的にどう思われるかお答えください。(①～③の項目それぞれについてあてはまるもの1つに○)

	賛成	賛成 どちらかといえば	反対 どちらかといえば	反対	わからない
① 性別にかかわらず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ ⇒	1	2	3	4	5
② 性別にかかわらず、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい ⇒	1	2	3	4	5
③ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく(※)育てた方がよい ⇒	1	2	3	4	5

※例えば、男の子らしくとは、力強く勇気があって、リーダーシップを発揮でき、決断力があるが無口なイメージ、女の子らしくとは、優しくおしとやかで、細やかな心配りができて、協調性が豊かなイメージです。

問7. あなたは、学力や家計の事情などの条件が整っていると仮定した場合、子どもの進学目標をどの程度におくのが望ましいと考えますか。(①～②の項目それぞれについてあてはまるもの1つに○)

	義務教育	高等学校	(※) 高等専門学校	短期大学	四年制大学	大学院	専門学校等	その他
① 男の子の場合 ⇒	1	2	3	4	5	6	7	8
② 女の子の場合 ⇒	1	2	3	4	5	6	7	8

※高等専門学校とは、学校教育法で5年制の国立教育機関(高専)のことです。

家庭生活の役割分担についておたずねします。

問8. あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により、家事や育児、介護の分担に変化はありましたか。(①～③の項目それぞれについてあてはまるもの1つに○)

		増えた	減った	な変化は なかった	該当しない
① 家事	⇒	1	2	3	4
② 育児	⇒	1	2	3	4
③ 介護	⇒	1	2	3	4

仕事と家庭・地域生活の両立についておたずねします。

問9. 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担について、当事者の考えを尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 男性が家事、子育て、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8. 国や地方公共団体などの研修により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
11. その他(具体的に)
12. 特に必要なことはない

女性が職業を持つことについておたずねします。

問 10. 一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。
(○は1つ)

1. 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
2. 子どもができたら職業を持たず、仕事に就くことが可能になったら再び職業を持つ方がよい
3. 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
4. 女性は職業を持たない方がよい
5. その他（具体的に _____ ）
6. わからない

問 11. 一般的に、働きたい女性が職業を持ち続けられない理由について、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正当に評価されていないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 仕事と家庭が両立できる制度が不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整っていないから
8. その他（具体的に _____ ）

問 12. あなたは、出産、育児、介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援サービスの充実
3. 家事・育児支援サービスの充実
4. 男性の家事・育児参加への理解・意識改革
5. 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
6. 働き続けることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
8. 職場における育児・介護との両立支援
9. 育児や介護による仕事への影響を理由としたハラスメントや退職勧奨など不利益な取り扱いの禁止
10. その他（具体的に _____ ）
11. 特にない

女性の参画についておたずねします。

問 13. あなたは、指導的立場にある次の役職に女性がもっと進出した方がよいと思いますか。（①～⑥の項目それぞれについて、あてはまるもの1つに〇）

	進出した方がよい	進出した方がよい どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない
① 民生委員 ⇒	1	2	3	4
② 行政協力員（区長） ⇒	1	2	3	4
③ 教育委員 ⇒	1	2	3	4
④ PTA 会長・副会長 ⇒	1	2	3	4
⑤ 市議会議員 ⇒	1	2	3	4
⑥ 職場の管理職 ⇒	1	2	3	4

問 14 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画がまだまだ少ない」と言われていますが、あなたは、その原因は何だと思いますか。

(○はいくつでも)

1. 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強いため
2. 男性優位の組織運営がなされているため
3. 家庭の支援、協力が得られないため
4. 女性の能力向上を図るための機会が不十分であるため
5. 女性の参画への支援が少ないため
6. 女性の積極性が不十分なため
7. その他（具体的に _____)
8. わからない

問 15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(○は3つまで)

1. 多様な視点が加わり、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
5. 男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる
6. 労働時間の短縮など、働き方の見直しが進む
7. 男性の家事・育児などへの参加が増える
8. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
9. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
10. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
11. その他（具体的に _____)
12. 特にない

配偶者等からの暴力についておたずねします。

問 16 ドメスティック・バイオレンス（DV）について、あなたはどの程度ご存知ですか。(○は1つ) (※別紙の用語解説を参考にしてください。)

1. 内容まで知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 知らない

問 17. ドメスティック・バイオレンス（DV）に関する問題を相談できる機関が、市内、県内にありますが、ご存知の機関を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 玉名市役所女性・子ども相談室 | 5. 警察 |
| 2. 熊本県女性相談センター | 6. その他（ ） |
| 3. 熊本県男女共同参画相談室らいつ | 7. 知らない |
| 4. DV相談+（プラス） | |

問 18. 最近、パートナー（配偶者や恋人）との間で、一方が他方から、身体的・心理的・経済的な暴力を受けるといふDVが社会問題となっていますが、あなたはパートナーからの暴力について、身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

- | |
|--|
| 1. 身近に暴力を受けている人を知っている、または自分が受けたことがある |
| 2. 身体に対しての暴力はないが、精神的にダメージを受けるような言葉の暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。 |
| 3. 生活費を渡さなかったり、仕事を辞めさせたりする経済的な暴力を受けている人を知っている。または自分が受けたことがある。 |
| 4. 身近な人からの相談を受けたことがある |
| 5. 暴力について、人のうわさを耳にしたことがある |
| 6. その他（具体的に ） |
| 7. 全く知らない |

問 18-1. 問 18 で「1」～「6」と答えた方におたずねします。

あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

- | | |
|---|--|
| 1. 友人・知人 | |
| 2. 家族・親戚 | |
| 3. 医療関係者（医師・看護師） | |
| 4. 警察 | |
| 5. 公的機関の相談窓口（具体的に ） | |
| 6. 民間の相談窓口（具体的に ） | |
| 7. その他（具体的に ） | |
| 8. 相談しなかった（理由 ） | |

問 19 「DVを受けたことがある」方におたずねします。

あなたは、DVを受けた時どうしましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 我慢した | 5. 逃げた |
| 2. 謝った(なだめた) | 6. 恐怖で何もできなかった |
| 3. 抵抗、反撃した | 7. その他() |
| 4. 第三者や相談機関に相談した | |

防災の分野における男女共同参画についておたずねします。

問 20 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立には、どのようなことが必要と考えられますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 防災対策に男女共同参画の視点を反映させるため、玉名市防災会議における女性委員の割合を高めること |
| 2. 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること |
| 3. 避難所の管理責任者には、男女両方を配置すること |
| 4. 女性だけではなく、男性に対する相談体制を整備するとともに、相談窓口の周知方法を工夫すること |
| 5. 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がいのある人、介護を必要とする人は、安全を確保できるところへの避難誘導・避難介助を行うこと |
| 6. 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮した視点で取り組むこと |
| 7. 特に必要はない |
| 8. その他(具体的に) |

農林水産業の分野における男女共同参画についておたずねします。

問 21 農林水産業の分野で、男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思
いますか。(〇はいくつでも)

1. 農林水産業に携わる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること
2. 農林水産業に携わる人々が自ら積極的に男女共同参画社会づくりに取り組む
こと
3. 男女共同参画に関する人材を育てること
4. 農林水産業に携わる人々が地域社会活動において男女が対等の活躍ができる
ような雰囲気を作ること
5. 休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女ともに家庭生活
以外の活動へ参加しやすい環境を作っていくこと
6. 女性が農林水産業経営者として能力を向上させること
7. 家族経営協定などにより、女性が責任を持って経営に参画すること
8. 農林水産加工・直売所の運営や食文化・地域文化の継承活動により、女性の
活躍の場をつくること
9. 特に必要なものはない
10. その他(具体的に)
11. わからない

新型コロナウイルス感染症の影響についておたずねします。

問 22 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響により現在どのようなことに不安
を感じていますか。(〇は3つまで)

1. 収入の減少
2. 失業、休業
3. 働き方の変化により仕事の負担が増えること
4. 家事の負担が増えること
5. 育児の負担が増えること
6. 介護の負担が増えること
7. 家族との関係
8. 配偶者等からの暴力
9. 特にない
10. その他(具体的に)

自分らしく生きられる社会についておたずねします。

問 23 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）
（※別紙の用語解説を参考にしてください。）

1. 言葉の意味まで知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 知らない

問 24 あなたは、自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛等）に悩んだことがありますか。（○は1つ）

1. 悩んだことがある
2. 悩んだことはない
3. 答えたくない

問 25 あなたは、性的少数者（LGBT等）に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことがありますか。（○は1つ）

1. ある
2. ない

問 26 あなたは、性的少数者（LGBT等）の人たちにとって偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するためには、どのような施策が必要だと思いますか。
（○はいくつでも）

1. 性的少数者（LGBT等）に関する啓発事業の推進
2. 誰もが働きやすい職場環境づくりのため、企業や事業者への啓発活動の推進
3. 学校教育の場における学習機会の充実
4. 行政職員や小中学校などの教職員に対する研修の推進
5. 相談窓口の設置
6. 偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備
7. その他（具体的に)
8. 特にない

男女共同参画の推進についておたずねします。

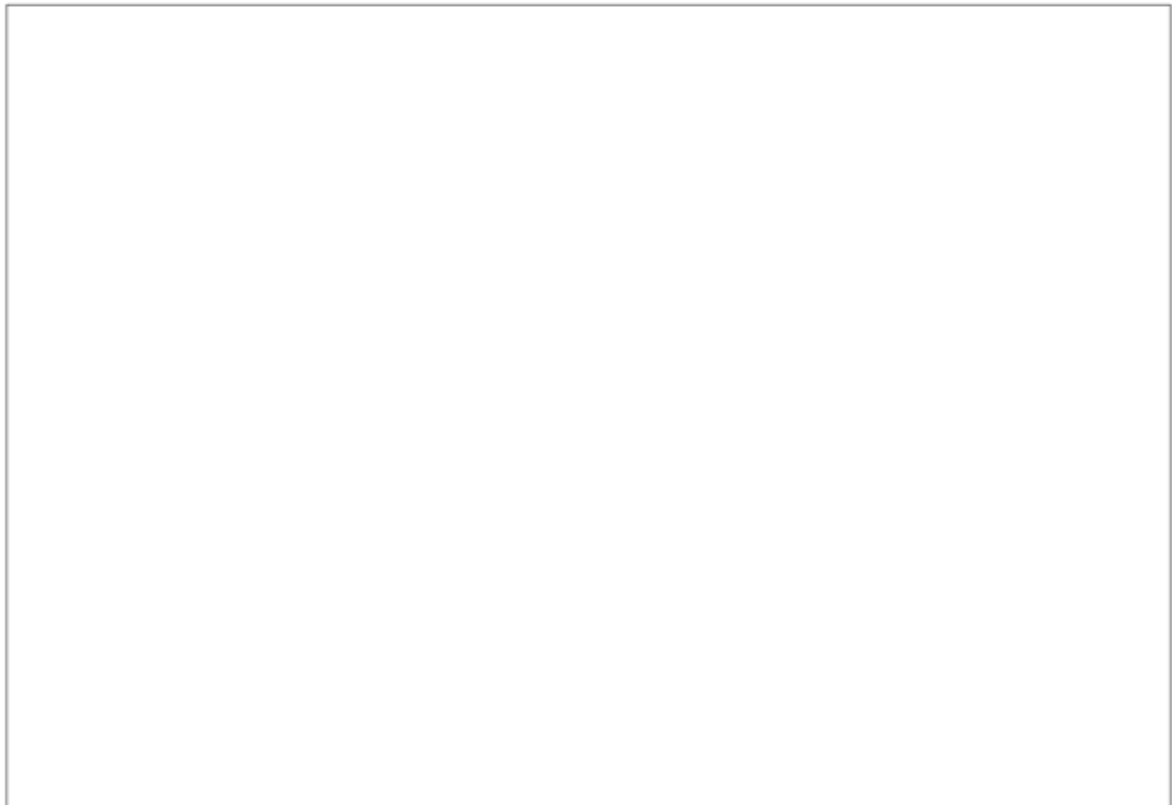
問 27 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(○はいくつでも) (※別紙の用語解説を参考にしてください。)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 男女共同参画社会基本法 | 9. ジェンダー |
| 2. 男女共同参画社会 | 10. アンコンシャス・バイアス |
| 3. 玉名市男女共同参画推進条例 | 11. セクシュアル・ハラスメント |
| 4. 玉名市男女共同参画計画 | 12. マタニティ・ハラスメント |
| 5. 男女雇用機会均等法 | 13. ワーク・ライフ・バランス |
| 6. 女性活躍推進法 | 14. ストーカー行為 |
| 7. 育児・介護休業法 | 15. テートDV |
| 8. ポジティブ・アクション | 16. 見たり、聞いたりしたものはない |

問 28 玉名市が、男女共同参画社会を形成するために力を入れるべき施策は何だと思
いますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 各種審議会や委員会などの政策、方針決定の場へ女性を多く登用すること |
| 2. 女性の地位向上のための啓発事業を実施すること |
| 3. 学校教育の場での男女平等と相互理解のための学習を充実させること |
| 4. 女性のための職業訓練の実施や雇用促進を図ること |
| 5. 育児・介護休業制度(働く男女が育児や介護のために一定期間休むことができる制度)を普及させ、実際に取得できる環境にすること |
| 6. 保育所・学童保育などの施設を整備すること |
| 7. 高齢者の介護に係る男女の負担を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること |
| 8. 各種相談窓口を充実させること |
| 9. 女性だけでなく、男性の意識を変える取り組みを積極的に図ること |
| 10. 男女共同参画センターなど、拠点となる施設を整備し、男女共同参画に関する情報発信や交流の場とすること |
| 11. その他 () |
| 12. 特に要望したいことはない |

問 29 男女共同参画についてのご意見（男女共同参画推進のためにできること等）、この調査に関するご感想などがありましたら、ご自由にご記入ください。



以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

玉名市内の中学生の皆さんへ

男女共同参画に関する意識調査

【調査へのご協力をお願い】

玉名市では、男女が性別にとらわれることなく、喜びや責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っています。

このたび、玉名市内の中学3年生の皆さんへ「男女共同参画社会に関する意識調査」を実施することになりました。

この調査は、皆さんの男女共同参画に関する考え方などをおたずねし、今後の玉名市の男女共同参画行政を充実させていくための資料とすることを目的として実施するものです。

お答えいただいた内容については、他の目的のために使うことはありません。また、お名前を記入していただく必要もありません。

今回のアンケートへのご協力をお願いします。

令和3年10月

玉名市長 くらはら 藏原 たかひろ 隆浩

【記入にあたってのお願い】

1. この調査票は、あなたご自身でご記入ください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号に○をつけてください。
3. その他に○をつけられた場合、() にその内容を具体的にご記入ください。
4. 記入が終わりましたら、記入漏れがないか最後に確認をお願いします。

〔問い合わせ先〕 玉名市役所 総務部 人権啓発課 男女共同参画係

TEL 0968-75-1119

あなたご自身のことについておたずねします

問 1 ^{こせきじょう} 戸籍上の性別にかかわらず、あなたご自身の思う性別をお答えください。次の 1～3 の中から 1つだけ 選び○で囲んでください。

- | | |
|-------|---------------------|
| 1. 男性 | 3. 1・2のいずれにもあてはまらない |
| 2. 女性 | |

問 2 あなたと一緒に暮らしている家族は誰ですか（仕事や学校の関係などで、離れて暮らしている人も含みます。） 次の 1～6 の中から 1つだけ 選び○で囲んでください。

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 1. 親 | 4. 祖父母 |
| 2. 親と兄弟姉妹 | 5. 祖父母と兄弟姉妹 |
| 3. 親と兄弟姉妹と祖父母 | 6. その他（ ） |

問 3 あなたのお住まいの地域は、どちらですか。 次の 1～4 の中から 1つだけ 選び○で囲んでください。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 玉名地域 | 2. 岱明地域 | 3. 横島地域 | 4. 天水地域 |
|---------|---------|---------|---------|

男女共同参画に関する意識についておたずねします

問4 社会のいろいろな面において男女は平等になっていると思いますか。次の①～⑧のそれぞれについて、1～6の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	男性が非常に優遇 されている	どちらかといえば 男性が優遇されて いる	平等である	どちらかといえば 女性が優遇されて いる	女性が非常に優遇 されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 学校の中では	1	2	3	4	5	6
③ 仕事の間では	1	2	3	4	5	6
④ 政治の間では（国会議員 や市議会議員など）	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑥ <small>かんじゅう</small> 慣習やしきたり等では	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域（校区）では	1	2	3	4	5	6
⑧ 玉名市では	1	2	3	4	5	6

問5 日本には『「男性は家族を養うために仕事をし、女性は仕事をする男性を支えるために家庭のこと（家事・育児・介護など）をする」という性別によって役割を固定する考え方』がありました。いまだにそのような考え方が残っていますが、あなたはどのように思いますか。次の1～5の中から1つだけ選び○で囲んでください。

1. そう思う	4. 思わない
2. どちらかといえばそう思う	5. わからない
3. どちらかといえばそう思わない	

問6 あなたは、男女が性別にかかわらずなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が実現されていると思いますか。次の1～5の中から1つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 思う | 4. 思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. わからない |
| 3. どちらかといえばそう思わない | |

あなたの将来のことなどについて、おたずねします。

問7 あなたは、現在の自分は文系・理系のどちらのタイプだと思いますか。次の1～6の中から1つだけ選び○で囲んでください。(※文系：文学、歴史学、心理学、経済学など、理系：数学、化学、医学など)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 文系タイプである | 4. 理系タイプである |
| 2. どちらかといえば文系タイプである | 5. 文系・理系どちらも同じくらいである |
| 3. どちらかといえば理系タイプである | 6. わからない |

問8 以前は、本人の希望する進路ではなく、親や家族が性別により決めた進路に進まざるを得なかったり、大学等への進学を希望していても性別によりそれを必要だと認められず諦めざるを得なかったことがありました。あなたは、将来は文系と理系どちらの進路に進みたいですか。次の1～6の中から1つだけ選び○で囲んでください。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 文系 | 4. 理系 |
| 2. どちらかといえば文系 | 5. どちらでもない |
| 3. どちらかといえば理系 | 6. わからない、まだ決めていない |

問9 あなたは、これからの男女のあり方が、どのようになればよいと思いますか。次の①～④のそれぞれについて、1～5の中から1つずつ選び○で囲んでください。

	賛成	ば賛成 どちらかといえ	ば反対 どちらかといえ	反対	わからない
① 男女とも経済的自立ができるようになるのがよい ⇒	1	2	3	4	5
② 男女とも家事ができるようになるのがよい ⇒	1	2	3	4	5
③ 男は男らしく、女は女らしく (※) 生きていくのがよい ⇒	1	2	3	4	5
④ 性別にかかわらず個性に応じて生きていくのがよい ⇒	1	2	3	4	5

※例えば、男らしくとは、力強く勇気があって、リーダーシップを発揮でき、決断力があるが無口なイメージなど、女らしくとは、優しくおしとやかで、細やかな心配りができて、協調性が豊かなイメージなどがあります。

問10 「男性は家族を養うために仕事をし、女性は仕事をする男性を支えるために家庭のこと（家事・育児・介護など）をする」という考え方がありましたが、一般的に、女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。次の1～7の中から1つだけ選び○で囲んでください。

- | |
|--|
| 1. 子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい
2. 子どもができたなら職業を持たず、仕事をするのが可能な場合は再び職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4. 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他()
7. わからない |
|--|

家庭生活についておたずねします。

問 11 大人が担うような家事や家族の世話などを日常的に行っている 18 歳未満の子どもを「ヤングケアラー」といいます。家庭内のことは周囲の人から見えにくいため状況がわからず、ヤングケアラーは必要な支援を受けることができていない現状があります。ヤングケアラーについて把握する資料の 1 つとなるように、以下の設問を設けています。

あなたは、家族に代わって以下のことを行っていますか。次の 1～8 の中から あてはまるものすべて 選び○で囲んでください。

1. 障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている
2. 家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている
3. 障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている
4. 目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている
5. 日本語が不自由な家族や障がいのある家族のために通訳をしている
6. がんや難病、精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている
7. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
8. どれも行っていない

「デートDV」についておたずねします

問 12 あなたは、「デートDV」について知っていますか。次の 1～3 の中から 1 つだけ 選び○で囲んでください。(※別紙の用語解説を参考にしてください。)

1. 内容まで知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 知らない

問 13 「デートDV」に関する問題で相談できるところが、市内、県内にありますが、知っているところを教えてください。次の1～8の中からあてはまるものすべてを選び○で囲んでください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 玉名市役所女性・子ども相談室 | 5. 熊本県女性相談センター |
| 2. DV相談ナビ | 6. 警察 |
| 3. 子供の人権 110番 | 7. その他() |
| 4. 熊本県男女共同参画相談室らいふ | 8. 知らない |

問 14 あなたは、「デートDV」について相談したことがありますか。次の1～3の中から1つだけを選び○で囲んでください。

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1. はい | 3. 相談しようと思ったことがあるが、しなかった |
| 2. いいえ | |

問 15 あなたは、恋人同士で起こる次のような行為をしたこと、されたことがありますか。次の①～⑥のそれぞれについて、1～4の中から1つずつを選び○で囲んでください。

	したことがある	両方ある	されたことがある	経験はない
① 携帯のメッセージを勝手に見たり、連絡先を勝手に消したりする ⇒	1	2	3	4
② 友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする ⇒	1	2	3	4
③ 付きまったり、信じられない回数や内容のメッセージをする ⇒	1	2	3	4
④ ながる、けるなどの暴力をふるう ⇒	1	2	3	4
⑤ 大声でどなる ⇒	1	2	3	4
⑥ 相手が嫌がっているのに、性的な言葉を言ったり、体を触ったりする ⇒	1	2	3	4

自分らしく生きられる社会についておたずねします。

問 16 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。次の1～3の中から1つだけ^{えら}選び○で囲んでください。（※別紙の用語解説を参考にしてください。）

1. 言葉の意味まで知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 知らない

問 17 あなたは、自分の身体の性、心の性などに悩んだことがありますか。次の中から1つだけ選び○で囲んでください。

1. 悩んだことがある
2. 悩んだことはない

問 18 あなたは、性的少数者（LGBT等）に関する差別的な言動を受けたり、見聞きしたことがありますか。次の中から1つだけ選び○で囲んでください。

1. ある ⇒問 18-1 へ
2. ない

問 18-1 問 18 で「1. ある」と答えた方におたずねします。

どこか（誰かに）相談したことがありますか。次の1～3の中から1つだけ選び○で囲んでください。

1. はい
2. いいえ
3. 相談しようと思ったことがあるが、しなかった

男女共同参画社会の推進についておたずねします

問 19 次の言葉のうち、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものすべて選び○で囲んでください。(※別紙の用語解説を参考にしてください。)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 男女共同参画社会基本法 | 8. ジェンダー |
| 2. 男女共同参画社会 | 9. アンコンシャス・バイアス |
| 3. 玉名市男女共同参画推進条例 | 10. セクシュアル・ハラスメント |
| 4. 玉名市男女共同参画計画 | 11. マタニティ・ハラスメント |
| 5. 男女雇用機会均等法 | 12. ワーク・ライフ・バランス |
| 6. 女性活躍推進法 | 13. ストーカー行為 |
| 7. ドメスティック・バイオレンス(DV) | 14. 見たり、聞いたりしたものはない |

問 20 あなたは、今後、男女があらゆる分野（仕事、家庭、学校、地域活動、政治など）でもっと平等になるために重要だと思うことは何ですか。次の中から特に強く思うものを3つ以内で選び○で囲んでください。

- | |
|--|
| 1. 法律や制度上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること |
| 2. 男女の役割分担についての社会全体の考え方、様々な偏見や慣習 <small>へんけん かんしゅう</small> 、しきたりを改めること |
| 3. 女性が経済力をつけたり、知識・技術を持つなど、積極的に力をつけること |
| 4. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が就任できるようにする制度を採用したり充実したりすること |
| 5. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること |
| 6. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと |
| 7. 男性が家事や育児などができるよう力をつけること |
| 8. 仕事と家庭の両立ができるように、その手助けをするための施設を作ったり、サービスを行うこと |
| 9. 学校で一人ひとりの個性や能力を伸ばし、お互いの人格が尊重されることの大切さを教えること |
| 10. その他（ ） |
| 11. わからない |

問 21 男女共同参画についてのご意見（男女共同参画推進のためにできることなど）、この調査に対するご感想などがありましたら、自由に書いてください。

きょうりよく
ご協力ありがとうございました。